

久保田・道々芽木遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2002.3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

久保田・道々茅木遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2002.3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

卷頭カラー図版1
久保田・道々茅木遺跡 全景



巻頭カラー図版 2
久保田 1 地区 第 5 号竪穴建物出土の金銅製海老鎧



序 文

本書は、山梨県土木部による新環状・西関東道路の建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の記録保存のために発掘調査が実施された久保田・道々茅木遺跡の調査成果をまとめたものであります。

本遺跡の所在する甲府市横根町周辺は、甲府盆地の北縁に位置しており、古代甲斐国成立と展開を考察する上で欠くことのできない重要遺跡が数多く分布する地域として知られております。

近隣の代表的な遺跡だけ挙げても、国内有数の規模を誇る横根・桜井積石塚古墳群、白鳳期の銅造觀世音菩薩立像を出土した東畠遺跡、県内最古の白鳳期寺院である寺本廃寺への瓦供給窯である川田瓦窯、甲斐国分二寺への瓦供給窯である上土器瓦窯、「甲斐國山梨郡表門」刻書土器をも出土した平安期の土器生産遺跡である大坪遺跡など、枚挙に暇がないほどの質と量であります。

このような地域で実施された今回の発掘調査は、平成11年度に当センターが実施いたしました道々茅木遺跡の発掘調査に引き継ぐ第2年次調査にあたり、平成12年4月から10月までの約6ヶ月間を要した発掘調査の結果、本遺跡には古くは縄文時代早期～中期から、弥生時代後期、古墳時代前期～後期、白鳳～奈良・平安時代、中世へ至るまでの長大な時期におよぶ人々の営みの痕跡が確認されております。特に注目すべき出土遺物としては、久保田1地区第5号竪穴建物から出土した鍍金を施したセミ状装飾をもつ金銅製海老鏡を挙げることができ、これは山梨県内初の発見事例であることはもとより、全国的にも出土が極めて希な資料として、本遺跡周辺の歴史的特性を物語る重要な資料となりました。

本書にはこの他にも、甲府盆地北縁では出土事例の希であった古墳時代前期の古い段階のS字状口縁台付甕などを含む土器資料群、平安時代全般におよぶ土器資料群、土師器生産地の近隣地特有の未焼成の可能性のある土師器資料およびそれらを出土した各種の遺構など学術的にも、地域の歴史探究にも大いに重要なデータが含まれております。本書が地域の歴史を紐解く契機となり、多くの方々に幅広くご利用いただければ幸甚であります。

末筆ではありますが、久保田・道々茅木遺跡の発掘調査につきまして、様々なご協力を賜った関係機関および関係者の皆様に厚く御礼申し上げる次第であります。

平成14年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 大塚 初重

例　　言

1. 本書は、山梨県甲府市横根町875番地他に所在する久保田・道々茅木遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査目的は、山梨県土木部による「新環状・西関東道路」の建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の記録保存であり、同土木部からの委託に基づき、山梨県教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査および報告書作成は山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
4. 本遺跡については、平成3年（1991年）以降「久保田遺跡」および「道々茅木遺跡」として周知されており、以下の調査履歴がある。

平成6年（1994年） 久保田遺跡と道々茅木遺跡が甲府市遺跡調査会により発掘調査される
(伊藤正幸 1998年「東畠遺跡」「山梨県史」資料編1 826~827P 山梨県)

平成11年（1999年） 道々茅木遺跡が山梨県教育委員会により発掘調査される
(山梨県教育委員会・山梨県土木部 2000年「道々茅木遺跡」)

5. 本遺跡は久保田遺跡および道々茅木遺跡として周知されているが、遺跡内容や地形等から一体の遺跡と考えるべきであることが判明したため、「久保田・道々茅木遺跡」と統合した名称を採用した。
6. 本遺跡の発掘調査は、浅川一郎・森原明廣が担当し、本書の編集・執筆は、森原が担当した。
7. 本書に掲載した写真のうち遺構写真的撮影は、浅川・森原が、遺物写真的撮影は森原が担当した。
8. 発掘調査に係る基準点測量および遺物出土点のコンピュータデータ処理業務は有限会社東雲測量に委託した。
9. 航空写真的撮影および部分的な写真測量業務は株式会社シン技術コンサルに委託実施した。
10. 発掘調査で得られた資料の理化学的分析業務を下記のとおり委託実施した。

- ・久保田・道々茅木遺跡出土金銅製海老鉗の化学分析業務
(株式会社川鉄テクノリサーチ分析・評価事業部)
- ・久保田・道々茅木遺跡出土土器の胎土分析業務
(パリノ・サーヴェイ株式会社)
- ・久保田・道々茅木遺跡出土土器の胎土顕微鏡観察業務
(山梨文化財研究所)
- ・久保田・道々茅木遺跡出土土器の胎土X線回折およびE S C A分析業務
(帝京科学大学理工学部環境マテリアル学科 中篠利一郎研究室)

11. 本遺跡出土資料および各種記録は一括して山梨県埋蔵文化財センターが保管している。
12. 本遺跡の発掘調査および報告書作成に関わる組織は下記のとおりである。

調査主体 山梨県教育委員会

調査担当 山梨県埋蔵文化財センター（副主査文化財主事 浅川一郎・主任文化財主事 森原明廣）

調査員 平順孝

作業員 赤間敦、雨宮昭人、飯田みづほ、石部祖代、市村誠、牛山透、加賀美昌友、久保田明義、越石力、小林健甫、五味謙、齊藤和彦、酒井玄曉、佐藤武光、志村昌昭、菅沼芳治、鈴木幸子、鈴木紀治、平美与枝、田中朋子、田辺秋太郎、千野富子、手塚房子、手塚盛明、中込幹一、林竜太郎、廣瀬晶子、深沢春美、深沢芳郎、古屋清美、増田あき子、宮久保朝乃、望月直、山下勝美、山下正子、依田政子、米元明日美、渡辺初恵、猪股順子、大原美和、川住たまみ、佐々木富士子、清水真弓、名取洋子、新津多恵、早川紀子、望月厚子
(順不同・敬称略)

13. 本遺跡の発掘調査および報告書作成にあたって、次の方々からこのご教示ご協力を賜った。記して感謝申しあげます。

甲府市教育委員会、山梨英和短期大学、望月清隆、星野保則（野田市教育委員会）、松本太郎（市川市教育委員会）、柳原功一・平野修・鈴木稔（山梨文化財研究所）、合田芳正（中央大学）、大葛正之・小坂隆司（敷島町教育委員会）、信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一（甲府市教育委員会）、瀬田正明（一宮町教育委員会）
(順不同・敬称略)

凡　例

1. 遺構番号は地区ごとに遺構種別かつ発見順に付したものであるため、遺構の所産時期とは無関係である。また、検出途中あるいは報告書作成中の精査により遺構としての報告がふさわしくないと判断したもの等については、欠番としている。よって最終遺構番号と遺構数は合致しない。

2. 遺構図中のスクリーントーンおよびドットマークについては各図内に凡例および文字表記したとおりである。なお、各図面間での統一はしていない。

3. 遺構図のうちセクション図・エレベーション図脇の数値は標高を示す。

4. 遺構図はグリッドの南北ラインを基軸にレイアウトしており、真北方向はNで示した。

5. 個別に示した遺構図の縮尺は下記を基本としたが、例外もあるため各図のスケールを参照されたい。
また、全体図等についても各図のスケールを参照されたい。

縦穴建物跡・・1/50 縦穴建物跡遺物出土状況図・・1/50 竪・・1/25

土坑・・・・・1/25 溝・・1/50

6. 遺物図中のスクリーントーン等の用例は下記のとおりである。

弥生土器・土師器の内外面に見られる赤彩色範囲・・・・・薄いトーン

土師器の内外面に見られる黒彩色および黒色処理範囲・・・・・濃いトーン

土師器の内外面に見られるタールや炭の付着・・・・・黒塗り潰し

須恵器の断面・・・・・・・・・・・黒塗り潰し

灰釉陶器の断面・・・・・・・・・・・濃いトーン

灰釉陶器の施釉範囲・・・・・・・・・・・薄いトーン

7. 遺物の縮尺は、1/4に統一したが、一部に1/2.5縮尺がある。

8. 土器の実測図は、断面を右側に、正面を左側に示すことを基本とした。

9. 回転復元実測した土器については各図の上部に●をマークしている。

10. 遺物観察表 (Tab.12~21) 中の法量は、口径/底径/器高の順に示し、推定数値は()で示した。なお、種類欄に器種名(杯・壺など)のみを記載したものは土器あるいは土師器である。

11. 出土遺物観察表中にある収納箱番号は、山梨県埋蔵文化財センター収蔵の本遺跡出土遺物整理収納箱の整理番号に合致する。なお、整理収納箱内の遺物は本書の遺物図版 (Fig.) 番号順に整理収納してある。

12. 土壌色および土器胎土色の説明には、「標準土色帖 (1999年版)」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に基づき記載した。また、遺物観察表 (Tab.12~21) で用いた色調については、Tab.21末尾に凡例を付した。

13. Fig.1 およびFig.2 で使用した地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「甲府北部」「塩山」「甲府」「石和」である。

目 次

第Ⅰ章	調査に係る経緯経過	
第1節	調査に至る経緯	1 p
第2節	調査の経過	1 p
第Ⅱ章	遺跡の環境	
第1節	遺跡へのアクセス	2 p
第2節	地理的環境	2 p
第3節	歴史的環境	5 p
第Ⅲ章	調査方法と基本層位	
第1節	調査方法	6 p
第2節	基本層位	7 p
第Ⅳ章	調査された遺構と遺物	
第1節	道々茅木地区	10p
第2節	久保田1地区・2地区	12p
第Ⅴ章	考察—久保田・道々茅木遺跡の要点整理とその位置付け	17p
付編1	久保田・道々茅木遺跡出土金銅製海老鏡の科学分析（川鉄テクノリサーチ分析・評価事業部）	97p
付編2	久保田・道々茅木遺跡出土土師器の胎土分析（パリノ・サーヴェイ株式会社）	101p
付編3	久保田・道々茅木遺跡出土の軟質土師器の観察（山梨文化財研究所 河西 学）	105p
付編4	久保田・道々茅木遺跡出土土師器の焼成の有無の解析 (帝京科学大学理工学部 中篠利一郎、村上 雄、横田 努)	107p
写真図版		113p

表 (Tab.) 目次

Tab. 1 ~ Tab. 6	遺構出土遺物分布状況	23p
Tab. 7	溝観察表	24p
Tab. 8 ~ Tab. 11	土坑・竪穴観察表 (1) ~ (4)	25p
Tab. 12 ~ Tab. 21	出土遺物観察表 (1) ~ (10)	29p

図版 (Fig.) 目次

Fig. 1	遺跡位置および周辺地形模式図	3 p
Fig. 2	周辺の遺跡分布	4 p
Fig. 3	基本土層模式図	7 p
Fig. 4	調査区位置図	8 p
Fig. 5	遺構全体図	9 p
Fig. 6	道々茅木地区 第2号竪穴建物・第41号土坑・第83号土坑・第110号土坑	39p
Fig. 7	道々茅木地区 第5号溝	40p
Fig. 8	道々茅木地区 第9号溝	41p
Fig. 9	道々茅木地区 第11号溝	42p
Fig. 10	道々茅木地区 第12号溝	43p
Fig. 11	道々茅木地区 土坑・溝 遺構図 (1・2)	44p
Fig. 12	道々茅木地区 土坑・溝 遺構図 (3)	45p
Fig. 13	道々茅木地区 土坑・溝 遺構図 (4)	46p
Fig. 14	道々茅木地区 土坑・竪穴エレベーション (1)	47p
Fig. 15	道々茅木地区 土坑・竪穴エレベーション (2)	48p

Fig.16	道々茅木地区	遺構外出土遺物 分布図	49p
Fig.17	久保田1地区	第1号竪穴建物	50p
Fig.18	久保田1地区	第2号竪穴建物・第3号竪穴建物・第5号竪穴建物(1)	51p
Fig.19	久保田1地区	第5号竪穴建物(2)	52p
Fig.20	久保田2地区	第7号竪穴建物・第8号竪穴建物	53p
Fig.21	久保田2地区	第9号竪穴建物	54p
Fig.22	久保田1地区	第103号土坑・第124号土坑・第125号土坑・第126号土坑・第158号土坑・ 第208号土坑	55p
Fig.23	久保田1地区	第1号溝(1)	56p
Fig.24	久保田1地区	第1号溝(2)	57p
Fig.25	久保田1地区	第10号溝	58p
Fig.26	久保田2地区	第16号溝・第21号溝	59p
Fig.27	久保田1地区	2H-30土器集中(1)	60p
Fig.28	久保田1地区	2H-30土器集中(2)	61p
Fig.29	久保田1地区	2H-30土器集中(3)	62p
Fig.30	久保田1地区	Z-32土器集中(1)	63p
Fig.31	久保田1地区	Z-32土器集中(2)	64p
Fig.32	久保田1地区	土坑・溝 遺構図(1)	65p
Fig.33	久保田1地区	土坑・溝 遺構図(2)	66p
Fig.34	久保田1地区	土坑・溝 遺構図(3)	67p
Fig.35	久保田1地区	土坑・溝 遺構図(4)	68p
Fig.36	久保田2地区	土坑・溝 遺構図(1・2)	69p
Fig.37	久保田1・2地区	土坑エレベーション(1)	70p
Fig.38	久保田1・2地区	土坑エレベーション(2)	71p
Fig.39	久保田1・2地区	土坑エレベーション(3)	72p
Fig.40	久保田1地区	遺構外出土遺物 分布図(1)	73p
Fig.41	久保田1地区	遺構外出土遺物 分布図(2)	74p
Fig.42	久保田2地区	遺構外出土遺物 分布図	75p
Fig.43	道々茅木地区	出土遺物(1)	76p
Fig.44	道々茅木地区	出土遺物(2)	77p
Fig.45	道々茅木地区	出土遺物(3)	78p
Fig.46	道々茅木地区	出土遺物(4)	79p
Fig.47	道々茅木地区	出土遺物(5)	80p
Fig.48	道々茅木地区	出土遺物(6)	81p
Fig.49	道々茅木地区	出土遺物(7)	82p
Fig.50	道々茅木地区	出土遺物(8)	83p
Fig.51	道々茅木地区	出土遺物(9)	84p
Fig.52	久保田1・2地区	出土遺物(1)	85p
Fig.53	久保田1・2地区	出土遺物(2)	86p
Fig.54	久保田1・2地区	出土遺物(3)	87p
Fig.55	久保田1・2地区	出土遺物(4)	88p
Fig.56	久保田1・2地区	出土遺物(5)	89p
Fig.57	久保田1・2地区	出土遺物(6)	90p
Fig.58	久保田1・2地区	出土遺物(7)	91p
Fig.59	久保田1・2地区	出土遺物(8)	92p
Fig.60	久保田1・2地区	出土遺物(9)	93p
Fig.61	久保田1・2地区	出土遺物(10)	94p
Fig.62	久保田1・2地区	出土遺物(11)	95p
Fig.63	久保田1・2地区	出土遺物(12)	96p

第Ⅰ章 調査に係る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

調査対象となった山梨県甲府市横根町875番地他の土地周辺は平成3年（1991年）に甲府市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の結果、文化財保護法にいうところの「埋蔵文化財包蔵地」として認識され、平成6年（1994年）には山梨英和短期大学建設に先立ち、甲府市遺跡調査会が「道々茅木遺跡」および「久保田遺跡」として調査を実施した経過があるところである。よって山梨県土木部によるこの土地周辺への新環状・西関東道路建設にあたっては、事前の埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査が必要であることとなり、平成10年度以前から県教育委員会と県土木部間で建設工事と埋蔵文化財保護の調整が図られ、必要箇所については発掘調査を順次実施していくことが相互に確認され、法手続き等も行われた。これらの流れを受け、平成11年4月27日から6月28日には先行工事箇所となる取り付け道路部分（道々茅木遺跡）が山梨県教育委員会によって発掘調査され、平成12年4月には発掘調査報告書が公刊されるに至った。今回の調査はこの平成11年度調査に継続するものであり、調査対象となる工事箇所は①山梨英和短期大学進入路新設地点、②バスロータリー新設地点、③新環状・西関東道路新設地点の3地点であり、①が道々茅木遺跡に、②③が久保田遺跡に該当する。

今回の発掘調査は平成12年4月21日から10月30日までの約6ヶ月間実施し、以降平成14年3月の報告書刊行まで整理・報告書作成を実施した。文化財保護法に基づく書類手続きは下記のとおりである。

- 平成12年4月 文化財保護法第58条の2に基づく「発掘通知」を山梨県教育委員会教育長に提出
平成12年11月 埋蔵文化財発見届を甲府警察署長あてに提出

第2節 調査の経過

発掘調査は道路工事に伴う諸手続き（周辺道路の切り回しや各種の土地整理等）の進捗状況と調整を図りながら順次実施した。調査は度重なる降雨による水没や夏の猛暑による極度の土壤乾燥硬化などに阻まれながらも、事前協議で確認されていた予定期間に完了させることができた。以下、調査の経過について日誌抄録を記載する。

- 平成12年4月21日 道々茅木地区北側から調査を開始。
4月24日 コンピュータによる遺物取り上げを開始する。
5月8日 溝・土坑などの遺構プランが確認され、各遺構の検出・記録に着手する。
5月22日 山梨英和短期大学守衛室移転地の測量と表土除去を開始する。
6月1日 道々茅木地区南側まで精査し、各遺構の検出・記録を継続する。
6月16日 確認された土坑が100基、溝が13条となる。
6月22日 久保田1地区の除草、グリッド設定、基本土層の事前確認のための試掘を開始。
6月27日 道々茅木地区の空中写真の撮影を実施する。
久保田1地区の西側より調査を開始する。
7月3日 道々茅木地区の調査を完了する。
基本土層確認のための深掘り試掘を調査区北側で実施後に埋め戻しを開始。
7月4日 深掘りトレンチに見られた火山灰層につき、河西学氏（山梨文化財研究所）に現地指導をいただく。
7月5日 道々茅木地区の埋め戻しを完了する。
7月6日 久保田1地区で平安時代の1号竪穴建物を確認し、検出に着手する。
7月11日 春日居中学校生徒が遺跡見学および体験発掘を実施。
7月27日 2H-30グリッド周辺で古墳前期の土器集中区を確認、記録と取り上げ開始。

- 7月28日 久保田1地区の西側部分（27ライン以西）がほぼ完了する。
- 8月1日 久保田2地区の除草作業を実施する。
- 8月2日 甲府東中学校生徒および豊富小学校児童が遺跡見学。
- 8月4日 久保田1地区西側部分の空中写真撮影を実施する。
- 8月10日 Z-32グリッド周辺で古墳前期の土器集中区を確認、記録と取り上げ開始。
- 8月17日 久保田1地区南側の精査に着手する。
- 8月21日 久保田1地区の東側部分（35ライン以東）の重機による表土除去を開始。
- 8月23日 2H-30土器集中区の調査を完了する。
- 9月1日 久保田1地区で平安時代の5号竪穴建物を確認し、検出に着手する。
- 9月4日 5号竪穴建物から「海老鋸」が出土。
- 9月11日 合田芳正氏（中央大学）に「海老鋸」の現地指導をいただく。
- 9月13日 久保田2地区的測量を実施し、人力での掘り下げに着手する。
- 9月14日 久保田1地区的東側および南側部分の空中写真撮影を実施する。
- 9月25日 久保田1地区的東側部分の調査を完了し、埋め戻しに着手。
- 9月28日 久保田2地区にて平安時代の9号竪穴建物を確認し、検出に着手する。
- 10月16日 久保田2地区的南側部分の空中写真撮影を実施する。
- 10月17日 久保田2地区的北側部分の精査を開始する。
- 甲府市レインボーユニバーシティおよび山梨看護士会が遺跡見学。
- 10月24日 山梨英和中学校生徒が遺跡見学および発掘体験を実施。
- 10月27日 久保田2地区的調査を完了し、埋め戻しに着手。
- 10月30日 発掘機材等を搬出し、発掘調査をすべて終了した。

第Ⅱ章 遺跡の環境

久保田・道々茅木遺跡は、山梨県甲府市横根町875番地他に所在する。以下、本遺跡へのアクセス、地理的環境、歴史的環境について記述する。

第1節 遺跡へのアクセス

本遺跡は東西走る国道140号線（青梅街道）と新環状・西関東道路の交差点である十郎橋西交差点から北上し、山梨英和短期大学キャンパスに至るまでの約200m区間の両側に展開している。平成13年時点での最寄り駅はJR中央線酒折駅であり、遺跡から西側へ約1.5kmである。なお、酒折駅の東隣となる石和温泉駅は遺跡から東側へ約2kmである。

第2節 地理的環境 (Fig. 1)

本遺跡の所在する山梨県は日本列島のほぼ中心部に位置し、内陸型盆地である甲府盆地とその周囲に丹沢山地、富士山、南アルプス、八ヶ岳などに代表される山々を擁する地形を呈している。甲府市は甲府盆地の北側および丹沢山地の南端に市域を置く行政単位であり、横根町は甲府市東部地区の一角を占める小行政区画である。横根町の北西側には八人山（572m）、北東側には大藏經寺山（715m）が聳え、その間に大山沢川が南流する。大山沢川は上中流域において山地の急斜面を南開きに扇状地を形成し、下流域では南東開きに小扇状地を形成する。遺跡はこの南東開きの扇状地右岸の標高約263m付近に立地する。この扇状地は南東側の笛吹川扇状地の扇端と今回の調査地点（久保田2地区）付近で境を接する。大山沢川は十郎川となり西流した後、湯川と

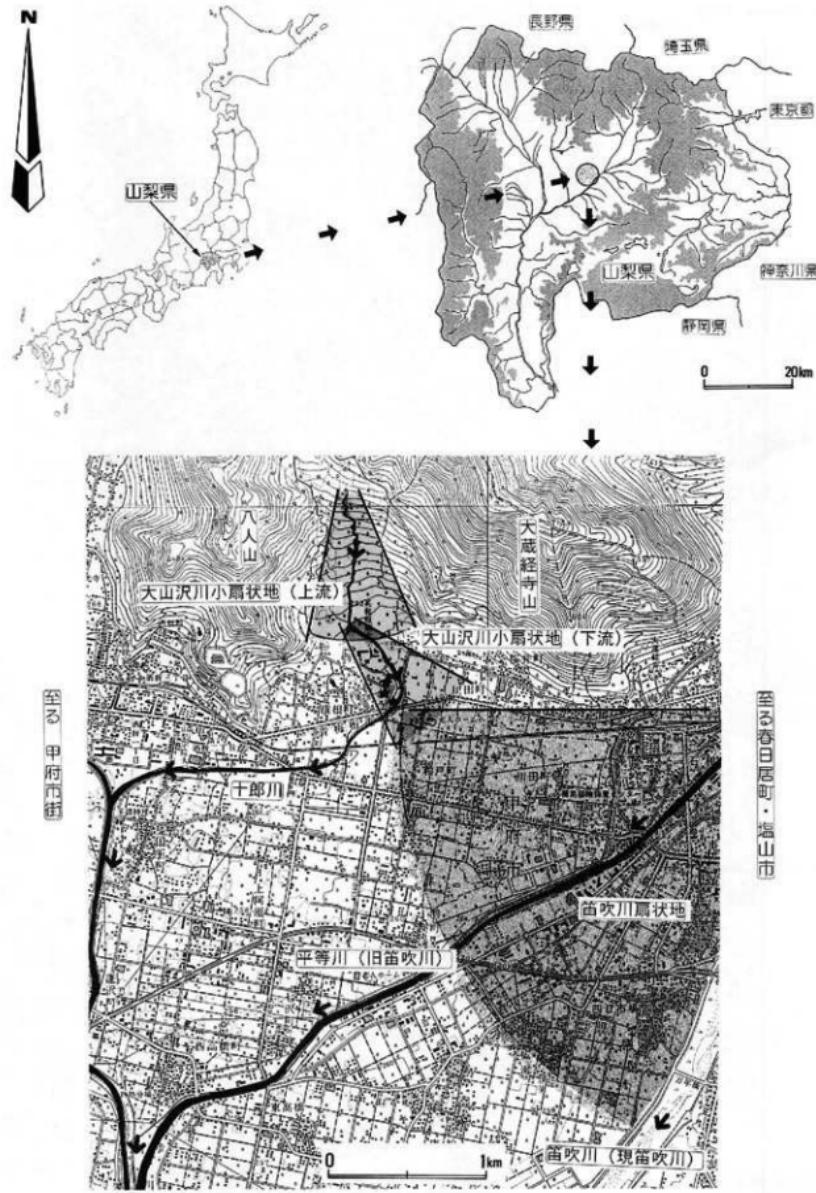
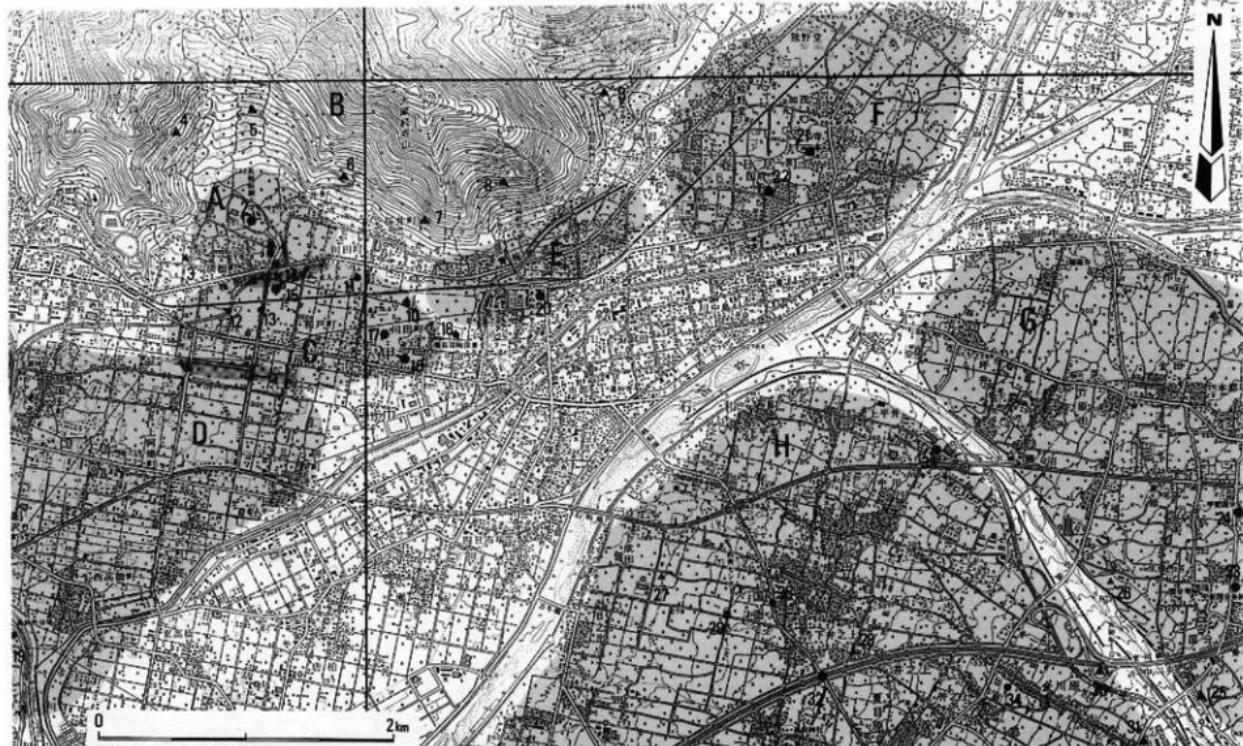


Fig. 1 遺跡位置および周辺地形模式図



Aゾーン 1.久保田・瀬ヶ茅木遺跡 2.東堀遺跡 3.横根山田古墳・横根村内1号墳・同2号墳
 Bゾーン 4~7.横根・板井被石塚古墳群 (4.横根支群、5.板井内山支群、6.板井支群、7.板井東支群)
 8.大藏經寺山古墳群 9.春日脇古墳群
 Cゾーン 10.川田瓦窯 11.上土器瓦窯群 12.大坪遺跡 (12.5.57調査地点、13.5.80調査地点、
 14.H6調査地点、15.H12調査地点) 16.板井畠道跡 17.亀田・塙田遺跡 18.川田遺跡

Dゾーン 19.外河頭・チクヤ遺跡 Eゾーン 20.松本城ノ越道跡 Fゾーン: 21.寺本崩寺 22.國府遺跡
 Gゾーン 23.甲斐園分尼寺 24.甲斐園分尼寺 25.國分古墳群 26.延岡古墳
 Hゾーン 27.龟甲連古墳 28.純塚古墳 29.鷺生古墳群 30.四ツ塚古墳群 31.長田古墳群
 32.二之宮・純塚遺跡 33.大藏遺跡 34.「方八丁」 35.「圓街」

Fig. 2 周辺の遺跡分布

合流し南流の後、旧笛吹川流路である平等川に合流し、さらに南西流しながら笛吹川に合流する。

第3節 歴史的環境 (Fig. 2)

遺跡の所在する甲府盆地の北部から東部にかけての地区（甲府市東部地区から東山梨郡春日居町・東八代郡石和町・御坂町・一宮町）は山梨県の古墳時代から古代・中世にかけての重要な遺跡が濃密に分布する地域である。本遺跡では弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代後期・白鳳～奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されており、周辺の各ゾーンとの関連で培われたものと考えられる。ここでは遺跡周辺を便宜上分割したA～Hの各ゾーンについて、その歴史環境を概観し、本遺跡理解の一助とする。なお、時代順にみた歴史環境等は既刊の報告書『道々茅木遺跡』（2001・山梨県教育委員会ほか）を参照されたい。

Aゾーン：久保田・道々茅木遺跡（1）を含む。大山沢川扇状地の扇央部から扇端部を一括する。現在の山梨英和短大キャンパス内に白鳳期小金銅仏を出土するなど弥生後期から平安時代におよぶ豊富な遺跡内容を持つ東畠遺跡（2）、横根山田古墳・横根村内1号墳・同2号墳（3）もある。なお、本遺跡の平成11年度調査では弥生後期から平安時代におよぶ遺構・遺物が検出され、平安時代の土馬・縁金や大量の土師器など特筆すべき遺物の出土を見ている。このゾーンは「様々な時代の細かい遺跡が扇状地内微高地に散在する地域」と把握するより、むしろ「各時代に連続と続く大きな一つの遺跡」と把握すべき地域であり、このゾーンの特色や検討課題を端的にまとめるならば、以下のとおりとなる。

①弥生～古墳前期：甲府盆地における拠点遺跡の一つである可能性があること。

②奈良～平安時代：隣接するCゾーンに如実な「窯業生産地」としての性格との関連性があること。
寺院あるいは公的施設が存在する可能性を示す特殊遺物が存在すること。

Bゾーン：甲府盆地の北東端部、関東山地南端を成す山地斜面に広がる古墳群地帯を一括する。西から横根・桜井積石塚古墳群（4・5・6・7）、大藏経寺山古墳群（8）、春日居古墳群（9）と広がり、横根・桜井積石塚古墳群の140基をはじめ、6世紀代を中心に築造された合計200基以上の古墳がある。全国的にも希有な「積石塚群」が多く、その性格や被葬者像には渡来人説も含め諸説あるが、現在の検討課題は出自究明についての古墳自体からのアプローチよりも、古墳築造の基盤究明を含めた、A・C・D・E・Fゾーン等における集落・生産域等の調査研究に重きを置かれつつある傾向にあろう。Aゾーンの古墳時代の究明に間連があるゾーンである。

Cゾーン：甲府市東部の和戸町から川田町にかけての一帯であり、笛吹川扇状地の扇端部にあたる。白鳳期～奈良時代・平安時代にかけての窯業生産地としての性格が際立つが、近年の調査研究でそれと同時期あるいは他時期の集落・墳墓・寺院等も併存することが見えてきたゾーンである。窯業生産遺跡には、白鳳期の寺本魔寺（20）への瓦供給窯の川田瓦窯（10）、国分二寺（22.23）への瓦供給窯の上土器瓦窯群（11）、奈良・平安時代の土師器「甲斐型土器」生産遺跡の大坪遺跡（12.13.14.15）がある。また、古墳前期の集落・墳墓や寺院を伴う平安集落を検出した桜井畠遺跡（16）や弥生後期から平安時代の龟田・雀田遺跡（17）、中世では武田信虎の川田館跡（18）などもある。Aゾーンとは大坪遺跡周辺で隣接し、最も関連性の高いゾーンである。

Dゾーン：笛吹川扇状地の扇端以西で、周囲を十郎川（北）、濁川（西）、平等川（南）に囲まれた低地一帯を指す。施行年代は不明ながら条里型土地割が遺存し、古代以降の農業生産遺跡が多く存在する可能性が高い。低地ゆえにこれまであまり遺跡の分布が知られていないが、古墳時代～平安時代の外河原デクヤ遺跡（19）などの調査事例があり、将来的にはさらに多くの遺跡存在が論じられることとなる。A・Cゾーンの生産域としての関連性があろう。

Eゾーン：JR石和温泉駅の周辺、大藏経寺山南側から旧笛吹川（平等川）右岸にかけてを指し、古墳時代から

平安時代の大集落である松本塚ノ越遺跡（20）などがある。Aゾーンの当該時期集落との関連性が検討課題となる。

Fゾーン：春日居町寺本を中心とした一帯を一括する。甲斐国最古の白鳳期寺院の寺本庵寺（21）や甲斐国府所在地および山梨郡衙の可能性のある国府遺跡（22）とその関連遺跡が濃密に分布する古代甲斐国を中心域である。A・Cゾーンとは深い関連性があると考えられ、Aゾーンからの直線距離は約3.5kmを測る。

Gゾーン：笛吹川左岸、御坂山地から北流する金川によって形成された金川扇状地右岸に広がる東八代郡一宮町域を一括する。甲斐国分寺（23）および甲斐国分尼寺（24）が所在し、奈良・平安時代の集落およびゾーン北部に条里型土地割が遺存するなど、古代甲斐国を中心域の一つである。A・Cゾーンとは深い関連性があると考えられ、Aゾーンからの直線距離は約7kmを測る。また、国分古墳群（25）、塩田古墳群、八角形墳の経塚古墳（26）など多くの後期古墳があり、Bゾーンの積石塚群等を擁すAゾーンとの関係が検討課題となる。

Hゾーン：笛吹川左岸、金川扇状地左岸に広がる御坂町から八代町にかけての地域を一括する。5世紀前半の龜甲塚古墳（27）や6世紀後半の姥塚古墳（28）やその他の後期古墳から成る錦生古墳群（29）や古墳後期の群集墳である四ツ塚古墳群（30）、長田古墳群（31）、古墳時代から平安時代にかけての大集落である二之宮・姥塚遺跡（32）や大原遺跡（33）などがあるほか、「方八丁」（34）や「国術」（35）などの地名遺称などから甲斐国府が置かれていた時期がある可能性も指摘されているゾーンである。また、甲斐国と都を結ぶ古代官道（甲斐路）はHゾーンを通過していた可能性が高く、東海道との交流の要点として位置付けられる地域である。Gゾーン同様にAゾーンとの関連性が窺える。

第Ⅲ章 調査方法と基本層位

第1節 調査方法

（1）調査区

調査は、新環状・西関東道路の建設に伴うものであり、工事範囲と既存道路の関係で大きく3地区の調査区（道々茅木地区・久保田1地区・久保田2地区）に分割（Fig.4参照）して調査を実施した。

- ・道々茅木地区：新環状・西関東道路建設に伴い移設が余儀無くなった山梨英和短大進入道路の新設地区
- ・久保田1地区：新環状・西関東道路建設に伴い移設が余儀無くなったバスロータリーの新設地区
- ・久保田2地区：新環状・西関東道路建設に伴う道路幅の拡張地区

（2）グリッドの設定

調査の基本となる平面的なグリッドについては、平成11年度の「道々茅木遺跡」調査で用いた設定方法を踏襲し3m方眼を設定した。グリッドラインの呼称もそれに準じ、北から南へ向かってアルファベットの大文字でA・B…とし、Zの次には2A・2B…、2Zの次には3A・3B…とし、西から東へ向かってアラビア数字で1・2…とした。グリッド名称は両ラインの交点を基準とし、各グリッドの南東端の交点をもって呼称した。グリッド設定の基準としたポイント（平成12年度W-9、平成11年度X-9）の国家座標第Ⅷ系座標はX=38113.194、Y=10647.411となる。また、極めて遺憾なことではあるが、平成12年度調査の開始段階で基本杭の認識に齟齬が生じ、東西ライン（アルファベット）の呼称が南方向へ3m（1グリッド分）ずれるという結果を招くこととなった。それの詳細についてはFig.5のグリッド配置図中に記載したので参照されたい。

（3）調査方法

調査は、重機による表土の除去から開始し、遺物包含層以下の掘り下げは人力で行ない、遺構・遺物の確認と検出に努めた。掘り下げは各グリッド単位を基本とし、必要に応じて土層観察用ベルトや補助的なトレント

を設定しながら進めた。各造構については平面プランの確認後、規模に応じて土層観察用ベルトあるいは半裁設定する方法で掘り下げ、諸図面記録および写真記録を行なった。なお、造構名称は造構種別で確認順に番号を付した。また、平成11年度調査からの番号踏襲はしていない。

(4) 遺物の取り扱い

遺物包含層以下の掘り下げで出土した遺物は可能な限り原位置に残置し、コンピュータで3次元データを記録した。また、必要な場合には、平板実測等で図化した。ただし、小片であるものや原位置を失ってしまった遺物については各グリッド単位で一括遺物として取り上げた。遺構内から出土した遺物については、平面および断面図化を行なうとともにコンピュータで3次元データを記録したが、小片等は各遺構単位で一括遺物として取り上げた。

第2節 基本層位 (Fig. 3)

本遺跡の基本土層はFig.3のとおり観察され、第Ⅰ・Ⅱ層が表土層、第Ⅲ層（Ⅲ-1層～Ⅲ-3層含む）が遺物包含層、第Ⅳ層～第X層以下がプライマリー層と認識された。調査では第Ⅲ層から精査を開始し、第Ⅳ層上面で遺構がようやく確認できる状況であったため、遺構確認面の土層差による遺構の時期判別はできなかった。また、本遺跡からは縄文時代前期から中世に至る遺物が出土したが、第Ⅲ層に各時代の遺物が混在する状況であり、層位的に時期区分することはできなかった。なお、基本第Ⅳ層以下はプライマリー土層となるが、道々茅木地区北端部（F-21グリッド）において地表下3.5mまで試掘し周辺地形の成立等を探査した。また、第Ⅳ層以下で見られた粘土質土壤については、付近に土師器生産に関わる大坪遺跡などが存在し、道々茅木遺跡（平成11年度調査区）からも土師器生産を窺わせる遺構・遺物が検出されていることから、土器生産原料である可能性を検証すべく土壤分析を試みた。詳細については巻末の付録を参照されたい。

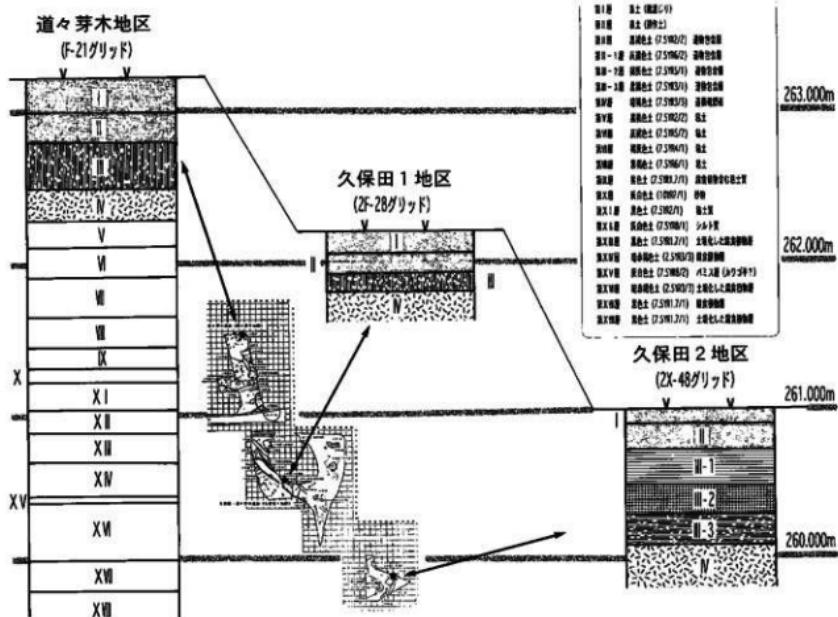


Fig. 3 基本土層模式図

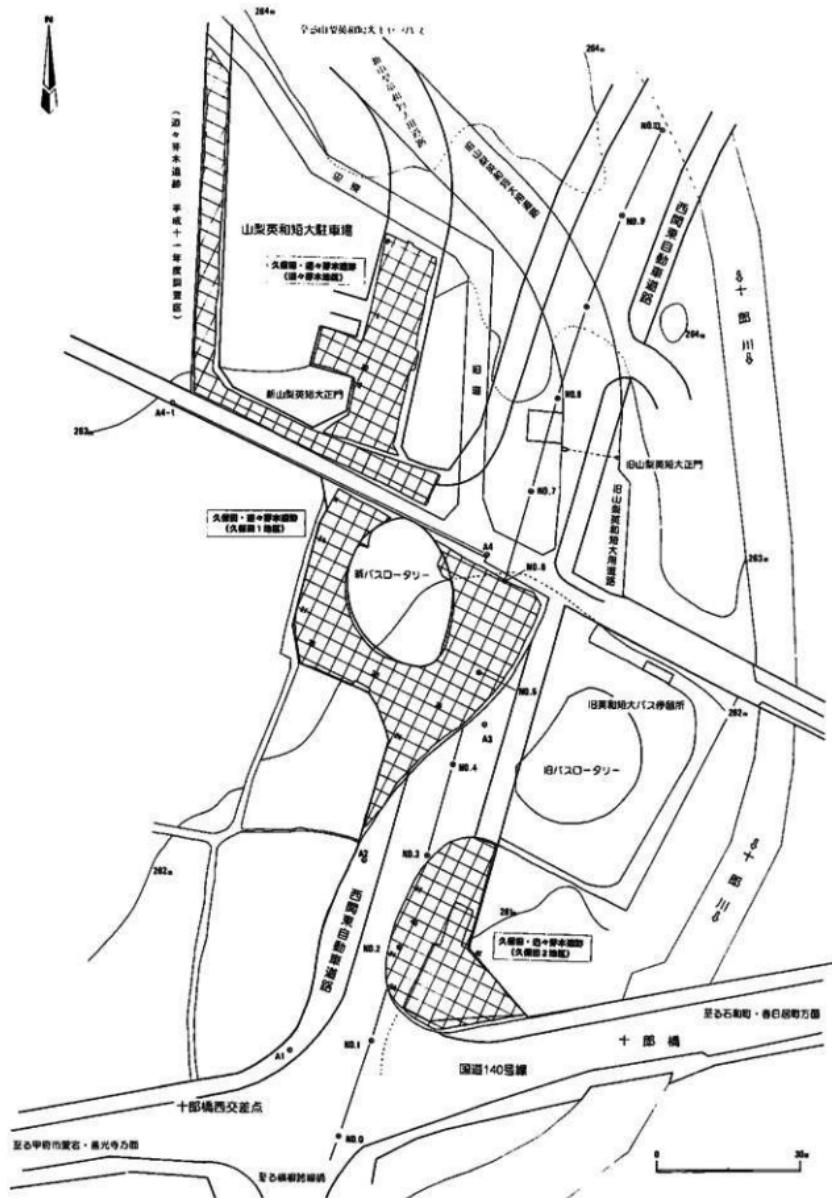


Fig. 4 調査区位置図

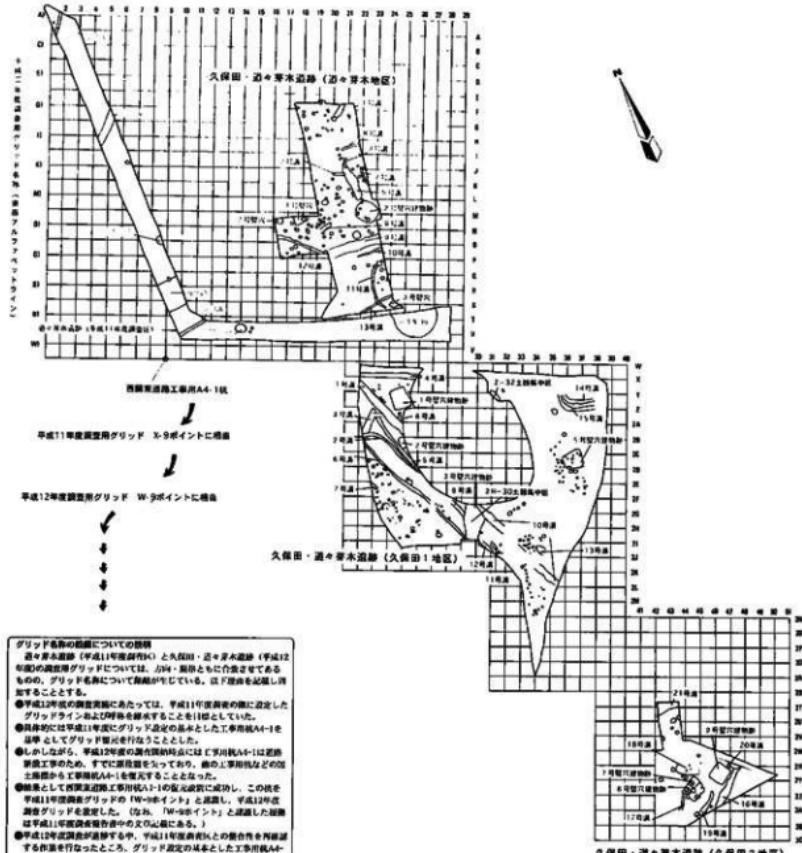


Fig. 5 遺構全体図

第IV章 調査された遺構と遺物

以下、調査された遺構・遺物について、地区ごとに報告する。

第1節 道々茅木地区

平成11年度調査の道々茅木遺跡の北東側にあたり、周知の遺跡名称である「道々茅木遺跡」にあたる。

道々茅木地区で確認された遺構は、堅穴建物1軒、堅穴3基、土坑121基、溝13条であり、出土遺物は縄文時代前期、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代と多時期におよぶ。

(1) 堅穴建物

確認できた堅穴建物は1棟のみである。なお、「第1号堅穴建物」はM-22・23グリッドに見られた弥生時代後期の遺物・焼土等の分布を建物と誤認したものであり、最終的には欠番扱いとした。

第2号堅穴建物（遺構Fig.6、Pl.3／遺物Fig.43、Pl.63）

（位置）道々茅木地区の中央東端、M-22.23.24、N-22.23.24グリッドに位置する。

（形状）東西に扁平な楕円形を呈し、長軸4.85m×短軸4.15m、深さ0.16mを測る。

（床面）貼床は認められず、ピット1と2間の焼土周辺がやや硬化するのみである。

（施設）柱穴と確定はできないがピットが5基あるのみであり、炉も確認されていない。

（遺物）弥生時代後期の土器が大半を占める。図示した遺物は13点。図示できなかった遺物には壺・甌の口縁部が135g、同じく体部が729g、同じく底部が51g、高杯が19gある。

（時期）弥生時代後期の所産が考えられる。

(2) 堅穴

「堅穴」とした遺構は土坑に類するが、規模などから堅穴建物他の可能性のあるものを目指し、3基が確認された。なお、規模等については、土坑・堅穴観察表（Tab.9）を参照されたい。

第1号堅穴（遺構Fig.11、15）

道々茅木地区の中央東部分、M-18.19グリッドに位置する。古墳時代前期の土器をわずかに出土したのみである。未調査部分が多く、出土遺物も少なく遺構の性格は不明である。

第2号堅穴（遺構Fig.11、15）

道々茅木地区の中央東部分、N-17グリッドに位置する。出土遺物はない。未調査部分が多く、出土遺物も少なく遺構の性格は不明である。

第3号堅穴（遺構Fig.13、15）

道々茅木地区の南東端部分、S.T-24.25グリッドに位置する。図示できる遺物はない。古墳時代前期および平安時代の土師片がわずかにある程度であり、遺構の性格は不明である。

(3) 土坑

土坑は121基検出された。うち41号、83号、110号については、個別図を示したが、その他については全体図（Fig.11～15）として示し、規模・出土遺物等については土坑観察表（Tab.8・9）に示した。なお、土坑の大半に明確な配列等を見い出すことはできず「掘立柱建物」と認定できたものもない。

ただし、L.M.N-20.21グリッドに位置する31～36号土坑は約1.5m間隔でコ字状に並ぶ土坑群であり、2間×3間の掘立柱建物である可能性もある。

第41号土坑（遺構Fig.6、Pl.17／遺物Fig.44、Pl.65）

K.L-20グリッドに位置する。土坑の底部に接して瓶1点が出土した。平坦面を上に向かた状態であり、柱等の橈板的な用途に転用されたものとも考えられる。

第83号土坑（遺構Fig.6、Pl.18）

O-20.21グリッドに位置する。西側の深い土坑部分と東側の浅い土坑部分が複合する形状を呈する。東側の浅い部分の側壁部分は著しく焼土化しており、火熱を伴う何らかの施設と考えられるが、機能・性格は不明である。

第110号土坑（遺構Fig. 6、Pl.19／遺物Fig.43、Pl.64）

F-20グリッドに位置し、調査区北側へ延びる。深い円形土坑であり、覆土上層に古墳時代前期の土器片を多く含む。F-20グリッド周辺には古墳時代前期の土器が集中的に分布しており、これらとの関連性が窺える遺構である。

（4）溝

溝は13条検出された。うち5号、9号、11号、12号については、個別図を示したが、その他については全体図（Fig.11～13）として示し、規模・出土遺物等については溝観察表（Tab. 7）に示した。

第5号溝（遺構Fig. 7、Pl. 7／遺物Fig.45、Pl.67）

J-21.22、K-21.22、L-22グリッドに位置する。覆土上層に弥生時代後期の遺物を多く含むが下層には遺物をほとんど含まない。長軸8m×短軸1.9mを測り、方形周溝墓の一辺の可能性もあるが、確定はできない。

第9号溝（遺構Fig. 8、Pl.11／遺物Fig.45.46、Pl.68.69）

O-22.23.24、P-20.21.22.23グリッドに位置する。西から東へ弱く傾斜する幅広の溝である。覆土中にまんべんなく遺物を含み、その主体は平安時代の土師器となる。また、白鳳～奈良時代の瓦破片資料を多く含む特徴がある。遺構の性格は不明であるが、土地区画的な役割を持った可能性が考えられる。

第11号溝（遺構Fig. 9、Pl.14／遺物Fig.47、Pl.70.71）

Q-23.24、R-23、S-23.24、T-24グリッドに位置する。遺構発見時には溝としては認識できず、「R-23土器集中」として弥生時代後期の遺物集中堆積と把握したが、最終的には弧状の溝であることが判明したものである。遺構が調査区東側へ延びているため不明確ではあるが、直径10m以上の円周を描く溝の一部である可能性があり、円形周溝墓の一部である可能性もある。なお、平成11年度調査の道々芽木遺跡地区で検出・報告された「弥生集中区」と近接しており、関連性があるものと考えられる。

第12号溝（遺構Fig.10、Pl.15／遺物Fig.47、Pl.72）

O-17.18、P-18.19.20グリッドに位置する。西から東へ緩く傾斜し、直線的というよりはやや北へ膨らむ弧状を呈す溝である。覆土に古墳時代後期の遺物を主体的に含み、わずかに古墳時代前期の遺物が混在する。主体となる古墳時代後期の土師器は古墳時代後期第3段階（森原1995）で、6世紀後半の所産が考えられ、遺構の所産時期もほぼこれに等しいと考えられる。また、平成11年度調査の道々芽木遺跡地区で検出・報告された「住居跡」とはほぼ同一の時期の所産が考えられるため、その位置関係から見て、古墳時代後期の住居あるいは集落の周辺をとりまく区画溝である可能性がある。

（5）遺構外出土の遺物

道々芽木地区から検出された遺構外出土の遺物は弥生時代後期から平安時代におよぶ。時代別の遺物量（重量）は弥生時代後期～古墳時代前期が37,199g、古墳時代後期～奈良時代が1,500g、平安時代が10,763gとなり、総計では約50kgを超える遺物量となった。しかし、その大半は微細な破片資料であり、接合復元作業によっても、復元できた資料はごくわずかであった。度重なる土地利用により遺跡のかなりの部分が掘削を受けていることが想起されるデータである。なお、道々芽木地区的遺物の主体となる古墳時代前期と平安時代の時期・器種別平面分布状況についてはFig.16に示し、弥生時代後期～古墳時代前期と平安時代の出土遺物量の分布についてはTab. 1.2に示した。

図示した遺物は157点であり、弥生時代後期～古墳時代前期を1～123（Fig.48～50、Pl.73～83）、古墳時代後期を124.125（Fig.50、Pl.83）、古墳時代後期～奈良時代の瓦および瓶を126～131（Fig.50.51、Pl.84）、平安時代を132～151（Fig.50.51、Pl.84.85）、中世の内耳土器を155（Fig.51、Pl.85）、時期不明の土製品を152～154（Fig.51、Pl.85）、縄文時代あるいは弥生時代の石器を156.157（Fig.51、Pl.85.86）として報告する。

これらのうち特に古墳時代前期初頭の所産が考えられる土器群については、パレススタイル壺の一部と考えられるもの（35.36.37.38）や頸部外面にループ状の突帯装飾をもつ壺（55.56.57）、S字状口縁台付壺の古相を呈すいわゆる「A類」（80～91）やそれに類する受け口状の口縁部をもつもの（92～101）などが含まれている。これらはおむね西部東海地方（伊勢湾周辺）に故地を持つ土器群と把握されるが、その出土地点が道々芽木地区の北側、グリッドのJライン以北に集中し、さらにはH-20ポイント周辺を中心とした直径約25mほどの円に近い方形を描く分布域を見せることがわかった（Fig.16上段分布図、Pl.21参照）。現地では遺構として把握す

ることはできなかったが、あるいは墳墓的な遺構が存在した可能性もある。

第2節 久保田1地区・2地区

道々茅木地区の南東側にあたり、周知の遺跡名称である「久保田遺跡」にあたる。大きく「久保田地区」と括り、必要な場合には北側の調査区を「久保田1地区」、南側の調査区を「久保田2地区」と呼称する。久保田1地区で確認された遺構は竪穴建物7軒、土坑208基、溝21条、土器集中区2箇所である。

また、発見された遺物は縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代、中世の多時期におよぶ。

(1) 竪穴建物

確認できた竪穴建物は7棟である。なお、「第4号竪穴建物」はY-32グリッドで見られた平安時代の土坑(第208号土坑)を誤認し、「第6号竪穴建物」は2M-36グリッドで見られた平安時代の遺物集中をそれぞれ建物と誤認し、「第10号竪穴建物」は第21号溝を誤認したものであり、最終的にはすべて欠番扱いとした。

第1号竪穴建物(遺構Fig.17、Pl.23～25/遺物Fig.52、Pl.87)

(位置) 久保田1地区の北端、Y-25.26、Z-25.26、2A-25.26グリッドに位置する。

(形状) 南北に扁平な長方形を呈し、長軸4.15m×短軸3.30m、深さ0.4mを測る。東壁の竪周辺のみがやや東側へ突出するような形状を呈す。

(床面) 明瞭な貼床は認められないが、竪付近の建物南西コーナー部分の床面が硬化する傾向がある。

(施設) 床面には柱穴や貯蔵穴などは全くないが、竪穴建物の外、北東側に柱穴の小さな土坑が3基あり、この建物に伴うものである可能性がある。ただし、小土坑と竪穴建物の間で硬化面などが認められたわけではなく、竪穴建物を全周するものでもないため、いわゆる「壁外柱穴」と断定することはできない。竪は東壁の南寄りに設けられ、壁面への煙道掘り込みが短いタイプである。右袖は地山掘り残してあるが、左袖は基本第IV層をベースとした土で構築されている。竪の内面の焼土化は極めて弱い。竪右袖の脇には0.5m×0.2mほどの狭い平坦面を持つ段状の部分が認められ、いわゆる「棚状施設」に相当するものと考えられる。この段状の部分には、竪構築材と考えられる火熱を受けた礫が7点まとめ置かれていた。また、この礫に挟まれるように小型の皿(1)が出土しており、合わせて竪の解体等に伴う何らかの行為の痕跡を示すものと考えられる。

(遺物) 平安時代の遺物のみが出土した。覆土の上層に垂直分布が片寄る傾向があり、平面的には竪前面から南壁、西壁付近に分布が片寄り、建物内の北東端付近はほとんど遺物分布が見られない傾向があり、竪内の空間利用の一端を示している可能性がある。遺物は7点を図示した。1は小型の皿、2は高台付きの杯、3は六角あるいは八角形の水平断面(面取り)をもつ高杯脚部、4は灰釉陶器の碗、5・6は壺、7は鉄製紡錘車と考えられる。

(時期) 土師器の資料群は古代末3期(森原1994)の特徴をもっており、遺構時期もこの時期の所産と考えられ、おおむね11世紀の後半位を充てる。ただし、灰釉陶器(4)および高杯(3)の時期はこれをさかのばるものと考えられる。

第2号竪穴建物(遺構Fig.18、Pl.26/遺物Fig.52、Pl.88)

(位置) 1号竪穴建物の南、2C.2B-25.26グリッドに位置し、調査区東に未調査部分が延びる。

(形状) 方形を呈し、長軸2.33m×短軸1.25m以上、深さ0.1mを測るが、未調査部分が多く不確定である。

(施設) 貼床は認められず、柱穴・竪などの施設も確認できなかった。

(遺物) 2点を図示した。1は古墳時代後期の杯、2は平安時代の皿である。

(時期) 出土遺物は1が古墳時代後期4～5段階(森原1995)で7世紀前半、2が平安時代で甲斐型土器編年XII期(甲斐型土器研究グループ1992)で10世紀第一四半期の所産が考えられる。遺物の時期差が大きいため、遺構時期の確定はできないが、少なくとも10世紀前半以降の時期であろうと考えられる。

第3号竪穴建物(遺構Fig.18、Pl.27/遺物Fig.52、Pl.89)

(位置) 久保田1地区の中央部、2G-31グリッドに位置するが、焼土の分布を確認できたのみであり、明確な規模は不明である。

(形状) 遺構プランは南西部分でごくわずかに確認できたのみであり、おそらく方形を呈するもの一部と考えられるが、不明確である。

(施設) 貼床は認められず、柱穴・竈などの施設も確認できなかった。確認されたのは浅い皿状の掘り込みに焼土ブロックが被さるように堆積した焼土痕が3箇所である。いずれも床面のように硬化しているが、竈とも異なり性格・用途は不明である。

(遺物) 平安時代の遺物が主体的であるが、遺構下にその後検出された2H-30土器集中の影響か古墳時代前期の遺物も含まれた。これらのうち、3点を図示した。1.2は平安時代の杯であり、3は同じく平安時代の壺である。

(時期) 出土遺物のうち2は甲斐型土器縄年縦期(甲斐型土器研究グループ1992)で9世紀第二四半期の所産が考えられる。その他は平安時代ではあるが詳細時期は不明である。よって遺構時期は少なくとも9世紀第二四半期以降であろうと考えられる。

第5号竪穴建物(遺構Fig.18.19、Pl.28~31/遺物Fig.52、Pl.90~92)

(位置) 久保田1地区の東端部、2C-37、2D-36.37.38グリッドに位置する。

(形状) 東西にやや扁平となる方形を呈し、おむね長軸3.85m×短軸3.25m、深さ0.23mを測る。西壁の長さが2.85mであるのに比べ、東壁の長さが3.25mとなるため、平面形状は台形に近いものとなる。

(床面) 明瞭な貼床は認められないが、建物南半分(竈付近から西壁のスロープ状部分までの間)の床面がやや硬化する傾向が認められた。

(施設) 床面には径の小さいピットが10穴あるが、規則的な配列は確認できず、性格を確定することはできない。ただし、P1とP2は形状・規模が類似することから柱穴としてセットになる可能性がある。貯蔵穴と考えられるピットにP11があり、建物の南西端に位置する。長楕円形を呈し、規模は長軸1.2m×短軸0.55mを測る浅い皿状のピットであり、その深さは「貯蔵」に向くものではないかも知れない。竈は建物の南東端に設けられ、壁面への煙道掘り込みが短いタイプである。右袖は地山掘り残しであるが、左袖は袖状に観察することが困難であり建物南壁の一部が竈の左袖を兼ねるような形状となる。竈の内面は煙道への立ち上がり部分が特に著しく焼土化しているほかはほとんど焼けていない。また、竈との関係は不明であるが、右袖の正面部分に広く焼土が分布するが、その場が焼けたというよりは竈の構築土が散らばったという状況であった。竈左袖の脇には1.0m×0.3mほどの緩い傾斜面を持つ段状の部分が認められ、いわゆる「棚状施設」に相当するものか建物の出入口の施設と考えられる。ただし、段状の部分には硬化する箇所が全く認められないため、出入口施設である可能性は低いものと考えられる。一方、西壁の南寄りには幅0.4m~1.0mを測る台形状のスロープ状施設が認められた。西壁から竪穴建物内へ緩く傾斜しており、そのまま竈前面まで硬化する床面が連続することから見て、出入口施設である可能性がある。

(遺物) 平安時代の遺物のみが出土した。覆土の上下層にまんべんなく遺物を含むが、平面的には竈の前面を中心に建物の南側に分布が片寄る傾向がある。建物北側の遺物分布が希薄な箇所は建物内の空間利用の一端を示しているように考えられる。これらのうち、8点を図示した。1~4は杯、5は脚高高台付杯、6.7は壺、8は金銅製海老鋸の社金具部分である。8については、P11の覆土最上層から横転する形で出土した。P11およびその周辺を含め、他の金具や付随品は出土しておらず、社金具単独での出土である。銅に鍍金が施されており、昆虫状の装飾が細かく施されており、出土事例の極めて少ないものである。なお、昆虫状の装飾は「セミ」を象ったものである可能性が高い。

(時期) 土師器は古代末2~3期(森原1994)の特徴をもっており、遺構時期もこの時期の所産と考えられ、おむね11世紀前半で充てた。ただし、金銅製海老鋸(8)の遺物時期は不明である。

第7号竪穴建物(遺構Fig.20、Pl.32/遺物Fig.53、Pl.93)

(位置) 久保田2地区の中央、2Y-45、2Z-45.46グリッドに位置し、南西側の第8号建物を切っている。

(形状) 正方形に近い小型の方形を呈し、長軸2.00m×短軸1.85m、深さ0.20mを測る。

(施設) 床面にピットが7穴あるが、規則的な配列は確認できず、性格を確定することはできない。また、竈あるいはその痕跡も確認できず、規模も極めて小さことから特に「住居」的役割を見い出すことが困難

な遺構である。

(遺物) 平安時代の遺物のみが出土した。覆土の下層に分布が集中し、平面的には建物の南側に分布が片寄る。これらのうち、8点を図示した。1～3は蓋、4は杯、5・6は皿、7・8は壺である。特に6の皿は底部が突出し、糸切り底がそのまま残るものであり、この時期の皿としては異質である。本来は底部の突出部を最終的には回転箝削りするはずのものが、箝削りが省略されそのまま焼成されたものとも考えられる。土師器生産遺跡である可能性の高い大坪遺跡に隣接するが故の遺物であろう。なお、出土した土師器の大半は堅密に焼成されたものであるが、ごく一部に未焼成であるかのような脆弱な胎土をもつものが混在し、図示したものでは1の蓋がそれにあたる。これらの資料については、焼成されたものか否かを究明すべく理化学的分析を委託し、その成果を付録として掲載したので参照されたい。分析委託の視点としては、未焼成の土師器は生産遺跡の近隣であれば出土する可能性があるのではないかという点に契機がある。

(時期) 土師器は甲斐型土器編年Ⅸ期（甲斐型土器研究グループ1992）で9世紀第三四半期の所産が考えられ、遺構の所産時期もこれにはほぼ等しいものと考えられる。

第8号竪穴建物（遺構Fig.20、Pl.33.34／遺物Fig.53、Pl.94.95）

(位置) 久保田2地区の中央、2Z.3A-45.46グリッドに位置し、北東側の第7号竪穴建物に切られる。

(形状) 正方形を呈し、長軸3.55m×短軸3.50m、深さ0.15mを測る。

(施設) 床面にピットが2穴あるが、浅く大きいピットであり性格を確定することはできない。また、南壁の全面にごくわずかな段部があり、幅0.2m程度の平坦面がある。竈は東壁の南寄りに設けられ、壁面への煙道掘り込みが瘦いタイプである。両袖とともに地山掘り残しであるが、特に左袖内面には黄色粘土が貼り付けられるように付着している。これは竈内部から立って出土した平瓦（13）を竈櫻築材として設置する際に充填させた粘土と考えられ、竈の芯には地山を掘り残し、天井部や袖部内面は別の粘土や瓦・礫等で構築した技法を垣間見ることができる。竈内部は火床面が著しく焼土化しており、頻繁な使用が考えられる状況であった。

(遺物) 平安時代の遺物のみが出土した。覆土の中層に分布が集中するが、竈周辺は床面まで多くの土器が分布し、平面的には竈正面および南壁中央部の内側に突出した壁付近に分布が集中する。これらのうち、13点を図示した。1は高台杯、2～4は杯、5は蓋、6～11は皿、12は六角あるいは八角形の水平断面（面取り）をもつ高杯脚部、13は平瓦である。なお、6および7については皿として報告したが、底部に付くリング状の台部分をつまみと捉え、蓋と見ることもできるものである。8～11の皿は底部が突出するものであり、糸切り底がそのまま残るものであり、第7号竪穴建物出土の皿と同様に底部の回転箝削りの省略が行なわれた可能性のあるものである。また、これも第7号竪穴建物と同様に、出土した土師器の一部に未焼成であるかのような脆弱な胎土をもつものが混在している。図示したもので7がそれがあたり、同様の分析を依託し、付録に掲載したので参照されたい。

(時期) 土師器は甲斐型土器編年Ⅸ～Ⅹ期（甲斐型土器研究グループ1992）で9世紀第二～三四半期の所産が考えられ、遺構の所産時期もこれにはほぼ等しいものと考えられる。

第9号竪穴建物（遺構Fig.21、Pl.35.36／遺物Fig.54.55、Pl.96～98）

(位置) 久保田2地区の東側、2X-47、2Z-47、2Y-46.47.48グリッドに位置する。

(形状) 東西方向にやや長い長方形を呈し、長軸3.50m×短軸3.25m、深さ0.10mを測る。

(施設) 貼床は認められなかった。壁溝は全周せず連続性もないが、北壁の東端に長さ0.4m、南壁の西端に長さ0.3mの壁に沿った溝が認められた。床面にはピットが8穴あるが、形状・規模とも様々であり、性格が明らかなものはない。特にP 8は漏斗状の断面形をもつ床下土坑であるが、ピット内からは出土遺物もなく性格は不明である。

(遺物) 平安時代の遺物のみが出土した。覆土の下層に分布が集中し、完形に近い遺物も多い。平面的には、竪穴建物内の南東端部に分布が集中し、杯・皿などは口縁を上に向けた正位で床面に並ぶように出土したものが多い。これらのうち、29点を図示した。1～8は杯、9～12は蓋、13～23は皿、24は角杯の把手部分、25～27は壺、28.29は丸瓦である。なお、14については皿として報告したが、底部の安定が非常

に悪いことから、つまみ部を持たない大型の蓋である可能性がある。第9号竪穴建物では第7号および第8号竪穴建物で見られた「回転箆削りの省略された皿」は見られず、完成品のイメージが強い。ただし、同じく第7号および第8号竪穴建物で見られた「脆弱な胎土をもつ土師器」については、同じように堅微に焼成されたものに混じって出土している。図示したものでは13.18の皿がそれにあたり、同様の分析を依託し、付録に掲載したので参照されたい。なお、13.18の出土状態は他の完形品と同様であり、特に変わった点は認められなかった。

(時期) 土師器は甲斐型土器編年図期（甲斐型土器研究グループ1992）で9世紀第二四半期の所産が考えられ、遺構の所産時期もこれにほぼ等しいものと考えられる。

(2) 土坑

土坑は208基検出された。うち103号、124号、125号、126号、158号、208号については個別図を示したが、その他については全体図（Fig.32～39）として示し、規模・出土遺物等については土坑観察表（Tab.9～11）に示した。なお、土坑の大半に明確な配列等を見い出すことはできず「掘立柱建物」と認定できたものもない。

第103号土坑（遺構Fig.22、Pl.48／遺物Fig.55、Pl.100）

2 I-28グリッドに位置する。覆土上層に平安時代の遺物を多く含む。このうち5点を図示した。1は鉢の底部、2～4は杯、5は須恵器の壺である。土師器は甲斐型土器編年図期（甲斐型土器研究グループ1992）で9世紀第二四半期の所産が考えられ、遺構の所産時期もこれにほぼ等しいものと考えられる。

第124号土坑（遺構Fig.22、Pl.49／遺物Fig.55、Pl.99）

2 D-36グリッドに位置する。深さ0.56mを測る比較的に深い土坑であるが、遺物は覆土上層のみに集中する。このうち4点を図示した。1～3は杯、4は壺である。土師器は古代末1～2期（森原1994）でおおむね11世紀前半代の所産が考えられ、遺構の所産時期もこれにほぼ等しいものと考えられる。

第125号土坑（遺構Fig.22、Pl.50／遺物Fig.55、Pl.99）

2 E-37グリッドに位置する。第5号竪穴建物跡のすぐ南側に近接し、第126号土坑と隣接する。覆土の上層にはほぼ完形の土師器杯1点が正位で出土した。規模や形状から隣接する第126号土坑と同様に合わせ口となる杯のセットが埋設されていたことが予測されるものである。図示した1点は杯であり、古代末2～3期（森原1994）でおおむね11世紀代の所産が考えられるが、2期（11世紀前半代）の特徴に近い感がある。遺構の所産時期もこれにほぼ等しいものと考えられ、近接する第5号竪穴建物の所産時期よりはやや古いものと考えられる。竪穴建物が存在したときに土坑が掘削・構築されたとは考えにくく、土坑→竪穴建物の順序で構築されたと考える方が自然と考えられる。

第126号土坑（遺構Fig.22、Pl.50.51／遺物Fig.56、Pl.101.102）

2 E-37グリッドに位置する。第125号土坑のすぐ西側に位置する土坑である。合わせ口に埋設された土師器杯が2セット出土した。図示したのはこれらの杯4点であり、正位の1の蓋に2が、正位の3の蓋に4がそれぞれセッティングになる。覆土および出土状況の観察から1.2のセットと3.4のセットはほぼ同時に埋設されたものと考えられ、どちらかが追加埋設された状況は見えなかった。土師器の時期についていっては、第125号土坑と同様に古代末2期（森原1994）に近い特徴をもち、11世紀前半代の所産が考えられる。遺構の所産時期もこれとはほぼ同じと見られるが、第125号土坑との時間差は判別できない。また、第125号土坑と同様の理由もあり、近接する第5号竪穴建物よりは古い時期に構築されたものと考えられる。

第158号土坑（遺構Fig.22、Pl.52／遺物Fig.55、Pl.99）

2 A-36グリッドに位置する。不整な平面形の浅い土坑であるが、古代末1～2期（森原1994）の10世紀末から11世紀初頭の特徴をもつ土師器杯1点と割られたような碟が出土した。碟は覆土上位に並ぶように出土したため、「墓壙」の可能性を考えたが、確認は得られていない。

第208号土坑（遺構Fig.22、Pl.53.54／遺物Fig.56、Pl.104）

Y-32グリッドに位置する。土坑としての確認が遅れ、かろうじて残った掘り込みの痕跡から土坑であることが確認できたものである。長楕円形の平面形を呈し、北側に人頭大の扁平な碟が壁のように立てられた状態で埋置され、土坑内にも碟が複数個置かれていたことが観察された。人頭大の碟の周辺に遺物が集中し、そのうち4点を図示した。特に1と2は、正位の1の蓋に2が乗せられた状態で、立てられた碟の外側に添わせる

ように出土した。図示した4点はいずれも古代末2期（森原1994）の11世紀前半代の特徴をもつが、底径のやや大きい杯であるが、4のみは時期的にやや下る可能性がある。遺構の性格は不明であるが、立てられた扁平な碟や平面形状から「墓壙」の可能性も否めない。

(3) 溝

溝は21条検出された。うち1号、10号、16号、21号については、個別図を示したが、その他については全体図(Fig.32~36)として示し、規模・出土遺物等については溝観察表(Tab.7)に示した。なお、2号、5号、6号、9号溝は、いずれも平安時代以降の溝であり、南北方向に主軸をもつ共通した特徴をもつ。「道」に伴うものである可能性もあるが確証は得られていない。

第1号溝（遺構Fig.23.24、Pl.37.38／遺物Fig.56、Pl.105.106）

久保田1地区の北側、Y-23、Z-23.24、2A-24.25、2B-25グリッドに位置し、北から南へ弱く傾斜する幅広の溝である。覆土中にまんべんなく遺物を含むが、その主体となる遺構の所産時期と考えられるのは古墳時代後期であり、溝の底面に溜まるように出土したものが多い。他の遺物としては、古墳時代前期（一部に弥生時代後期含む）が混在し、これらのうち34点を図示した。1~20がおむね古墳時代前期まで、21~32が古墳時代後期の所産と考えられ、33は覆土の最上層から出土した平安時代の高杯脚部、34は時期不明の土製品で垂飾品的なものと考えられる。主体となる古墳時代後期の土師器は古墳時代後期第3段階（森原1995）で、6世紀後半代の所産が考えられる。なお、遺構の性格は不明であるが、覆土および遺物の残存状況から見て、水路的な役割を担った可能性は低いものと考えられる。

第10号溝（遺構Fig.25、Pl.44／遺物Fig.57、Pl.108）

久保田1地区の南東端、2G-31、2H-31.32、2I-32、2K-34.35、2K-35.37グリッドに位置する。遺構周辺の擾乱が著しく、断続的に遺構を確認するに留まり全体像は不明確であるが、北から南へ緩やかに傾斜する溝と捉えられた。出土遺物は古墳時代前期が主体であり、そのうち18点を図示した。また、第1号溝とはその方向性がほぼ同一であり、未調査区を隔てて繋がる可能性があるが、出土遺物から見た遺構の所産時期には齟齬が生じることとなり、確定的でないため、別遺構として報告した。

第16号溝（遺構Fig.26、Pl.45／遺物Fig.57、Pl.109.110）

久保田2地区の東端、2Y.2Z-48、3A-47グリッドに位置する。東から西へ緩く傾斜する溝である。覆土には砂が多く含まれ、古墳時代後期を主体とする遺物が出土した。遺物は遺構の北側に集中するとともに、北側から南へ落ち込むように出土したものが多い。これらの中9点を図示したが、主体となる古墳時代後期の土師器は古墳時代後期第4段階（森原1995）で、7世紀前半代の所産が考えられる。

第21号溝（遺構Fig.26、Pl.47／遺物Fig.57.58、Pl.111.112）

久保田2地区の北端、2T.2U-43.44グリッドに位置する。発見当初は溝として認識できず、南側の壁の直線的な部分をして「第10号堅穴建物」と誤認した。しかし、調査が進む中で溝であることが判明し、最終的には第21号溝として報告するものである。溝の底面はほぼ平坦であり、傾斜を見い出すことはできなかった。遺物は奈良時代土師器が大半を占め杯と壺が出土しているが、一部に平安時代のものも混入する。奈良時代の土師器は平底で身の深い箱形の杯（1）と整状の杯（2.3）が共伴するなど奈良・平安時代Ⅱ期（山下・瀬田1999）の特徴をもち、8世紀の前半代の所産が考えられる。

(4) 土器集中

主に古墳時代前期の土器が集中的に出土する箇所を「土器集中」と遺構的に認識して報告する。

2H-30土器集中（遺構Fig.27~29、Pl.55~57／遺物Fig.58~60、Pl.113~125）

久保田1地区の中央南側、2G.2H.2I-30.31グリッドに位置する。古墳時代前期の遺物が大量に集積するように出土したものであり、北側が広く南側の狭い台形の溝状の平面形となる。人工的な幅広の溝かとも考えられたが、浅くなだらかな立ち上がりと覆土に見られた砂質土の堆積状況などから自然的な窪地あるいは沢と考えるべきと判断し、敢えて「溝」とは呼称しなかった。ただし、遺物の集積については、自然堆積というよりは人為的に廃棄あるいは放置・設置されたものと考えられる。遺物の器種別の分布状況をFig.28.29にまとめたが、その分布状況から何らかの「意図」を見い出すことはできない。よって現状では単なる生活道具の廃棄箇所であるのか、祭祀的意味合いがあるのかという点は不明である。出土した遺物の時期は古墳時代前期

のみである。総量は38,061 gであり、その内訳は高杯が1,112 g、小型壺が4,362 g、壺・甕が23,040 g、S字状口縁台付壺が7,034 g、台付壺が660 g、瓶その他1,853 gとなる。大半が破片資料であるが、そのうちの106点を図示した。

Z-32土器集中（遺構Fig.30.31、Pl.58／遺物Fig.60.61、Pl.126～128）

久保田1地区の南東側、Y.Z-31.32グリッドに位置する。古墳時代前期の遺物が大量に集積するように出土したものであり、遺物取り上げ後の精査によって、不整な形状の浅い落ち込みを中心に遺物が分布していたことが判明した。よって「土坑」と捉えることも可能であったが、その落ち込み範囲を越えて遺物が分布する状況であったため、敢えて「土器集中」と呼称した。遺物の器種別の分布状況をFig.28.29にまとめたが、その分布状況から何らかの「意図」を見い出すことはできていない。よって現状では単なる生活道具の廃棄箇所であるのか、祭祀的意味合いがあるのかという点は不明である。出土した遺物の時期は古墳時代前期のみである。総量は21,507 gであり、その内訳は高杯が1,317 g、小型壺が206 g、壺・甕が16,174 g、S字状口縁台付甕が2,437 g、台付甕が665 g、瓶その他708 gとなる。大半が破片資料であるが、そのうちの29点を図示した。

(5) 遺構外出土の遺物

久保田地区から検出された遺構外出土の遺物は縄文時代から平安時代におよぶ。時代別の遺物量（重量）は縄文時代は510 g（久保田1地区のみ）、弥生時代後期～古墳時代前期が51,788 g（久保田1地区/44,610 g、久保田2地区/7,178 g）、古墳時代後期～奈良時代が2,050 g（久保田1地区/1,200 g、久保田2地区/850 g）平安時代が49,591 g（久保田1地区/28,945 g、久保田2地区/20,646 g）となり、総計では約100kgを超える遺物量となった。なお、道々茅木地区の遺物の主体となる古墳時代前期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代の時期・器種別平面分布状況についてはFig.40～42に示し、古墳時代前期と平安時代の出土遺物量の分布についてはTab.3～6に示した。

図示した遺物は96点であり、縄文時代を1～5（Fig.61、Pl.129）、弥生時代後期～古墳時代前期を6～36（Fig.61～62、Pl.130.131）、古墳時代後期を37～43（Fig.62、Pl.131.132）、古墳時代後期～奈良時代の瓦を49（Fig.62、Pl.133）、平安時代を44～48、50～87（Fig.62.63、Pl.133～136）、時期不明の土製品ほかを88～96（Fig.63、Pl.136）として報告する。

第V章 考察—久保田・道々茅木遺跡の要点整理とその位置付け—

久保田・道々茅木遺跡の発掘調査で得られた知見および課題について触れる。

(1) 縄文時代

遺構は全く検出されなかつたが、道々茅木地区では第9号溝覆土から縄文時代前期（諸磯c式）の土器片1片および遺構外出土遺物として石鏃1点が出土し、久保田地区では縄文時代早期（神之木式）、縄文時代前期（黒浜式～諸磯b式）、縄文時代中期（五領ヶ台式・曾利II式）までの土器片5点が出土した。いずれも微細な小片ではあるが、本遺跡の周辺では極めて出土の希な資料であり、甲府盆地北西部の縄文文化の一様相を示す資料となろう。

(2) 弥生時代後期

明確に弥生時代後期の所産が考えられる遺構は数少ない。道々茅木地区第2号竪穴建物、第5号溝、第11号溝などが代表的なものとして挙げられよう。遺物から見た本遺跡の弥生時代後期の様相については、平成11年度調査の報告でも指摘のあったとおり、他地域（東部東海・中部高地）からの影響を受けた資料が混在する傾向が同じく認められた。しかし、本遺跡の弥生時代後期土器については、東部東海系の土器群が優位性をもつていると考えられ、その中にわずかに中部高地系が混じるという状況であると言えう。例えば、道々茅木地区第2号竪穴建物は口縁部に連続刺突を持ち刷毛調整を多用する壺・甕や棒状浮文の付く有段口縁甕など東海の色彩が強い土器群であるが、中部高地系はほとんど見られず、1の片口鉢にわずかに中部高地系を感じさせる程度である。また、道々茅木地区第5号溝、第11号溝についてもほぼ同様であり、多数の東海系に少

数の中部高地系（横描波状文や赤彩される高杯など）が混じる状況である。このような状況はいわゆる「弥生6期／6A相（六科丘式）」（中山1999）とされる弥生後期後半の甲府盆地周辺に見られる土器様相と類似しており、盆地南部の中道町上の平遺跡や盆地西部の横形町六科丘遺跡に相通じるものがある。本遺跡周辺つまり甲府盆地東部の弥生時代後期後半の土器様相は不明な点が多いが、今回の調査事例などから見れば、甲府盆地の南部から西部にかけての地域と同様に、東海地域からの影響をより強く受けた時期があったと考えることができよう。

なお、本遺跡においては弥生時代後期の遺構・遺物の分布は明らかに北側の道々茅木地区に片寄っており、さらに調査区の東側から北側に分布が延びる傾向が捉えられている。周辺地域に弥生時代後期の集落や墓域などを求めるとするならば、大山沢川の右岸の舌状の微高地（現在の山梨英和短期大学キャンパスの一部）に求めるべきであると今のところは考えられる。

（3）古墳時代前期

様々な意見があるが、ここではS字状口縁台付壺（特にA類）の出現以降を区切りに「古墳時代前期」と仮定し記述する。本遺跡で見られた古墳時代前期の資料は「S字状口縁台付壺A類」を含む古段階と「S字状口縁台付壺C類」を含む新段階に分けて考えることができる。

①古墳時代前期古段階

本遺跡で見られる古墳時代前期古段階の土器には多くの「S字状口縁台付壺A類」と呼称される一群が含まれており、その分布は道々茅木地区の北端部に集中する傾向がある。調査開始段階からその質量の豊富さに留意し、遺構の発見・検出に努めたが最終的には土坑や溝以外の遺構（墳墓や堅穴建物など）は検出できなかった。しかし、本文中でも触れたが、H-20ポイント周辺を中心とした直径約25mほどの円に近い方形を描く分布域（Fig.16上段分布図）が観察されており、何か発見できなかつた遺構が存在した可能性を指摘できる。また、特にF.G-20.21グリッドには「S字状口縁台付壺A類」が集中することも特筆される。なお、本遺跡におけるこの段階の土器資料はそのほとんどが遺構外出土であり、それらの共伴性は明確ではない。この段階を代表する資料としては道々茅木地区第3号土坑-1、第5号土坑-1、第2号溝-5、道々茅木地区遺構外-80～101、久保田地区1号溝-12～14、久保田地区2H-30土器集中-58～60、久保田地区Z-32土器集中-20などの「S字状口縁台付壺A類」やそれに類するもののほか、道々茅木地区遺構外-35～38などのパレススタイルと呼称される伊勢湾系二重口縁壺の一部、道々茅木地区第12号溝-2.3、道々茅木地区遺構外-55～57などの頸部外面にループ状の突帯装飾をもつ壺などが挙げられる。これらの土器群が甲府盆地北西部でまとまって出土したことにより、弥生時代末～古墳時代初頭にかけてのこの地域が、西部東海地域の影響を強く受けた集団が存在する地域のひとつであったことが明らかになってきた。また、これらの土器群は「甲斐I期」（小林2000）に相当するものと考えられ、伊勢湾周辺地域でいう「廻間I式」～「廻間II式」段階の時期に相当しよう。なお、本遺跡出土の「S字状口縁台付壺A類」は破片資料ばかりであり、器形全体のプロポーションから分類することはできないが、口縁外面への連続刺突や押し引きの施文技法や口縁断面形状、さらに土器胎土までもが多様なバリエーションを持つため、さらに細かい分類検討が可能と考えられる。

②古墳時代前期新段階

古墳時代前期ではあるが、さらに新しい様相を呈す資料群がある。これらの中心をなすのは「S字状口縁台付壺C類」と呼称される一群である。古段階ではその分布は道々茅木地区に片寄る傾向があったが、この新段階では逆に南側の久保田地区（特に久保田1地区）に分布の中心が移る。特にこの時期を代表するのが、久保田地区2H-30土器集中および久保田地区Z-32土器集中である。両者の状況は本文中に触れたとおりであるが、ともに大量の土器が集積するものであり、廃棄・祭祀など性格については不明とせざるを得ない。よって資料の一括性も弱いが、土器の観察等によれば「S字状口縁台付壺C類」に共伴する時期のものが主となり、それよりやや古い様相をもつ土器が混入する状況であることがわかる。この段階を代表する資料としては道々茅木地区遺構外-102～108、久保田地区10号溝-16、久保田地区2H-30土器集中-61～90.95、久保田地区Z-32土器集中-21～23などの「S字状口縁台付壺C類」のほか、2H-30土器集中-2～4などの杯部に後縫を持たない高杯、同24～28などの小型丸底壺、同35～37などの単孔の瓶、同31などの小型壺、同45・Z-32土器集中-10～13などの有段口縁壺、道々茅木地区遺構外-106.107、久保田地区Z-32土器集中-24などの

「山陰系口縁S字壺」などがある。これらの土器群は「甲斐Ⅳ期」（小林2000）に相当するものと考えられ、伊勢湾周辺地域でいう「廻間Ⅲ式」段階以降の時期に相当しよう。

（4）古墳時代中期

平成11年度調査では豊富な資料が得られたこの時期については、今回の調査では1点の土器すら確認することができなかった。おそらくこの時期の遺構・遺物の存在する箇所は道々茅木地区の北西側（山梨英和短期大学キャンパスから横根地区の集落内にかけて）の地域に求められるのであろう。

（5）古墳時代後期

この時期の所産が考えられる遺構には、道々茅木地区第12号溝、久保田地区第1号溝、第16号溝が挙げられる。いずれも溝であり、建物等は検出されなかつた。しかしながら、出土した土器は日常雑器的なものばかりであり、ごく近接地に集落が存在し、それらが結果的に溝に廃棄されたものであろうと考えられる。いずれの溝も水路というよりは土地区画的な役割が推測されるものばかりであった点も注目される。遺物から見た時期であるが、6世紀の後半段階から7世紀の前半段階までの間の遺物が認められ、周辺に所在するであろう集落の存続期間もその時期に等しいものと考えられる。本遺跡に遺物や遺構を残した人々や集団が後背の古墳群、横根・桜井積石塚古墳群と無縁であったとは考えにくく、古墳の造営を何らかの形で支えたことが推測される。しかしながら、合計140基を越える国内有数の古墳群を控えた地域にしてはあまりに発見される集落遺跡が少なく、また遺跡規模も小さい感がある。この点については、横根・桜井積石塚古墳群を支えた古墳時代集落がまだ別のところに眠っていると考えることももちろん可能であるが、140基以上とされる積石塚のすべてが果たして本当に「古墳」なのかどうかということも含めて再考する必要があるのでなかろうかと考えられる。

（6）古墳時代後期（白鳳時代）～奈良時代

この時期の所産が考えられる遺構は、久保田地区第21号溝にほぼ限定される。該期の遺物を出土した遺構は他にもあるが、例えば道々茅木地区第41号土坑は該期の軸を転用埋置しているものであり、遺物時期と遺構時期が合致する可能性は低い。また、瓦片を多く出土した道々茅木地区第9号溝も遺物の主体は平安時代が占めており同様である。本遺跡から出土した瓦や軸については、ほぼ間違いなく近隣の瓦生産窯である川田瓦窯あるいは上土器瓦窯からもたらされたものであろうが、出土量あるいは出土状況から見て、この土地で建物等に使用された可能性は極めて低いものと考えられる。最も可能性の高いのは、久保田地区第8号竪穴建物窯で見られた竪穴建物窯への転用や先述の道々茅木地区第41号土坑の柱礎板への転用などにより瓦や軸の生産地における廃棄品などが単なる生活素材として集落へ持ち込まれたということである。ただし、本遺跡の北側に近接した東畠遺跡では白鳳期の小金銅仏が出土しており、同じく南側に近接した大坪遺跡でも古代寺院の存在を想起させる遺構・遺物が検出されており、知られざる「菴」がこの付近に存在し、そこから何らかの理由でもたらされた可能性も否定しきれない。

なお、久保田地区第21号溝から出土した土師器はこの地域では希有な出土事例であり、興味深い。遺跡の環境等でも触れたが、本遺跡の南側の大坪遺跡は土師器生産遺跡と考えられており、特に8世紀後半以降に甲斐国一円で消費される「甲斐型土器」を一元的に焼成し、供給したことが推測されている。もちろんその運営方法や生産の実態究明もできていないが、8世紀中葉以前の甲斐型土器成立前夜の土器様相とその生産についてはさらに不明な状態である。今回、第21号溝から出土した土師器のうち、特に杯については平底で身の深い箱形の杯（1）と盤状の杯（2.3）が共伴し、甲斐型土器成立前夜の8世紀前半に位置付けられる資料となろう。これらの土師器の製作技法や形態と甲斐型土器の古相を示す資料との比較検討によって、甲斐型土器の生産開始の実態を明らかにできる可能性があるものと考えられる。

（7）平安時代

①時期について

古墳時代前期とともに本遺跡の主たる時期である。調査の着手前には表面採集される大量の土師器片（その大半が平安時代の甲斐型土器）や平成11年度調査で検出された夥しい量の甲斐型土器を出土した道々茅木遺跡第2号溝などの存在から大規模な集落等あるいは土師器生産に関わる遺構の存在を推測していたが、実際にはそれほどの遺構数もなく、遺物も表面採集される量に比較すればそれほど多い結果には至らなかった。出土した遺物は、甲斐型土器編年（甲斐型土器研究グループ1992）の第Ⅶ期（8世紀末葉から9世紀第一四半期）、同

第Ⅸ期（9世紀第二四半期）、同第Ⅹ期（9世紀第三四半期）、しばらくおいて同第Ⅺ期（10世紀前半代）、古代末編年（森原1994）の第1期（10世紀後半代）、第2期（10世紀末～11世紀前葉）、第3期（11世紀後半代）までの時期が認められた。遺構としては9世紀第二四半期の久保田地区第8号竪穴建物、同第9号竪穴建物、9世紀第三四半期の久保田地区第7号竪穴建物、11世紀前半代の久保田地区第5号竪穴建物、久保田地区第125号土坑、同第126号土坑、同第208号土坑、11世紀後半代の久保田地区第1号竪穴建物などが代表的なものとして挙げられる。

②土師器生産と久保田・道々芽木遺跡

再三述べているが、本遺跡の南側に広がる大坪遺跡からはこれまで行なわれた複数回の発掘調査やその出土遺物、環境などから奈良・平安時代の甲斐国特有の土師器である「甲斐型土器」を生産した遺跡と考えられている。本遺跡と大坪遺跡は国道を挟んで遺跡名こそ違えているが、自然地形などから見れば同一の遺跡と捉えることも可能であり、調査中から土師器生産に関わる遺構や遺物の発見・検証に留意してきた。土師器焼成等に関わる具体的な遺構こそ発見できなかったものの、土師器生産地付近ゆえの遺跡の特色に係るいくつかの知見を得ることができたので、まとめておく。

ア) 墨書き土器が皆無であることについて

大坪遺跡の発掘調査報告（平野1996）でもすでに指摘されているが、すべての平安時代土器に「墨書き」が見られないことが挙げられる。「住居」的な建物遺構からも土坑からも1点も墨書きが確認できなかった。これは、甲斐国内の8～10世紀の集落遺跡であれば、大概の遺跡で1ないしは複数の墨書き土器が発見される現状から見て異常な状態である。本遺跡が甲斐型土器を日常的に「消費」する場所ではなかったことを示している可能性がある。

イ) 通常の流通土師器に見られない土師器の存在について

久保田地区第7号～9号竪穴建物から出土した土師器皿に見られる突出した底部と糸切り痕跡は皿製作工程のうちの最終段階である「底部の回転範削り」を省略している可能性がある。このような皿は一般の集落ではほとんど出土を見ないものであり、生産地特有の形態である可能性がある。このような形態が発生する要因は故意に非流通品を製作した可能性あるいは不慮に工程を忘却した可能性のそれぞれが指摘できる。

ウ) 未焼成の可能性のある土師器の存在について

同じく久保田地区第7号～9号竪穴建物から出土した「脆弱な胎土を持つ土師器」は焼成される前のものあるいは焼成に失敗したものである可能性がある。通常、土器等が脆弱な状態で検出されるような場合にはその要因は、土壤中の水分など遺跡の環境によるものであり、同じ環境下にある土器等はいずれも脆弱になるはずである。しかし、本遺跡で出土した脆弱資料はそのいずれもが、同一箇所から出土する大半の土師器が堅密であるにも関わらず、数点のみが脆弱であるという現象を見せるものであった。このことは、生産地あるいは生産地の近接地であるために見られることである可能性がある。この点については、焼成と非焼成を判別するための理化学的な分析が必要と判断し、土師器胎土の顕微鏡観察を河西学氏（山梨文化財研究所）に、胎土のX線回折およびESCA分析を中藤利一郎氏（帝京科学大学理工学部）に業務依託しその報告を付録として収録したので参照されたい。焼成・非焼成のいずれの結果に問わらず、現段階では類似資料の蓄積と比較検討を行ない、将来的な大坪遺跡周辺の実態究明に備えるべきであろうと考えられる。

エ) 土師器の原材料の採取場所について

道々芽木地区においては、地形の成り立ちおよび下層の遺構有無を確認すべく地表下約3m程度の重機試掘を行なったが、その際に採集した粘質土が、土器製作に比較的向いていることが実験的に確認されるに至った。そこでこの採集した粘質土が甲斐型土器の原料に使用されている可能性があるのではないかという視点に基づき、パリノ・サーヴェイ社に粘質土と甲斐型土器胎土の比較分析を委託した。分析結果は付録を参照いただきたいが、結果的には甲斐型土器に本遺跡の現地表下数mまでの粘質土は使用していない可能性が高いことが判明した。おそらく、本遺跡の粘質土は北側に位置する大山沢川によってもたらされたものであり、甲斐型土器の胎土とは異なる（甲斐型土器の原材料にはふさわしくない）ものであったの

だろうと考えられる。では、甲斐型土器の原材料たる粘質土はどこで採取されたのかを考えると、本遺跡から十郎川を挟んだ南側の大坪遺跡から川田瓦窯周辺の地帯、つまり旧笛吹川の扇状地の扇端部分で度重なる氾濫で良質な粘質土がもたらされたであろう地域を指摘することができる。これはあくまで推論に過ぎないが、大坪遺跡あるいは川田・上土器両瓦窯が甲斐型土器および国分寺等の瓦の生産地になりえたのは、原材料がその場で採取できたからであろうと考えられ、その点から考えると久保田・道々茅木遺跡を含む大山沢川扇状地については、甲斐型土器の主たる生産地にはなりえなかつたことが推測できるのではないかろうか。本遺跡から明らかな焼成構が検出されることは、あくまで生産地に極めて近接した地であるという性格を示しているものと考えられ、大坪遺跡に近い久保田2地区にその色がより強く残されていると考えられるのである。ほんのわずかな自然環境の差違が遺跡の性格を変えている可能性を指摘できる。もちろん、今回までの分析結果と調査成果だけで結論付けるのは時期尚早であり、平成11年度調査の道々茅木遺跡調査で検出された土器焼成構の可能性のある土坑や土器が大量に投棄されたとみられる溝の存在をどう評価するかという問題点も残る。この点については、久保田・道々茅木遺跡出土の甲斐型土器についての再検討（焼成段階での未成品等があるか否かなどの検討）や周辺地域（特に大坪遺跡を含めた地域）での土壤分析・比較検討の繰返しを経て、結論に近付く必要があることは言うまでもない。

③合わせ口杯を埋置する土坑について

本遺跡で検出された土坑には杯を2点1セットで合わせ口状態に組み合わせ埋置したものが複数あった。いずれも久保田地区から検出された第125号、第126号、第208号土坑であり、時期的には11世紀代に限定される。これらの性格は他の出土品や出土状況から断定することはできなかったが、何らかの祭祀的な意味合いがあるものと考えられる。あるいは埋葬などに伴うものである可能性もあるが、人骨等も検出されていないため、断定はできない。この点を解明するには、11世紀代の社会背景や類似事例などを細かく検討する必要があるが、ここでは今後の課題として問題提起するにとどめる。

④金銅製海老鋸の存在について

久保田・道々茅木遺跡の平安時代の特筆される遺物として、久保田地区第5号竪穴建物から発見された「金銅製海老鋸」が挙げられる。出土状況は、同竪穴建物内の南東隅に設けられた貯蔵穴的なピットの覆土上層からの出土となる。この竪穴建物跡の時期は、11世紀前半代と考えられるが、海老鋸そのものの時期とシンクロするか否かは今のところ不明である。

出土した海老鋸は純金具の一部であり、大きさは現存長5.2cm、最大幅1.4cm、最大高（弦通し穴部を含む）2.6cm、重量約20gを計るものである。弦受部には昆虫状の装飾（セミの可能性が高い）が施され、全体に鍍金された工芸的な優品であるといえる。国内では平安京（京都府）や藤原京（鹿児島県）、神明久保遺跡（神奈川県）などに類例を求めることがあるものであるが、極めて出土事例の希な出土遺物である。他の出土事例からは出土地の共通項は、それぞれ国や地方の中心的役割を担ったレベルの遺跡であることとなり、久保田・道々茅木遺跡の付近に何らかの公的な施設または寺院等が存在した可能性を示唆するものとも考えられる。しかしながら、久保田・道々茅木遺跡からは瓦・軒・土器などの出土は見られるものの、今までのところ本遺跡自体に官衙・寺院等の存在痕跡を見い出すことはできない状況である。一方、隣接する大坪遺跡における平成12年度調査（大坪遺跡発掘調査会実施）では円面鏡・瓦塔・土鉢・帶金具（巡方）などの遺物のほか大型の掘立柱建物跡などが検出されており、官衙あるいは寺院等が存在した可能性が推測されているという状況があり、久保田・道々茅木遺跡の調査成果と合わせ考察する必要が生じ始めていることは特筆に値するであろう。なお、「金銅製海老鋸」の鍍金技法や金属性質については、川鉄テクノリサーチ社に分析を委託し、その報告を付録として収録したので参照されたい。

⑤高杯、特に多面形の脚部を持つ資料の存在について

久保田・道々茅木遺跡からは9世紀前半～中葉に所産時期を求めることができそうな高杯が複数確認されている。道々茅木地区遺構外-134.135、久保田地区第1号竪穴建物-3、同第8号竪穴建物-12などがこれにあたるが、これらの資料は山梨県内で調査された一般的な集落遺跡からはほとんど出土していないものである。類例は甲府市大坪遺跡、甲府市秋山氏館跡などに限られており、特殊性を感じさせる資料である。その形状や精製された質から見て官衙・寺院等の限られた施設に供給されたことが予測され、特に古代官衙や寺院の明瞭

な検出事例のない山梨県地域では出土事例が少ないという現象がおきているものと考えられる。この資料については、久保田・道々茅木遺跡周辺に宮衙・寺院等の存在を推測させるものとするか、あるいはいわゆる「特注品」の生産が付近で行なわれていたことを推測させるものとするのか結論付けはできない。また、久保田地区第9号竪穴建物からは土師質の角杯の把手と考えられる部位(24)も出土しており、高杯と同様の推測ができるようである。

(8) おわりに

久保田・道々茅木遺跡の平成12年度発掘調査で得られた知見と残された課題を述べたが、まだまだ触れられなかった課題があるのが現実である。最後に現状でのまとめを行なう。

1. 弥生時代後期～古墳時代前期について

今回の調査によって、これまであまりその内容が見えなかつた甲府盆地北東部の該期の様相が垣間見れたことが成果として挙げられる。特に古墳時代前期初頭の西部東海地域からの強い影響を受けた地域のひとつであることが判明し、この地域を甲府盆地内の勢力圏のひとつと考えることが必要になったと言えよう。

2. 古墳時代後期について

横根・桜井積石塚古墳群を支えた集落等がこの近隣地に存在することが推測できるようになったことが成果として挙げられる反面、大規模な古墳群を支えたにしては集落規模が小さいのではないかという疑問点も生じてきた。

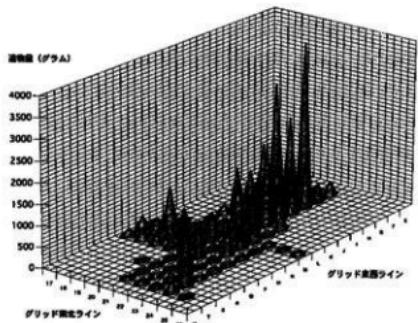
3. 平安時代について

8世紀～10世紀代については、「土師器生産遺跡に極めて近接した遺跡」としての性格を持つことが見えてきたことが成果として挙げられる。また、10世紀後半から11世紀代にかけて小規模ではあるが重要遺物を出土する遺構(竪穴建物や土坑など)が存在し、何らかの重要な施設が付近に存在する可能性が出てきたと言える。

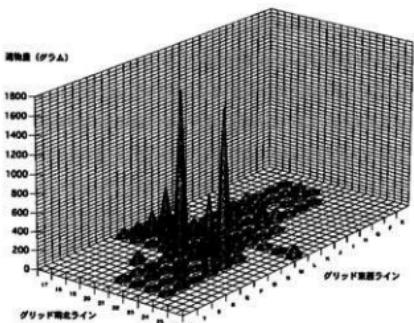
久保田・道々茅木遺跡の調査を通じ、甲府市東部地域の歴史的な特殊性を再認識している。今後もこの地域の歴史的特性の解明に努めていきたいと考えている。なお、文末となつたが、発掘調査および報告書刊行にご協力いただいたすべての方々に深く感謝申し上げたい。

参考文献

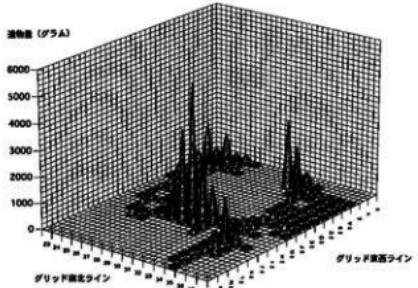
- 甲斐型土器研究グループ・山梨県考古学協会 1992 「甲斐型土器—その編年と年代ー」
- 甲府市教育委員会 1984 「大坪遺跡」
- 甲府市遺跡調査会 1996 「大坪遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
- 橋原功一 1988 「上土器遺跡発掘調査報告」『甲府市史研究』6 甲府市
- 橋原功一 2000 「大坪遺跡」「2000年度上半期遺跡発表会要旨」 山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会
- 合田芳正 1998 『古代の鏡』 ニューサイエンス社
- 小林健二 1993 「山梨県域の土器様相」「東日本における古墳出現過程の再検討」 日本考古学協会
- 小林健二 1997 「第V章第1節 坂井南遺跡出土土器について」「坂井南遺跡Ⅱ」 茅崎市教育委員会
- 小林健二 1998 「山梨県出土の東海系土器—波及と定着と変容—」『山梨県考古学協会誌』第10号
- 小林健二 2000 「甲斐のS字窯を考える」「S字窯を考える」第7回東海考古学フォーラム三重大会
- 中山誠二 1999 「第2章 山梨県の考古学編年 3 弥生時代の編年」「山梨県史」資料編2
- 中山誠二 2001 「甲斐地域における弥生時代後期のヒトの移動」「シンポジウム弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～」西相模考古学研究会
- 平野 修 1996 「第Ⅷ章 調査の成果と総括」「大坪遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 甲府市遺跡調査会
- 平野 修 1999 「山梨県内における古代竪穴住居の構造—北巨摩郡長坂町石原田北遺跡」「マート地点の事例からー」「山梨考古学論集」IV 山梨県考古学協会
- 三森鉄治 2001 「道々茅木遺跡出土の土馬と土馬祭祀の起源」「研究紀要」17 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター



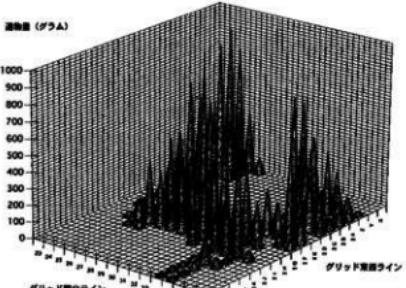
Tab. 1 道々芽木地区造構外出土遺物量分布図（1）
弥生時代後期～古墳時代前期



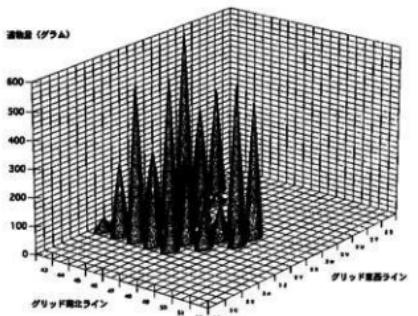
Tab. 2 道々芽木地区造構外出土遺物量分布図（2）
平安時代



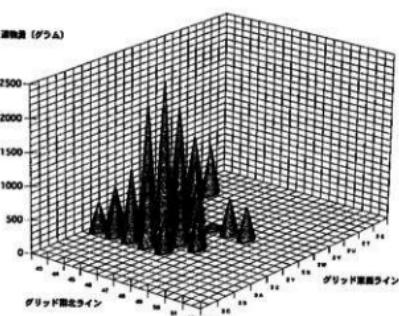
Tab. 3 久保田 1 地区造構外出土遺物量分布図（1）
弥生時代後期～古墳時代前期



Tab. 4 久保田 1 地区造構外出土遺物量分布図（2）
平安時代



Tab. 5 久保田 2 地区造構外出土遺物量分布図（1）
弥生時代後期～古墳時代前期



Tab. 6 久保田 2 地区造構外出土遺物量分布図（2）
平安時代

Tab. 1 ~ Tab. 6 造構外出土遺物分布状況

森原明廣 1994 「山梨県地域における古代末期の土器様相—「甲斐型土器」の消滅とその後ー」『丘陵』第14号 甲斐丘陵考古学研究会

森原明廣 1995 「山梨県地域における古墳時代後期の土器様相」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会

山下孝司・瀬田正明 1999 「第2章 山梨県の考古学編年 5 奈良・平安時代」『山梨県史』資料編2

山梨県 1998 『山梨県史』資料編1 原始・古代1 考古(遺跡)

山梨県 1999 『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)

山梨県遺跡調査団 1976 『大坪』

山梨県教育委員会 1989 『桜井畠遺跡B地区』

山梨県教育委員会 1990 『山梨県生産遺跡発掘調査報告書』

山梨県教育委員会 1990 『桜井畠遺跡A・C地区』

山梨県教育委員会 2001 『道ヶ芽木遺跡』

Tab. 7 溝観察表

調査区	号	遺構	位置 (グリッド)	断面		幅幅 (m)	備考	出土遺物 (g)					
				平面	断面形状			長軸	短軸	深さ	弥生		
道ヶ芽木地区	1	溝	F-21.0-21	Fig.11	Fig.11	楕円形	2.9	1.1	0.1	-	705	30	
道ヶ芽木地区	2	溝	K-20.21	Fig.12	Fig.12	楕底形	2.5	0.5	0.13	-	627	85	
道ヶ芽木地区	3	溝	J-21	Fig.12	Fig.12	楕形	1.3	0.5	0.07	-	66	5	
道ヶ芽木地区	4	溝	次番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
道ヶ芽木地区	5	溝	J-21.22,K-21.22,L-22,	Fig.12	Fig.7	楕形	8	1.9	0.3	個別図表示 (Fig.7)	550	1767	34
道ヶ芽木地区	6	溝	N-20.0-20	Fig.12	Fig.12	楕形	2	0.8	0.3	-	275	16	10
道ヶ芽木地区	7	溝	K-22.23,J-22	Fig.12	Fig.12	U字形	3.8	0.4	0.22	-	485	19	-
道ヶ芽木地区	8	溝	L-21.22	Fig.12	Fig.12	楕底形	3.8	0.5	0.12	-	-	-	-
道ヶ芽木地区	9	溝	O-22.23,P-20.21,22.23,	Fig.13	Fig.8	楕形	10.4	2	0.26	個別図表示 (Fig.8)	4015	93	9616
道ヶ芽木地区	10	溝	P-22.23,24	Fig.13	Fig.13	楕形	5.2	0.6	0.06	-	91	-	110
道ヶ芽木地区	11	溝	O-23.24,R-23.5-23.24,T-24	Fig.13	Fig.9	U字形	9.6	0.6	0.23	個別図表示 (Fig.9)	2933	2074	32
道ヶ芽木地区	12	溝	O-17.18,P-18.19,20	Fig.11	Fig.10	楕底形	9.8	0.7	0.12	個別図表示 (Fig.10)	1124	1784	46
道ヶ芽木地区	13	溝	S-23.24,25,T-23,24	Fig.13	Fig.13	U字形	7.2	0.5	0.52	-	736	-	49
久保田1地区	1	溝	Y-23.2,23.24,A-24.25,B-25	Fig.32	Fig.23	楕底形	12.5	1.7	0.4	個別図表示 (Fig.23,24)	8352	11752	826
久保田1地区	2	溝	2B-23.24,2C-24.25,2D-25.26,2E-25.27	Fig.32	Fig.32	楕底形	14	0.7	0.21	-	1463	-	103
久保田1地区	3	溝	A-23.24,B-24.25	Fig.32	Fig.32	楕形	5.4	1.6	0.21	-	229	14	62
久保田1地区	4	溝	X-23.24,Z-25.26,27,Y-26	Fig.32	Fig.32	楕形	11.8	1.2	0.35	-	144	-	209
久保田1地区	5	溝	2A-24.2B-24.25,2C-25.26,2D-26	Fig.32	Fig.32	楕底形	12.2	0.6	0.15	-	1045	125	260
久保田1地区	6	溝	2C-23.2D-23.24,2E-25.26,2F-25.27,2G-27,2H-27,2I-28,2J-28,2L-29,30	32.33	32.33	楕底形	28.2	0.7	0.24	-	1096	-	40
久保田1地区	7	溝	Z-23.24	Fig.33	Fig.33	楕底形	1.6	0.6	0.16	-	-	-	-
久保田1地区	8	溝	2A-25	Fig.32	Fig.32	楕底形	1.1	1	0.4	-	-	-	-
久保田1地区	9	溝	Z-29.30,31,32,34-36	Fig.33	Fig.33	楕底形	3.8	0.7	0.45	-	565	-	38
久保田1地区	10	溝	2G-31,2H-31,32,31-32,2K-34,35,2L-35,37	Fig.35	Fig.25	楕底形	22.6	1.6	0.3	個別図表示 (Fig.25)	9612	86	208
久保田1地区	11	溝	2J-32	Fig.35	Fig.35	楕形	2	0.5	0.16	-	-	-	-
久保田1地区	12	溝	2J-31,32	Fig.35	Fig.35	楕形	2.2	0.8	0.25	-	489	-	24
久保田1地区	13	溝	2J-35	Fig.35	Fig.35	楕形	1.6	1.2	0.12	-	-	-	-
久保田1地区	14	溝	Z-36,37,38	Fig.34	Fig.34	楕形	6	0.8	0.04	-	10	-	-
久保田1地区	15	溝	Z-36,37,38,2A-36,37,38	Fig.34	Fig.34	楕形	7.8	0.9	0.13	-	59	-	-
久保田1地区	16	溝	Z-47,48,22-47,48,3A-47	Fig.36	Fig.26	楕底形	8	1.6	0.26	個別図表示 (Fig.26)	960	1876	142
久保田1地区	17	溝	3A-44	Fig.36	Fig.36	楕底形	2.5	0.4	0.05	-	-	-	62
久保田1地区	18	溝	Z-47,48,44	Fig.36	Fig.36	楕形	4.6	1.4	0.13	-	-	-	-
久保田1地区	19	溝	2B-46,3A-46,3B-45,46	Fig.36	Fig.36	楕形	5	0.8	0.4	-	26	25	89
久保田1地区	20	溝	Z-47,47,47	Fig.36	Fig.36	U字形	12	0.4	0.24	個別図表示 (Fig.26)	-	-	-
久保田2地区	21	溝	2T-43,44,2U-43,44	Fig.36	Fig.26	楕形	4.4	2.2	0.24	個別図表示 (Fig.26)	16	16	531

Tab. 8 土坑・豎穴觀察表 (1)

調査区	号	測網	位置 (グリッド)	面				周長 (m)			備考	出土遺物 (g)			
				平面	断面	平面形状	断面形状	長軸	短軸	深さ		古生 後期	古生 前期	古生 中期	新良 平安
西ノ京木地区	1	土坑	G-18.19	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕円形	60	54	24	-	161	-	-	-
西ノ京木地区	2	土坑	G-18.19	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕形	63	58	48	-	92	-	-	-
西ノ京木地区	3	土坑	G-19	Fig.11	Fig.14	円形	楕形	65	60	38	-	320	-	-	-
西ノ京木地区	4	土坑	H-19	Fig.11	Fig.14	不規則形	不規則	60	70	37	-	265	-	-	14
西ノ京木地区	5	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	106 号土坑に改称	-	-	-	-
西ノ京木地区	6	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	105 号土坑に改称	-	-	-	-
西ノ京木地区	7	土坑	L-20.21	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕圓形	115	110	20	-	35	-	-	-
西ノ京木地区	8	土坑	G-20	Fig.11	Fig.14	円形	U字形	47	40	27	27 号土坑に改称	113	-	-	-
西ノ京木地区	9	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	10	土坑	G-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕底形	48	38	12	-	37	-	-	-
西ノ京木地区	11	土坑	G-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕形	39	30	20	-	25	-	-	-
西ノ京木地区	12	土坑	H-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕底形	40	29	18	-	17	-	-	-
西ノ京木地区	13	土坑	H-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕底形	42	40	15	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	14	土坑	H-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕底形	39	38	10	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	15	土坑	H-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕底形	34	32	8	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	16	土坑	L-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	95	85	12	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	17	土坑	L-21	Fig.12	Fig.14	円形	不規則	32	30	30	-	24	-	-	-
西ノ京木地区	18	土坑	L-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	59	-	16	-	65	-	-	2
西ノ京木地区	19	土坑	M-20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	66	58	12	-	70	25	2	-
西ノ京木地区	21	土坑	J-21	Fig.12	Fig.14	方型	U字形	44	37	54	-	69	-	-	3
西ノ京木地区	22	土坑	J-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	U字形	32	-	-	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	23	土坑	G-21.22	Fig.11	Fig.14	円形	U字形	42	40	26	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	24	土坑	G-22	Fig.11	Fig.14	円形	U字形	42	39	27	-	106	-	-	-
西ノ京木地区	25	土坑	H-21	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕形	39	32	26	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	26	土坑	H-21	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕形	40	29	28	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	27	土坑	G-20	Fig.11	Fig.14	円形	楕底形	49	49	12	-	4	2	-	-
西ノ京木地区	28	土坑	H-20	Fig.11	Fig.14	不規則形	楕形	41	36	20	-	23	2	-	-
西ノ京木地区	29	土坑	H-20	Fig.12	Fig.14	方型	不規則	48	42	12	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	30	土坑	L-20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕形	40	35	23	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	31	土坑	LM-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	53	49	20	-	21	35	-	-
西ノ京木地区	32	土坑	M-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	53	48	18	-	32	20	77	-
西ノ京木地区	33	土坑	M-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	67	44	17	-	57	104	-	-
西ノ京木地区	34	土坑	N-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	60	55	20	-	19	20	-	-
西ノ京木地区	35	土坑	N-20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕形	62	58	25	-	19	15	-	-
西ノ京木地区	36	土坑	N-20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	75	57	17	-	96	11	-	-
西ノ京木地区	37	土坑	K-20.21	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	48	45	20	-	32	-	-	-
西ノ京木地区	38	土坑	K-19	Fig.12	Fig.14	円形	楕形	32	32	27	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	39	土坑	M-19.20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕形	65	-	14	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	40	土坑	M-19.20	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	(70)	-	14	-	21	36	79	36
西ノ京木地区	41	土坑	K-20	Fig.12	Fig.6	椭円形	楕底形	56	45	23	椭円圖表示 (Fig.6)	-	-	-	-
西ノ京木地区	42	土坑	M-21	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	67	62	26	-	117	-	-	-
西ノ京木地区	43	土坑	N-20	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	62	43	18	-	40	-	-	-
西ノ京木地区	44	土坑	K-21	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕形	54	36	16	-	51	-	-	-
西ノ京木地区	45	土坑	O-21	Fig.12	Fig.14	方型	不規則	57	45	40	-	132	6	-	-
西ノ京木地区	46	土坑	O-21	Fig.12	Fig.14	方型	楕底形	52	52	14	-	14	-	-	-
西ノ京木地区	47	土坑	O-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	51	-	17	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	48	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	2 号竖穴建物ビット 3	-	-	-	-
西ノ京木地区	49	土坑	KL-23	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	40	35	7	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	50	土坑	N-22	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕形	26	28	20	-	30	-	-	-
西ノ京木地区	51	土坑	M-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	28	25	7	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	52	土坑	L-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	25	21	8	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	53	土坑	L-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	その他	42	38	30	-	19	-	-	-
西ノ京木地区	54	土坑	J-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	その他	48	42	25	-	59	3	-	-
西ノ京木地区	55	土坑	J-22	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	62	46	12	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	56	土坑	J-21	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	62	60	13	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	57	土坑	I-21	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	55	48	14	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	58	土坑	LJ-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕底形	52	45	19	-	35	-	-	-
西ノ京木地区	59	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	7 号層に埋蔵	-	-	117	-
西ノ京木地区	60	土坑	JK-23	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕形	70	-	6	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	61	土坑	LJ-21	Fig.12	Fig.14	方型	楕底形	52	50	7	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	62	土坑	JK-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	楕形	55	50	26	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	63	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	2 号竖穴建物ビット 4	-	-	-	-
西ノ京木地区	64	土坑	久番	-	-	-	-	-	-	-	2 号竖穴建物ビット 5	-	-	65	18
西ノ京木地区	65	土坑	N-23	Fig.12	Fig.14	不規則形	U字形	32	27	15	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	66	土坑	O-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	その他	82	78	23	-	34	22	-	-
西ノ京木地区	67	土坑	O-22	Fig.12	Fig.14	方型	楕底形	150	145	27	-	11	-	-	-
西ノ京木地区	68	土坑	D-22	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	86	78	17	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	69	土坑	D-22.24	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕形	140	92	14	-	5	20	-	-
西ノ京木地区	70	土坑	D-24	Fig.12	Fig.14	方型	楕底形	80	70	17	-	15	-	-	-
西ノ京木地区	71	土坑	R-24	Fig.12	Fig.14	椭円形	楕底形	80	65	20	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	72	土坑	K-22	Fig.12	Fig.14	不規則形	U字形	60	58	22	-	37	-	-	-
西ノ京木地区	73	土坑	K-22.23	Fig.12	Fig.15	椭円形	楕底形	58	-	7	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	74	土坑	O-17	Fig.11	Fig.15	椭円形	楕底形	84	66	28	-	117	37	-	-
西ノ京木地区	75	土坑	O-18	Fig.11	Fig.15	U字形	楕底形	40	-	21	-	107	39	-	-
西ノ京木地区	76	土坑	N-19	Fig.11	Fig.15	椭円形	その他	60	56	17	-	33	-	-	-
西ノ京木地区	77	土坑	O-19	Fig.11	Fig.15	-	その他	65	-	27	-	41	59	-	-
西ノ京木地区	78	土坑	O-18	Fig.11	Fig.15	椭円形	U字形	71	60	35	-	151	19	-	-
西ノ京木地区	79	土坑	O-19	Fig.11	Fig.15	椭円形	楕底形	54	51	10	-	15	-	-	-
西ノ京木地区	80	土坑	O-19	Fig.11	Fig.15	不規則形	楕底形	46	46	6	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	81	土坑	O-23	Fig.12	Fig.15	椭円形	その他	75	62	22	-	-	-	-	-
西ノ京木地区	82	土坑	O-23	Fig.12	Fig.15	不規則形	楕底形	57	45	15	-	24	5	-	-
西ノ京木地区	83	土坑	O-20.21	Fig.8	Fig.8	椭円形	U字形	143	83	82	無別圖表示 (Fig.8)	66	-	-	-
西ノ京木地区	84	土坑	P-18	Fig.11	Fig.15	不規則形	楕底形	85	82	17	-	60	-	-	-

Tab. 9 土坑・豎穴観察表 (2)

調査区	号	通構	位置 (グリッド)	図				規模 (m)	備考	出土遺物 (g)				
				平圖		断面				弥生後期	古墳前期	古墳後期		
				平圖	断面	平圖	断面			平安	平安	平安		
西ヶ原木地区	85	土坑	P-18	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	84	64	17	113	115		
西ヶ原木地区	86	土坑	P-18	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	70	68	19	85	86		
西ヶ原木地区	87	土坑	P-18	Fig.11	Fig.15	不規円形	楕円形	-	60	16	159			
西ヶ原木地区	88	土坑	P-20	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	46	45	16	18	1		
西ヶ原木地区	89	土坑	N-20	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	56	50	7	57			
西ヶ原木地区	90	土坑	N-20	Fig.11	Fig.15	-	楕円形	34	-	17	8	25		
西ヶ原木地区	91	土坑	N-19,20	Fig.11	Fig.15	-	楕円形	56	-	23	59	12		
西ヶ原木地区	92	土坑	N-20	Fig.11	Fig.15	-	楕円形	20	-	15	35			
西ヶ原木地区	93	土坑	N-20	Fig.11	Fig.15	-	楕円形	55	-	14	13			
西ヶ原木地区	94	土坑	N-O-19,20	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	69	55	26	35	39		
西ヶ原木地区	95	土坑	O-20	Fig.11	Fig.15	不規円形	楕円形	56	54	20	37			
西ヶ原木地区	96	土坑	O-20	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	65	65	24	104	1		
西ヶ原木地区	97	土坑	N-19	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	56	57	27	62	7		
西ヶ原木地区	98	土坑	P-20	Fig.11	Fig.15	-	その他の 楕円形	83	-	45				
西ヶ原木地区	99	土坑	L-20	Fig.12	Fig.15	方形	楕円形	60	47	25	38			
西ヶ原木地区	100	土坑	O-Q-22,23	Fig.13	Fig.15	不規円形	楕円形	50	45	12	29	29		
西ヶ原木地区	101	土坑	R-24	Fig.13	Fig.15	円形	楕円形	37	24	17	100	18		
西ヶ原木地区	102	土坑	R-24	Fig.13	Fig.15	不規円形	楕円形	56	-	7	30	12		
西ヶ原木地区	103	土坑	R-24	Fig.13	Fig.15	楕円形	楕円形	56	-	7	30	12		
西ヶ原木地区	104	土坑	M-20	Fig.12	Fig.15	楕円形	その他の 楕円形	140	110	43	373	428		
西ヶ原木地区	105	土坑	H-19	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	56	49	12	43			
西ヶ原木地区	106	土坑	G-H-19	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	54	54	12	168	11		
西ヶ原木地区	107	土坑	N-20	Fig.11	Fig.15	楕円形	その他の 楕円形	45	37	20	13	4		
西ヶ原木地区	108	土坑	F-18	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	46	36	6				
西ヶ原木地区	109	土坑	F-G-18	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	70	-	19	121			
西ヶ原木地区	110	土坑	F-20	Fig.6	Fig.6	楕円形	U字形	60	45	54	便側例表示 (Fig.6)	235		
西ヶ原木地区	111	土坑	G-19	Fig.11	Fig.15	楕円形	U字形	36	30	25		235		
西ヶ原木地区	112	土坑	O-20	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	26	35	20	15	9		
西ヶ原木地区	113	土坑	O-19	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	75	75	21	46	24		
西ヶ原木地区	114	土坑	O-N-20	Fig.11	Fig.15	楕円形	U字形	34	30	35	63	4		
西ヶ原木地区	115	土坑	R-S-24	Fig.13	Fig.15	楕円形	U字形	26	32	22				
西ヶ原木地区	116	土坑	S-T-21	Fig.13	Fig.15	楕円形	楕円形	45	36	15	6			
西ヶ原木地区	117	土坑	P-O-17	Fig.11	Fig.15	不規円形	U字形	70	-	53	97			
西ヶ原木地区	118	土坑	P-17,18	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	47	42	14	25			
西ヶ原木地区	119	土坑	O-18	Fig.11	Fig.15	不規円形	その他の 楕円形	60	60	22	43	24		
西ヶ原木地区	120	土坑	N-18	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	72	68	24	61	6		
西ヶ原木地区	121	土坑	N-18,19	Fig.11	Fig.15	楕円形	楕円形	112	90	5				
西ヶ原木地区	1	豎穴	N-18,19	Fig.11	Fig.15	方形	楕円形	275	225	15	102			
西ヶ原木地区	2	豎穴	N-17	Fig.11	Fig.15	円形	楕円形	165	104	8				
西ヶ原木地区	3	豎穴	S-24,25,T-24,25	Fig.13	Fig.15	不規形	楕円形	160	120	22	487	85		
久保田1地区	1	土坑	Y-34	Fig.32	Fig.37	不規円形	楕円形	45	40	20				
久保田1地区	2	土坑	Z-23,24,Y-23,24	Fig.32	Fig.37	不規円形	楕円形	65	60	33	45	12		
久保田1地区	3	土坑	Y-34	Fig.22	Fig.37	不規円形	楕円形	45	40	32	15			
久保田1地区	4	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	70	45	33	90	18		
久保田1地区	5	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	45	35	20	8	4		
久保田1地区	6	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	30	23	12	15			
久保田1地区	7	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	35	30	12				
久保田1地区	8	土坑	Z-24,25	Fig.22	Fig.37	円形	楕円形	55	56	22	30			
久保田1地区	9	土坑	Z-20,23	Fig.22	Fig.37	不規円形	楕円形	62	57	30				
久保田1地区	10	土坑	Z-23,24,Z-23,24	Fig.22	Fig.37	不規円形	楕円形	70	65	16	112			
久保田1地区	11	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	50	45	26	28			
久保田1地区	12	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	円形	楕円形	40	40	17	45			
久保田1地区	13	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	U字形	40	35	28	45	1		
久保田1地区	14	土坑	Z-23,23	Fig.22	Fig.37	楕円形	U字形	40	40	40	13			
久保田1地区	15	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	円形	楕円形	37	36	20				
久保田1地区	16	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	不規円形	楕円形	57	52	20	131	7		
久保田1地区	17	土坑	Z-24,25	Fig.22	Fig.37	円形	楕円形	60	47	34	57	9		
久保田1地区	18	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	U字形	24	22	24		6		
久保田1地区	19	土坑	Z-24	Fig.22	Fig.37	楕円形	楕円形	36	36	17	15			
久保田1地区	20	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	50	42	22				
久保田1地区	21	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	32	30	27				
久保田1地区	22	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	-	26	15				
久保田1地区	23	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	50	50	28	20	29		
久保田1地区	24	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	楕円形	U字形	23	15	21		6		
久保田1地区	25	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	楕円形	U字形	25	20	23	2	4		
久保田1地区	26	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	26	27	26		22		
久保田1地区	27	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	36	38	20				
久保田1地区	28	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	22	22	24				
久保田1地区	29	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	27	27	17				
久保田1地区	30	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	不規円形	楕円形	32	26	16	2	20		
久保田1地区	31	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	20	17	17				
久保田1地区	32	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	16	15	15				
久保田1地区	33	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	28	27	19				
久保田1地区	34	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	36	34	20				
久保田1地区	35	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	50	50	22	3			
久保田1地区	36	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	37	35	18	9			
久保田1地区	37	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	-	35	16	87	1, 6		
久保田1地区	38	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	楕円形	その他の 楕円形	60	50	22				
久保田1地区	39	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	楕円形	楕円形	-	30	27	19	11		
久保田1地区	40	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	32	32	21	16	14		
久保田1地区	41	土坑	Z-24	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	23	23	18				
久保田1地区	42	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	楕円形	24	22	24				
久保田1地区	43	土坑	Z-25	Fig.23	Fig.37	円形	U字形	16	16	20				

Tab.10 土坑・豎穴觀察表 (3)

調査区	号	通番	位置 (グリッド)	図			断面形状	断面形状	断面 (cm)			備 考	出土遺物 (g)			
				平面	断面	長軸			長軸	短軸	深さ		生後	古墳	古墳	現存
久保田1地区	44	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	その他	27	27	22			20		6
久保田1地区	45	土坑	1G-25	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	その他	29	26	30					
久保田1地区	46	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	その他	27	27	21					
久保田1地区	47	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	その他	24	22	20					
久保田1地区	48	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	その他	27	26	29					
久保田1地区	49	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	49	-	14			14		7
久保田1地区	50	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	16	17	13					
久保田1地区	51	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	40	33	15			76		
久保田1地区	52	土坑	2G-25/21-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	その他	35	25	21					
久保田1地区	53	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	その他	22	22	21					
久保田1地区	54	土坑	1G-25/2G-25	Fig.33	Fig.37	不整円形	楕円形	70	67	30				39		70
久保田1地区	55	土坑	2G-20-24	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	32	30	24						
久保田1地区	56	土坑	2G-20-24	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	25	21	21						
久保田1地区	57	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	U字形	27	21	16					3
久保田1地区	58	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	23	29	19					5
久保田1地区	59	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	26	28	20					5
久保田1地区	60	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	30	29	19			3	2	5
久保田1地区	61	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	55	60	44			103		
久保田1地区	62	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	29	29	14					
久保田1地区	63	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	25	25	21			4	5	2
久保田1地区	64	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	その他	45	-	26					
久保田1地区	65	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	U字形	28	23	18					
久保田1地区	66	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	その他	48	45	21			13		16
久保田1地区	67	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	55	49	14			4		
久保田1地区	68	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	U字形	46	36	22					
久保田1地区	69	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	46	-	25			11		7
久保田1地区	70	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	32	26	15					
久保田1地区	71	土坑	2G-27	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	25	22	16					
久保田1地区	72	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	U字形	U字形	25	25	20			6		
久保田1地区	73	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	楕円形	-	53	25					5
久保田1地区	74	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	楕円形	28	25	12			13		
久保田1地区	75	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	不整円形	楕円形	28	-	17			9		12
久保田1地区	76	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	48	40	12					
久保田1地区	77	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	49	40	20			7		
久保田1地区	78	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.37	円形	楕円形	楕円形	50	49	18					
久保田1地区	79	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	32	30	26					
久保田1地区	80	土坑	2G-25	Fig.32	Fig.38	円形	U字形	U字形	36	36	46				24	1
久保田1地区	81	土坑	2G-25	Fig.32	Fig.38	円形	U字形	U字形	32	26	30					
久保田1地区	82	土坑	2G-25	Fig.32	Fig.38	円形	U字形	U字形	20	20	23					
久保田1地区	83	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	41	33	21			28		
久保田1地区	84	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	40	-	23					
久保田1地区	85	土坑	2G-25-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	131	-	28			12		8
久保田1地区	86	土坑	2G-24	Fig.32	Fig.38	円形	楕形	37	34	44						
久保田1地区	87	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	26	26	16			1		5
久保田1地区	88	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	U字形	36	36	23			7		
久保田1地区	89	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	28	24	18					
久保田1地区	90	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	20	16	17					
久保田1地区	91	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	20	19	15					
久保田1地区	92	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	53	45	17			1		13
久保田1地区	93	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	44	40	21			4		
久保田1地区	94	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	U字形	U字形	33	32	40					
久保田1地区	95	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	53	53	44			2		1
久保田1地区	96	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	34	26	20					
久保田1地区	97	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	36	37	13					
久保田1地区	98	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	U字形	23	19	15					
久保田1地区	99	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	43	35	40					
久保田1地区	100	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	U字形	62	60	48					
久保田1地区	101	土坑	2G-25	Fig.35	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	105	80	68					
久保田1地区	102	土坑	2G-25	Fig.33	Fig.38	円形	楕形	U字形	46	49	24				57	
久保田1地区	103	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	63	51	11	篠岡圓表示 (Fig.22)				256
久保田1地区	104	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕円形	楕円形	126	85	16					
久保田1地区	105	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	不整円形	U字形	65	60	48					
久保田1地区	106	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	U字形	U字形	30	30	24				20	
久保田1地区	107	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕形	楕形	36	36	18					
久保田1地区	108	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕形	U字形	25	25	23					
久保田1地区	109	土坑	2G-26	Fig.33	Fig.38	円形	楕形	楕形	25	16	10					
久保田1地区	110	土坑	2G-24	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	36	30	10					
久保田1地区	111	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	46	45	12					
久保田1地区	112	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	35	31	22					
久保田1地区	113	土坑	2G-33,34	Fig.35	Fig.38	円形	楕円形	その他	66	54	14					
久保田1地区	114	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	不整円形	その他	45	36	23					
久保田1地区	115	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	57	48	8				9	
久保田1地区	116	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	U字形	40	26	44				26	
久保田1地区	117	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	57	43	40					
久保田1地区	118	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	60	42	10					
久保田1地区	119	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	38	30	12					
久保田1地区	120	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	57	43	44					
久保田1地区	121	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	62	54	46				22	
久保田1地区	122	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	U字形	26	23	36					
久保田1地区	123	土坑	2G-34	Fig.35	Fig.38	円形	楕形	楕形	25	24	16					7
久保田1地区	124	土坑	2G-36	Fig.34	Fig.38	円形	不整円形	U字形	60	55	56	篠岡圓表示 (Fig.22)		11		245
久保田1地区	125	土坑	2G-37	Fig.34	Fig.38	円形	楕形	楕形	90	76	34	篠岡圓表示 (Fig.22)				22
久保田1地区	126	土坑	2G-37	Fig.34	Fig.38	円形	楕形	楕形	73	57	22	篠岡圓表示 (Fig.22)				85
久保田1地区	127	土坑	2G-36	Fig.34	Fig.38	円形	楕形	楕形	30	27	14					

Tab.11 土坑・豎穴観察表 (4)

調査区	号	遺構	位置 (グリッド)	図		寸法 (cm)			備考	出土遺物 (g)				
				平面	断面	平面形状	断面形状	長軸	短軸	深さ	青銅 後周	吉須 前期	吉須 後期	春丸 平安
久保田1地区	128	土坑	2D-36	Fig.34	Fig.38	不規則形	造形	36	30	22				4
久保田1地区	129	土坑	2D-36	Fig.34	Fig.38	円形	U字形	24	20	23				4
久保田1地区	130	土坑	2D-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	30	30	18				5
久保田1地区	131	土坑	2D-36	Fig.34	Fig.38	円形	U字形	23	23	16				9
久保田1地区	132	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	造形	34	30	33				
久保田1地区	133	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	23	23	27				
久保田1地区	134	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	造形	29	29	26				
久保田1地区	135	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	35	33	16				
久保田1地区	136	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	30	30	19				
久保田1地区	137	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	不規則形	造形	47	42	48				3
久保田1地区	138	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	41	39	30				
久保田1地区	139	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	34	31	21				
久保田1地区	140	土坑	2C-35,36	Fig.34	Fig.38	不規則形	造形	46	40	11				6
久保田1地区	141	土坑	2C-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	35	30	11				1
久保田1地区	142	土坑	2C-36	Fig.34	Fig.38	円形	U字形	32	29	18				
久保田1地区	143	土坑	2C-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	46	40	30				
久保田1地区	144	土坑	2D-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	30	30	40				1
久保田1地区	145	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	U字形	26	26	10				8
久保田1地区	146	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	圓形	38	35	26				
久保田1地区	147	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	円形	U字形	52	45	22				
久保田1地区	148	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	不規則形	圓形	104	95	10	個別面表示 (Fig.22)			1
久保田1地区	149	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	不規則形	圓形	46	44	40				5
久保田1地区	150	土坑	2E-36	Fig.34	Fig.38	不規則形	圓形	28	25	17				
久保田1地区	151	土坑	2F-37	Fig.34	Fig.39	円形	圓形	33	30	26				
久保田1地区	152	土坑	2F-37	Fig.34	Fig.39	円形	圓形	49	46	34				50
久保田1地区	153	土坑	2F-37	Fig.34	Fig.39	円形	圓形	32	25	28				
久保田1地区	154	土坑	2F-37	Fig.34	Fig.39	円形	圓形	52	45	22				
久保田1地区	155	土坑	2F-36	Fig.34	Fig.39	円形	その他の	26	22	21				
久保田1地区	156	土坑	2F-36	Fig.34	Fig.39	円形	U字形	28	26	26				
久保田1地区	157	土坑	2F-36	Fig.34	Fig.39	円形	圓形	36	35	14				17
久保田1地区	158	土坑	2A-36	Fig.34	Fig.22	不規則形	圓形	130	95	10	個別面表示 (Fig.22)			218
久保田1地区	159	土坑	2B-36,37	Fig.34	Fig.39	不規則形	圓形	67	60	32				
久保田1地区	160	土坑	2B-38	Fig.34	Fig.39	不規則形	圓形	35	35	23				
久保田1地区	161	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	34	26	6				
久保田1地区	162	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	70	65	6				
久保田1地区	163	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	34	30	6				
久保田1地区	164	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	41	35	8				
久保田1地区	165	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	34	26	6				4
久保田1地区	166	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	34	26	6				
久保田1地区	167	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	62	54	28				8
久保田1地区	168	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	30	24	10				
久保田1地区	169	土坑	2B-34	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	24	24	14				
久保田1地区	170	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	36	34	16				
久保田1地区	171	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	22	21	10				
久保田1地区	172	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	U字形	30	22	13				
久保田1地区	173	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	20	20	6				
久保田1地区	174	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	30	26	11				
久保田1地区	175	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	その他の	36	34	26				
久保田1地区	176	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	33	25	20				
久保田1地区	177	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	32	32	32				
久保田1地区	178	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	-	32	34				
久保田1地区	179	土坑	2B-34,35	Fig.35	Fig.38	円形	圓形	64	60	18				
久保田1地区	180	土坑	2B-34,35	Fig.35	Fig.38	円形	圓形	42	36	22				
久保田1地区	181	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	28	-	21				2
久保田1地区	182	土坑	2B-35	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	32	32	16				114
久保田2地区	183	土坑	2Y-44	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	64	50	20				22
久保田2地区	184	土坑	2Y-44	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	50	48	25				
久保田2地区	185	土坑	2Y-44,45	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	70	67	14				47
久保田2地区	186	土坑	2Y-44	Fig.35	Fig.39	円形	U字形	28	25	23				13
久保田2地区	187	土坑	2Y-22,44,45	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	80	75	35				55
久保田2地区	188	土坑	2B-3A-45	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	74	74	15				62
久保田2地区	189	土坑	2B-24-45	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	86	66	11				112
久保田2地区	190	土坑	2Y-45	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	38	36	23				
久保田2地区	191	土坑	3B-45-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	88	74	33				22
久保田2地区	192	土坑	2X,2Y-48	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	198	198	22				96
久保田2地区	193	土坑	2Y-22,43	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	98	68	19				
久保田2地区	194	土坑	3A-3B-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	58	48	30				14
久保田2地区	195	土坑	3A-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	59	52	30				80
久保田2地区	196	土坑	2Z,2Y-45	Fig.35	Fig.39	不規則形	その他の	74	53	20				
久保田2地区	197	土坑	2Y-45	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	40	36	10				
久保田2地区	198	土坑	2X,45-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	62	52	4				
久保田2地区	199	土坑	2X-46	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	24	21	11				
久保田2地区	200	土坑	22-44	Fig.35	Fig.39	円形	圓形	23	22	18				
久保田2地区	201	土坑	3B-45-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	88	-	28				
久保田2地区	202	土坑	22-45-46	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	238	100	20				
久保田2地区	203	土坑	2V,2W-43	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	95	20					
久保田2地区	204	土坑	2V-44	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	70	55	10				
久保田2地区	205	土坑	2V-44	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	62	50	16				
久保田2地区	206	土坑	2U-44	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	108	95	10				
久保田2地区	207	土坑	2U-44	Fig.35	Fig.39	不規則形	圓形	-	95	8				
久保田2地区	208	土坑	Y-32	Fig.22	Fig.22	横円形	圓形	97	60	5	個別面表示 (Fig.22)			

Tab.12 出土遺物觀察表（1）

Tab.13 出土遺物觀察表（2）

Tab.14 出土遺物観察表(3)

遺物	遺物名等	No.	Fg.	PL	デフ・F	辺縁部	断面	端部	口部	底面	側面	色調	器種	備考	出所
四才木 遺物外		10	48	74	G-212	148	古墳時代	小切端	直形一口縫合	7,703.26.8	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系	5		
四才木 遺物外		22	48	74	G-212	1132	古墳時代	小切端	直形一口縫合	13.7-17.8	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系	5		
四才木 遺物外		21	48	74	K-225	132-8	古墳時代	直端	直形一口縫合	9.97-9.5	7,897.04	内面：褐色系の外で、口部：黒褐色、底付後部が各部位 剥離と焼け	5		
四才木 遺物外		22	48	74	G-212	158	古墳時代	小切端	半円一口縫合	10.67 // (4.2)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系に口部の小焼け	5		
四才木 遺物外		23	48	74	G-212	727	古墳時代	直端	直形	✓ (16.8) // (4.8)	7,897.04	朱色	5		
四才木 遺物外		24	48	74	M-222	1934	古墳時代	直端	直形	✓ (14.8) // (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系。内面より外側から剥落し て赤化	5		
四才木 遺物外		25	48	74	H-225	266	古墳時代	直端	直形	✓ (4.4)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系、底付：褐色系、底丸	5		
四才木 遺物外		26	48	75-16	M-242	164	新石器時代	直端	口部縫合	10.18 // (3.4)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系、口部縫合がわず かに赤化	5		
四才木 遺物外		27	48	75	J-112	209	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系	5		
四才木 遺物外		28	48	75	K-225	664	新石器時代	直端	口部縫合	11.47 // (3.7)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系、内面より外側から剥落し て赤化	5		
四才木 遺物外		29	48	75	M-242	162	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外面：朱色系	5		
四才木 遺物外		30	48	75	K-212	121	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	10795.04	朱色系	5		
四才木 遺物外		31	48	75	G-225	1379	新石器時代 古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、断面に鋸歯状による遮断痕跡	5		
四才木 遺物外		32	48	75	K-225	967	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、断面に鋸歯状、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		33	48	75	S-225	1291	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、断面に鋸歯状、内側外面：褐色系	5		
四才木 遺物外		34	48	75	T-212	1245	新石器時代	直端	口部縫合	11.65 // (3.7)	7,897.04	内面：褐色系、外側内面：朱色系、外側外面：褐色系	5		
四才木 遺物外		35	48	75-77	K-225	22-11	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、断面に鋸歯状の外側内面？	5		
四才木 遺物外		36	48	75	G-162	567	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、内側外側とも朱色系の外側内面？	5		
四才木 遺物外		37	48	75-77	F-192	199	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合？	5		
四才木 遺物外		38	48	75-77	J-192	513	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、内側外側とも朱色系で、外側に赤化あり	5		
四才木 遺物外		39	48	75-76	J-39	233	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面深紅色、外側朱色	5		
四才木 遺物外		40	48	75-76	M-225	976	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面深紅色、外側朱色	5		
四才木 遺物外		41	48	75-76	H-242	613	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面深紅色、外側朱色	5		
四才木 遺物外		42	48	75	M-225	875.07	新石器時代	直端	口部縫合	10.6 // (17.2)	10795.04	直形一口縫合、口部内側外面：褐色系、断面内面：褐色系外面 で、斜め削痕跡：褐色系	5		
四才木 遺物外		43	48	75	R-225	1123-1	新石器時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		44	48	75	H-192	79	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状	5		
四才木 遺物外		45	48	75	G-225	664	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状	5		
四才木 遺物外		46	48	75	K-225	619	古墳時代	直端	口部縫合	11.65 // (4.6)	7,897.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状、内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		47	48	75	G-225	1027	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	タリヒコ縫合、断面に鋸歯状の外側内面？	5		
四才木 遺物外		48	48	75	G-212	274	古墳時代	直端	口部縫合	11.13 // (3.2)	10795.04	内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		49	48	75	G-225	129	古墳時代	直端	口部縫合	12.05 // (3.0)	10795.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状	5		
四才木 遺物外		50	48	75	G-225	129	古墳時代	直端	口部縫合	12.05 // (3.0)	10795.04	内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		51	48	75	K-225	637	古墳時代	直端	口部縫合	12.05 // (3.0)	10795.04	直形一口縫合、断面に鋸歯状	5		
四才木 遺物外		52	48	75	F-212	129	古墳時代	直端	口部縫合	11.13 // (4.2)	7,897.04	内面：褐色系、外側内面：褐色系、外側外面：褐色系	5		
四才木 遺物外		53	48	75	G-225	1247	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側内面：褐色系、外側外面：褐色系	5		
四才木 遺物外		54	48	75	I-143	615	古墳時代	直端	口部縫合	12.05 // (3.0)	7,897.04	直形一口縫合、内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		55	48	75	P-192	985	古墳時代	直端	口部縫合	12.05 // (3.0)	7,897.04	直形一口縫合、内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		56	48	75	G-225	165	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		57	48	75	G-225	305	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		58	48	75	P-192	18	古墳時代	直端	口部縫合	✓ (3.8)	7,897.04	直形一口縫合、内面：褐色系、外側内面：褐色系	5		
四才木 遺物外		59	48	75	K-225	847	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：黒褐色、底付：黒褐色、内面外側とも 剥離	5		
四才木 遺物外		60	48	75	K-225	422-30	古墳時代	直端	直形	✓ (4.8) // (2.6)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系	4		
四才木 遺物外		61	48	75	H-192	465	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系の外側に朱色系	4		
四才木 遺物外		62	48	75	G-225	1210	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		63	48	75	T-192	114	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		64	48	75	G-225	1211	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		65	48	75	F-212	579	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		66	48	75	G-212	511	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		67	48	75	K-225	1226	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		68	48	75	G-225	265	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		69	48	75	G-192	116	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		70	48	75	H-192	55	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		71	48	75	K-225	643	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		72	48	75	G-212	393	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		73	48	75	H-192	875	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		74	48	75	G-212	371	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系	4		
四才木 遺物外		75	48	75	G-225	321	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、中心部底付	4		
四才木 遺物外		76	48	75	L-225	724	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系	4		
四才木 遺物外		77	48	75	G-212	322	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系、底付：黒褐色	4		
四才木 遺物外		78	48	75	M-242	394	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系	4		
四才木 遺物外		79	48	75	1-195	377-380.361	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系、外側：朱色系	4		
四才木 遺物外		80	48	81	G-212	181	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	10795.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		81	48	81	G-225	311	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	10795.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		82	48	81	G-212	192	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	10795.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		83	48	81	G-225	806	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	10795.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		84	48	81	K-212	797	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		85	48	81	G-225	460	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		86	48	81	G-225	198	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による遮断痕跡、内面内 部：褐色系工具による削痕跡	4		
四才木 遺物外		87	48	81	G-225	567	古墳時代	直端	直形	✓ (3.8)	7,897.04	内面：褐色系の外側に褐色系工具による削痕跡	4		

Tab.15 出土遺物観察表（4）

品目	遺物名呼称	No.	Pg.	PL	グリッド	経緯	地図	部位	位置	名前	備考
造・新作 遺物	88	49	21	G-210	285	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(18.0) H(3.0)	7.5VH02	口縁部：陶土上に内側の上に外側の縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	89	49	21	G-210	286	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(18.0) H(3.0)	7.5VH02	口縁部：陶土上に内側の上に外側の縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	90	49	21	K-210	211	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(2.0) D(2.0)	HPV02	側：「S」字型、口縁部：骨状工具による縫合部、縫合部内側に縫合部
造・新作 遺物	91	49	21	G-210	289	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(2.0) D(2.0)	HPV02	口縁部：陶土上に内側の上に外側の縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	92	49	21	J-190	339	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	口縁部：陶土上に内側の上に外側の縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	93	49	21	K-210	740	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	口縁部：陶土上に内側の上に外側の縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	94	49	21	J-190	579	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	「S」字型をもつ縫合部、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	95	49	21	I-03	612	古墳時代	S字型（A面）	口縁部	(20.0) H(4.0)	2.5VH02	口縁部：陶土の可塑性不足、縫合部内側：縫合部、外側：縫合部に内側の縫合部
造・新作 遺物	96	50	92	G-210	153	古墳時代	S字型	口縁部	(17.0) H(4.0)	10.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部、内側：縫合部
造・新作 遺物	97	50	92	G-210	521	古墳時代	S字型	口縁部	(20.0) H(4.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部、内側：縫合部
造・新作 遺物	98	50	92	G-210	184	古墳時代	S字型	口縁部	(20.0) H(4.0)	9.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部、内側：縫合部
造・新作 遺物	99	50	92	O-240	1777	古墳時代	S字型	口縁部	(20.0) H(3.0)	10.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	100	50	92	H-190	822	古墳時代	縫	C縫部	(18.0) H(3.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	101	50	92	G-210	140.149	古墳時代	S字型	口縁部	(16.0) H(4.0)	12.5VH02	縫内：「S」字型をもつ縫合部、内側：縫合部、外側：縫合部へ内側の縫合部
造・新作 遺物	102	50	92	H-200	91	古墳時代	S字型	口縁部	(14.0) H(4.0)	12.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	103	50	92	G-210	275.277.279	古墳時代	S字型	口縁部	(12.0) H(4.0)	10.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	104	50	92	I-190	398	古墳時代	S字型	口縁部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	105	50	92	J-190	226	古墳時代	S字型	口縁部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	106	50	92	P-190	198	古墳時代	縫	C縫部	(20.0) H(7.0)	7.5VH02	山根系S字型、内側：縫合部に縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	107	50	92	O-200	552	古墳時代	縫	C縫部	(20.0) H(4.0)	7.5VH02	山根系S字型、内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	108	50	92	N-210	277	古墳時代	S字型	口縁部	(10.0) H(4.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	109	50	92	G-210	223	古墳時代	合縫部	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	110	50	92	K-250	930-38	古墳時代	S字型	口縁部	(20.0) H(6.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	111	50	92	K-250	790	古墳時代	合縫部	縫合部	(20.0) H(6.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	112	50	92	J-190	359	古墳時代	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	113	50	92	K-250	920.9	古墳時代	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、外側：縫合部
造・新作 遺物	114	50	92	O-210	194	古墳時代	合縫部	縫合部	(20.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部、内側外側：縫合部
造・新作 遺物	115	50	93	K-250	761	古墳時代	合縫部	縫合部	(20.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部、内側外側：縫合部
造・新作 遺物	116	50	93	H-200	727	古墳時代	合縫部	縫合部	(20.0) H(5.0)	10.5VH02	縫合部：「S」字型
造・新作 遺物	117	50	93	K-210	782	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	118	50	93	I-190	386	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	119	50	93	J-220	488	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	120	50	93	O-250	140	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	121	50	93	G-250	746	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	122	50	93	P-170	108	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	123	50	93	G-190	39	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	10.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	124	50	93	P-190	1291	古墳時代	合縫部	縫合部	(18.0) H(5.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	125	50	93	P-190	1193	古墳時代	縫	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	縫合部：「S」字型
造・新作 遺物	126	50	94	T-210	1319	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	127	50	94	K-210	739	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	128	50	94	O-210	1220	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	129	50	94	I-210	619	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	130	50	94	T-220	1252	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	131	50	94	G-210	956	縫	-	-	-	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	132	50	94	P-170	123.193	縫	縫合部	縫合部	(18.0) H(2.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	133	50	94	G-160	23	縫	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	134	50	94	D-160	1940	縫	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	135	50	94	N-240	841	縫	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	136	51	85	M-250	678	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	縫合部：「S」字型
造・新作 遺物	137	51	85	P-190	1173	平底	縫合部	縫合部	(2.0) D(2.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	138	51	85	O-190	1104	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	139	51	85	S-210	1077	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	140	51	85	P-19	1198	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	141	51	85	N-190	1110	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	142	51	85	N-230	622	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	143	51	85	I-200	224	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	144	51	85	N-190	1114.1281.1284.1250	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	145	51	85	O-190	1166	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	146	51	85	H-200	1029.25.25	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	147	51	85	G-190	1117	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	148	51	85	H-200	1029.25	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	149	51	85	H-200	1029.24	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	150	51	85	G-190	295	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	151	51	85	H-200	1029.23.27.27.28	平底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	152	51	85	J-190	498	不平坦底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	7.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部
造・新作 遺物	153	51	85	H-210	541	不平坦底	縫合部	縫合部	(18.0) H(4.0)	8.5VH02	内側：縫合部、内側内側：縫合部

Tab. 16 出土遺物觀察表 (5)

Tab.17 出土遺物觀察表（6）

Tab.18 出土遺物觀察表（7）

Tab.19 出土遺物觀察表（8）

Tab.20 出土遺物總覽表 (9)

Tab.21 出土遺物観察表（10）

地区	遺跡名等	№	Pg.	PL	グリフ	3DRe	特徴	地図	目録	名前	名号	説明
久保田1	遺跡内	94	22	133	2H-303	244	平安	井	遺跡-1標柱	(14.4) / (4.6) A.6	SYR012	内蔵: ロクコロで、外周下部: 銀無目、底部: 全銀無目
久保田2	遺跡内	55	22	133	2H-470	700	平安	井	遺跡-1標柱	(11.7) / (3.0) A.3	SYR012	内蔵: ロクコロで、外周下部: 銀無目
久保田1	遺跡外	54	22	133	2A-360	155	平安	井	遺跡-1標柱	(10.8) / (3.0) A.3	SYR012	内蔵: ロクコロで、外周下部: 銀無目、底部: 全銀無目
久保田1	遺跡外	57	22	133	2H-263	195	平安	井	遺跡-1標柱	(14.4) / (5.0) A.6	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	58	22	133	2C-285	212-34	平安	井合せ	遺跡-1標柱	(7.0) / (3.0)	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	99	22	134	2C-360	519	平安	井	遺跡-1標柱	(13.0) / (3.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡内	60	22	134	2A-360	975	平安	井	遺跡-1標柱	(12.0) / (4.0) A.5	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵にロクコロ有無無あり、底部: 銀無目
久保田1	遺跡外	91	22	134	2C-310	362	平安	井	遺跡-1標柱	(5.0) A.7	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵にロクコロ有無無あり、底部: 銀無目
久保田2	遺跡外	92	22	134	2A-460	349-8	平安	井	遺跡-1標柱	(7.0) A.9-9.8	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	83	22	134	2-C-282	4 12-100. 101-103	平安	井	遺跡-1標柱	(11.5) / (3.0) A.2	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	64	22	134	2C-310	589	平安	井	遺跡-1標柱	(16.7) / (5.0) A.5	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	66	22	134	2A-300	200-12	平安	井	遺跡-1標柱	(13.0) A.4-4.2	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	66	22	134	2C-360	612-344-518	平安	井	遺跡-1標柱	(16.0) / (3.7) A.8	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	67	22	134	2-C-282	4 12-98. 102-105	平安	井	遺跡-1標柱	(12.0) A.6-6.7	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵: 銀無目
久保田1	遺跡外	68	22	134	Y-282	280	平安	井	遺跡-1標柱	(10.0) A.4-4.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵にロクコロ有無無あり、底部: 銀無目
久保田1	遺跡外	69	22	134	2H-260	210-245-246	平安	井	遺跡-1標柱	(12.0) A.4-4.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵: 銀無目
久保田1	遺跡外	70	22	134	2B-470	674	平安	井合せ・井	遺跡-1標柱	(11.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	71	22	135	2-C-360	550	平安	井合せ	古墳-1標柱	(10.0) / (3.0)	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵にロクコロ有無無あり、底部: 銀無目
久保田1	遺跡外	72	22	135	2H-350	518-4	平安	井合せ・井	古墳-1標柱	(10.0) / (3.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内蔵にロクコロ有無無あり、底部: 銀無目
久保田1	遺跡外	73	22	135	2A-460	549-6	平安	井	古墳-1標柱	(11.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	74	22	135	2-C-270	68.89	平安	井	古墳-1標柱	(14.0) A.4-2	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	75	22	135	2-C-360	79	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) / (7.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	76	22	135	2H-300	215-216	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4-2.5	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	77	22	135	2-C-260	154-204-266	平安	井	古墳-1標柱	(11.0) / (6.0) A.2	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	78	22	135	2-C-280	14-166-105	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) / (6.0) A.2	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田2	遺跡外	79	22	135	2-C-360	881	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田2	遺跡外	80	22	135	2-C-360	881	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	80	22	135	2-C-260	2-10-13	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田2	遺跡外	81	22	135	2A-460	540	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	82	22	135	2F-G70	682	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	83	22	135	2H-260	683	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	84	22	135	2-C-260	684	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	85	22	135	2-C-260	685	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	86	22	135	2-C-260	686	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	87	22	135	2-C-260	687	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	88	22	135	2-C-260	688	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	89	22	135	2H-360	787	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	90	22	135	2H-360	788	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	91	22	135	2-C-260	688	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	92	22	135	2H-360	788	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	93	22	135	2H-360	787	平安	井	古墳-1標柱	(10.0) A.4	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	94	22	135	2A-360	824	平安	井	古墳-1標柱	-	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田2	遺跡外	95	22	135	2H-460	2146	砂金	井	古墳-1標柱	10.0-12.0	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目
久保田1	遺跡外	96	22	135	Y-320	382	平安	井	古墳-1標柱	-	SYR012	内蔵: ロクコロで、内: 銀無目

遺物観察表 使用色調凡例

Hue2.5YR	7/1 明赤灰	7/4 淡赤橙	6/1 赤灰	5/3 にぶい青	6/5 橙							
	5/2 死赤	5/6 明赤褐	5/8 明赤褐	4/4 にぶい青	4/6 赤褐							
Hue5YR	7/1 明褐灰	7/4 にぶい橙	7/6 橙	6/4 にぶい青	6/6 橙							
	5/3 にぶい赤褐	5/6 にぶい赤褐	5/8 明赤褐	5/6 にぶい青	5/6 橙							
	4/3 にぶい赤褐	4/4 にぶい赤褐	4/6 赤褐	4/6 にぶい青	4/6 橙							
Hue7.5YR	8/3 淡黄橙	8/4 淡黄橙	7/3 にぶい橙	7/4 にぶい青	7/6 橙							
	6/3 にぶい橙	6/4 にぶい橙	6/6 橙	6/6 橙	6/6 橙							
	5/2 灰褐	5/5 にぶい褐	5/4 にぶい褐	5/6 明褐	5/6 明褐							
	4/1 灰灰	4/2 灰褐	4/3 褐	4/4 にぶい褐	4/6 褐							
Hue10YR	8/2 灰白	8/4 淡黄橙	7/4 淡黄橙	7/2 にぶい黄橙	7/3 にぶい黄橙							
	6/1 灰白	6/2 灰褐	6/3 にぶい黄橙	6/4 にぶい黄橙	6/6 明黄褐							
	5/2 灰黄褐	5/5 にぶい黄褐	5/4 にぶい黄褐	5/6 黄褐	5/6 黄褐							
	4/1 灰灰	4/2 灰黄褐	4/3 褐	4/4 にぶい黄褐	4/6 黄褐							
Hue2.5Y	7/2 灰黄	6/1 黄灰	6/2 灰黄									
Hue5Y	6/1 灰	5/1 灰										
N	5/1 灰	4/1 灰										

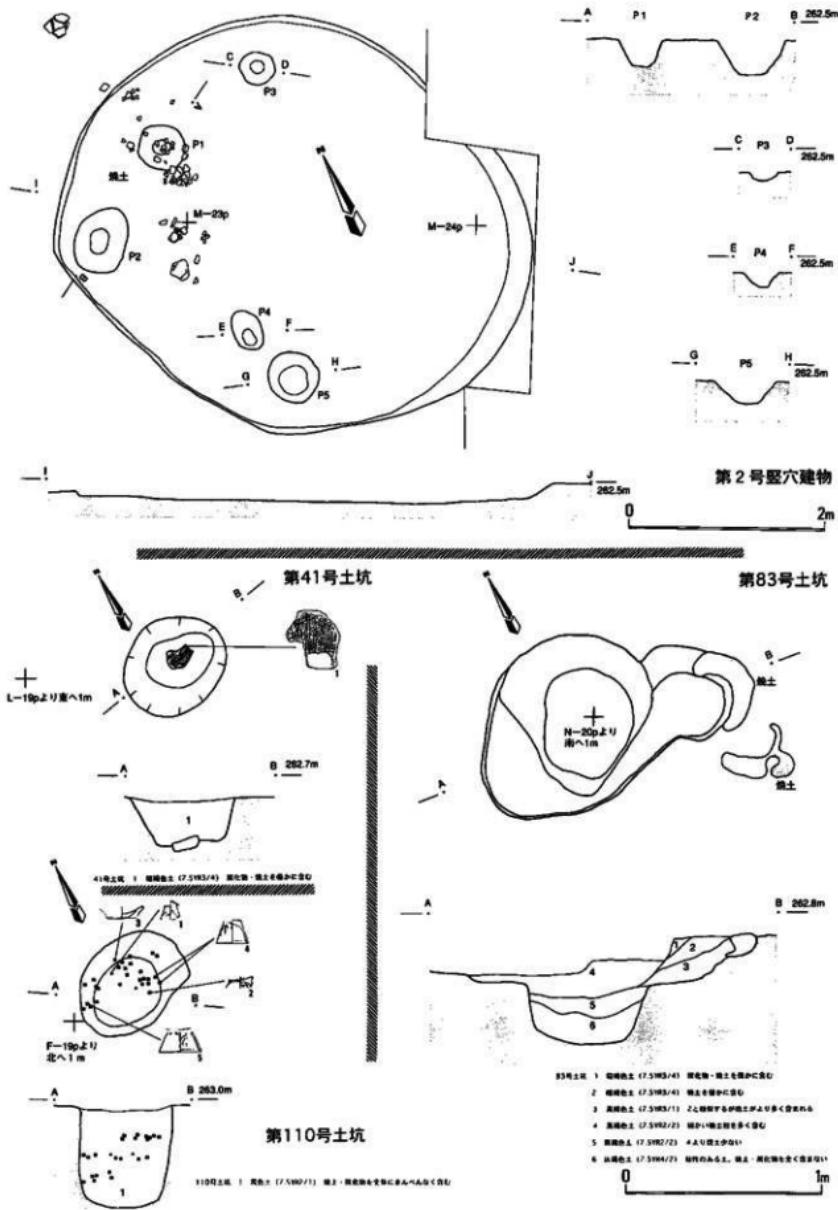


Fig. 6 道々芽木地区 第2号竪穴建物・第41号土坑・第83号土坑・第110号土坑

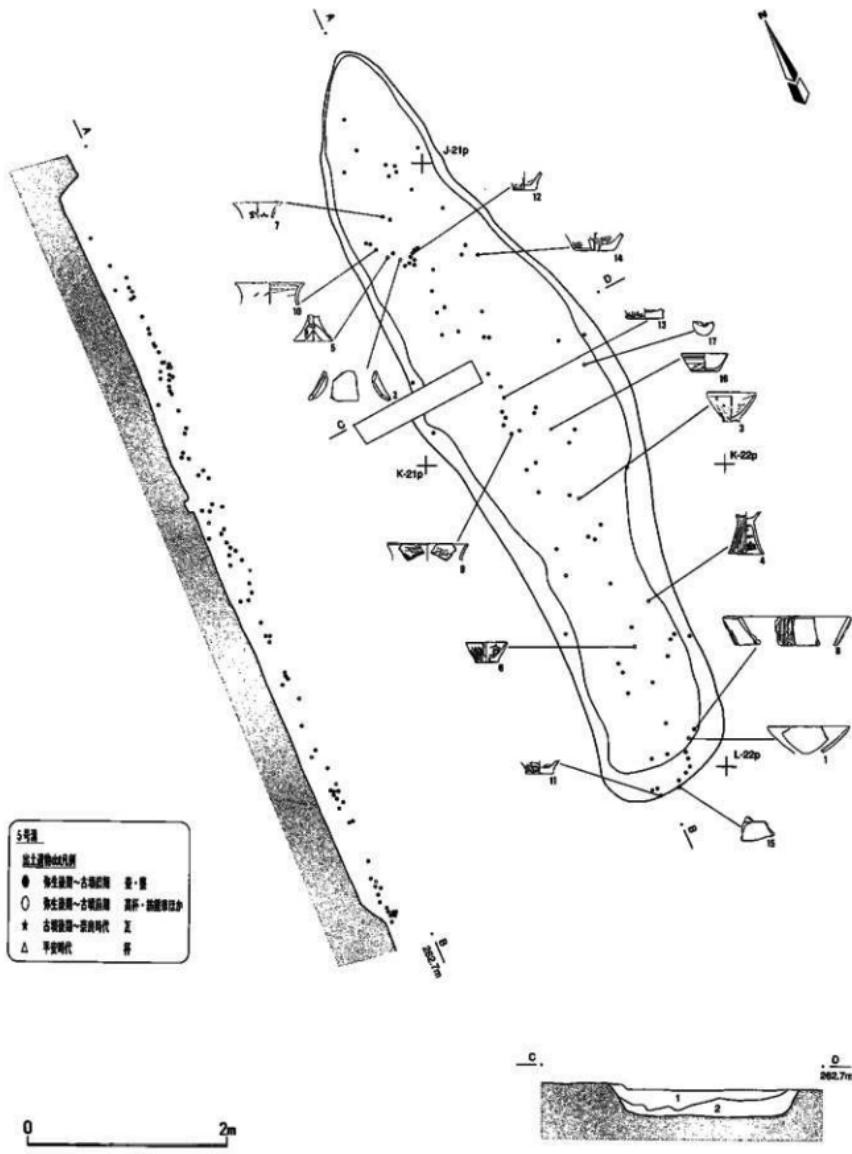


Fig. 7 道々茅木地区 第5号溝

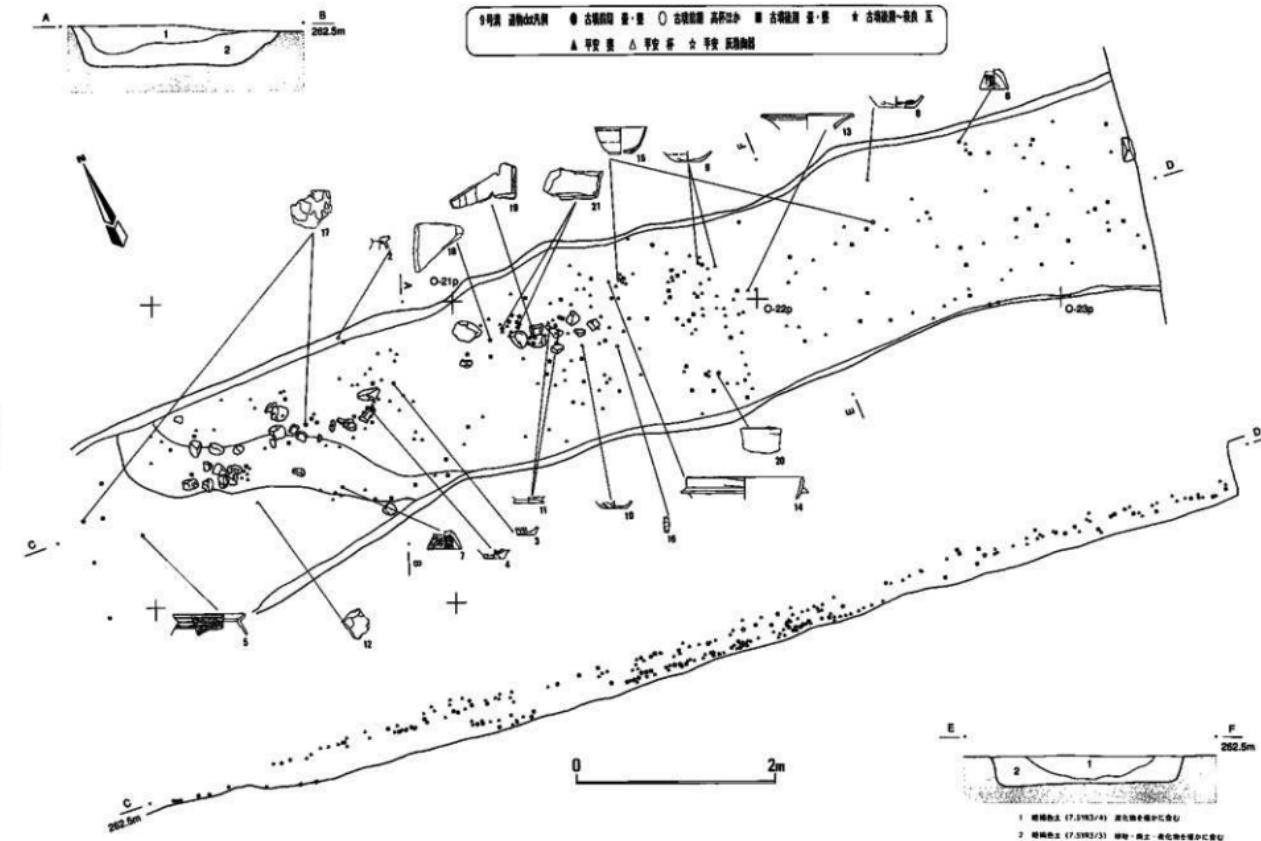
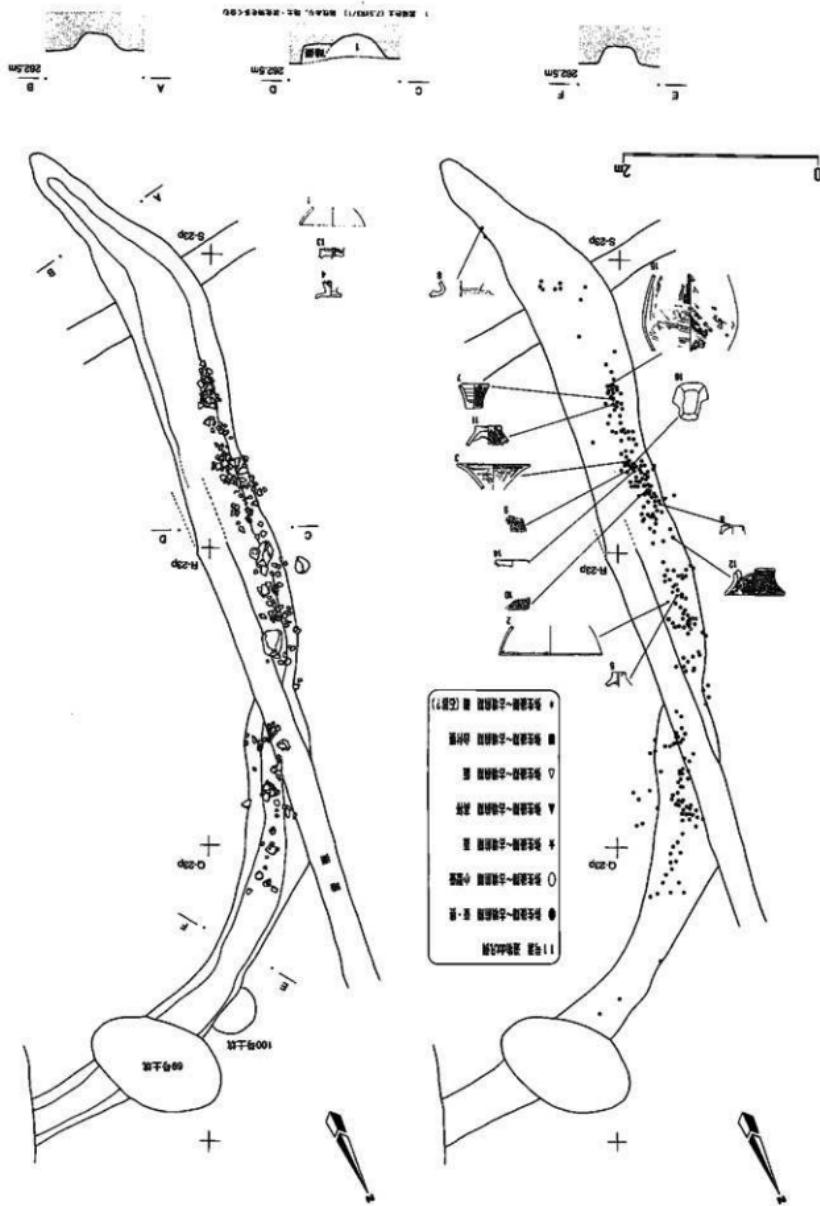


Fig. 8 道々茅木地区 第9号洞

Fig. 9 通力林地区 第11号洞



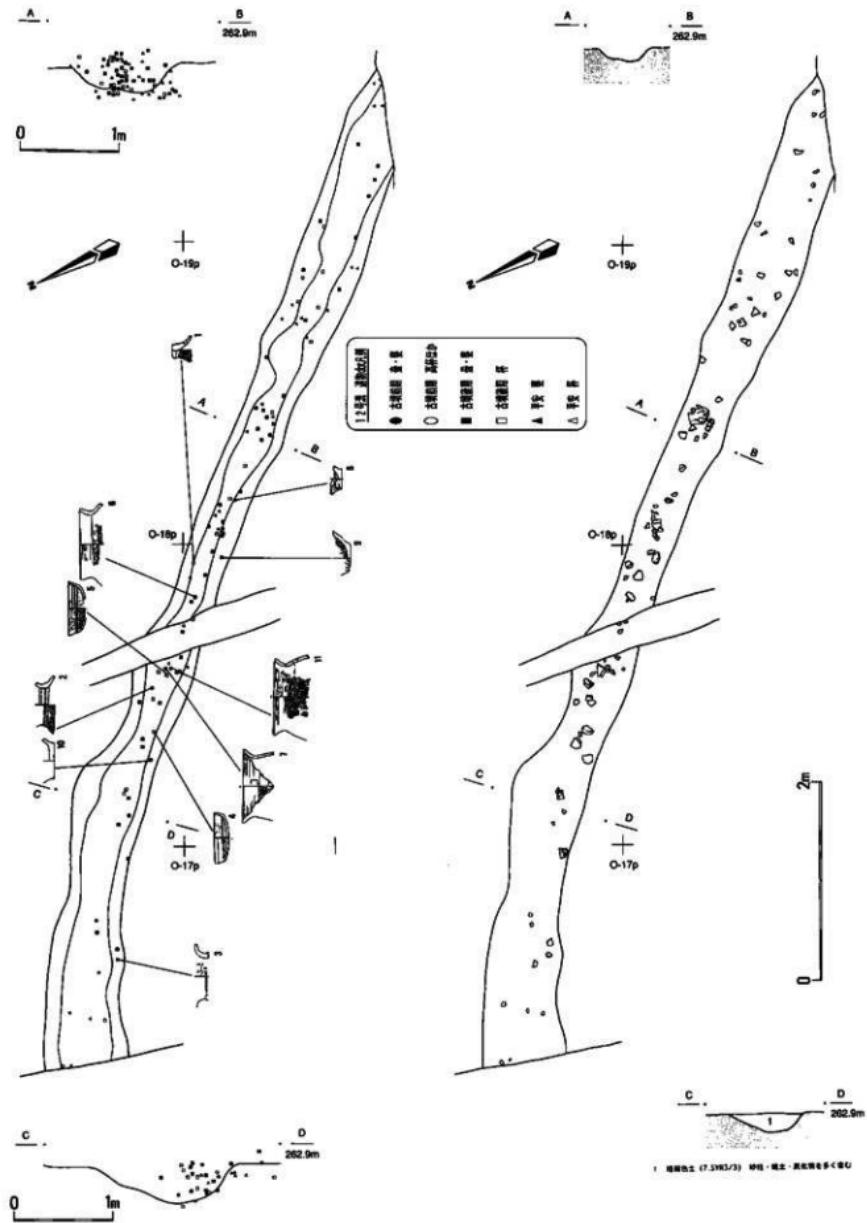


Fig.10 道々芽木地区 第12号溝

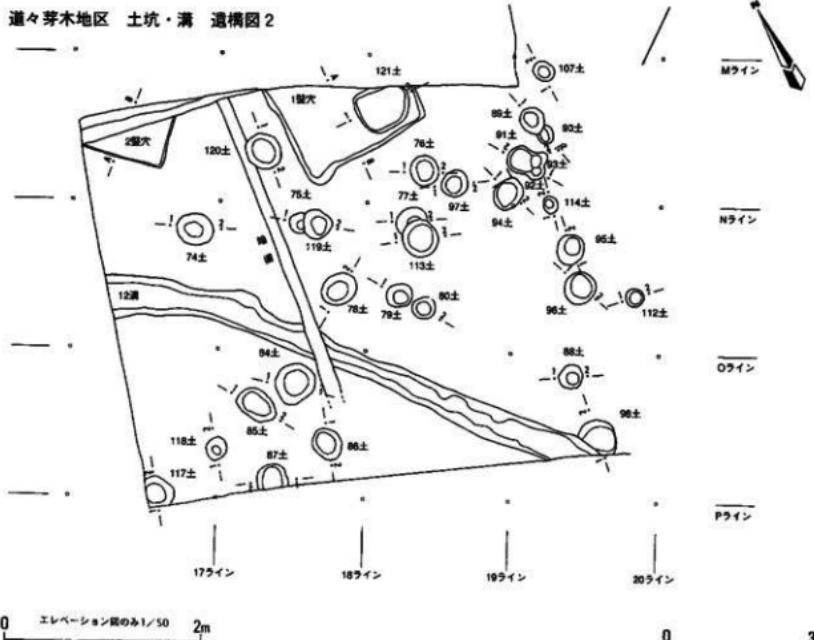
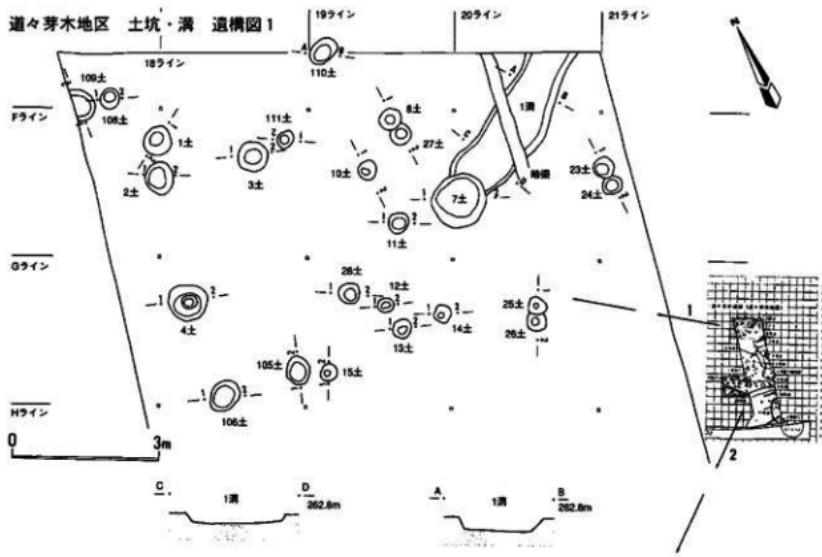


Fig.11 道々芽木地区 土坑・溝 遺構図 (1・2)

道々芽木地区 土坑・溝 遺構図 3

0 エレベーション標のみ1/50 2m

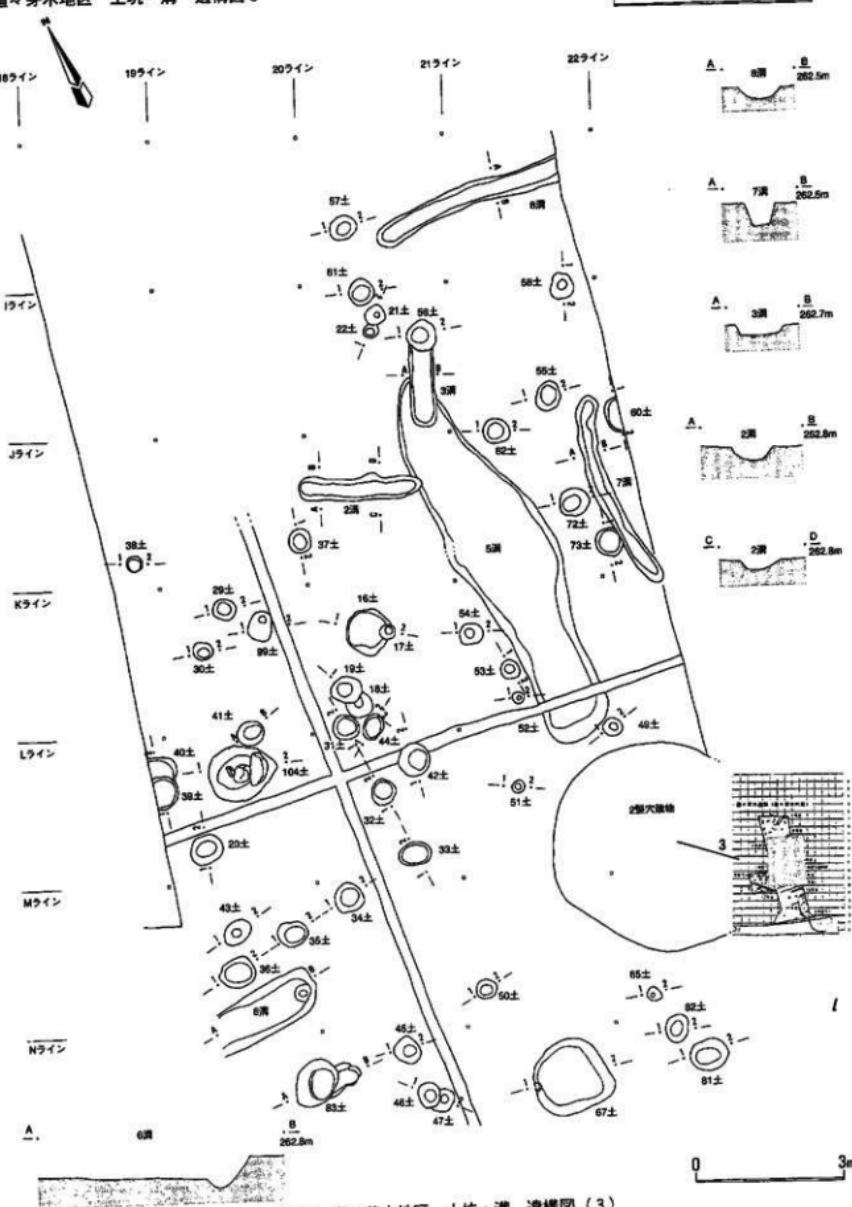


Fig.12 道々芽木地区 土坑・溝 遺構図 (3)

道々芽木地区 土坑・溝 遺構図 4

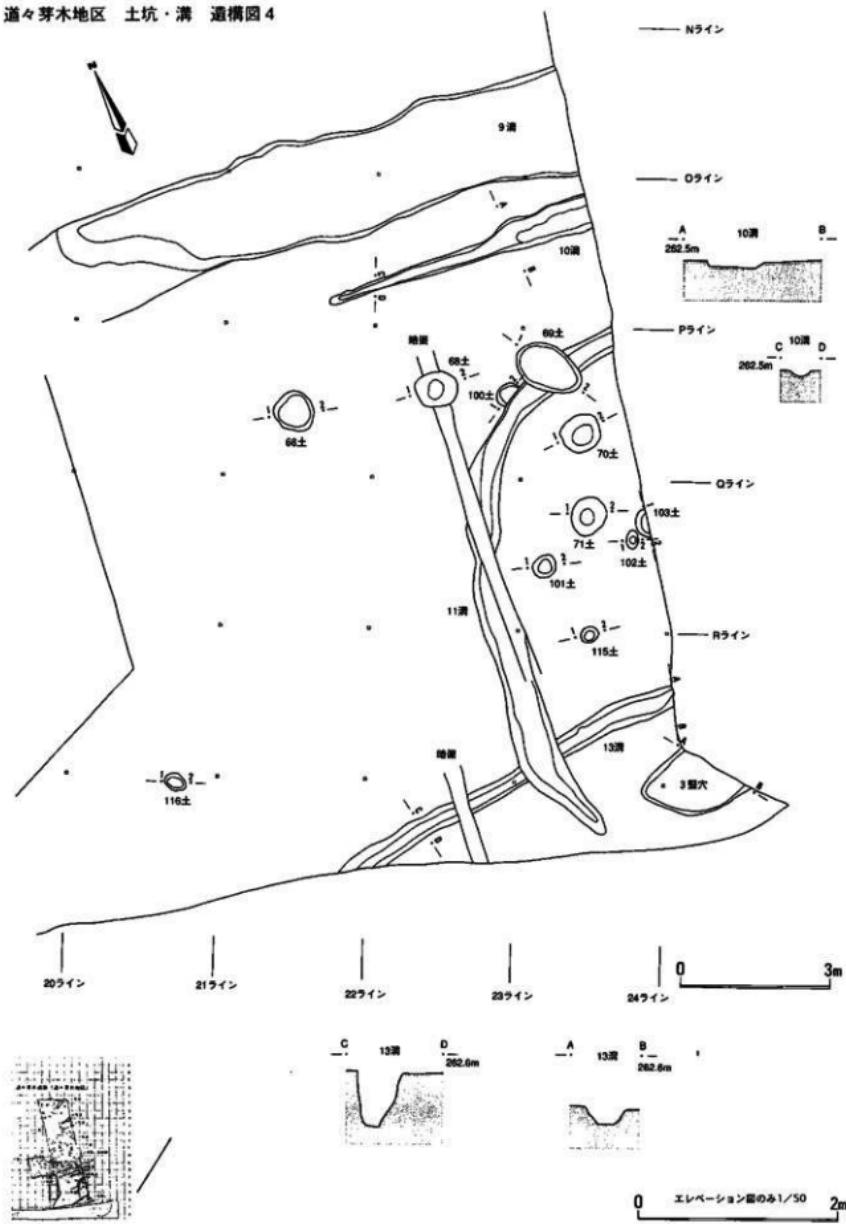


Fig.13 道々芽木地区 土坑・溝 遺構図 (4)

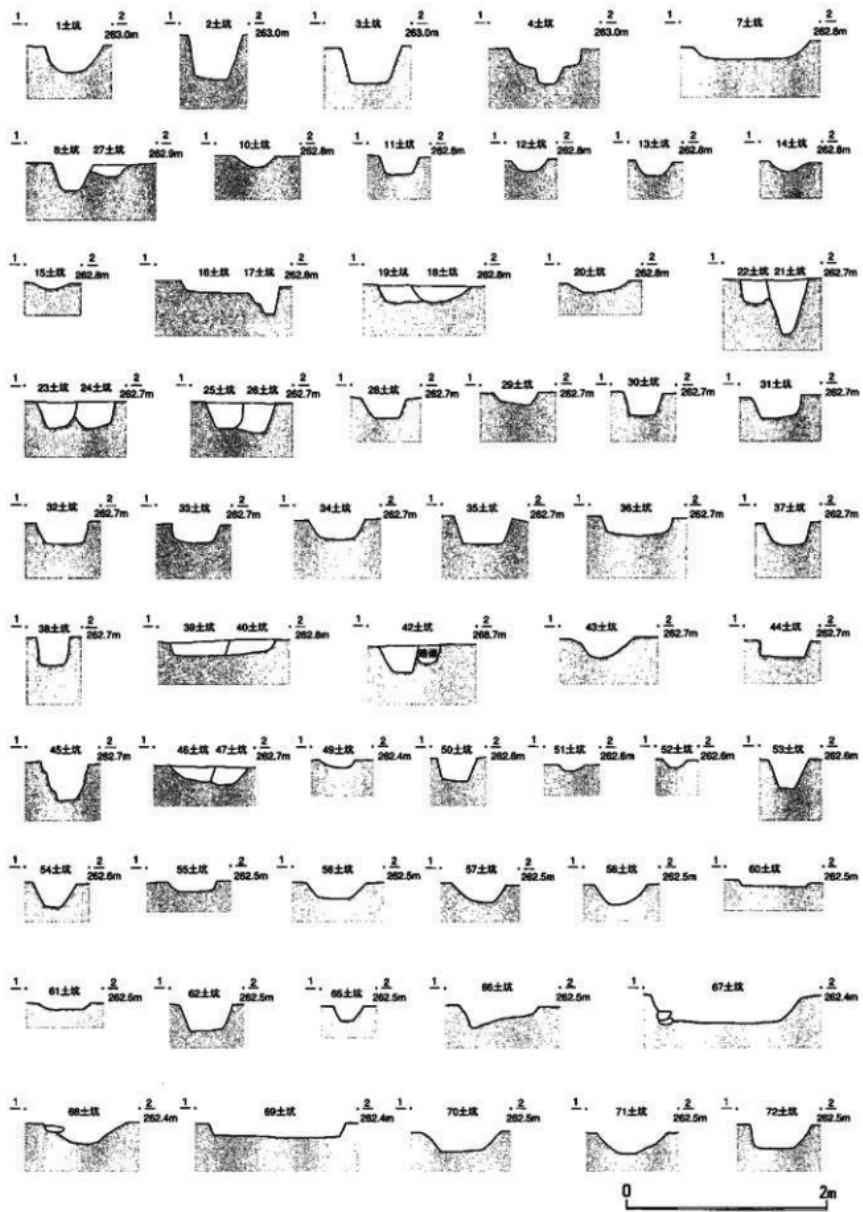


Fig.14 道々芽木地区 土坑・竖穴エレベーション (1)

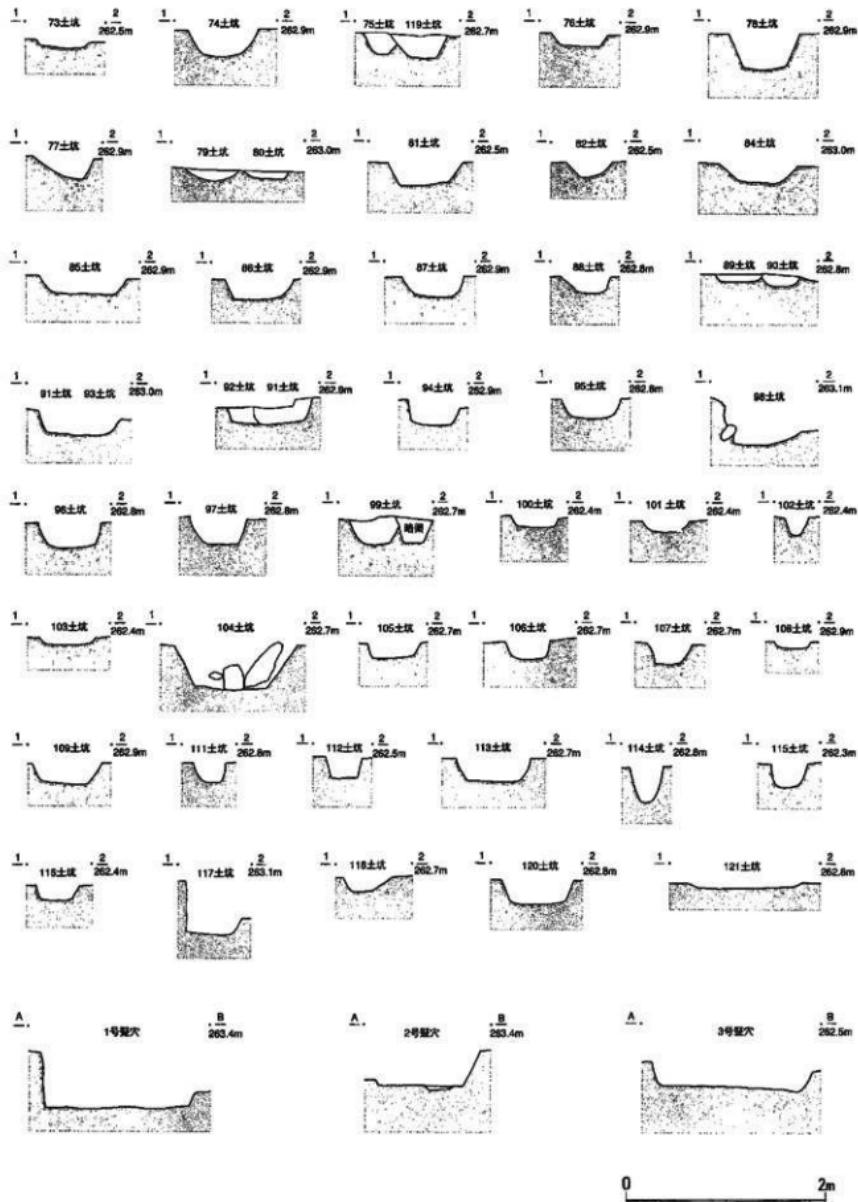
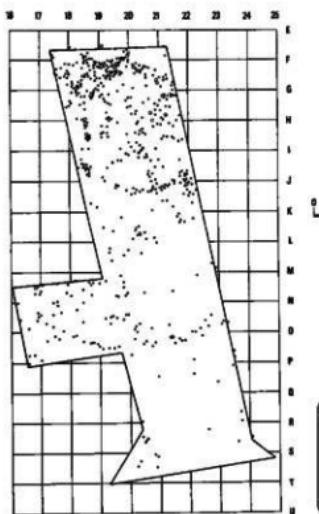
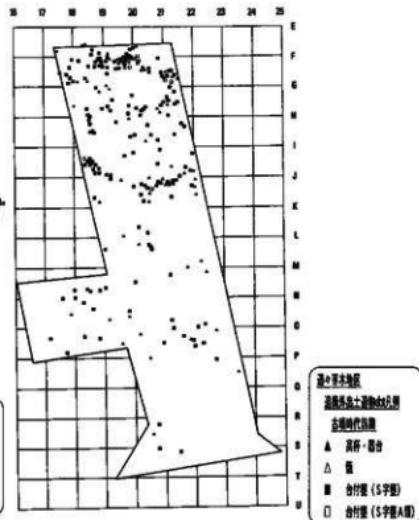


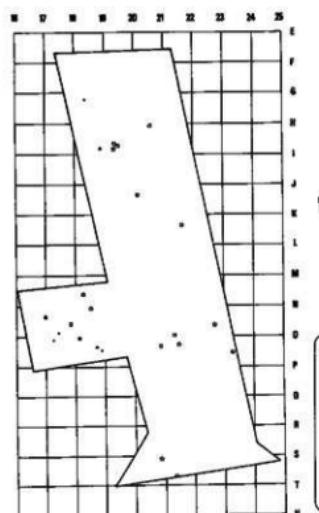
Fig.15 道々芽木地区 土坑・竖穴エレベーション (2)



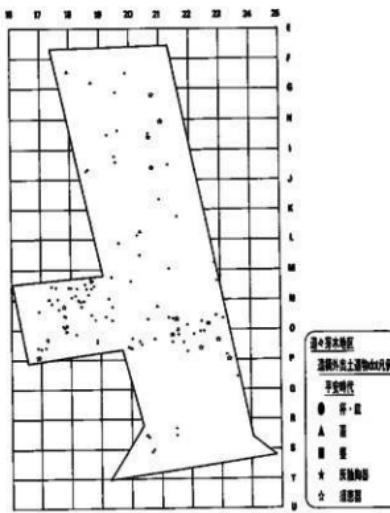
道々茅木地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代前期: 壺・甌・小型壺・他)



道々茅木地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代前期: 高杯・器台・甌・S字壺・他)



道々茅木地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代後期～奈良時代: 杯・高杯・甌・瓦・瓶・他)



道々茅木地区 遺構外出土遺物 分布図
(平安時代: 杯・甌・蓋・甌・他)

Fig.16 道々茅木地区 遺構外出土遺物 分布図

第1号竖穴建物

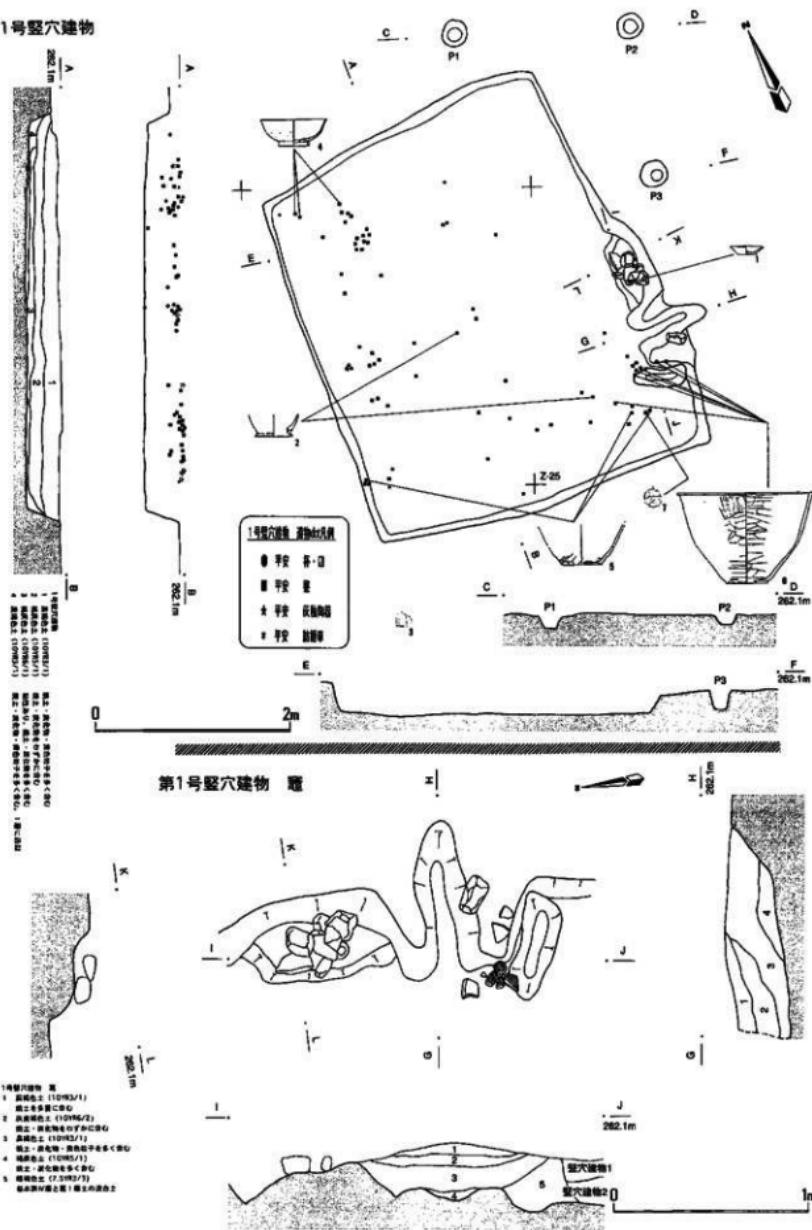


Fig.17 久保田1地区 第1号竖穴建物

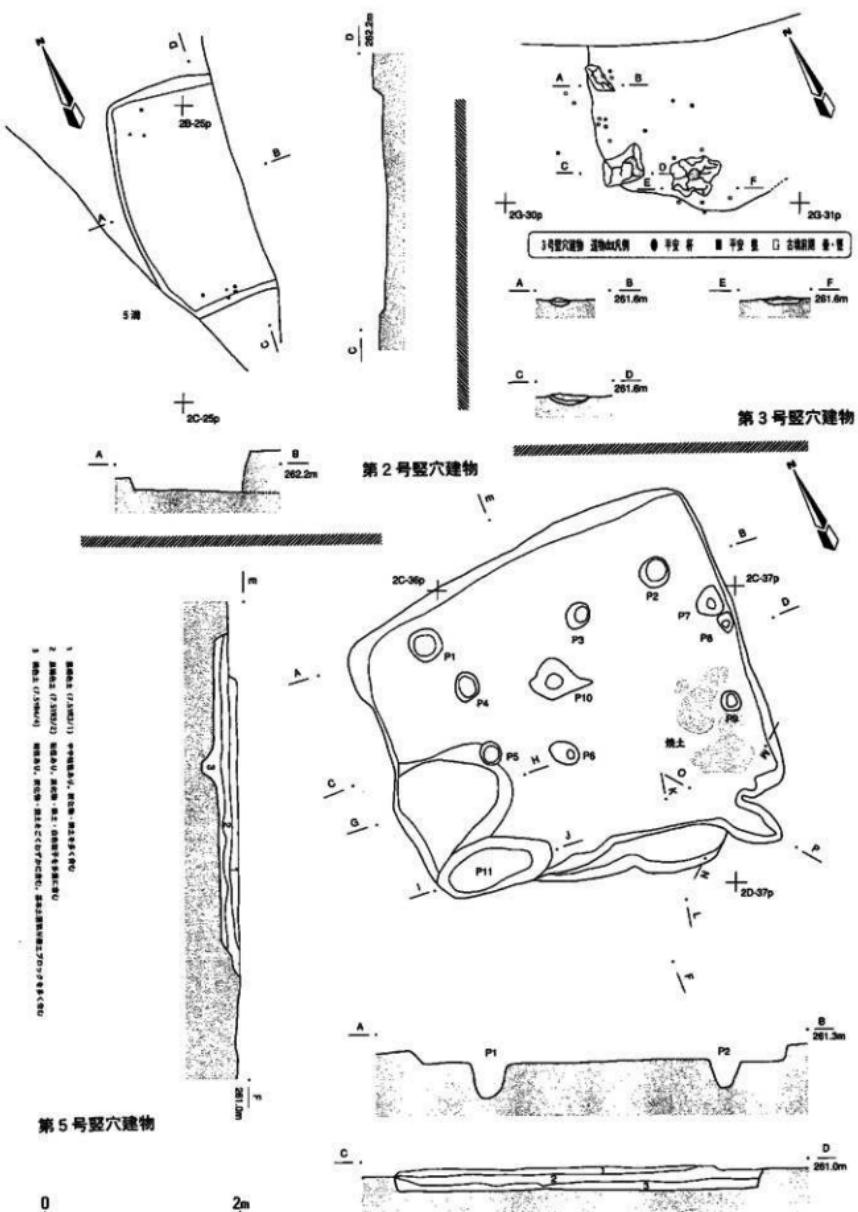
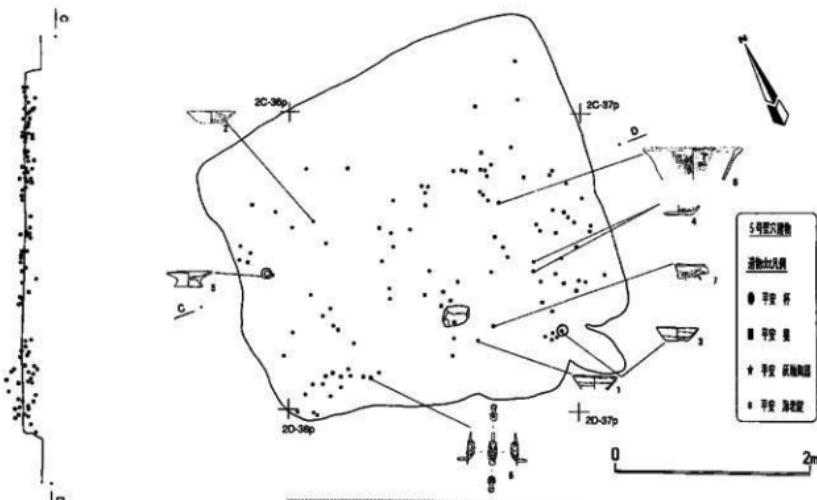
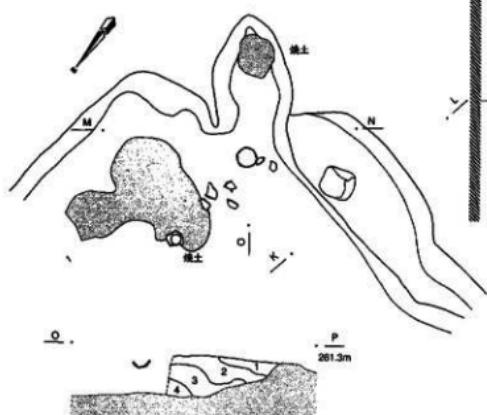


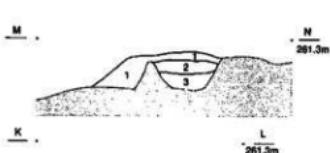
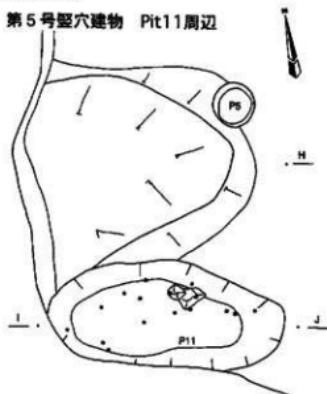
Fig.18 久保田1地区 第2号竪穴建物・第3号竪穴建物・第5号竪穴建物(1)



第5号竪穴建物 磐



第5号竪穴建物 Pit11周辺



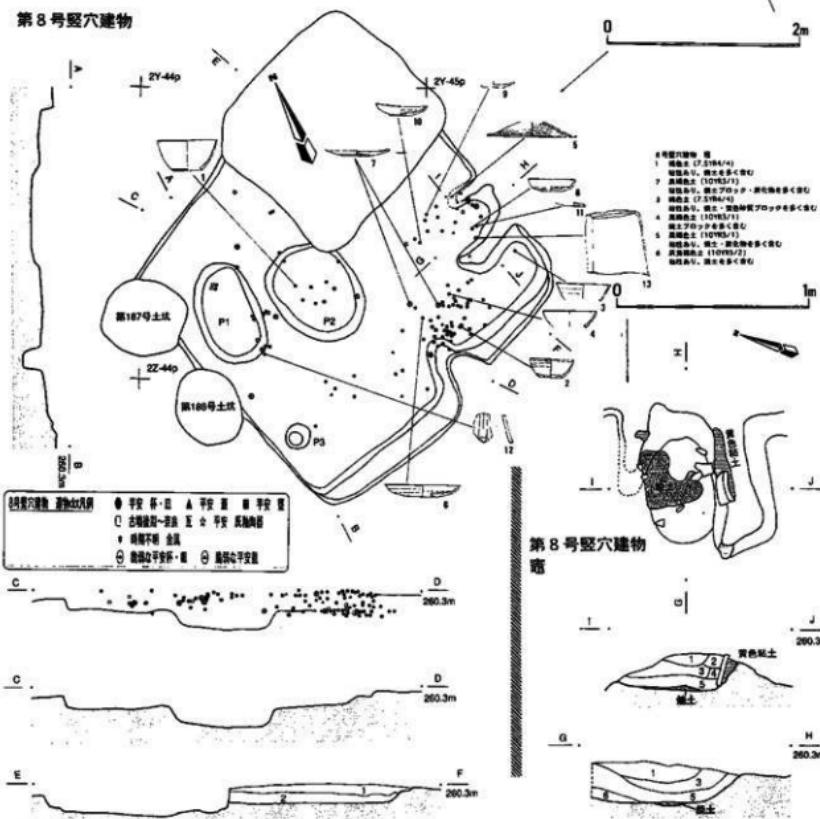
5号竪穴建物 P11
1. 磐土 (10.986/2) 基土・変化物・変色無しブロック多く含む
2. 磐土 (10.986/4) 变色無しブロック層
3. 磐土 (10.986/2) 基土・変化物を含みどぞ含む
4. 磐土 (7.579/4) 3号竪穴建物に近似する

0 1m

Fig.19 久保田1地区 第5号竪穴建物 (2)



第7号竪穴建物 地質断面図 ■ 平安 ● 平安 ▲ 平安 ▽ 平安



第8号竪穴建物

地質断面図
■ 平安 ● 平安 ▲ 平安 ▽ 平安
□ 古墳跡 ● 墓 ● 平安
◆ 鉄器類 ● 金銅
◎ 青銅鏡 ● 平安
◎ 青銅鏡 ● 平安

Fig.20 久保田2地区 第7号竪穴建物・第8号竪穴建物

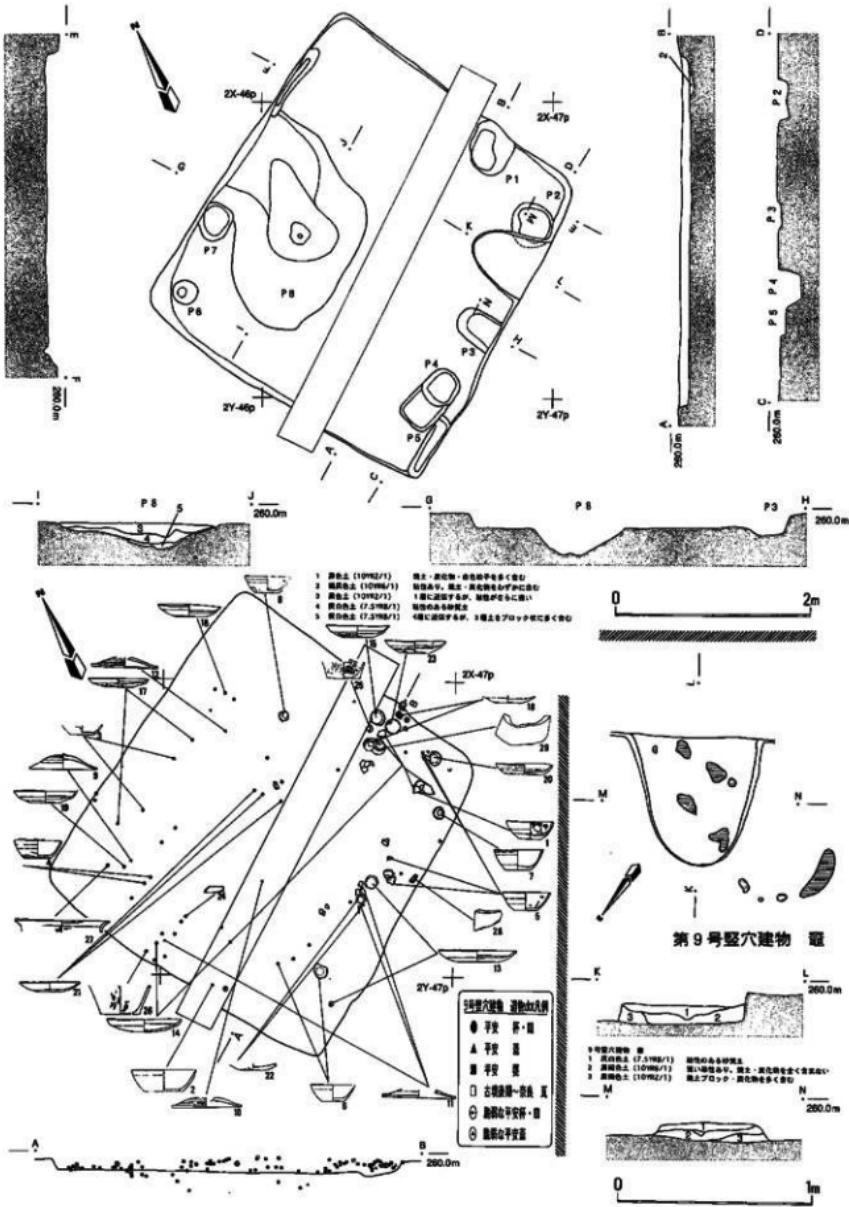


Fig.21 久保田2地区 第9号竪穴建物

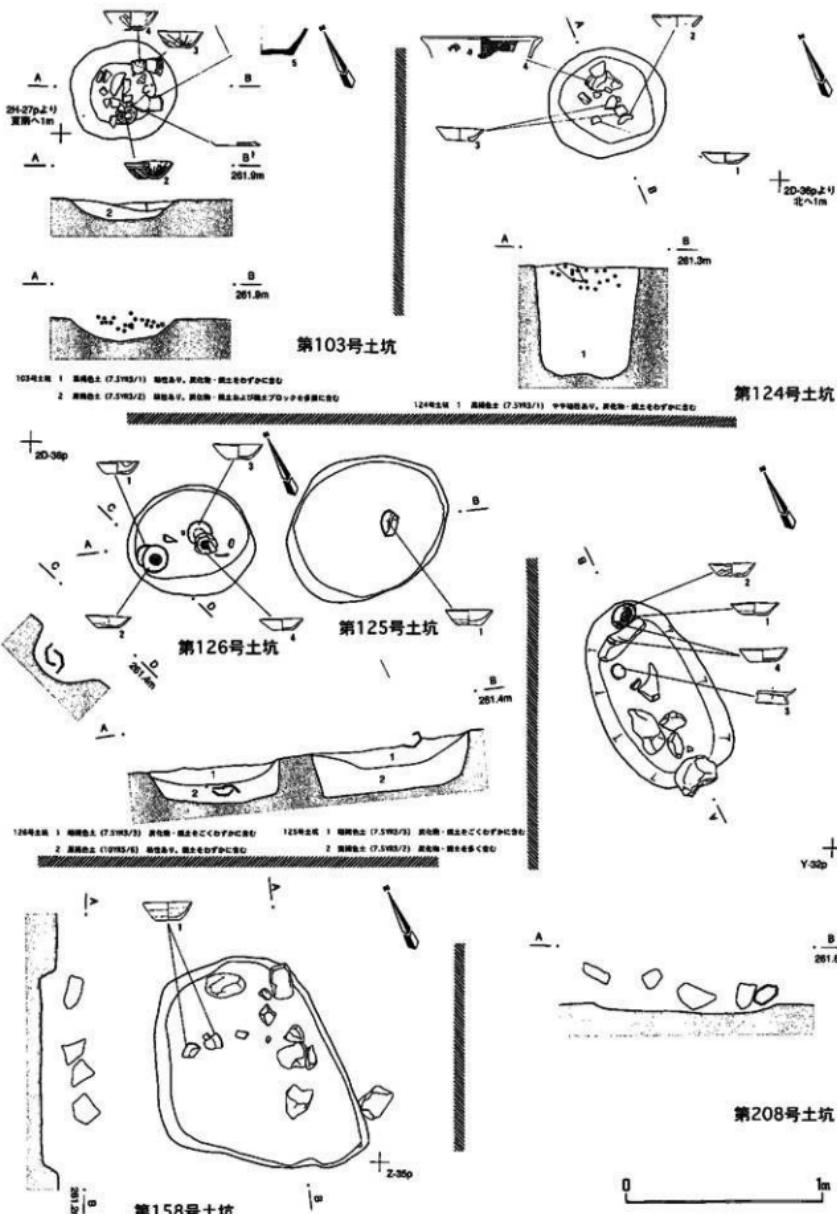


Fig.22 久保田1地区 第103号土坑・第124号土坑・第125号土坑・第126号土坑・第158号土坑・第208号土坑

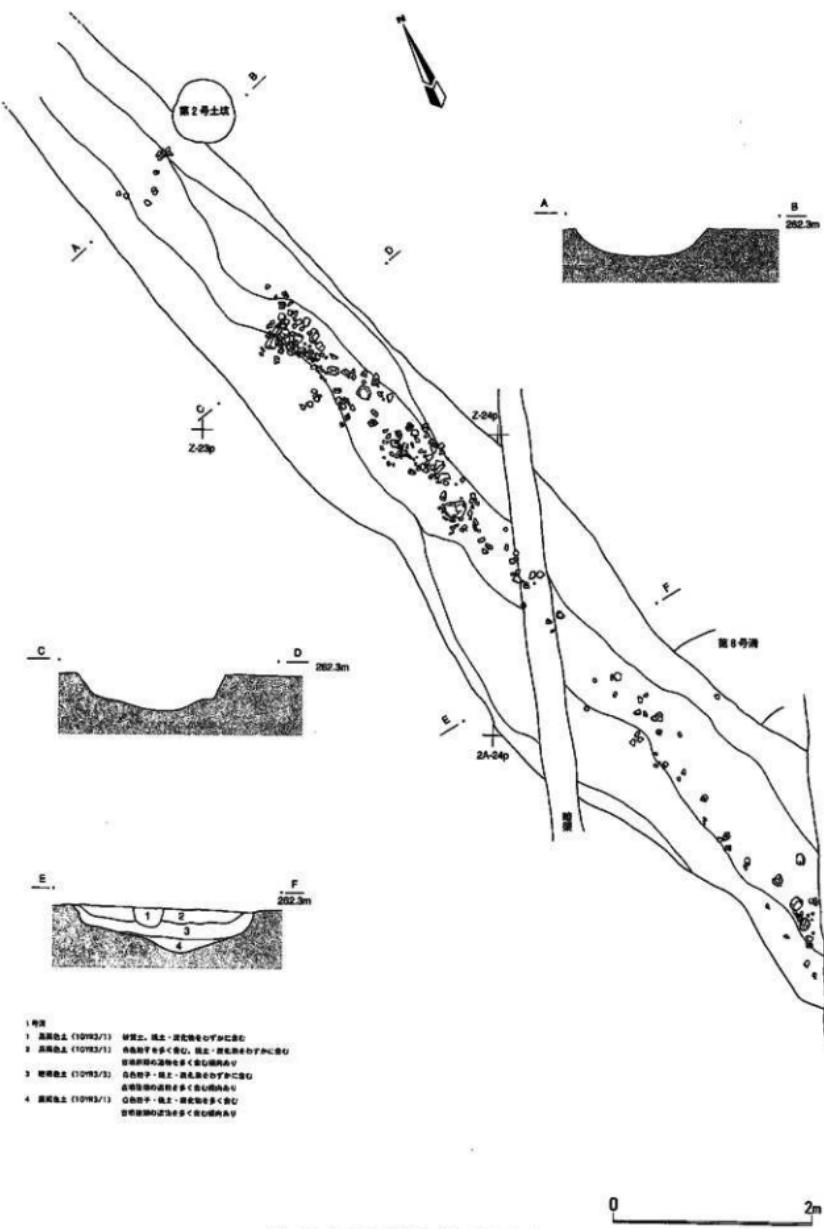


Fig.23 久保田1地区 第1号溝(1)

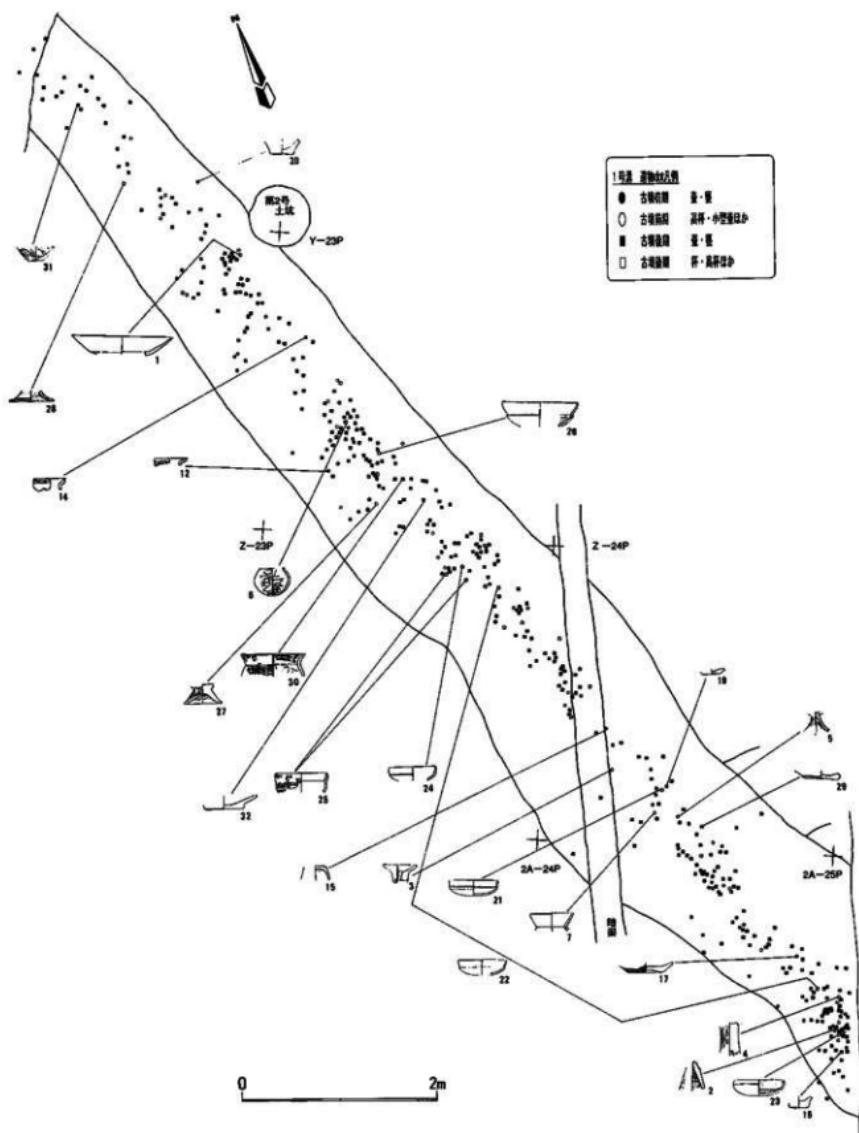


Fig.24 久保田1地区 第1号溝（2）

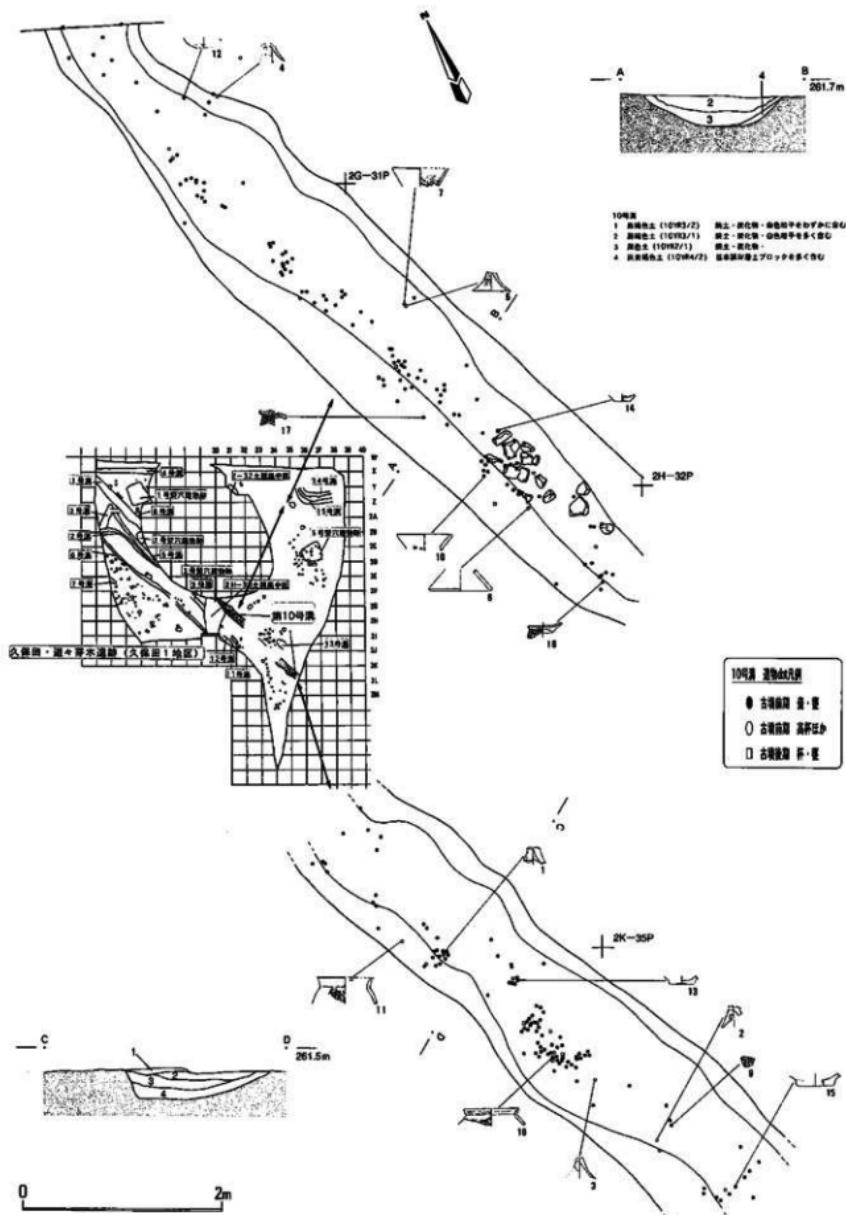


Fig.25 久保田1地区 第10号溝

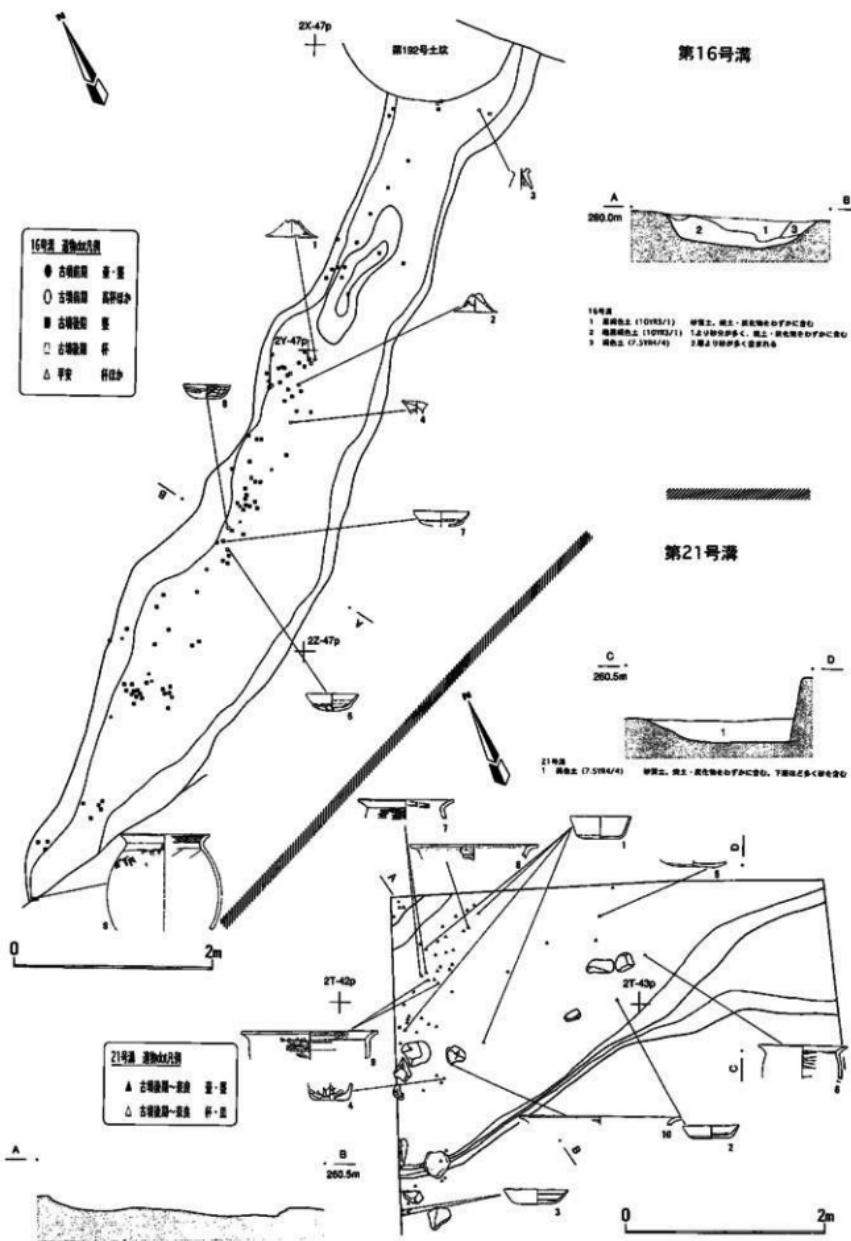


Fig.26 久保田2地区 第16号溝・第21号溝

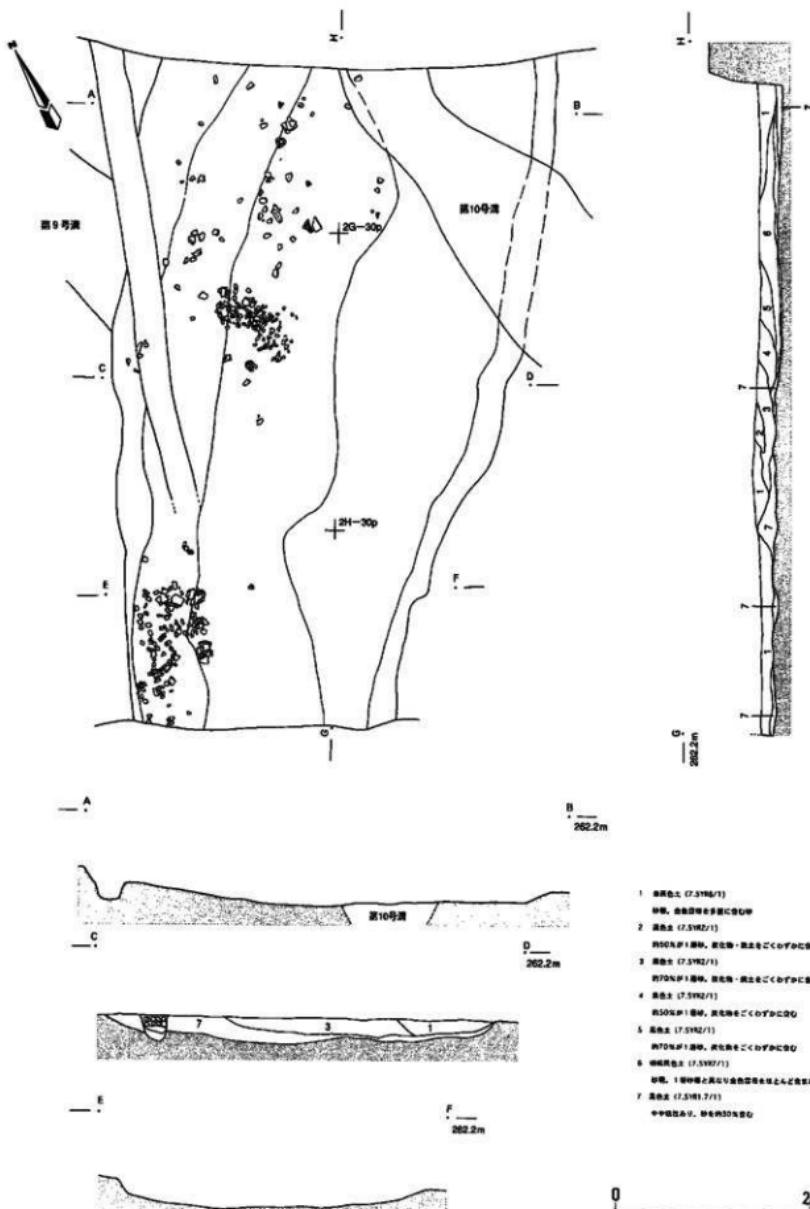


Fig.27 久保田1地区 2H-30土器集中 (1)

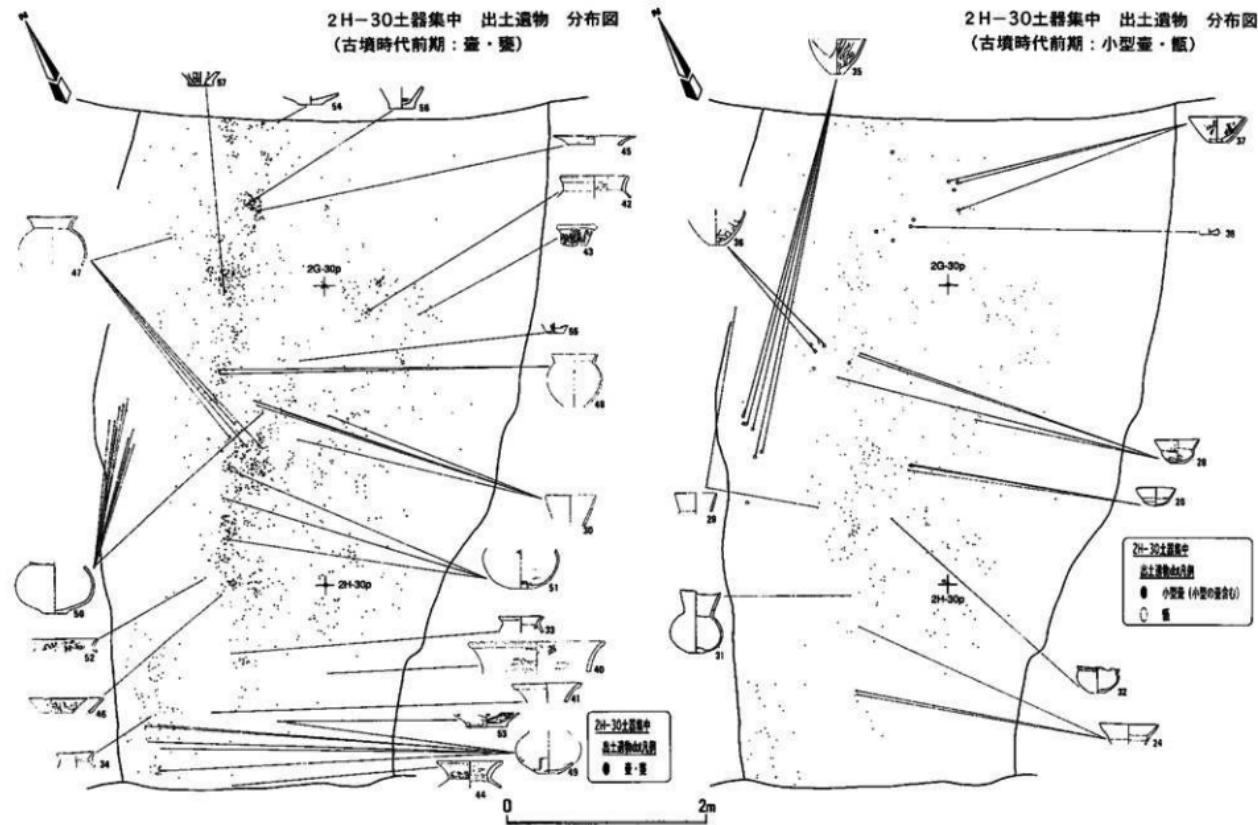


Fig.28 久保田地区 2H-30土器集中 (2)

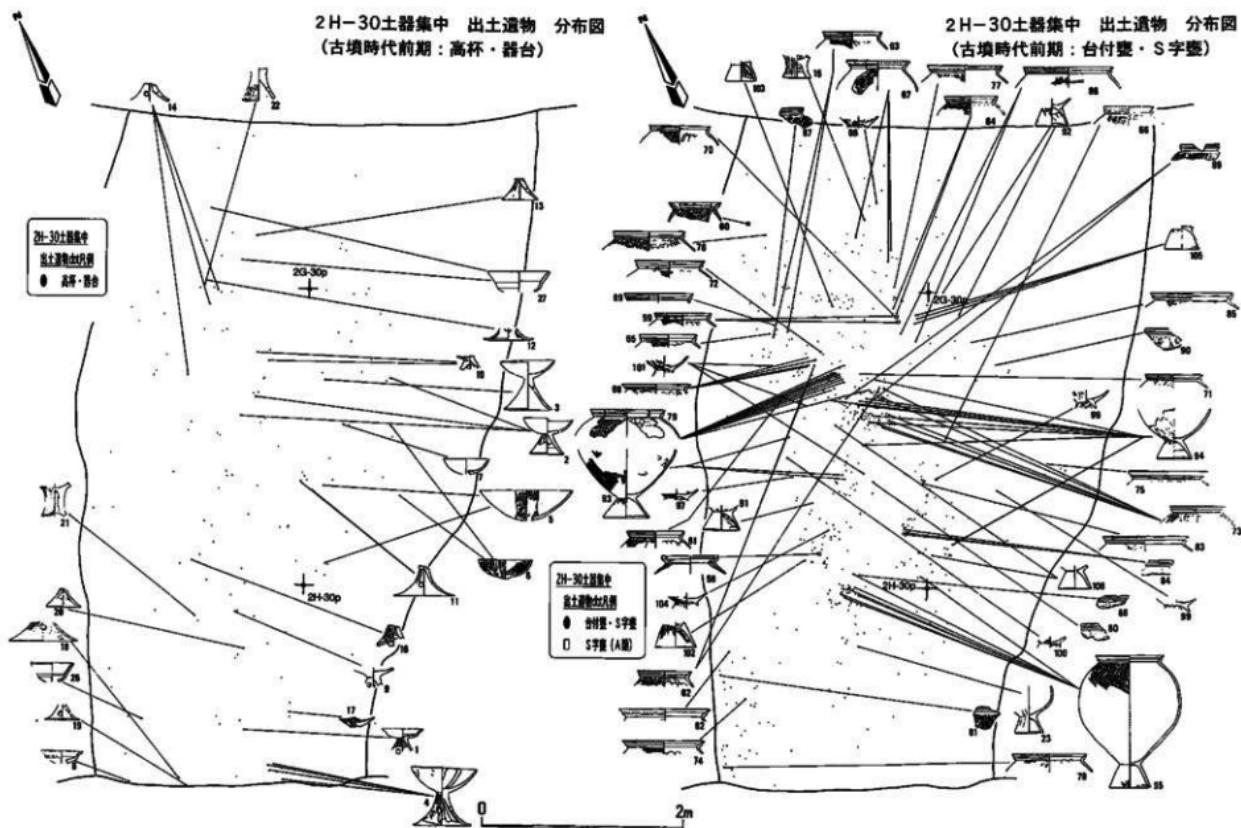


Fig.29 久保田1地区 2H-30土器集中 (3)

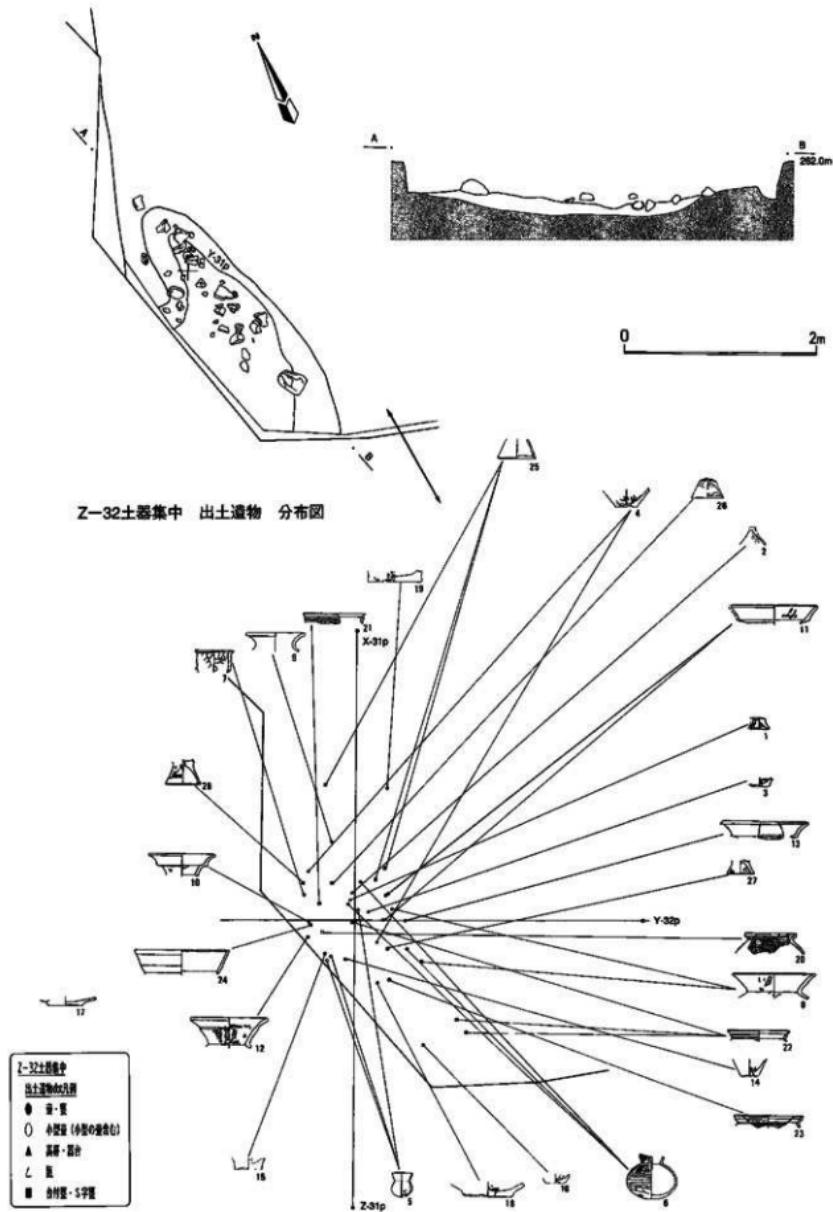


Fig.30 久保田1地区 Z-32土器集中 (1)

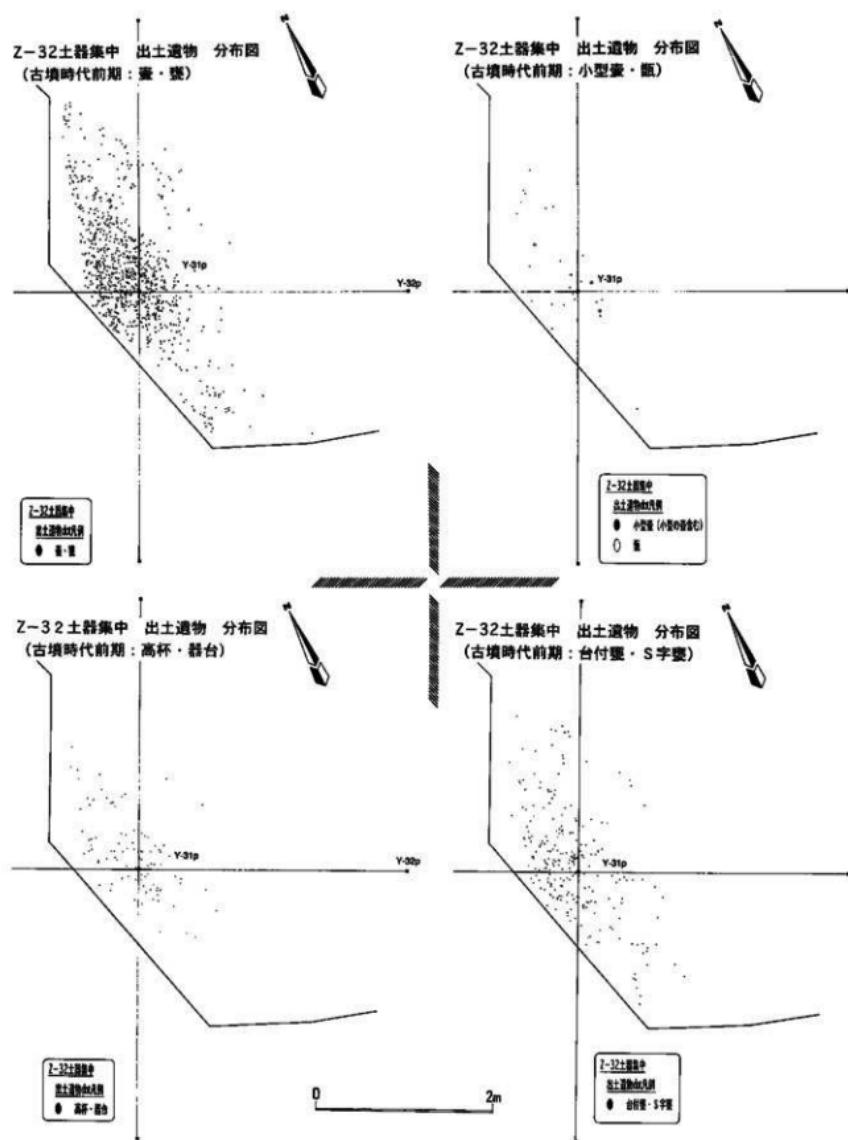


Fig.31 久保田1地区 Z-32土器集中 (2)

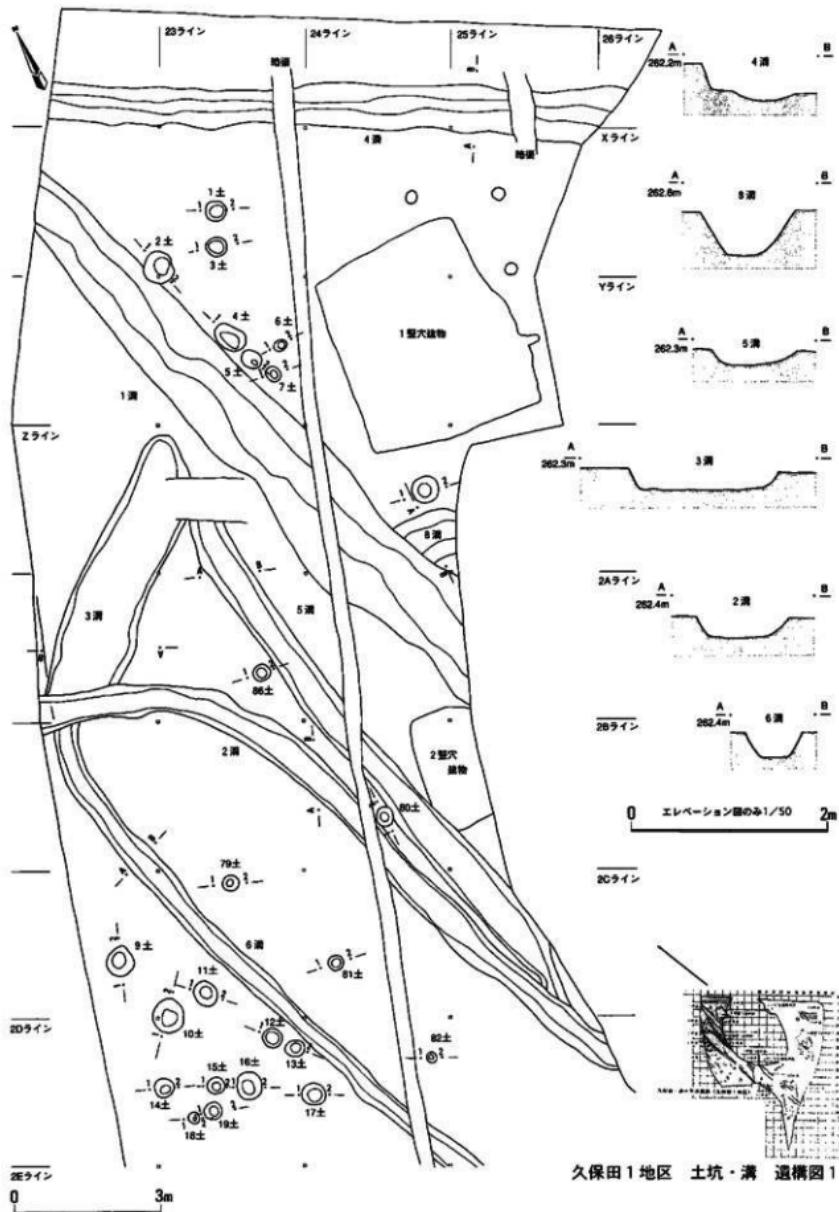


Fig.32 久保田1地区 土坑・溝 遺構図 (1)

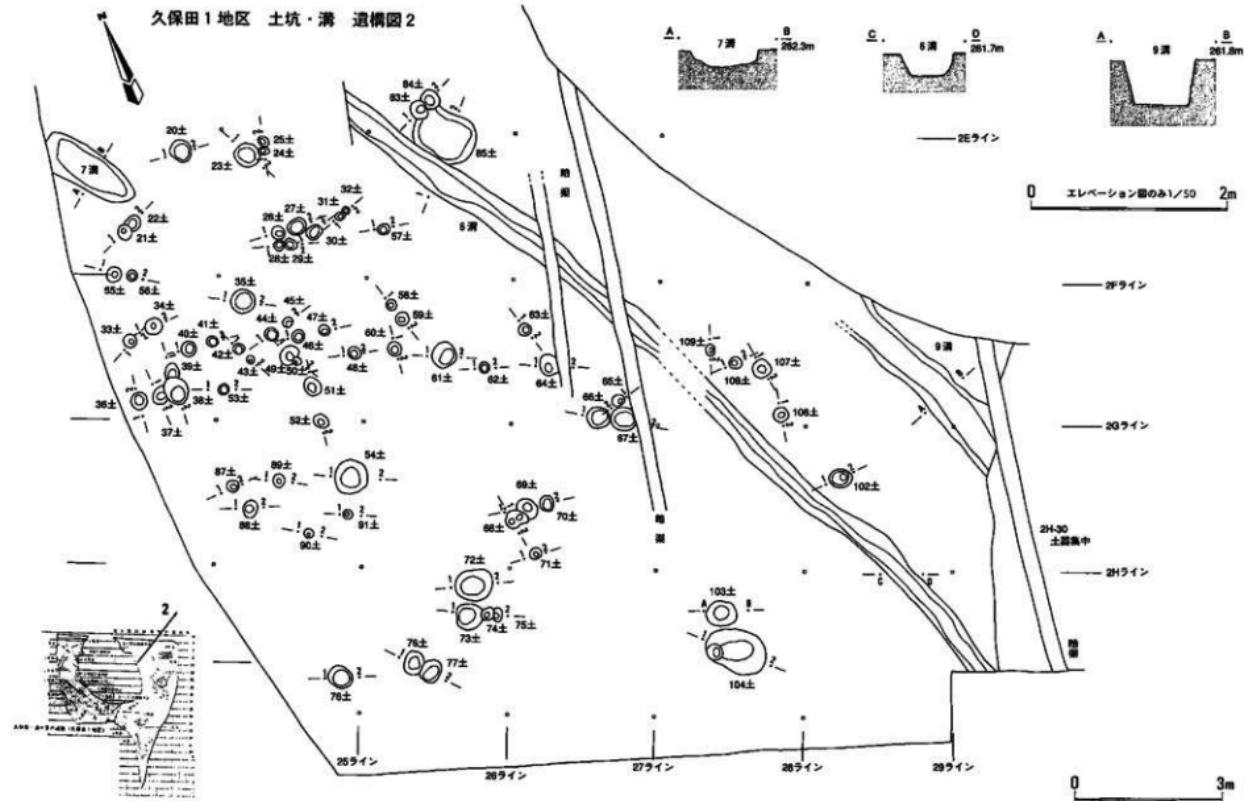


Fig.33 久保田1地区 土坑・溝 造構図 (2)

久保田1地区 土坑・溝 遺構図 3

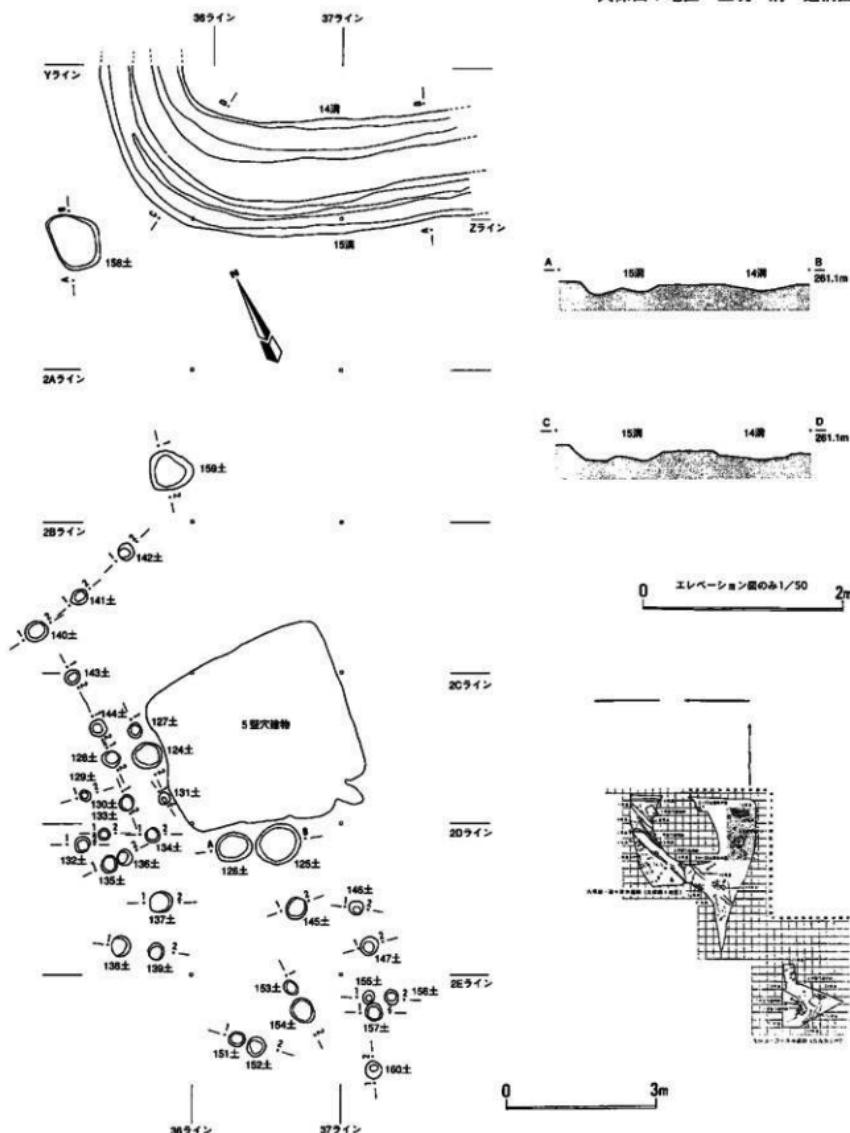


Fig.34 久保田1地区 土坑・溝 遺構図 (3)

久保田1地区 土坑・溝 透構図 4

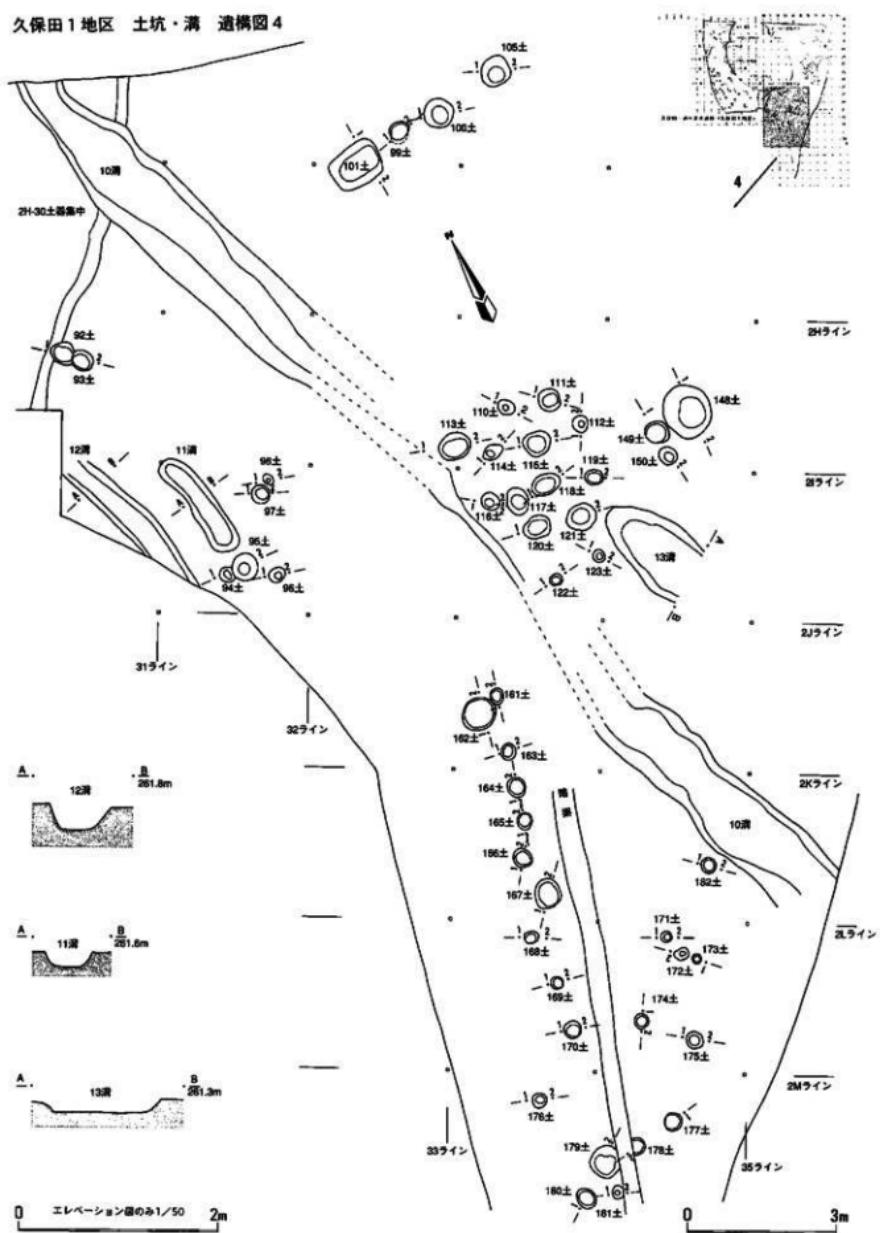


Fig.35 久保田1地区 土坑・溝 透構図 (4)

久保田2地区 土坑・溝 遺構図1



久保田2地区 土坑・溝 遺構図2

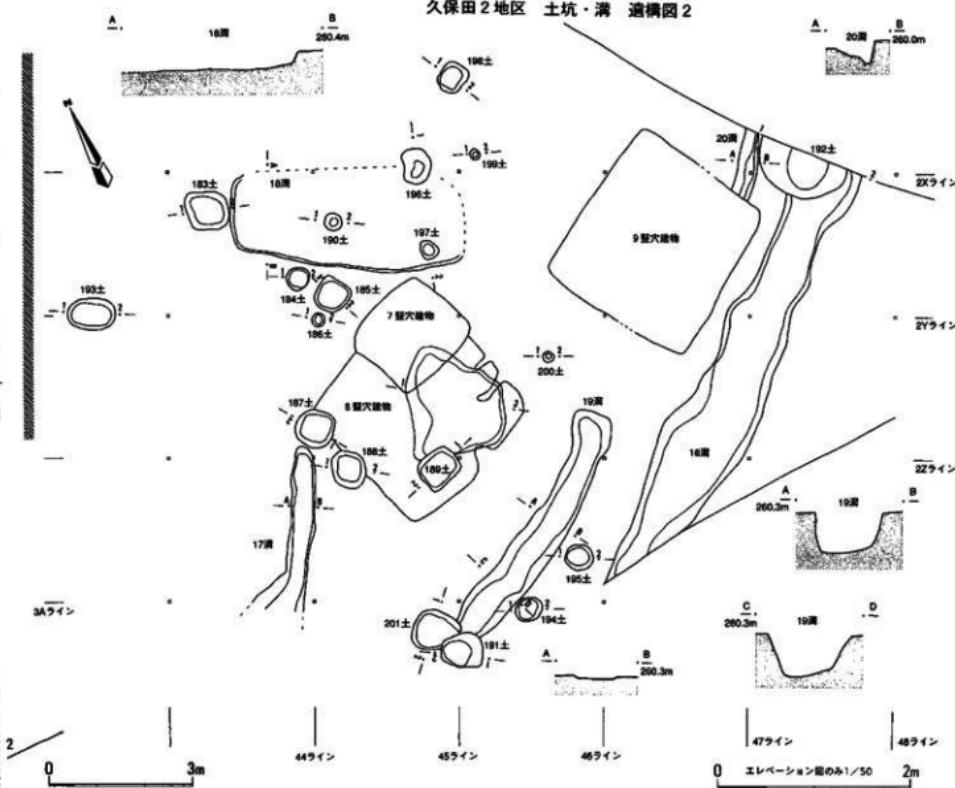


Fig.36 久保田2地区 土坑・溝 遺構図 (1・2)

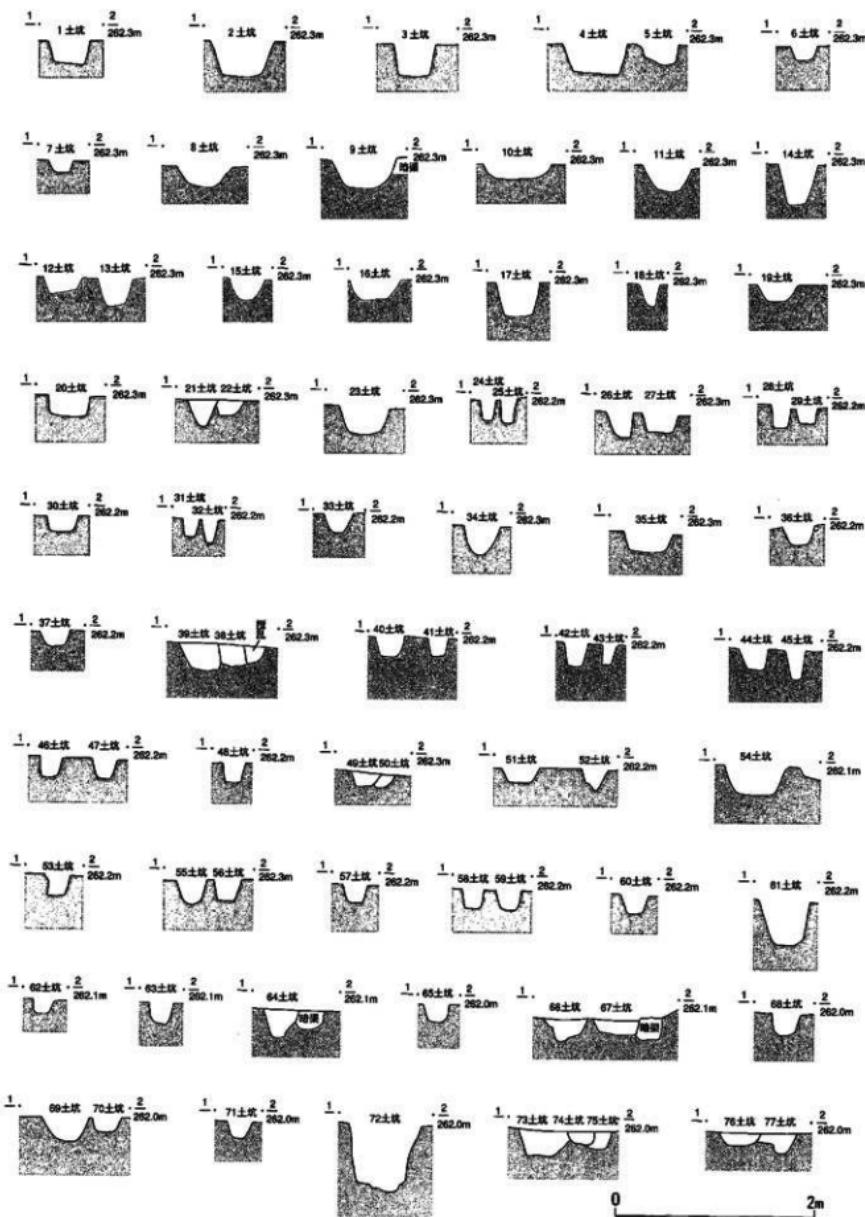


Fig.37 久保田1・2地区 土坑エレベーション(1)

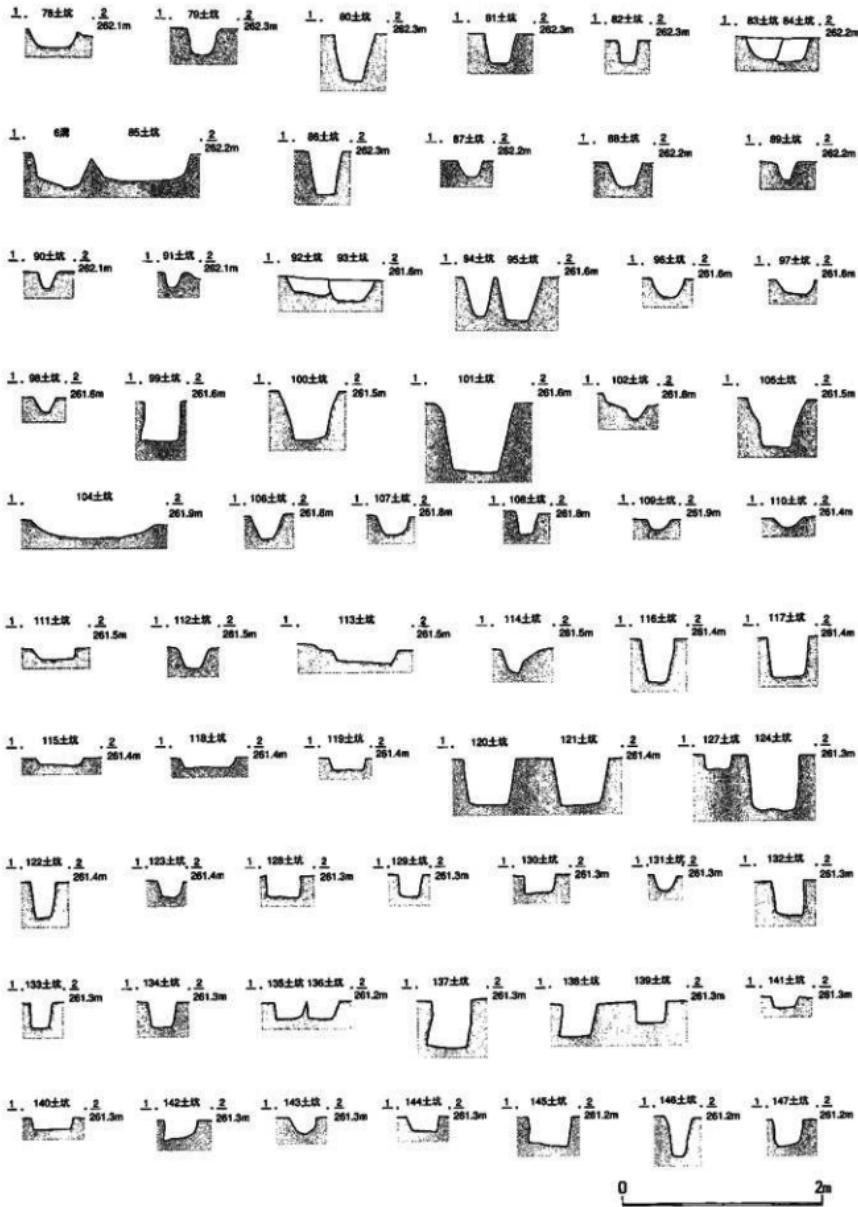


Fig.38 久保田1・2地区 土坑エレベーション(2)

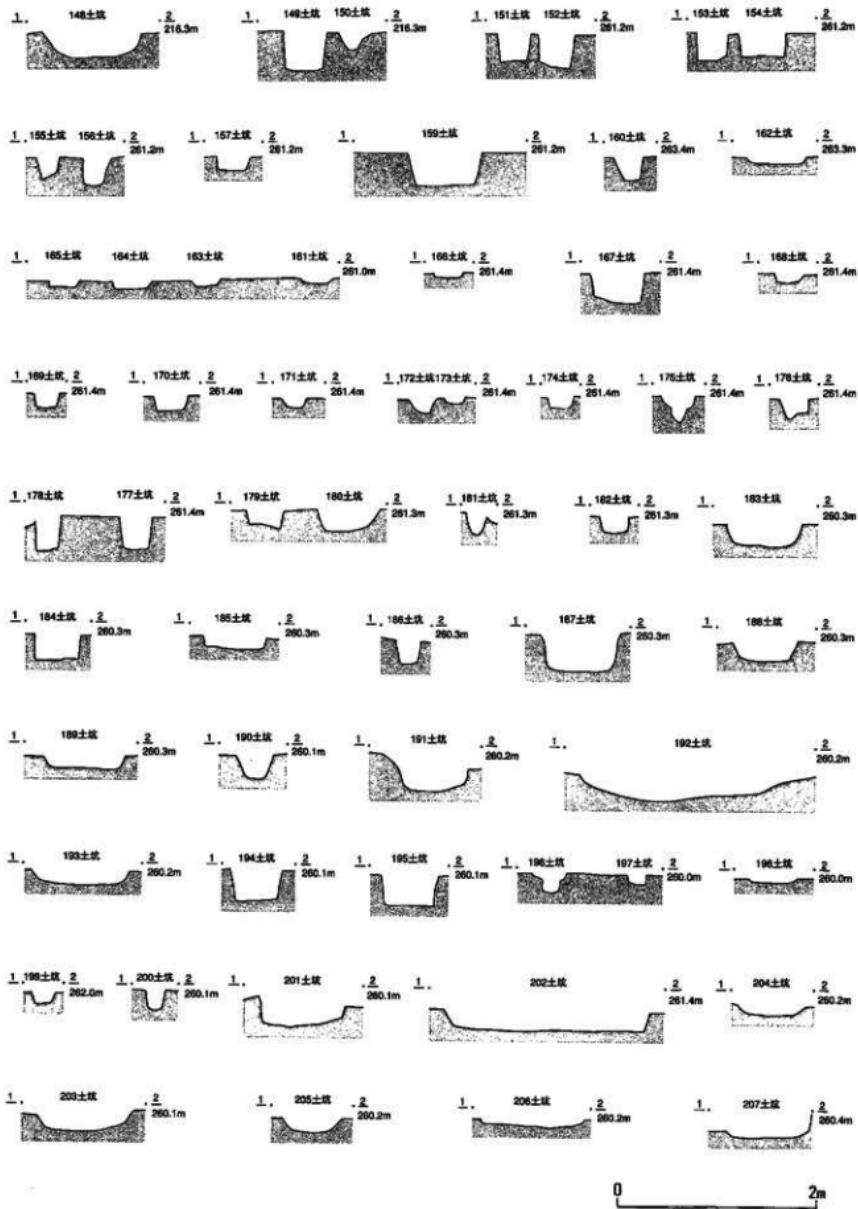
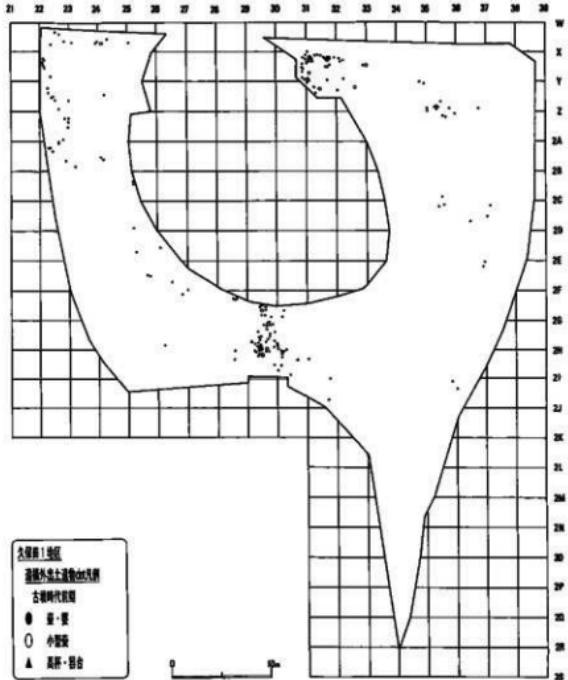
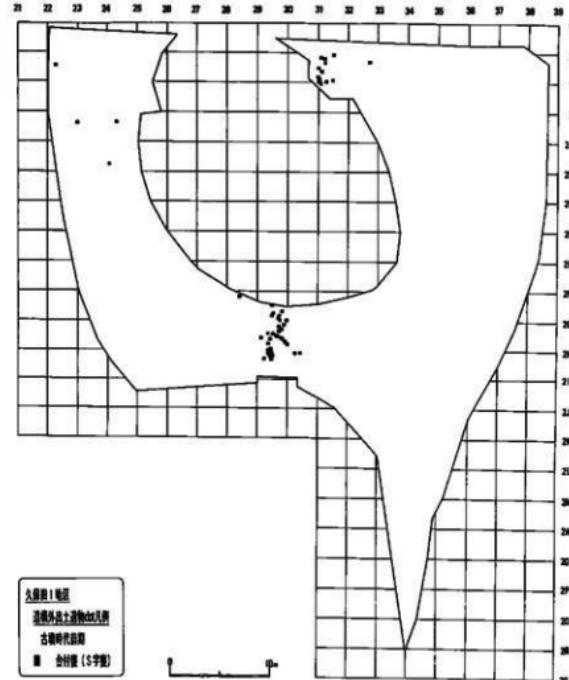


Fig.39 久保田1・2地区 土坑エレベーション (3)

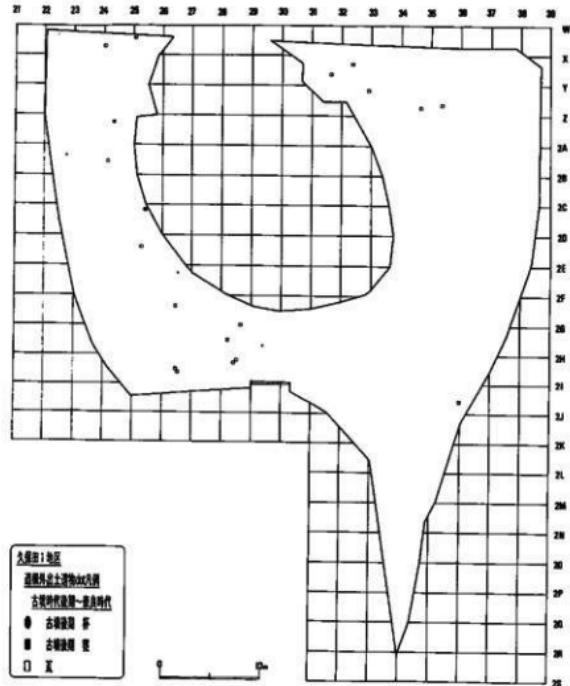


久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代前期: 瓶・壺・小型壺・高杯・器台・他)

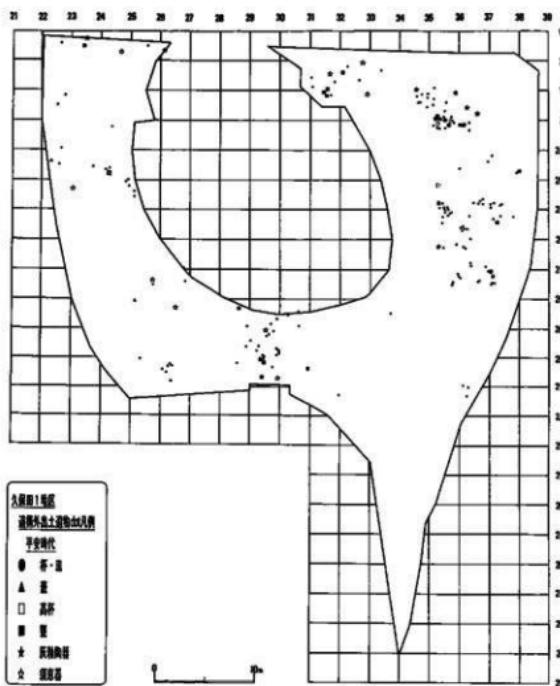


久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代前期: S字壺・他)

Fig.40 久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図 (1)

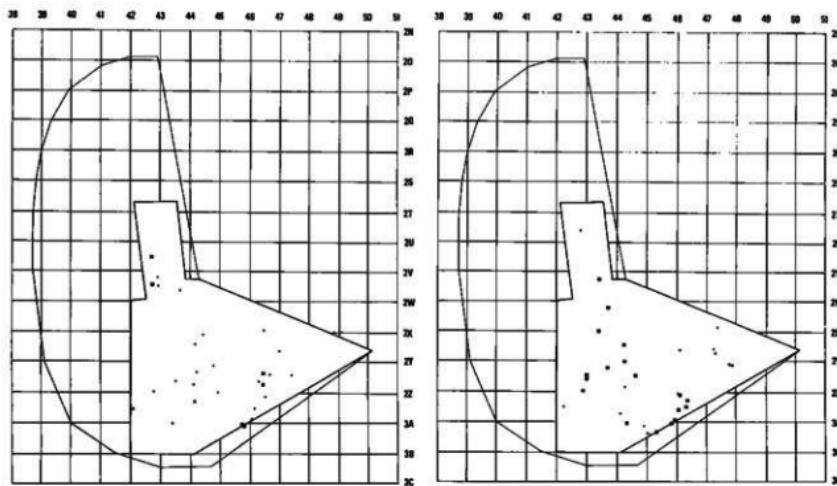


久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図
(古墳時代後期～奈良時代：杯・甌・瓦・他)



久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図
(平安時代：杯・甌・蓋・高杯・甌・他)

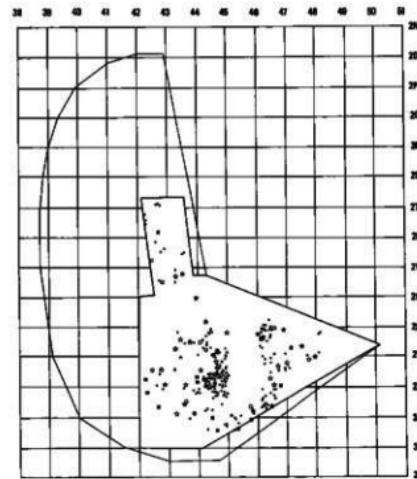
Fig.41 久保田1地区 遺構外出土遺物 分布図 (2)



久保田2地区
遺構外出土遺物分布図
古墳時代前期
● 壺・甕
▲ 器台・高杯
■ 台座(S字甕)



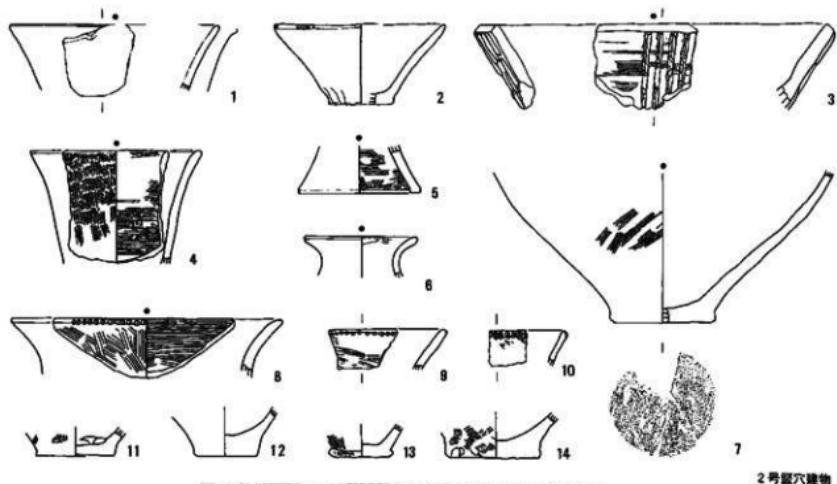
久保田2地区
遺構外出土遺物分布図
古墳時代後期
● 古墳時代 壺
■ 古墳時代 甕



久保田2地区
遺構外出土遺物分布図
平安時代
● 杯・皿
▲ 盖
■ 盆
★ 高脚碗
△ 高脚器



Fig.42 久保田2地区 遺構外出土遺物 分布図



2号竖穴建筑物

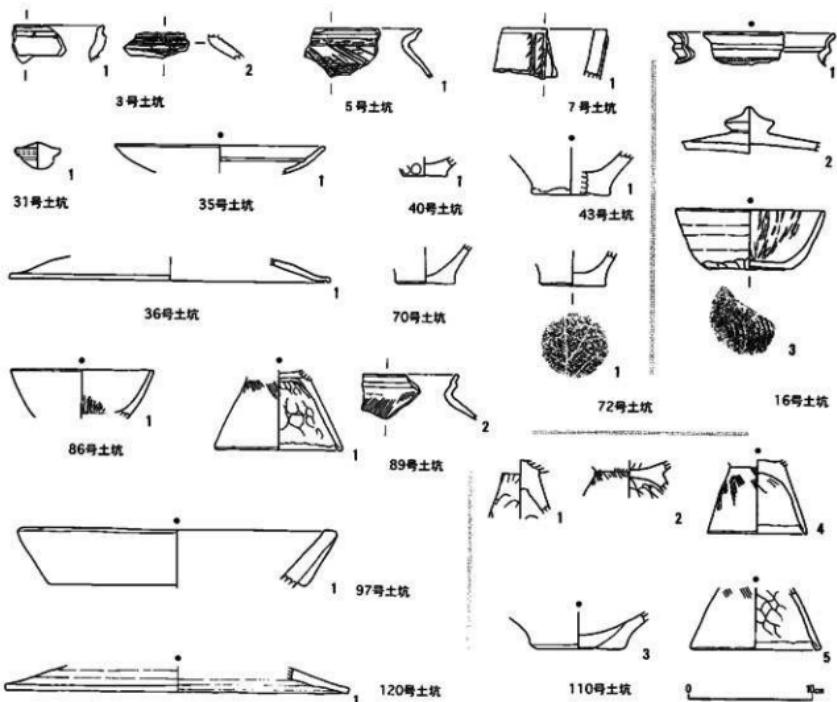


Fig.43 道々芽木地区 出土遺物 (1)

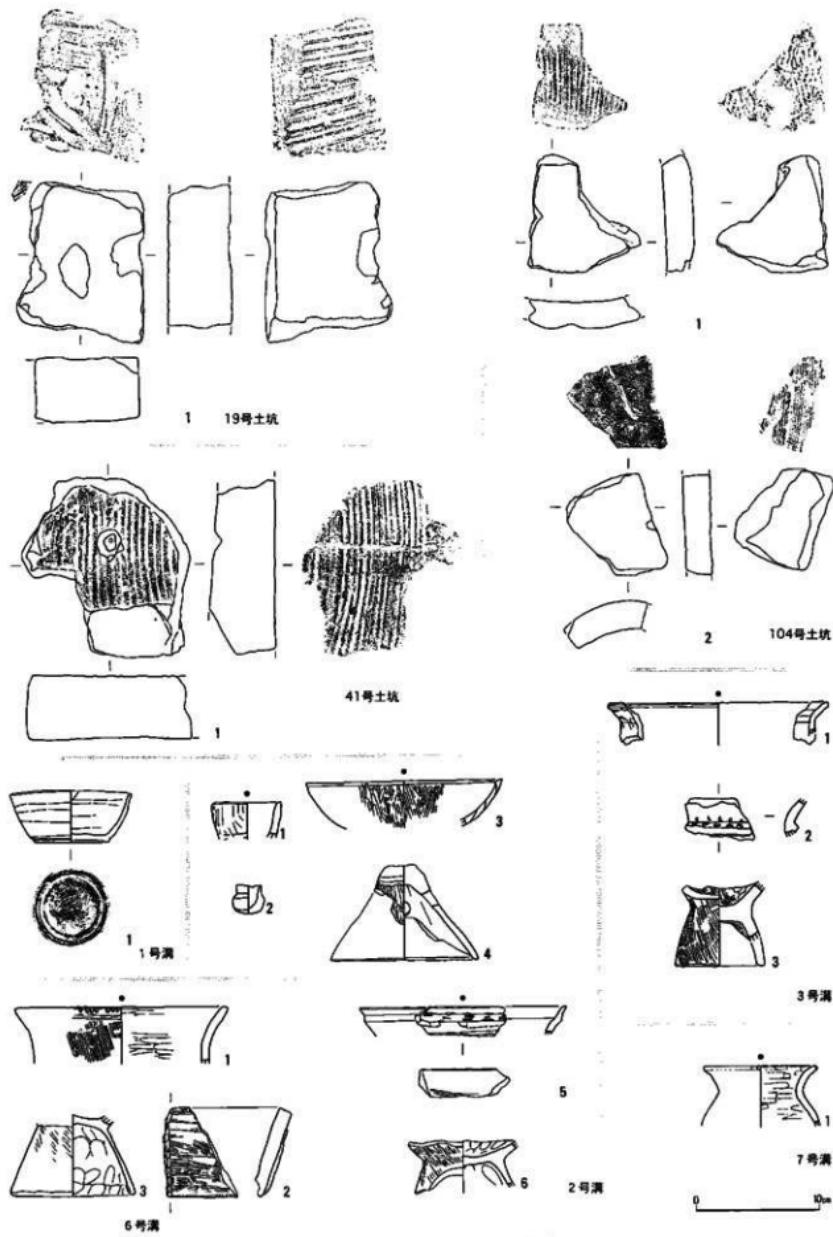
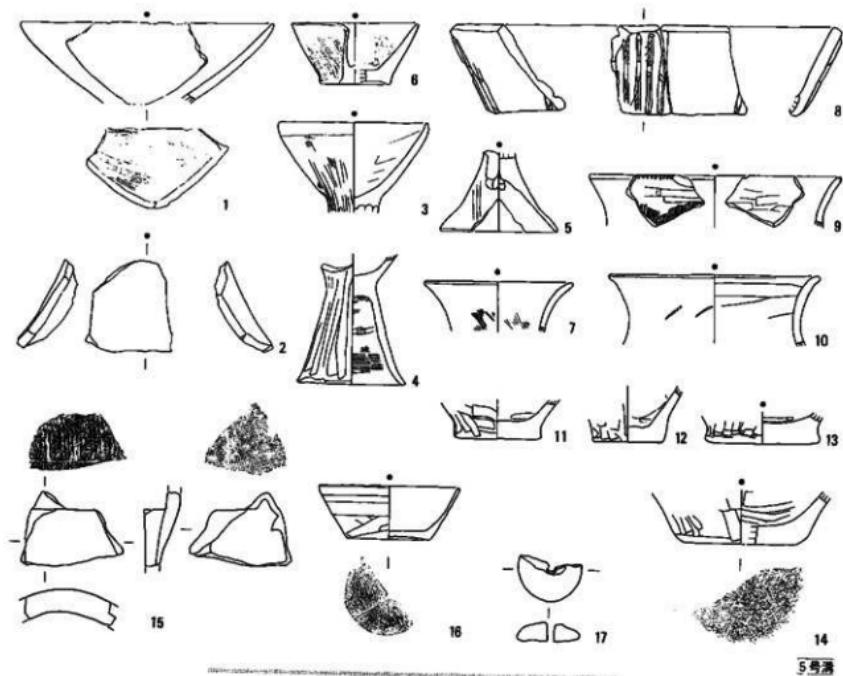
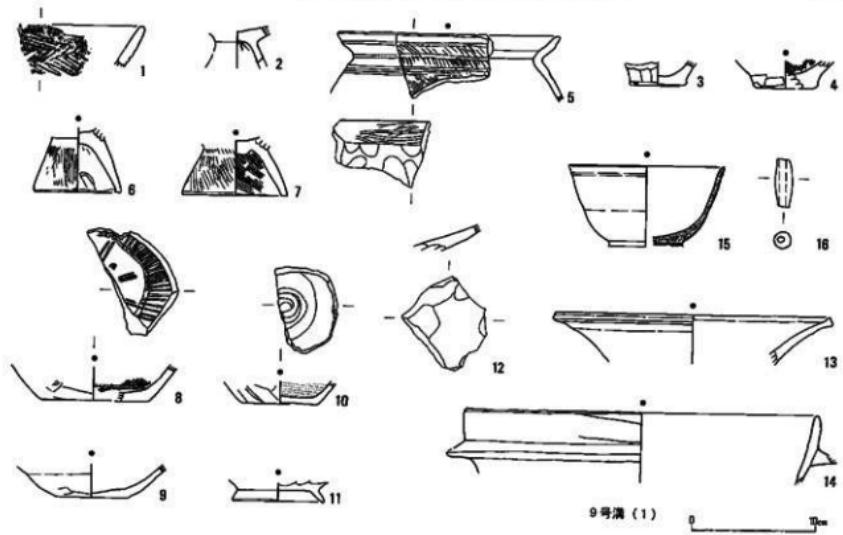


Fig.44 道々芽木地区 出土遺物 (2)



5号溝



9号溝(1)



Fig.45 道々芽木地区 出土遺物 (3)

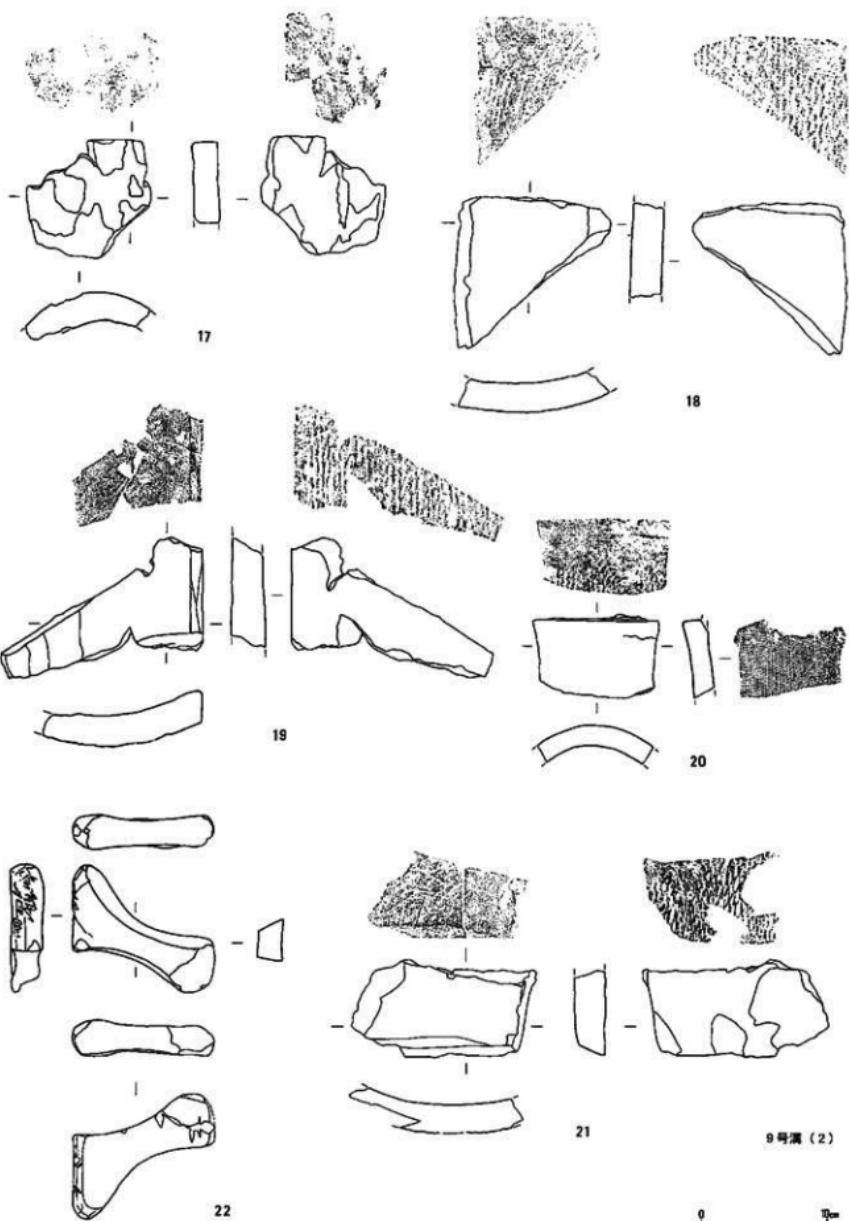


Fig.46 道々芽木地区 出土遺物 (4)

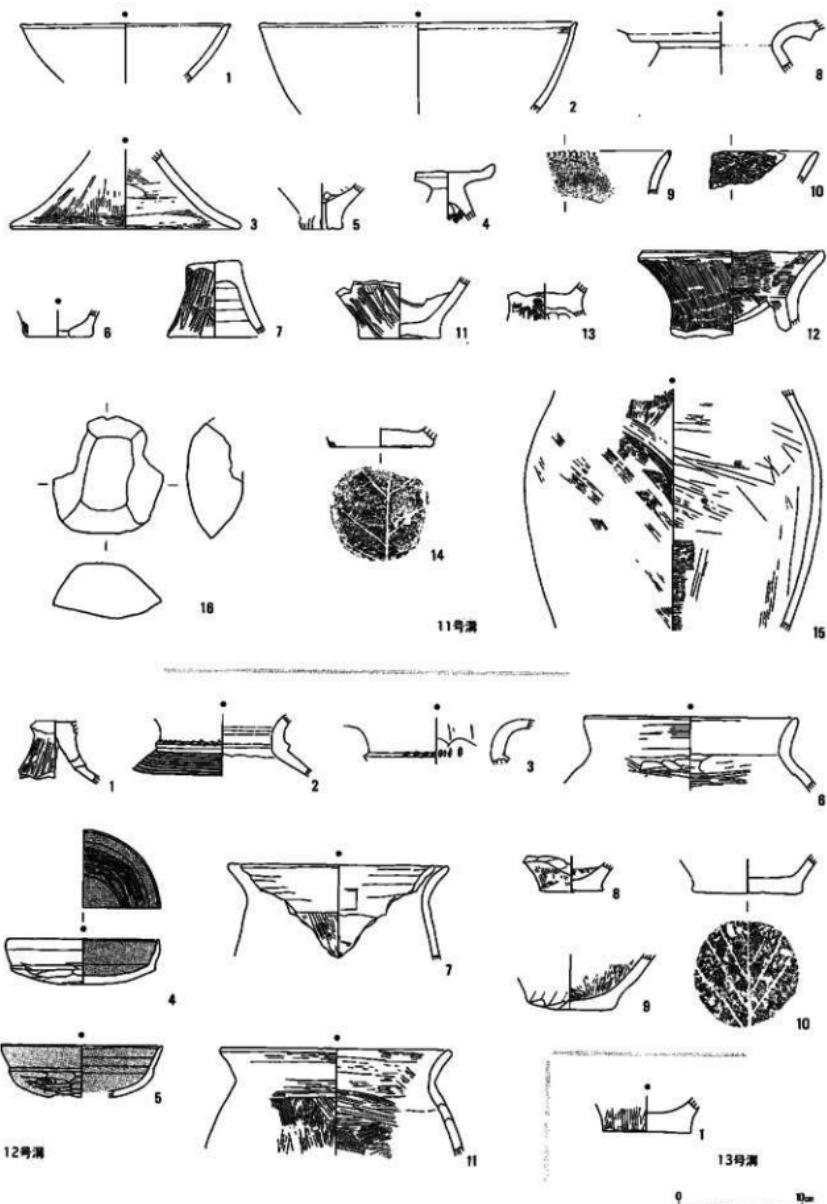
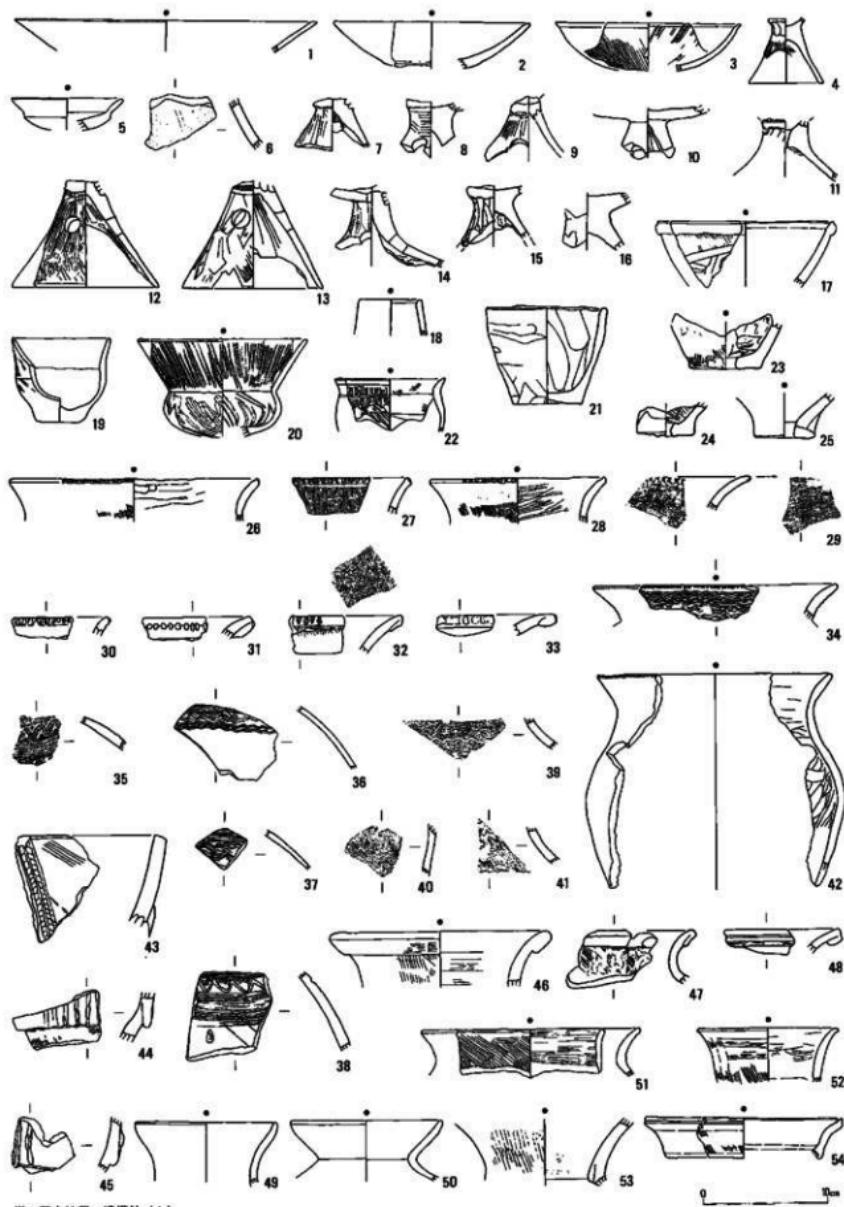


Fig.47 道々茅木地区 出土遺物 (5)



道々芽木地区 遺構外 (1)

Fig.48 道々芽木地区 出土遺物 (6)

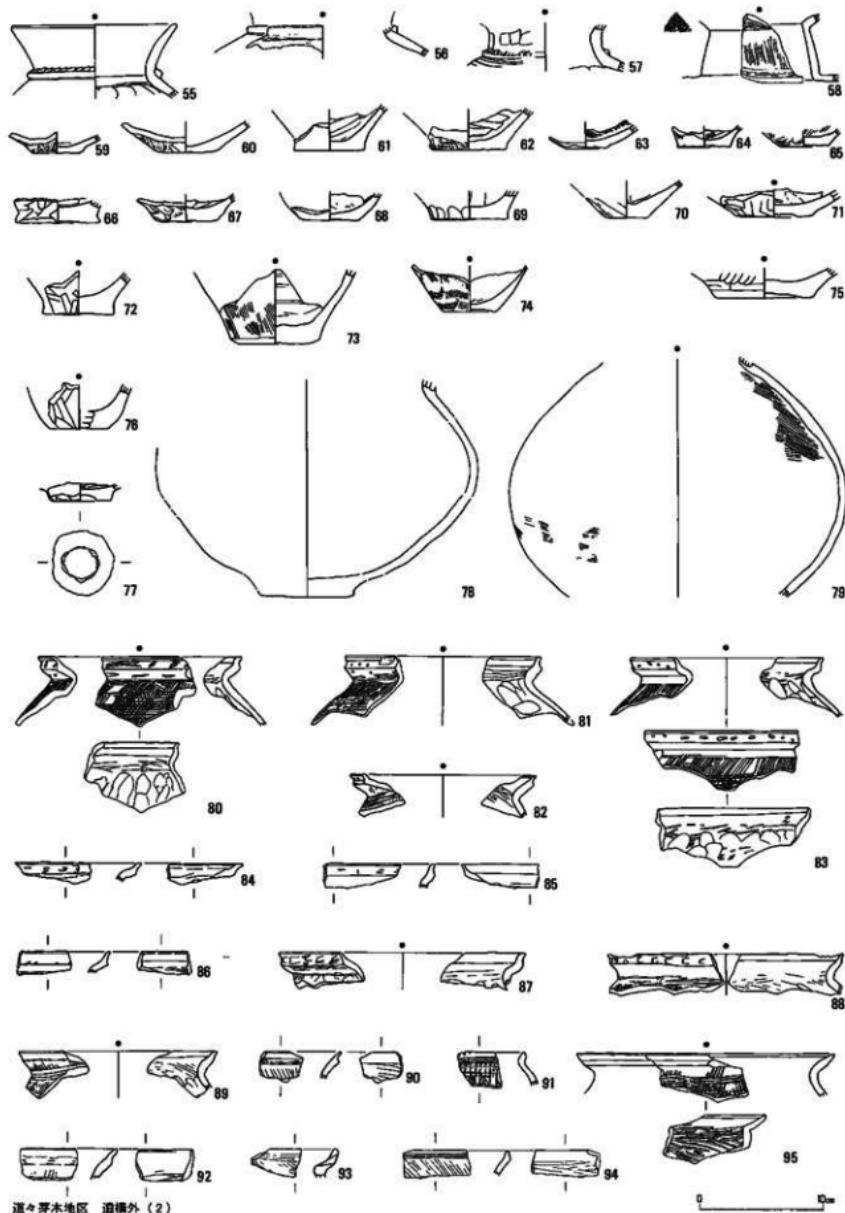
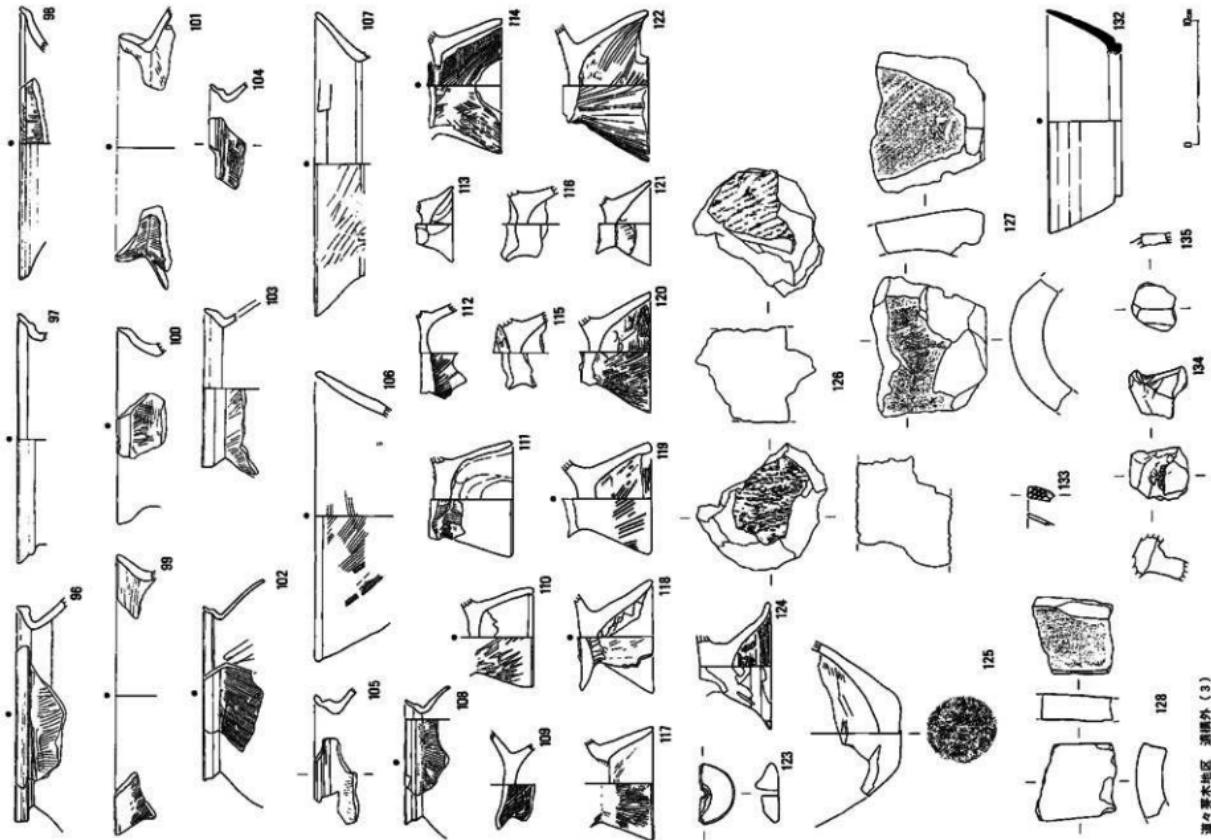
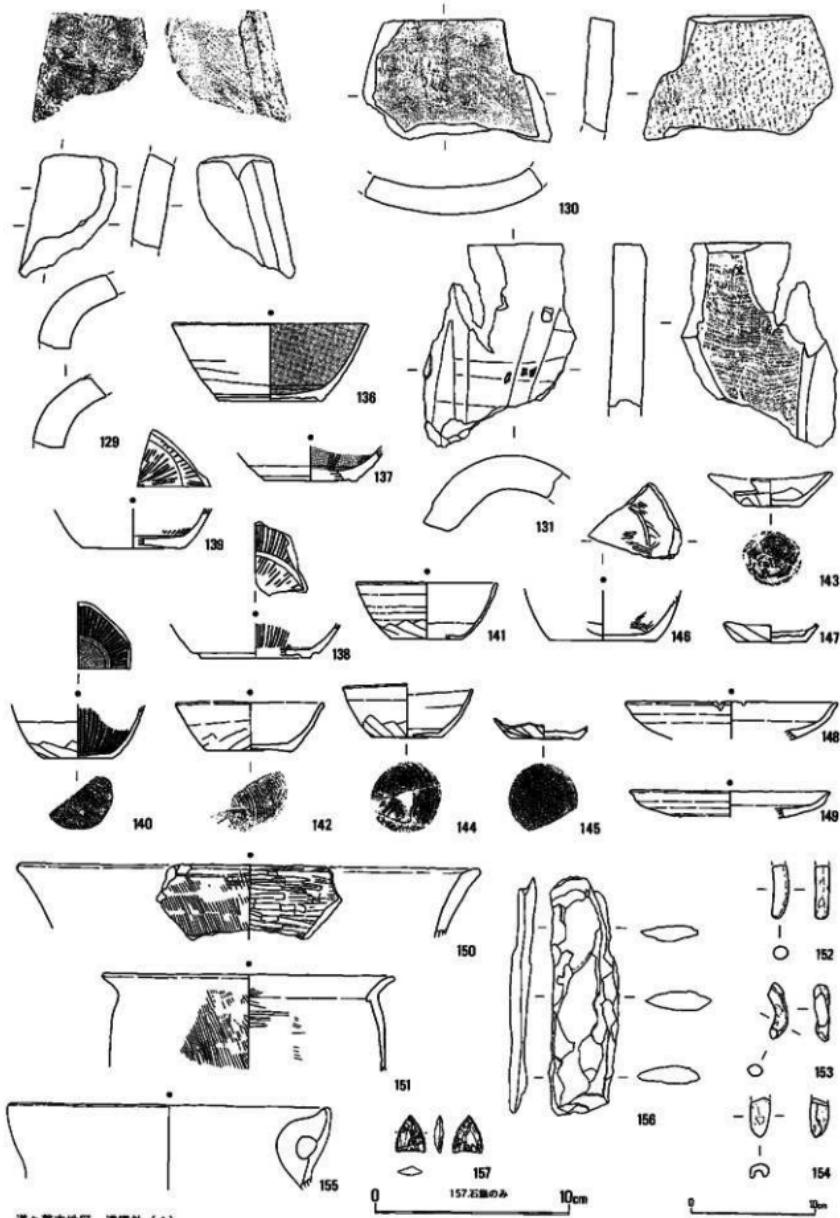


Fig.49 道々茅木地区 出土遺物 (7)



道县木地区 陶器外 (3)

Fig. 50 道县木地区 出土遗物 (8)



道々芽木地区 遺構外 (4)

Fig.51 道々芽木地区 出土遺物 (9)

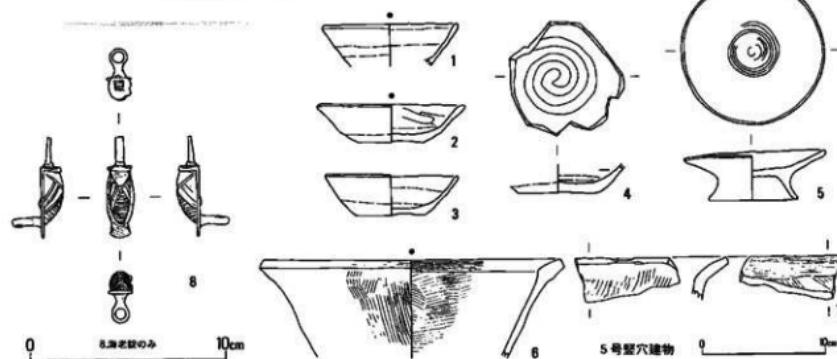
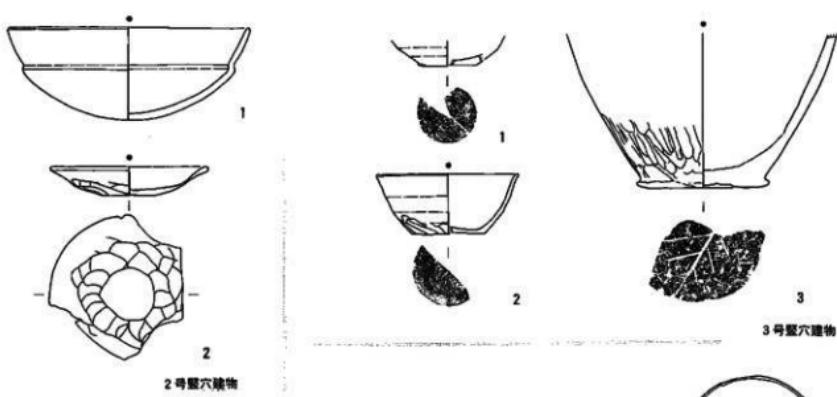
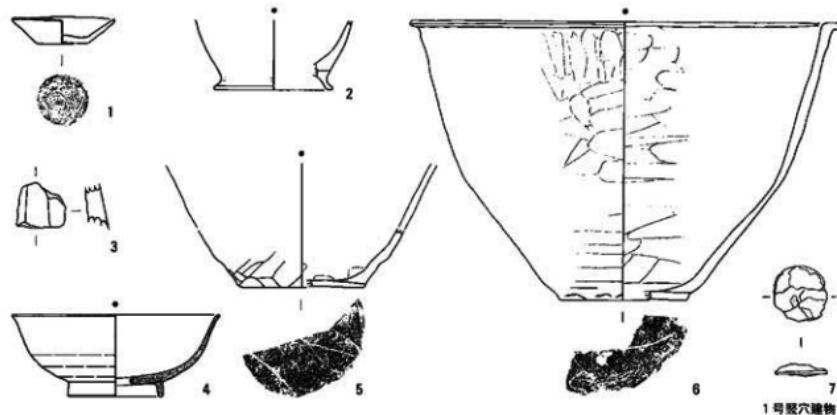
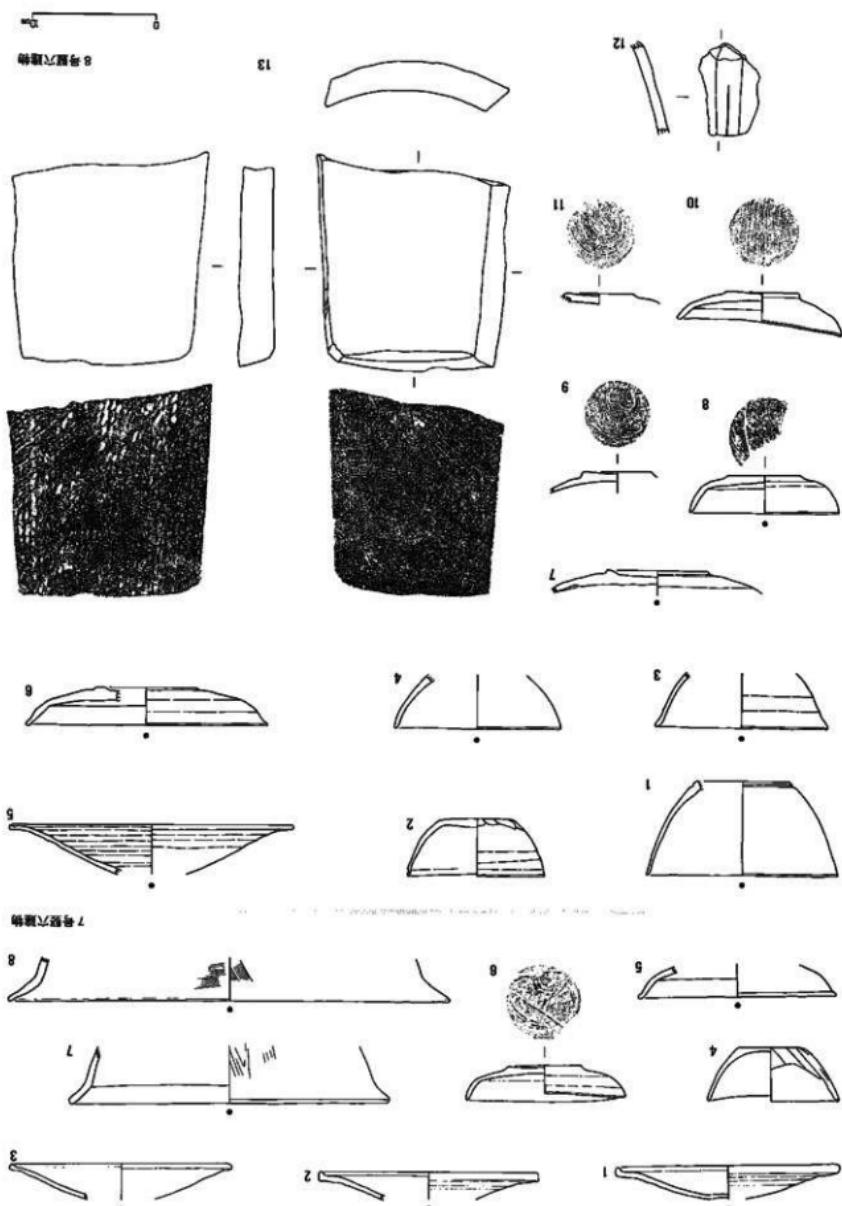


Fig.52 久保田1・2地区 出土遺物(1)

Fig. 53 大保田 1・2 地区 出土器物 (2)



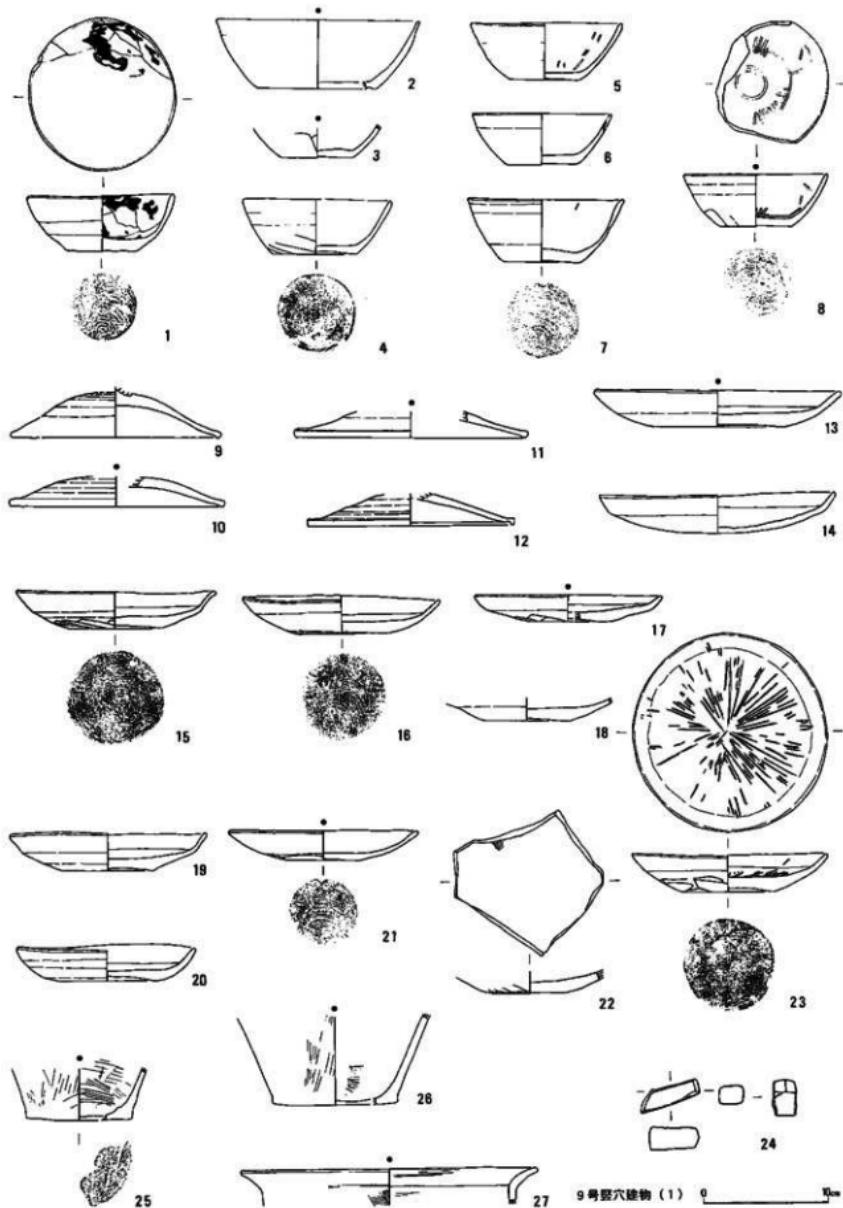


Fig.54 久保田1・2地区 出土遺物(3)

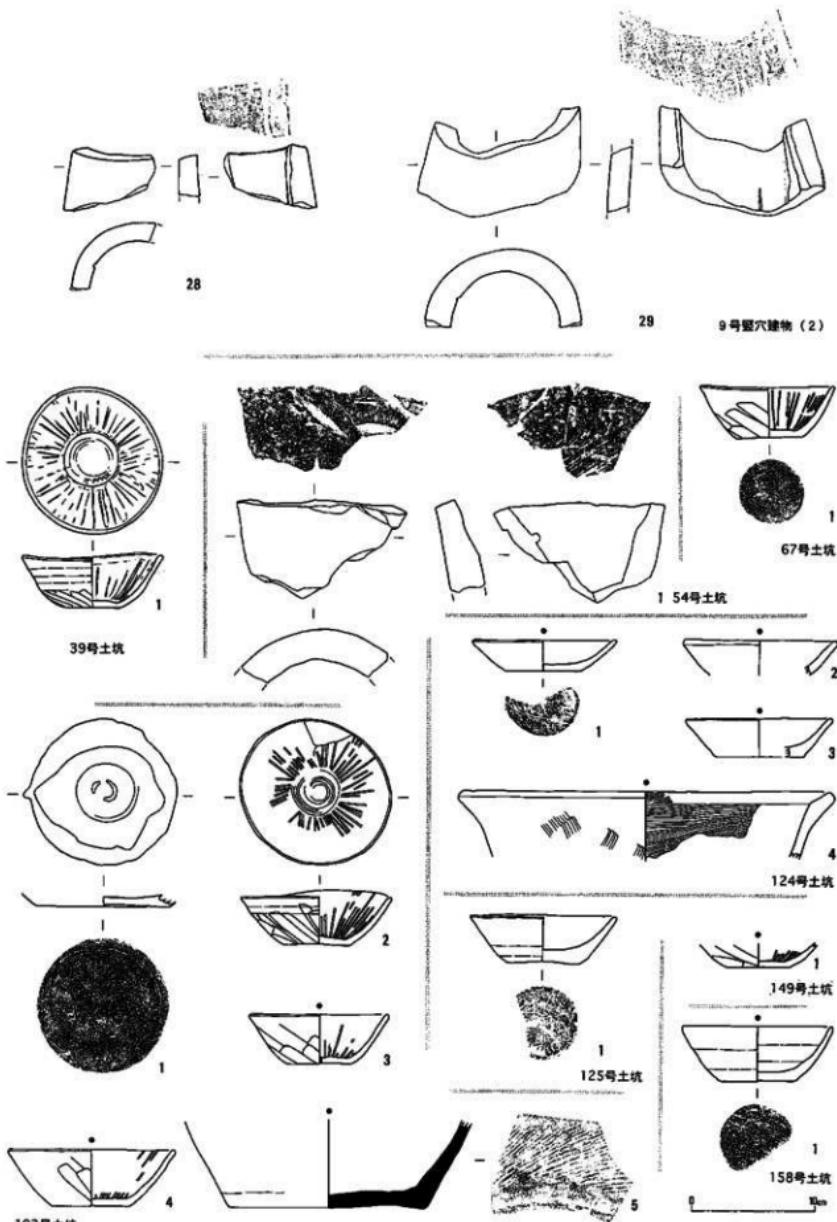


Fig.55 久保田1・2地区 出土遺物(4)

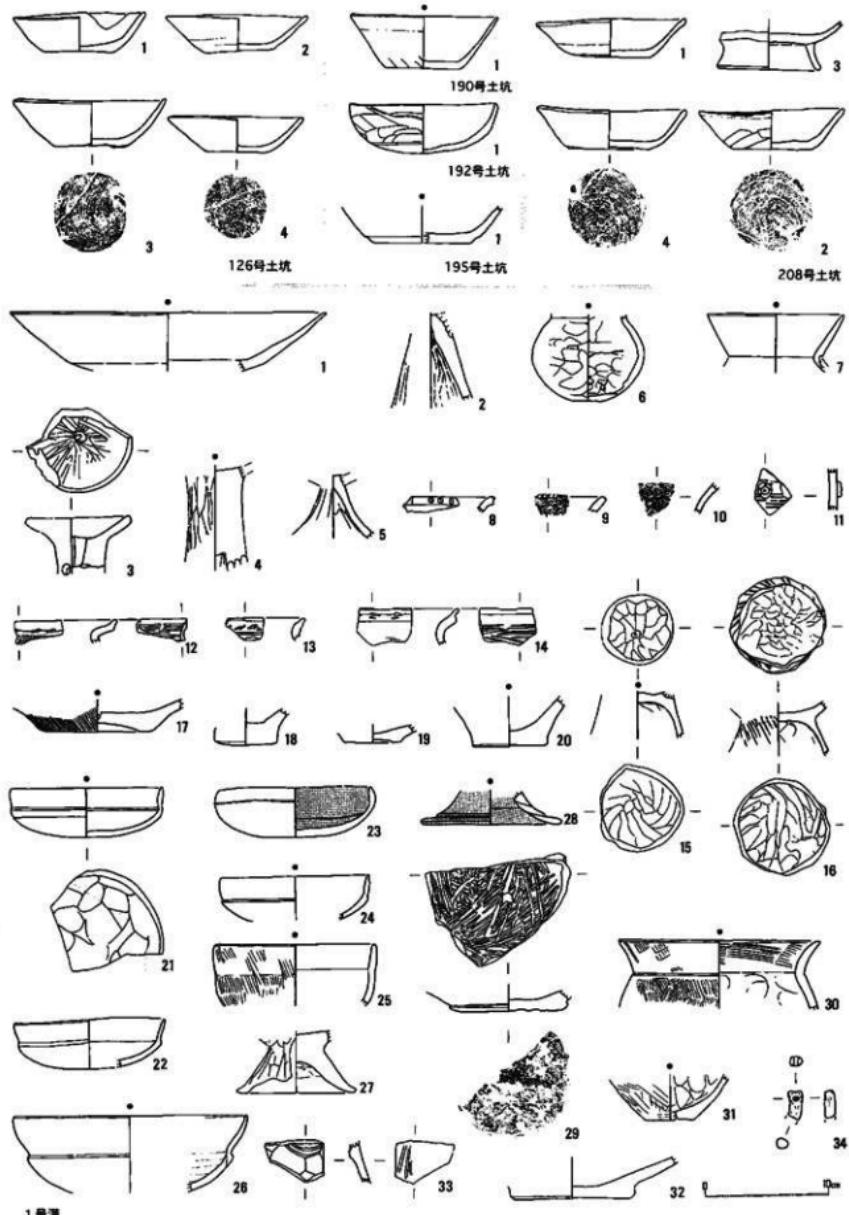


Fig.56 久保田1・2地区 出土遺物(5)

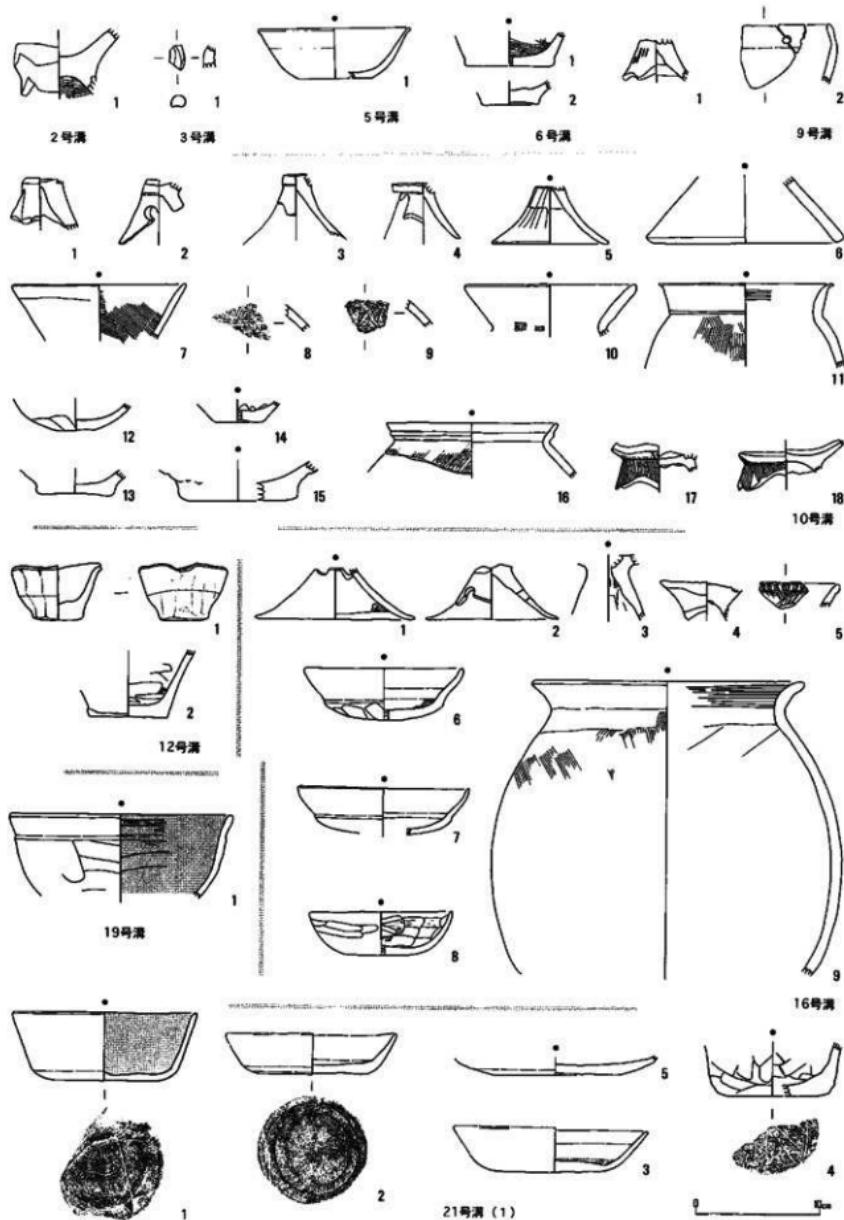
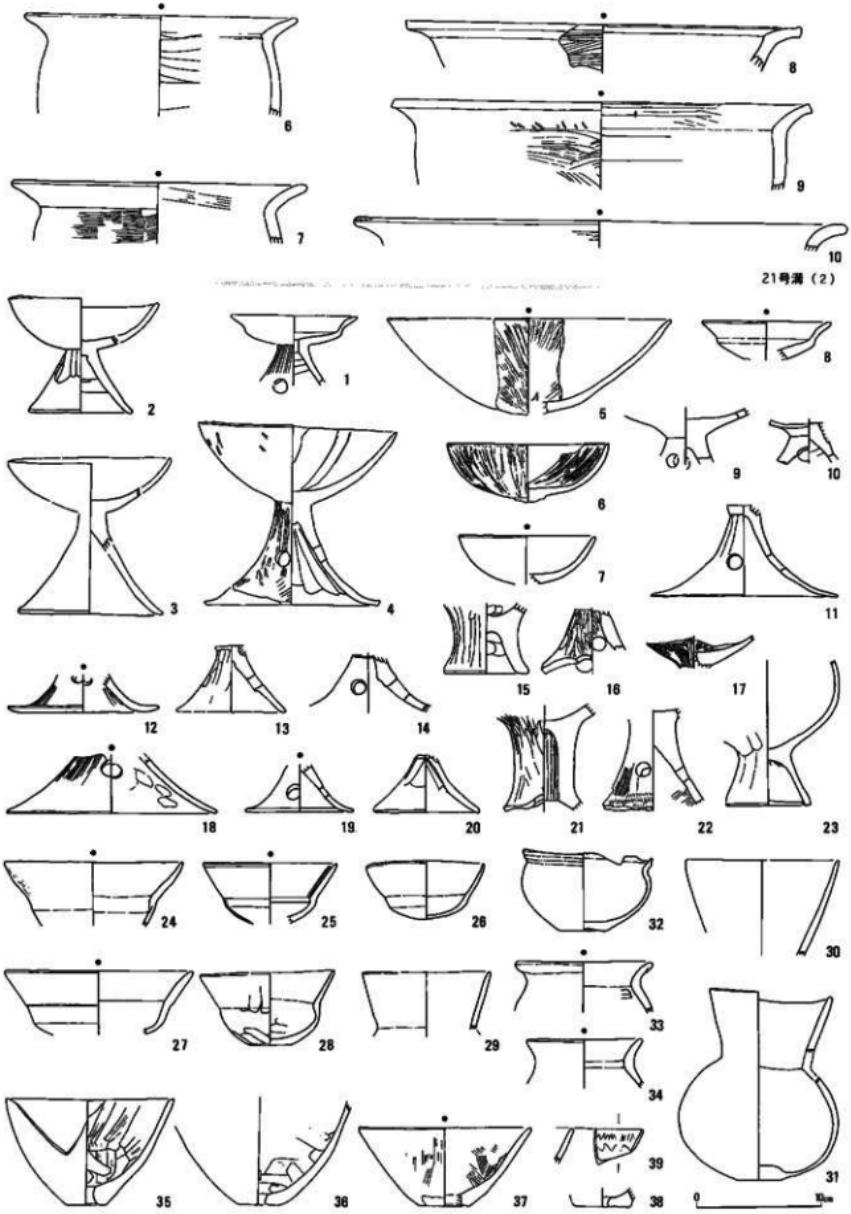
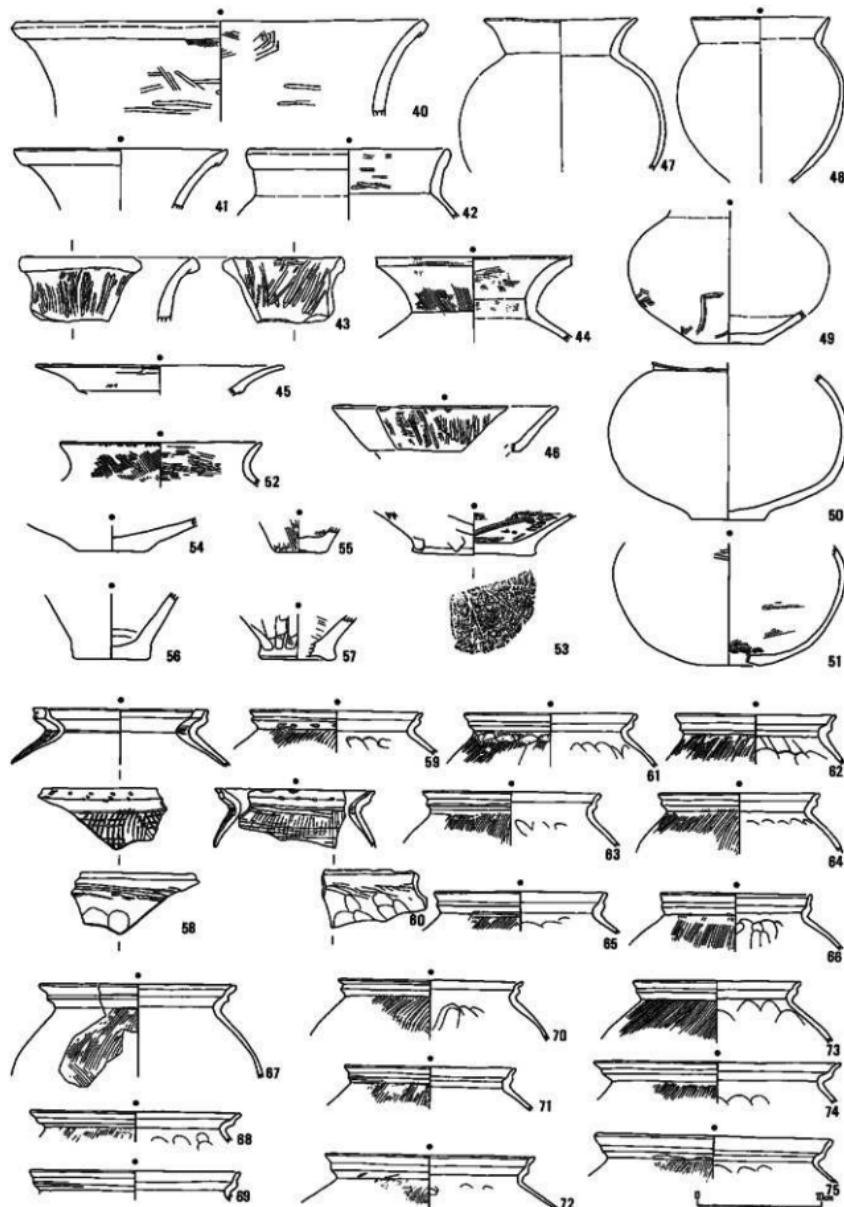


Fig.57 久保田1・2地区 出土遺物 (6)



2H-30土器集中(1)

Fig.58 久保田1・2地区 出土遺物(7)



2H-30土器集中(2)

Fig.59 久保田1・2地区 出土遺物(8)

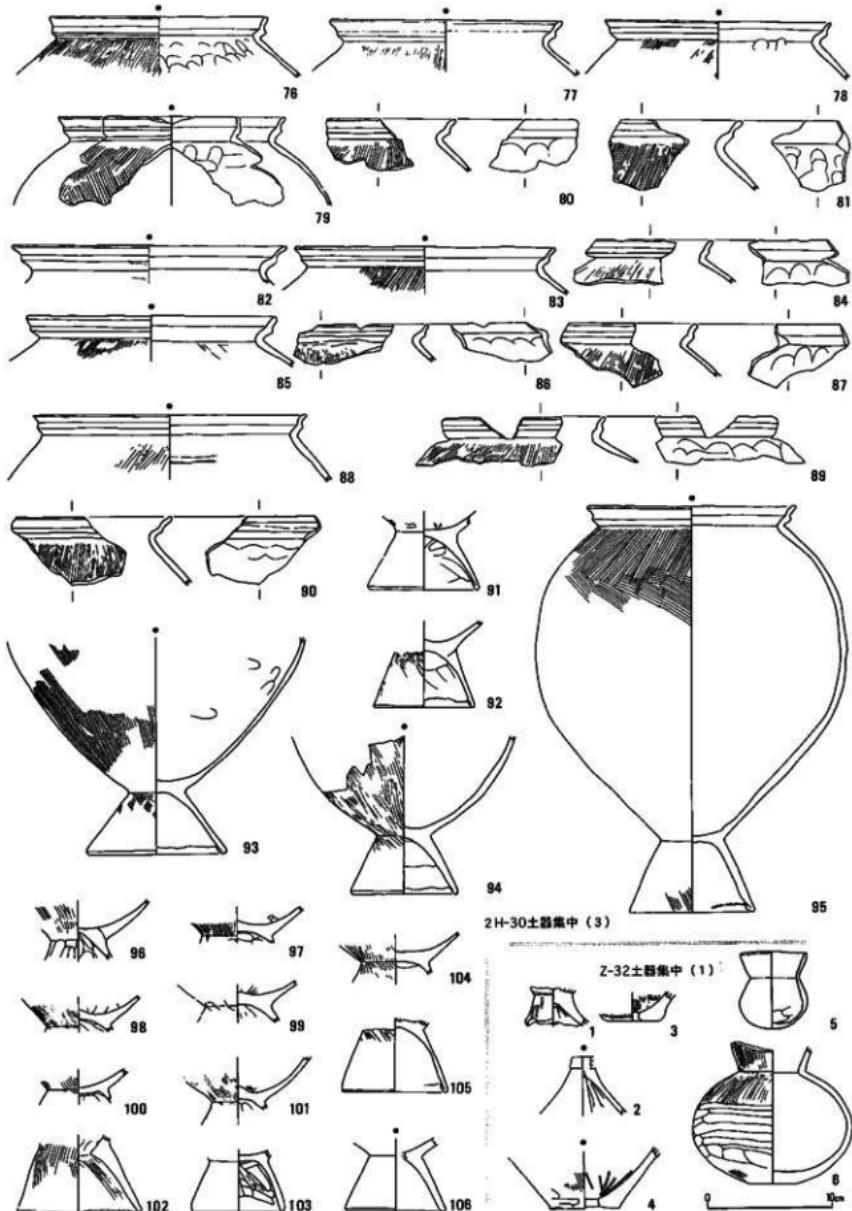
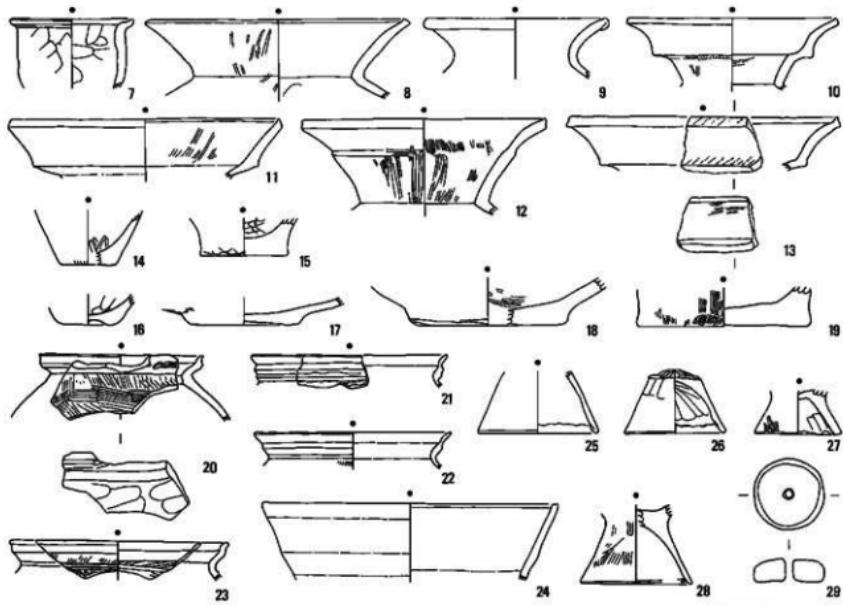
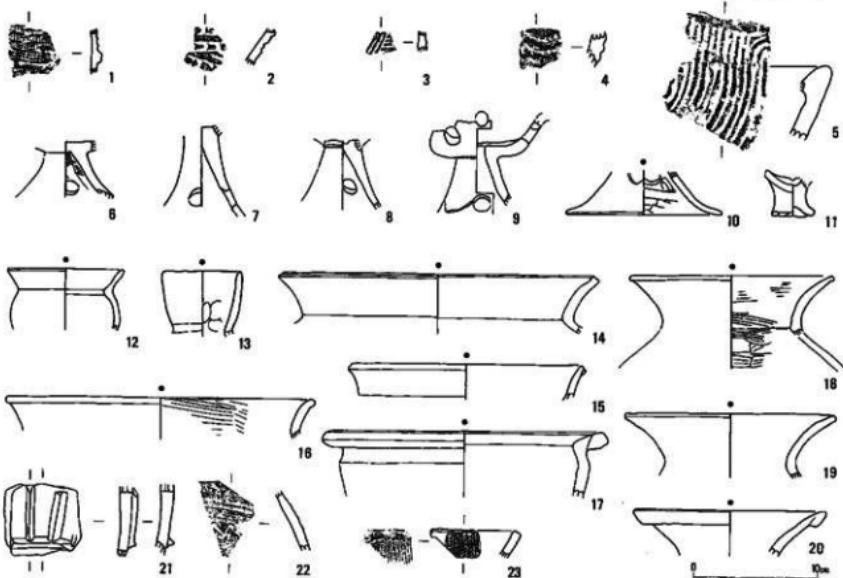


Fig.60 久保田1・2地区 出土遺物(9)

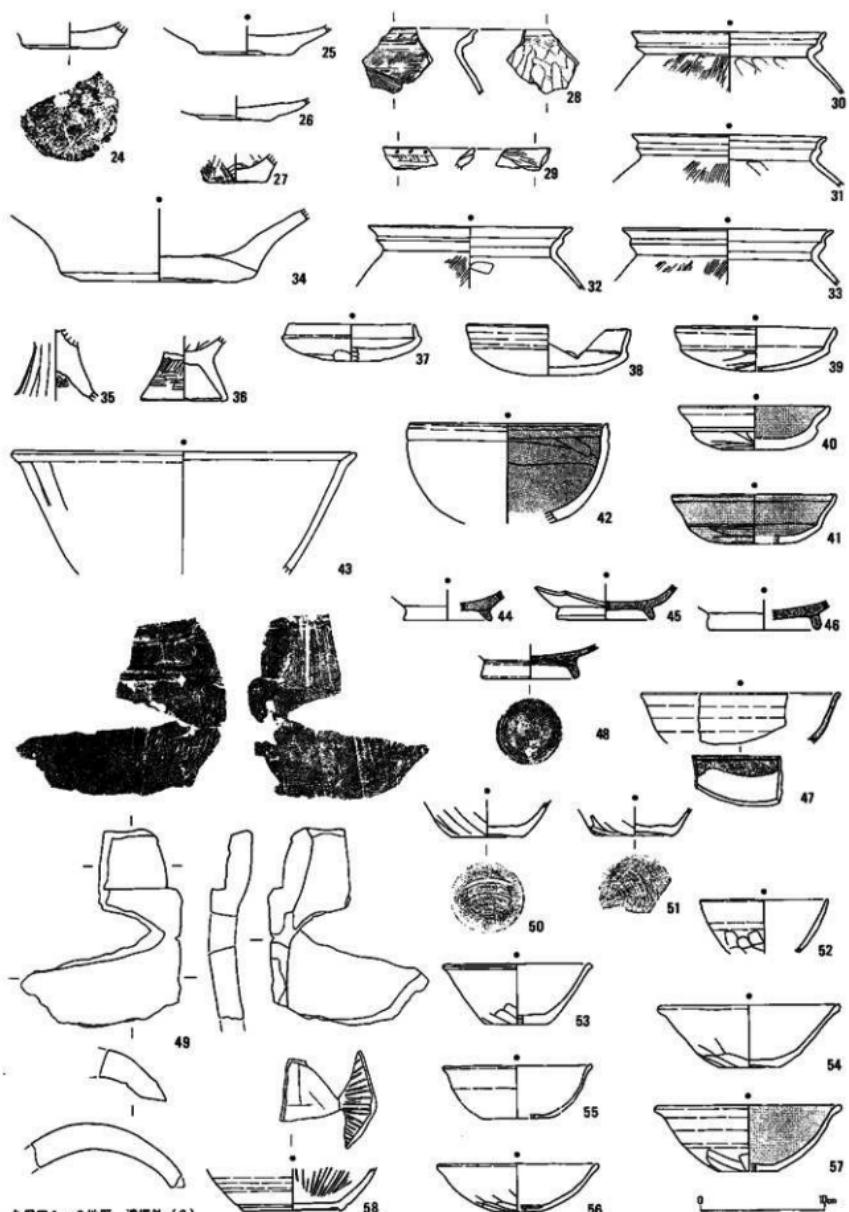


Z-32土器集中 (2)



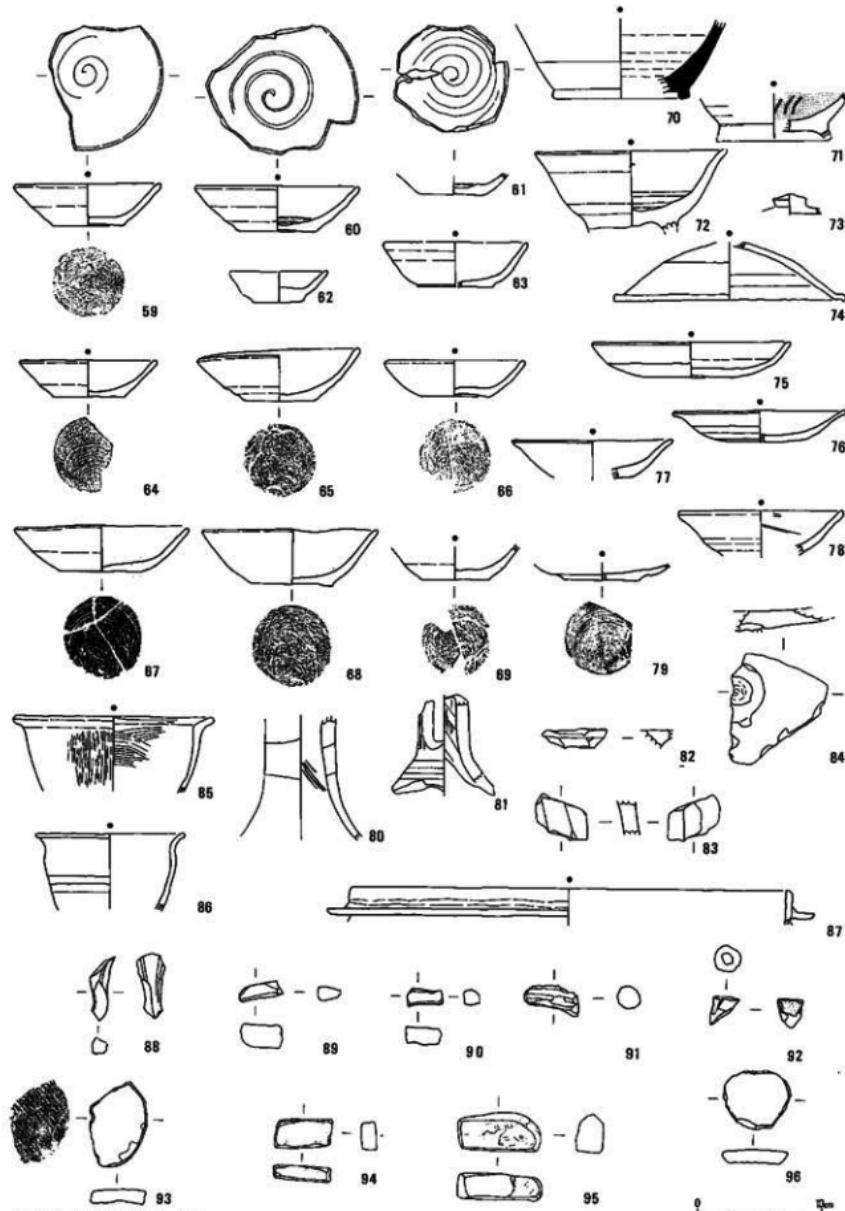
久保田1・2地区 遺物外 (1)

Fig.61 久保田1・2地区 出土遺物 (10)



久保田1・2地区 遺構外(2)

Fig.62 久保田1・2地区 出土遺物(11)



久保田1・2地区 遺構外(3)

Fig.63 久保田1・2地区 出土遺物(12)

久保田・道々芽木遺跡出土金銅製海老鏡の科学分析

川鉄テクノリサーチ株式会社 分析・評価事業部埋蔵文化財調査研究室

岡原 正明・小川 太一・菅 孝宏

1. はじめに

山梨県埋蔵文化財センターが平成12年に発掘調査し、久保田・道々芽木遺跡より出土した金銅製海老鏡について、学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析を含む自然科学的観点での調査のご依頼があった。調査の観点として、①金銅製海老鏡の完全非破壊による化学成分分析、②観察上の特記事項などを中心に調査した。その結果について報告する。

2. 調査項目および試験・検査方法

(1) 調査項目

資料No	名 称	出 土 位 置	重 量 g	着 磁 力	M C 反 応	外 観 写 真	電 類 分 析	成 分 分 析
1	金銅製海老鏡	No.5 堅穴建物跡	20.0	無	有	○	○	○

註：(1) M C 反応とはメタルチェック（金属探知機）への感應を言う。

(2) 重量計測と着磁力調査

計重は電子天秤を使用して行い、小数点1位で四捨五入した。着磁力調査については、直径30mm・1300ガウス（0.13テスラ）のリング状フェライト磁石を使用し、官能検査により「強・やや強・中・やや弱・弱」の5ランクで個別調査を行ったが、資料の着磁力は、認められなかった。その結果は、調査項目に表示した。

(3) 外観の観察と写真撮影

入念な観察を行うとともに、資料をmm単位まであるスケールを同時写しへ込みで、かつ光線の照射方向を工夫し表面状況が明瞭に識別できるようにカラーで撮影した。

(4) 蛍光X線による化学成分分析

化学成分分析は、堀場製作所製蛍光X線分析装置（MESA-500）を用いて、資料の4箇所（先端箇所、右肩箇所、右脇箇所、背中央箇所）について、完全非破壊分析を行った。この装置は測定室が径150mm、高さ70mm程度あるため、今回の資料はそのまま測定部に設置可能であった。測定条件は、X線管ターゲット（R h、ロジウム）、X線管電圧・電流（15KV・500μAと50KV・240μA）、測定時間（各50秒）計100秒、検出器（高純度シリコン検出器XEROPHY）、試料室雰囲気（真空）、照射面積（φ 5mm）で、測定元素範囲は、Na（ナトリウム）～U（ウラン）である。

(5) 電子顕微鏡分析

鍍金箇所と地金箇所を区別して、その形態と各々の箇所（φ 0.2mm）での化学成分分析を行うために、エネルギー分散型特性X線分析装置【KEVEX社性Quantum検出器、測定元素範囲B（ボロン）～U（ウラン）、143eV】を装備した日立製作所製電界放出型電子顕微鏡（FE-SEM）S-400を用いて分析した。

3. 調査結果および考察

資料の調査結果および考察を次に述べる。

外観写真を6頁に示した。長さ50.9mm×幅14.1mm、厚み11.3mmの海老鏡の弦受け部に付随する装飾金具である。施錠部は銹化により欠落している。非常に緻密な鋳物でセミの文様の上にやや白色かった金色の鍍金または箔押しが施されたような外観の試料である。腹部には角が面取りされた5.5mmφの弦通し孔のある突起があり、へそ部分に鋳込み跡が確認される。この腹面は、金の表面膜の残りも良好である。1.2mm厚さの外周部や頭部周辺に鋳バリが見られるが、全体に精巧緻密な資料である。全体に着磁力はないが、M C 反応はある。貴重な出

土遺物であるため、分析はすべて完全非破壊で行った。総重量20.0 gである。

6頁の外観写真に矢印で付記した4箇所（先端箇所、右肩箇所、右脇箇所、背中央箇所）の蛍光X線分析による分析値を5頁の表1にまとめて示した。蛍光X線による化学成分分析結果は、総じて銅（Cu）が43～57%で主要成分として検出され、次いで資料表面に付着した土壤由来の化合物によると考えられる珪素（Si）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、カルシウム（Ca）、カリウム（K）、チタン（Ti）等が測定箇所により若干異なるが比較的多く検出される。また、鉛（Pb）が2.1%～5.2%の範囲で検出されたが、錫（Sn）や亜鉛（Zn）は検出されないことから、本金銀製海老鋸の地金は、銅（Cu）と錫（Sn）の合金である青銅もしくは銅（Cu）と亜鉛（Zn）の合金である真鍮ではなく、単に鉛（Pb）が含まれる純銅製品で、鉛は鋳造を容易にするために、意図的に混入されたものか原料から混入したものかは定かではない。

また、本資料の特徴として、黒色の資料先端箇所を除き金（Au）が15%～20%と高い濃度で検出され、更に銀（Ag）や水銀（Hg）も各々～2%程度検出される。水銀（Hg）が検出されることから、古代の鍍金法の1つで1種の化学メッキである水銀と金の合金アマルガム法^{1) 2)}（金を水銀に熔かし、そのアマルガムを金属表面に塗布後、加熱して水銀を蒸発させる）が用いられた可能性が高い。

一方、7頁の資料の脇から腹部にかけての電子顕微鏡写真において、白く見える鍍金箇所の化学成分分析結果（表1の腹部鍍金微小箇所⑤）は、銅地金の影響が相対的に小さいことから、金メッキ層の成分組成を代表するものと考えられる。金メッキ層中の銀（Ag）の含有量は約1割程度あり、先の本資料数箇所の蛍光X線分析結果と類似している。したがって、検出された銀（Ag）は、主として鍍金時、金メッキ原料中に銅金属地金との接着性を向上（一種の銀蝋）²⁾させるために、意図的に添加されたものかもしくは金の不純物として合金化していたものと推定され、銅金属素材中の不純物ではないものと考えられる。

また、7頁の資料の脇から腹部にかけての電子顕微鏡写真における黒い地金部分箇所の分析では、炭素（C）以外の元素は検出されず、これは保存処理による合浸樹脂塗膜による影響と思われ、当初漆が塗布されていたかは処理後のため不明であり、また地金箇所の詳細な分析値が得られなかつたことは残念である。更に、今回の分析では、資料の埋め込み研磨による資料断面の形態観察は行わず、完全非破壊で行なったことから、金メッキ層の厚み等に関する知見も得られなかつた。

以上の分析結果をまとめると、

- ①地金金属は、鉛（Pb）が含まれる純銅製品で、
- ②鍍金方法は水銀と金の合金アマルガム法が用いられた可能性が高く、
- ⑤銀（Ag）は、主として鍍金時、金メッキ原料中に銅金属地金との接着性を向上（一種の銀蝋）させるために、意図的に添加されたかもしくは金の不純物として合金化していたものと推定される。

4. 参考文献

- 1) 国立歴史民俗博物館、「科学の目で見る文化財」(財)歴史民俗博物館振興会、p55,1992
- 2) 村上隆、「古代に挑戦する自然科学」第9回大学と科学公開シンポジウム組織委員会、p109,1995

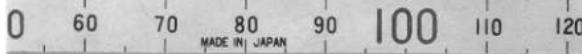
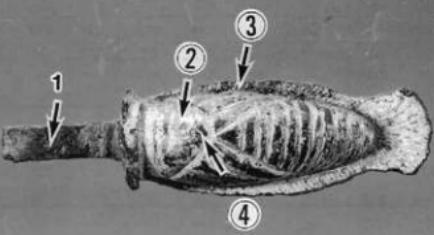


写真1 久保田・道々芽木遺跡出土の金銅製海老鉢の外観写真

表1 海老鉈試料の蛍光X線による化学成分分析結果

測定箇所	(重量%)													
	Cu (銅)	Si (珪素)	Fe (鉄)	Au (金)	Al (アルミニウム)	Pb (鉛)	Ag (銀)	Ca (カルシウム)	Tl (チタン)	K (カリウム)	Hg (水銀)	As (砒素)	S (硫黄)	Au% / Ag%
先端部①	57.01	12.59	17.59	4.80	3.59	2.10	1.46	0.35	0.27	0.19	0.04	-	-	77% : 23%
標準偏差(σ)	0.32	0.23	0.18	0.17	0.24	0.10	0.10	0.1	0.07	0.1	0.09	-	-	
右肩箇所②	49.14	21.88	1.45	18.21	-	5.16	1.55	0.73	-	-	1.88	-	0.00	82% : 8%
標準偏差(σ)	1.16	1.59	0.11	0.74	-	0.27	0.19	0.23	-	-	0.69	-	0.26	
右脇箇所③	43.68	21.31	1.04	20.04	6.27	2.89	1.24	0.58	-	-	2.15	0.88	-	94% : 6%
標準偏差(σ)	0.61	0.67	0.07	0.39	0.87	0.25	0.11	0.15	-	-	0.24	0.12	-	
背中央箇所④	45.11	24.19	1.26	15.75	4.21	4.85	1.51	0.60	0.12	0.36	2.03	-	-	91% : 9%
標準偏差(σ)	0.28	0.21	0.06	0.28	0.17	0.15	0.09	0.05	0.06	0.03	0.23	-	-	
腹部純金微小箇所⑤	8.82	-	-	82.24	-	-	8.94	-	-	-	-	-	-	90% : 10%
標準偏差(σ)	0.54	-	-	5.03	-	-	0.35	-	-	-	-	-	-	

1) 定量値は、検出された元素濃度の合計を100重量%として補正して求めた。

2) 標準偏差は、分析値の平均値に対するバラツキを表す値

3) Au% / Ag%項は、Au含有量とAg含有量を100%としたときの重量比率を表す。



写真2 試料の脇から腹部にかけての電子顕微鏡写真

久保田・道々茅木遺跡出土土師器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

甲府盆地北部に位置する久保田・道々茅木遺跡では、弥生時代後期から平安時代に至るまでの遺構・遺物が確認されている。その中で、特に平安時代とされる土師器は両遺跡において多数出土している。また、これらの土師器を伴う柱穴や堅穴建物跡などが検出されたことから、平安時代にムラがあったと考えられている。この大量に出土した土師器は、「甲斐型土器」と呼ばれている土器であり、8世紀中葉から10世紀末までに、甲斐国一円で消費されたといわれている。今回の発掘調査により、甲斐型土器は、久保田・道々茅木遺跡に隣接する大坪遺跡で集中生産されたと考えられているが、いまだ不明な点が多いとされている。

今回の分析調査では、甲斐型土器の生産に関わる資料作成を目的として、久保田遺跡より出土した甲斐型土器片の胎土分析を行う。甲斐型土器の胎土分析については、これまでに河西（1996a）により近接する狐原遺跡から出土した土器が調査されており、胎土中に含まれる岩石鉱物組成より、笛吹川流域の甲府盆地東半部で生産された可能性が高いと推定されている。さらに今回は、土器片の胎土分析とともに、その対照試料として道々茅木遺跡より採取された土壤試料の分析も行い、それが甲斐型土器の材料として使用された可能性を検討する。

1. 試料

試料は、久保田遺跡の7号堅穴建物跡より出土した壺（7住-26）、同建物跡より出土した壺（7住-8）、8号堅穴建物跡より出土した壺2点（8住-119、8住-124）の合計4点の土器片と道々茅木遺跡F-20・21グリッドの土層断面のIV層からX層までの各層から1点ずつ採取された土壤試料7点である。

土器試料のうち、7号建物跡から出土した2点は9世紀第3四半期のものとされ、8号建物跡から出土した2点は9世紀第2四半期のものとされている。また、添付資料による各土壤試料の色調と記載は、分析結果を示した表2に併記する。なお、依頼者による焼成実験によれば、土壤試料のうちV-X層の土が比較的土器に適しているとされている。

2. 分析方法

ここでは、胎土中に含まれる細砂径の重鉱物組成を胎土の特徴とし、土壤試料についても同様の処理を行い、重鉱物組成の比較を行う。以下に処理過程を述べる。土器試料は、適量をアルミナ製乳鉢で粉碎、土壤試料はそのまま、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm-1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物のプレバートを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉱物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

3. 結果

（1）土器試料

分析結果を表1、図1に示す。4点の試料のうち、7住-26と8住-124の2点については、重鉱物粒を100個以上計数することができなかったことから、グラフにはせずに比較的多い鉱物名を示すに留めた。

7住-26では斜方輝石と黒雲母、8住-124は斜方輝石と角閃石が、それぞれ若干多く認められた。なお、こ

これらの試料は、その分析処理量が下記の重鉱物の充分に得られた試料のそれと大差ない（表1参照）ことから、重鉱物の含有量が少ないと胎土の特徴とすることができる。

7住-8と8住-119については、ほとんど角閃石のみからなる重鉱物組成を示し、他に極めて微量の斜方輝石または不透明鉱物が含まれるのみである。なお、これら2点の試料の軽鉱物分および極細砂分には、多量の黒雲母片が認められた。黒雲母は、岩石学上本来は重鉱物に入るべき鉱物ではあるが、おそらく風化したことにより本分析処理における重液よりも比重が軽くなつたため、重鉱物として回収できなかつたと考えられる。したがつて、これら2点の胎土における重鉱物組成の特徴として、黒雲母を多量に伴うことも加えたい。

(2) 土壤試料

分析結果を表2、図2に示す。全試料ともに斜方輝石が多く、50~70%を占め、他に少量の单斜輝石と不透明鉱物を伴う。また、IV層からX層までは微量の角閃石をともない、V層からX層までは少量の角閃石を伴う。さらに、VI層については、他の試料に比べて「その他」とした未分解粒が多く、IX層には緑レン石族の鉱物（おそらくゆうれん石）

が少量含まれる。

4. 考察

今回の分析調査により、甲斐型土器とされた土師器には、2種類の胎土が認められた。7住-26と8住-124の重鉱物量の少ない胎土と、7住-8、8住-119のほとんど角閃石からなる重鉱物組成

表2 土壤試料の重鉱物分析結果

層名	カ ン ラン 石	斜 方 輝 石	单 斜 輝 石	角 閃 石	ザ ク ロ 石	電 気 石	緑 レ ン 石 族	不 透 明 鉱 物	その 他	合 計	色調	注記
IV層	0	170	36	1	0	0	0	17	26	250	暗褐色	古墳～平安遺構確認面
V層	0	152	45	6	0	0	0	24	23	250	黒褐色	IV層より黒色帯びる
VI層	0	110	36	3	0	0	0	21	80	250	灰褐色	粘土層
VII層	0	167	25	3	0	0	0	28	27	250	褐色	灰色を帯びる粘質土
VIII層	0	198	18	10	0	0	0	13	11	250	褐色	灰色を帯びる粘質土
IX層	1	65	4	9	1	0	19	15	16	130	黑色	腐殖植物を含む
X層	0	84	15	7	1	1	0	6	7	121	灰白色	バミス状の砂質土

を示しかつ黒雲母を伴う胎土の2種類である。前述した河西(1996a)による孤原遺跡の甲斐型土器でも2種類の胎土が呈示されているが、そのうちの1つは、上記の本分析における後者の胎土とほぼ一致する。河西(1996a)のもう一方の胎土と本分析の前者の胎土とでは、黒雲母の含有量に違いが認められることから、おそらく異なる胎土である可能性が高い。したがつて、本分析結果と河西(1996a)とにより、甲斐型土器における3種類の胎土を確認したといえる。なお、河西(1996a)は、甲斐型土器の胎土の違いを器種の違いに対応するとしたが、本分析結果では器種との対応関係は認められない。また、本分析結果では9世紀第3四半期と同第2四半期の試料があるが、時期の違いとも対応しない。現時点では、本分析と河西(1996a)とを合わせても6点の試料による結果であることから、これら3種類の胎土の違いが何に起因するかを解明するた

表1 土師器試料の重鉱物分析結果

試料名	斜方輝石	角閃石	黒雲母	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計
7住-26	3	1	2	1	1	19	27
7住-8	2	246	0	0	0	2	250
8住-119	0	245	0	0	3	2	250
8住-124	5	9	1	0	4	11	30

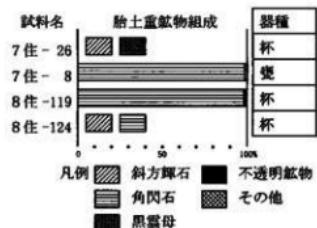


図1 土師器給土の重鉱物組成

重鉱物組成

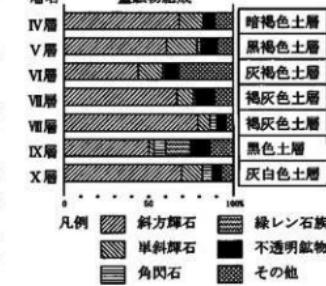


図2 土壤試料の重鉱物組成

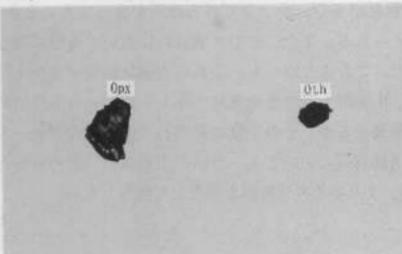
めには、今後の分析例の蓄積を必要とする。

道々茅木遺跡で採取された土壌試料については、重鉱物量が多く、かつ全て斜方輝石が優占することから、現時点では甲斐型土器の材料になった可能性は低いと考えられる。また、どの土壌試料においても軽鉱物分や細粒分の中にはほとんど黒雲母を認めることができなかった。このことからも、これら土壌試料が甲斐型土器に使われた可能性は低いといえる。道々茅木遺跡に隣接し、甲斐型土器の生産遺跡と考えられている大坪遺跡では、表層から深度1.5m程までは斜方輝石の多い黒色土が堆積するが、その下位に角閃石と黒雲母の多いシルト層が認められる（河西、1996b）。したがって、道々茅木遺跡周辺においても、今回の土器試料に認められたような重鉱物組成を示す土層が分布する可能性がある。今後、より多くの分析例を得た上で検討したい。

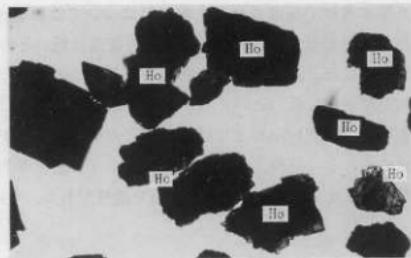
引用文献

- 河西 学 (1996a) 狐原遺跡出土甲斐型土器の胎土分析. 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第120集 狐原遺跡－山梨県森林公園金川の森建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書－, p.91-93,山梨県教育委員会・山梨県林務部.
- 河西 学 (1996b) 大坪遺跡のテフラ分析. 山梨県甲府市大坪遺跡発掘調査報告書Ⅲ－ケアハウスグレーブハウス建設に伴う調査－, p.72-75, 甲府市遺跡調査会・甲府市教育委員会・社会福祉法人緑樹会.

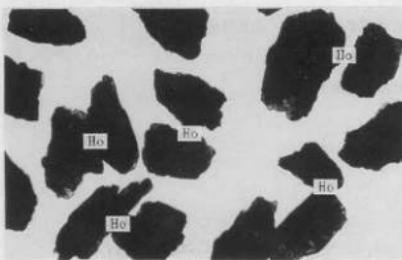
図版1 胎土および土層中の重鉱物



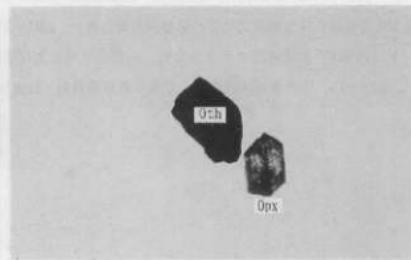
1. 7住-26 杯



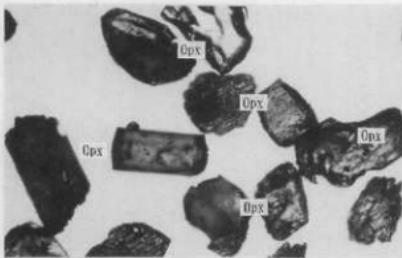
2. 7住-8 瓢



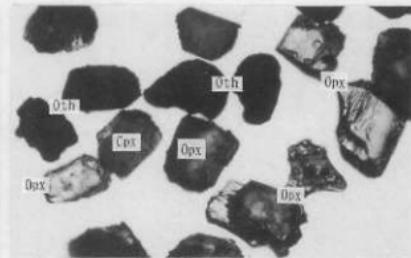
3. 8住119 杯



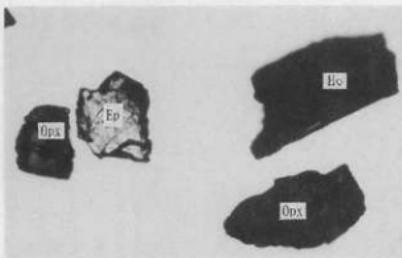
4. 8住-124 杯



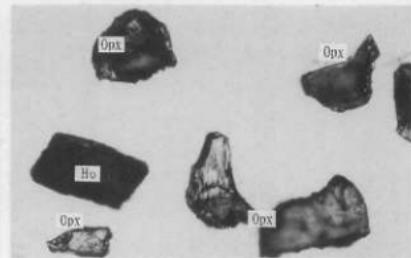
5. IV層(暗褐色土層)



6. VI層(灰褐色土層)



7. IX層(黒色土層)



8. X層(灰白色土層)

Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石, Ep: 緑レン石族, Oth: その他.

0.5mm

久保田・道々芽木遺跡出土の軟質土師器の観察

山梨文化財研究所 河 西 学

本遺跡では、一般的な土師器とともに、非常に軟質で通常の方法では崩壊してしまい土層中から取り上げることのできない軟質土師器が複数個体出土した。遺跡周辺には、大坪遺跡や川田遺跡・上土器遺跡など古代の生産関連遺跡が分布する。これらの軟質土器は、土器製作過程での焼成がなされていない可能性が、発掘調査の観察所見として指摘された。ここでは、軟質土器が焼成されたか否かについて考察するための情報の一つとして土器薄片の定性的な観察をしたので以下に報告する。

試料は、軟質土器No5（9号竪穴建物跡、9住-47）、および一般的土師器の比較試料No8（7号竪穴建物跡、7住D）の2点の9世紀中葉土師器皿口縁部試料を用いた。なおNo5は、現場での取り上げ前に酢酸ビニル樹脂「コニシ木工用ボンド水性」を水で希釈し土器に浸透させてあった。薄片作製に先立ちエポキシ樹脂を含浸岩石薄片と同様の方向で土器片試料はエポキシ樹脂を含浸させて補強し、土器の鉛直断面切片（厚さ3mm）を切断し、X線透過写真を撮影し、その後岩石薄片と同じ要領で薄片を作製した。

No5のX線透過写真では、黒色の筋が土器中央部を器壁に平行してどの切片でも観察される（第1図）。黒色部分は土器胎土よりも原子番号の大きい元素が集中していると考えられる。無色の亀裂は新しいものと考えられる。No8では、全体的に均質な色調を呈し、器壁に平行する無色のレンズ状空隙が中央部分に点在する。

顕微鏡下において、No5のX線透過写真黒色部分は、赤褐色物質が充填している大小の亀裂からなっている。亀裂は、高角度で斜交し器壁まで達する亀裂、あるいは胎土内部でほぼ器壁に平行したきわめて細かい葉片状亀裂などからなる（第2図）。これら赤褐色物質は、亀裂が生じた胎土内部に鉄分を含んだ地下水が長期間浸透したことによって形成された褐鉄鉱と考えられる。両試料の土器胎土は、細粒で含砂率がかなり低く、岩石鉱物では石英の粒子が比較的多く、ほかに花崗岩類・斜長石・普通角閃石・黒雲母・白雲母・綠簾石・不透明鉱物・火山ガラス・赤褐色粒子・植物珪酸体などが認められる。主として花崗岩類とその構成鉱物から構成されることから、狐原遺跡・社口遺跡の甲斐型坏の胎土組成と類似し、本遺跡での土師器胎土の重鉱物組成とも共通する（河西、1996、1997、パリノ・サーヴェイ、2002）。両試料は、同質の胎土原料を用いているといえる。

さらに土器胎土をアセトンで洗浄した後、乳鉢で粉碎し比較したところ、No5は軟質で粉碎しやすく水を含んだ粉碎物はNo8よりも粘性が明らかに高かった。粉碎物の色調は、No5が10YR3/3暗褐色、No8が5YR4/6赤褐色で後者が明らかに赤みが強い。

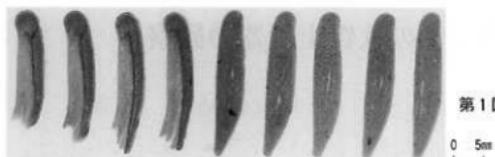
以上の比較から、両者は胎土原料は同質であるものの、軟質土器において硬度・強度が低いこと、内部に褐鉄鉱で充填された亀裂が多い特徴をもつこと、粉碎物が粘性を有していることなど両者の違いは、物理的な特性に顕著に認められた。粘土質原料は、焼成によって硬さ・耐久性などの性質を獲得する。焼成されることで吸着水が放出され、次に結晶水が放出され、さらに高温では新しい化合物が生成したり、溶融が生じる。軟質土器No5は、一般的な土師器No8と比較して硬度・耐久性などの点で明らかに劣ることから、一般的な土器と同程度の焼成を受けていなかった可能性が高いものと推定される。それが成形後に乾燥されただけなのか、何らかの火熱を受けたのかについては明かでない。ただしNo5の表面や内部に沈着した褐鉄鉱によってその後の土器の強度は高められている可能性があるかもしれない。

文 献

河西学（1996）狐原遺跡出土甲斐型土器の胎土分析。『狐原遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第120集、91-93。

河西学（1997）社口遺跡出土土器の胎土分析。『社口遺跡第3次調査報告書』、201-207。

パリノ・サーヴェイ（2002）久保田・道々芽木遺跡出土土師器の胎土分析。『久保田・道々芽木遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第197集、101-104。



第1図 X線透過写真（左3片はNo.5、右5片はNo.8）



1

4 5

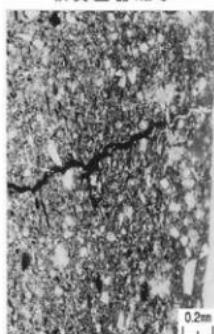
1 2

3

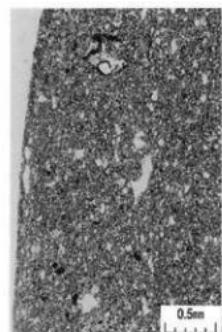
0.2mm



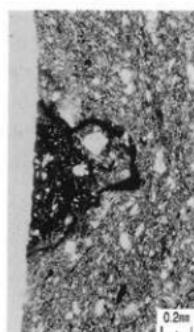
2



3



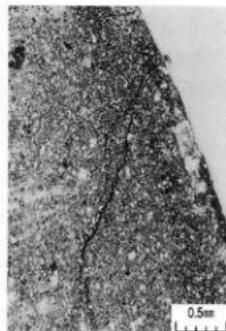
6



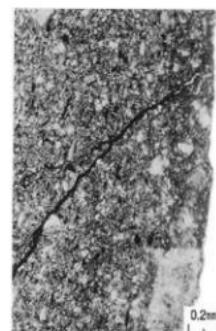
7



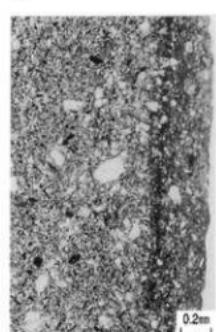
一般的土器器No.8



4



5



8

第2図 顕微鏡写真

久保田・道々芽木遺跡出土土師器の焼成の有無の解析

帝京科学大学理工学部 中條利一郎、村上 雄、横田 努

1 はじめに

標記久保田・道々芽木遺跡から出土した土師器の中には、軟質で焼成されているかどうか不明のものがある¹⁾。これが本当に焼成されているのかどうかを確かめるのが、筆者らの研究の目的である。用いた試料は表1に掲げる①から⑥まで（ただし⑤はない）の5点である。これらの試料は遺跡から取り上げる際、崩れないように酢酸ビニル樹脂で処理してある¹⁾。また、比較のために⑦から⑫まで（ただし、⑧を除く）の同じ遺跡から出土した焼成を受けていると思われる土師器、⑬、⑭の遺跡の土についても測定する。ただし、偏光顕微鏡観察の結果²⁾によれば、重鉱物量が多く、斜方輝石が優先するため、土師器の原料になっている可能性は小さいと考えられる。さらに、別のところからの焼成を受けた試料として、⑮の茨城県玉里（たまり）村の部室（ひむろ）貝塚出土の縄文土器についても測定する。測定はX線回折とESCA（Electron Spectroscopy for Chemical Analysis）の両方を用いる。前者は結晶格子を通じて含まれる結晶の種類を求めるためのものであり、後者は焼成の有無を酸化物の比率から求めるためのものである。

2 X線回折

各試料の回折パターンを図1に纏めて示す。横軸はブラッグ角、θの2倍で、規則的な結晶に固有の2θのところで、それに対応する原子数に比例する強度のピークが観測される。左側は2θが4.00から28.00までの間の回折パターン、右側はそれに対応する20.00から40.00までの回折パターンである。JCPDS（Joint Committee on Powder Diffraction Standards）に記載のブラッグ角の値を図中に○、△、●、□、■印で図中に表示している。それぞれ、石英（JCPDS 5-490、33-1161）、クリストバライト（同、39-1425）、緑簾石（同、17-514）、白雲母（同、21-993）、白雲母（同、6-263）に対応する。これらのパターンはピークのブラッグ角、ピーク強度とともに、各試料で極めて類似している。従って、焼成の前後で、結晶構造に変化がないためか、全試料が未焼成のためちがいないのか、或いは全試料が焼成のためちがいないのか不明である。なお、偏光顕微鏡で観察される²⁾斜長石、普通角閃石は固溶体であり、格子定数が一定でないため、X線回折では観測出来ない。

3 光電子スペクトル

光を試料に照射すると、試料から電子が放出されることがある。これが光電効果である。試料の電子は束縛エネルギー、E_bで原子核に束縛されているから、光のエネルギー、hνがこれより大きい時にだけ光電効果は観測される。従って、光電効果が観測可能な光は可視光線より量子エネルギーの大きい真空紫外線、X線などに限られる。それらの内、軟X線（X線回折や身体検査で用いられるX線より量子エネルギーが小さいX線）を用いて化学に応用できるようにした装置をESCAという。XPS（X-ray Photoelectron Spectroscopy）とも呼ばれるが、ここでは筆者らが使用している装置のメーカーが使用しているアクリニム、ESCA（エスカと読む）を用いることにする。ESCAでは試料中に含まれる元素すべて（Hを除く）が一つのスペクトルとして観測される。また、試料内部からの電子は途中で他の原子の格子振動に捕捉されて観測されなくなる。従って、試料表面のよごれ（予期しないものだけでなく、試料の表面処理をした時、処理剤もよごれに分類される）からの信号を試料からの信号と見誤らないように注意する必要がある。1で述べた酢酸ビニル樹脂はこのよごれの範疇に入るが、もともと炭素はどこにでもあるよごれの元凶であり、炭素そのものを議論の対象からはずすことにする。図2に試料②の広域スペクトルを示す。束縛エネルギー280-293eVに観測されるのが、Cの1s軌道からの信号である³⁾。なお、ESCAスペクトルでは横軸の束縛エネルギーの値が右に行くに従って小さく

なっていることに注意して欲しい。これは直接観測しているのは光電子の運動エネルギー、 E_{kin} で、これをエネルギー保存則、 $E_h = h\nu - E_{\text{kin}}$ により、 E_h に換算したものを書いてあるためである。また、440-446eVに観測されるInの3d軌道からの信号は粉末試料の高真空中での飛散を防ぐため包埋に用いたインジウムによるものである。土壤中に含まれる元素の内、焼成により原子価や結合の相手が変わるのは鉄だけである。従って、束縛エネルギー710-720eVの範囲に観測されるFeの2p領域の信号についてだけ議論することにする。この領域だけを拡大した高分解能スペクトルを図3に示す。この領域には未焼成種の代表である水和酸化鉄、 FeOOH と焼成種の代表である二三酸化鉄、 Fe_2O_3 と三四酸化鉄、 Fe_3O_4 からのピークが観測される⁴⁾。ただし、後二者のピーク間の距離（化学シフトという）はそれぞれのピークの幅よりも小さく、分離して観測することは出来ない。そこで、以下では両者を総称して単に酸化鉄と言うことにする。水和酸化鉄と酸化鉄それぞれのピークへの分離は装置内蔵のコンピューターで行う。これらの化学種は悉無的に存在するのではなく、未焼成でも二三酸化鉄や三四酸化鉄が存在し、焼成後でも水和酸化鉄が存在するからである。焼成により、その比率が水和酸化鉄の側から二三酸化鉄や三四酸化鉄の側に移動することに注意する必要がある。

図3のデコボコした曲線が実測スペクトル、水和酸化鉄、酸化鉄のスペクトルは図中に記入のとおり、両者の和がデコボコに重なるように書いてある滑らかな曲線である。デコボコと滑らかな曲線の一一致がよいことから、ここで行った分離が妥当であることがわかる。分離した曲線の面積比が2種の化合物のモル比になる。それらの内、酸化鉄のモル分率を全部の試料について棒グラフにしたのが、図4である。縦軸の値が大きいものが熱を受けたもの、小さいものが熱を受けていないものである。未焼成と思われていたものも、焼成と思われていたものも、かなり値にバラツキがあり、両者を画然と分けることは出来ない。それぞれの平均値を右の方に示してある。平均値で見る限り、両群の間には殆どちがいがない。次ぎに確実に焼成されていると考えられる④との比較では、個別に見ると、焼成と思われるものも未焼成と思われるものもあり、平均値で見ると、両群の間には殆どちがいがない。

文 獻

- 1) 河西学：久保田・道々茅木遺跡出土の軟質土師器の観察
- 2) パリノ・サーヴェイ：久保田・道々茅木遺跡出土土師器の胎土分析
- 3) D. Briggs and M. P. Seah : Practical Surface Analysis (Second Edition), 595-634 (1990, John Wiley & Sons, Chichester)
- 4) 中條利一郎、松本嘉代、畠大介：泥塔が焼成されているかどうかの理化学的検証（穴太遺跡発掘調査報告書IV、278-281 (2001、滋賀県教育委員会、湖滋賀県文化財保護協会、大津)

解釈試料一覧

No.	出土遺構名称	注記ナンバー	時代	器種	部位	状態
久保田①	7号堅穴建物跡	7住	平安(9C中)	土師器 蓋	口縁部	未焼成?
久保田②	7号堅穴建物跡	7住-10	平安(9C中)	土師器 蓋	体部	未焼成?
久保田③	7号堅穴建物跡	注記無し	平安(9C中)	土師器 蓋	体部	未焼成?
久保田④	8号堅穴建物跡	8住104+100	平安(9C中)	土師器 壊	口縁部	未焼成?
久保田⑥	9号堅穴建物跡	クボタ2-696	平安(9C中)	土師器 盆	口縁部	未焼成?
久保田⑦	7号堅穴建物跡	7住-31	平安(9C中)	土師器 壊	体部	焼成?
久保田⑨	7号堅穴建物跡	7住B	平安(9C中)	土師器 蓋	口縁部	焼成?
久保田⑩	8号堅穴建物跡	8住112	平安(9C中)	土師器 壊	口縁部	焼成?
久保田⑪	9号堅穴建物跡	9住-38	平安(9C中)	土師器 壊	口縁部	焼成?
久保田⑫	9号堅穴建物跡	9住	平安(9C中)	土師器 壊	口縁部	焼成?
久保田⑬	基本土層第VI層	土壤サンプル	-----	-----	-----	-----
久保田⑭	基本土層第VII層	土壤サンプル	-----	-----	-----	-----

表1 水和酸化鉄、酸化鉄のモル分率

試料No.	焼成/未焼成	水和酸化鉄(%)	酸化鉄(%)
久保田①	未焼成?	46.4	53.6
久保田②	未焼成?	29.9	70.1
久保田③	未焼成?	19.3	80.7
久保田④	未焼成?	33.6	66.4
久保田⑥	未焼成?	42.4	57.6
久保田⑦	焼成?	25.1	74.9
久保田⑨	焼成?	40.8	59.2
久保田⑩	焼成?	17.7	82.3
久保田⑪	焼成?	49.9	50.1
久保田⑫	焼成?	39.1	60.9
久保田⑬	----	12.3	87.7
久保田⑭	----	36.9	63.1
部室貝塚⑯	焼成	15.6	84.4

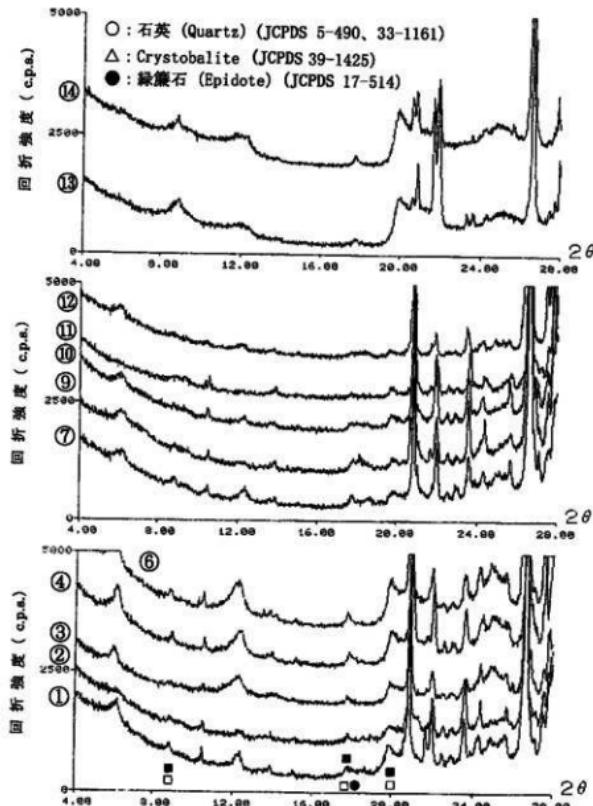


図 1 全試料のX線回折パターン

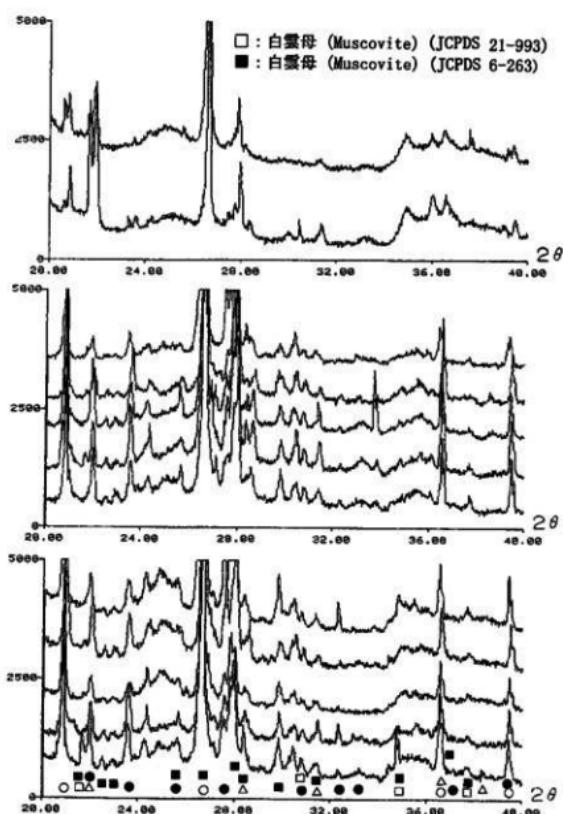


図 1 続き

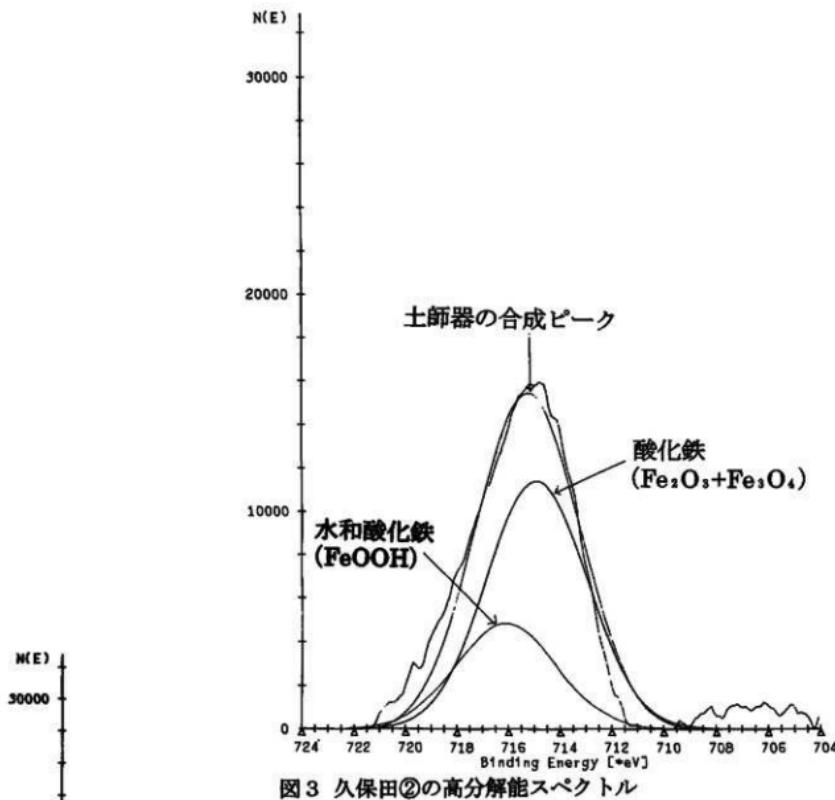


図3 久保田②の高分解能スペクトル

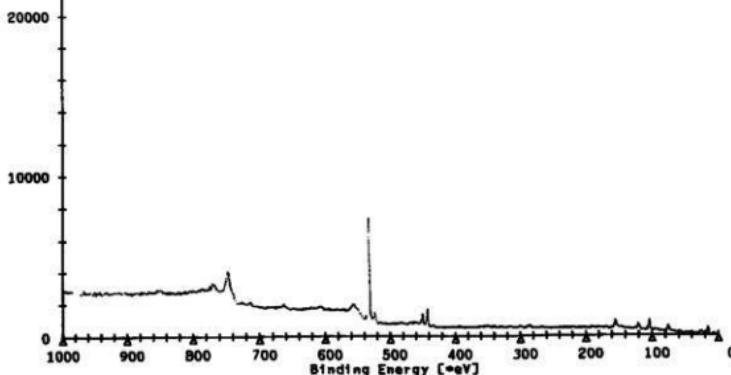


図2 久保田②の広域スペクトル

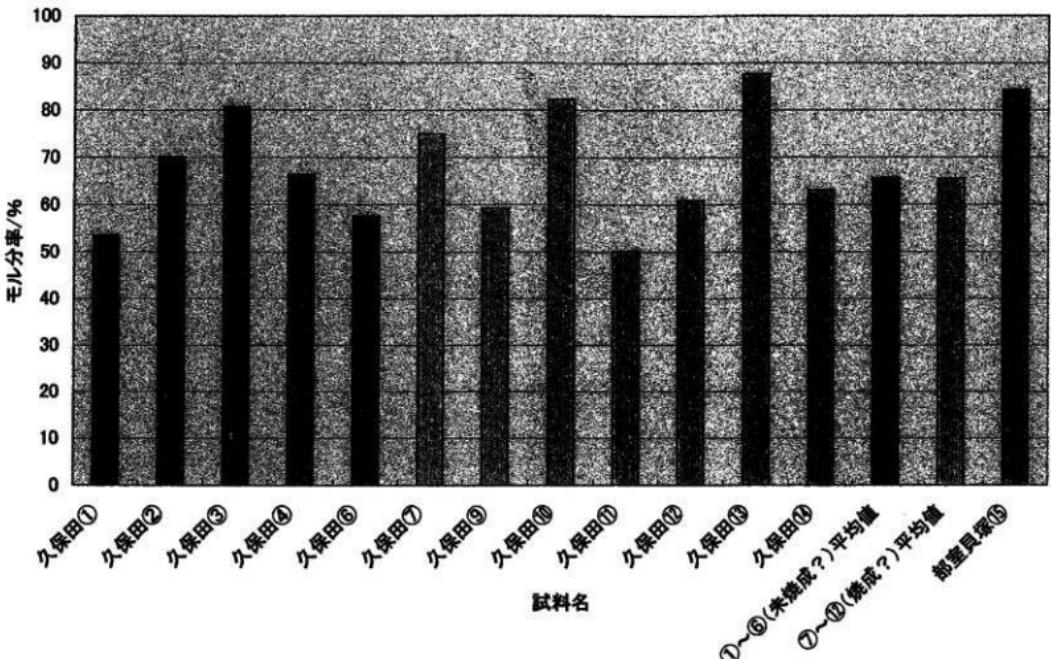


図4 久保田・道々芽木遺跡出土土師器胎土の酸化鉄($\text{Fe}_2\text{O}_3+\text{Fe}_3\text{O}_4$)のモル分率

写真図版

遺構写真

遺物写真

PL1	道々茅木地区調査風景	PL63	道々茅木地区 第2号竪穴建物(1~14)
PL2	道々茅木地区調査風景	PL64	道々茅木地区 第3.5.7.16.31.35.36.40.43.70.72.88.89.97.110号土坑
PL3	道々茅木地区 第2号竪穴建物	PL65	道々茅木地区 第19.41.104号土坑
PL4	道々茅木地区 第1号溝	PL66	道々茅木地区 第1.2.3.6.7号溝
PL5	道々茅木地区 第2号溝	PL67	道々茅木地区 第5号溝
PL6	道々茅木地区 第3号溝	PL68	道々茅木地区 第9号溝(1~16)
PL7	道々茅木地区 第5号溝	PL69	道々茅木地区 第9号溝(17~22)
PL8	道々茅木地区 第6号溝	PL70	道々茅木地区 第11号溝(1~6, 8~10, 13, 14, 16)
PL9	道々茅木地区 第7号溝	PL71	道々茅木地区 第11号溝(7, 11, 12, 15)
PL10	道々茅木地区 第8号溝	PL72	道々茅木地区 第12号溝(1~11)
PL11	道々茅木地区 第9号溝	PL73	道々茅木地区 遺構外(1~16)
PL12	道々茅木地区 第11号溝脇	PL74	道々茅木地区 遺構外(17~25)
PL13	道々茅木地区 第10号溝	PL75	道々茅木地区 遺構外(26~42)
PL14	道々茅木地区 第11号溝	PL76	道々茅木地区 遺構外(26, 34, 39~41)
PL15	道々茅木地区 第12号溝	PL77	道々茅木地区 遺構外(25~38)
PL16	道々茅木地区 第13号溝	PL78	道々茅木地区 遺構外(43~58)
PL17	道々茅木地区 第41号土坑	PL79	道々茅木地区 遺構外(59~77)
PL18	道々茅木地区 第83号土坑	PL80	道々茅木地区 遺構外(78~79)
PL19	道々茅木地区 第110号土坑	PL81	道々茅木地区 遺構外(80~95)
PL20	道々茅木地区 第31~36号土坑	PL82	道々茅木地区 遺構外(96~108)
PL21	道々茅木地区 F-21グリット遺物出土	PL83	道々茅木地区 遺構外(109~122, 124, 125)
PL22	道々茅木地区 調査風景	PL84	道々茅木地区 遺構外(123, 126~135)
PL23	久保田地区 第1号竪穴建物	PL85	道々茅木地区 遺構外(136~156)
PL24	久保田地区 第1号竪穴建物	PL86	道々茅木地区 遺構外(157)
PL25	久保田地区 第1号竪穴建物	PL87	久保田地区 第1号竪穴建物(1~7)
PL26	久保田地区 第2号竪穴建物	PL88	久保田地区 第2号竪穴建物(1, 2)
PL27	久保田地区 第3号竪穴建物	PL89	久保田地区 第3号竪穴建物(1~3)
PL28	久保田地区 第5号竪穴建物	PL90	久保田地区 第5号竪穴建物(1~7)
PL29	久保田地区 第5号竪穴建物	PL91	久保田地区 第5号竪穴建物(8)
PL30	久保田地区 第5号竪穴建物ビット11	PL92	久保田地区 第5号竪穴建物(8)
PL31	久保田地区 第5号竪穴建物「金網網底部」	PL93	久保田地区 第7号竪穴建物(1~9)
PL32	久保田地区 第7号竪穴建物	PL94	久保田地区 第8号竪穴建物(1~13)
PL33	久保田地区 第8号竪穴建物	PL95	久保田地区 第8号竪穴建物(1~13)
PL34	久保田地区 第8号竪穴建物	PL96	久保田地区 第9号竪穴建物(1~12)
PL35	久保田地区 第9号竪穴建物	PL97	久保田地区 第9号竪穴建物(13~23)
PL36	久保田地区 第9号竪穴建物	PL98	久保田地区 第9号竪穴建物(24~27)
PL37	久保田地区 第1号溝	PL99	久保田地区 第39.54.67.124.125.141.158号土坑
PL38	久保田地区 第1号溝	PL100	久保田地区 第103号土坑(1~5)
PL39	久保田地区 第2, 3, 6号溝	PL101	久保田地区 第120号土坑(1~4)
PL40	久保田地区 第5号溝	PL102	久保田地区 第126号土坑(1~4) セット関係
PL41	久保田地区 第4号溝	PL103	久保田地区 第190.192.195号土坑
PL42	久保田地区 第11~12号溝	PL104	久保田地区 第209号土坑(1~4)
PL43	久保田地区 第14~15号溝	PL105	久保田地区 第1号溝(1~20)
PL44	久保田地区 第10号溝	PL106	久保田地区 第1号溝(21~34)
PL45	久保田地区 第16号溝	PL107	久保田地区 第2.3.5.6.12号溝
PL46	久保田地区 第19号溝	PL108	久保田地区 第10号溝(1~18)
PL47	久保田地区 第21号溝	PL109	久保田地区 第16号溝(1~8)
PL48	久保田地区 第103号土坑	PL110	久保田地区 第16号溝(9)
PL49	久保田地区 第124号土坑	PL111	久保田地区 第19号溝(1), 第21号溝(1~5)
PL50	久保田地区 第125~126号土坑	PL112	久保田地区 第21号溝(6~10)
PL51	久保田地区 第126号土坑	PL113	久保田地区 2H-30土器集中(1~4, 11, 13, 14, 16)
PL52	久保田地区 第158号土坑	PL114	久保田地区 2H-30土器集中(5~10, 12, 15, 17~19)
PL53	久保田地区 第208号土坑	PL115	久保田地区 2H-30土器集中(20~23)
PL54	久保田地区 第208号土坑	PL116	久保田地区 2H-30土器集中(24~34)
PL55	久保田地区 2H-30土器集中	PL117	久保田地区 2H-30土器集中(35~38)
PL56	久保田地区 2H-30土器集中	PL118	久保田地区 2H-30土器集中(38)
PL57	久保田地区 2H-30土器集中	PL119	久保田地区 2H-30土器集中(47~51)
PL58	久保田地区 Z-32土器集中	PL120	久保田地区 2H-30土器集中(40~46, 52~58)
PL59	久保田地区 調査風景	PL121	久保田地区 2H-30土器集中(58~71, 74, 75)
PL60	久保田地区 調査風景	PL122	久保田地区 2H-30土器集中(76~80)
PL61	久保田地区 遺跡公開風景	PL123	久保田地区 2H-30土器集中(72, 73, 93, 94)
PL62	久保田地区 調査風景	PL124	久保田地区 2H-30土器集中(91, 92, 98~108)
		PL125	久保田地区 2H-30土器集中(95)
		PL126	久保田地区 Z-32土器集中(1~6)
		PL127	久保田地区 Z-32土器集中(7~19)
		PL128	久保田地区 Z-32土器集中(20~29)
		PL129	久保田地区 遺構外(1~5)
		PL130	久保田地区 遺構外(6~23)
		PL131	久保田地区 遺構外(24~34, 36)
		PL132	久保田地区 遺構外(35, 37~43)
		PL133	久保田地区 遺構外(44~58)
		PL134	久保田地区 遺構外(59~70)
		PL135	久保田地区 遺構外(71~79)
		PL136	久保田地区 遺構外(80~96)
		PL137	久保田・道々茅木遺跡 全景(北方から鳥瞰)

Pl. 1

道々茅木地区
調査風景（南東→）

調査区北端の遺構検出風景、
奥に山梨英和短大キャンパス、
奥の谷が大山沢



Pl. 2

道々茅木地区
調査風景（南西→）

O-21グリッド周辺の遺構平板
実測風景



Pl. 3

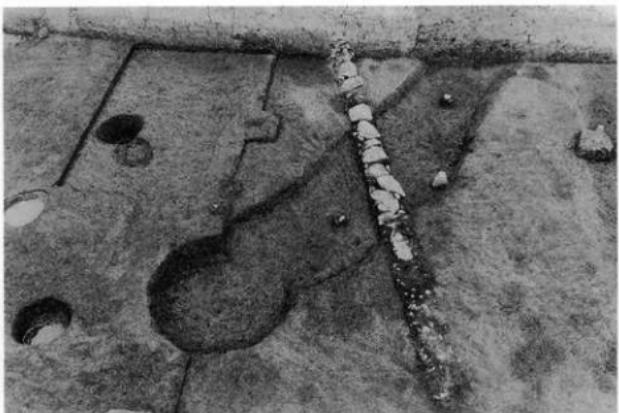
道々茅木地区
第2号竪穴建物（西→）

床面直上に弥生時代後期の遺
物が分布



Pl. 4

道々芽木地区
第1号溝（西→）
縦断する石列は近現代施工の
暗渠、先端部分の円形土坑は
第7号土坑



Pl. 5

道々芽木地区
第2号溝（北西→）
古墳前期を中心とする遺物が
出土



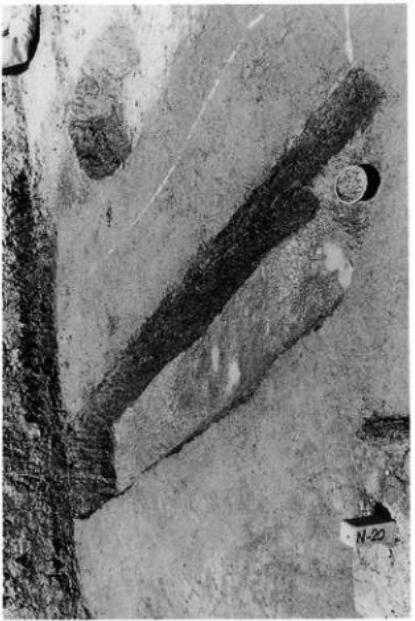
Pl. 6

道々芽木地区
第3号溝（南西→）
南側の第5号溝を切る





Pl. 7
道々茅木地区
第5号溝（南→）
遺物は覆土上層に集中する



Pl. 8
道々茅木地区
第6号溝（南東→）
遺構東端に合付墻脚部が逆位
で出土



Pl. 9
道々茅木地区
第7号溝（南→）
弧状を呈す溝、開口区東側へ
延びる

Pl.10
道々茅木地区
第8号溝（北西→）
断面がV字状になる弧状の溝

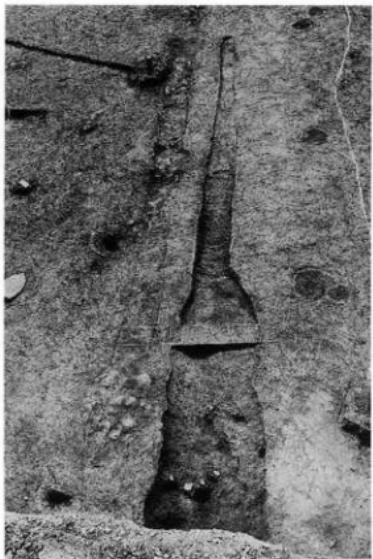


Pl.11
道々茅木地区
第9号溝（東→）
調査区を東西に横断する幅広
の溝



Pl.12
道々茅木地区
第11号溝周辺（南西→）
画面左の溝が第11号溝、右は
第3号竪穴の検出風景





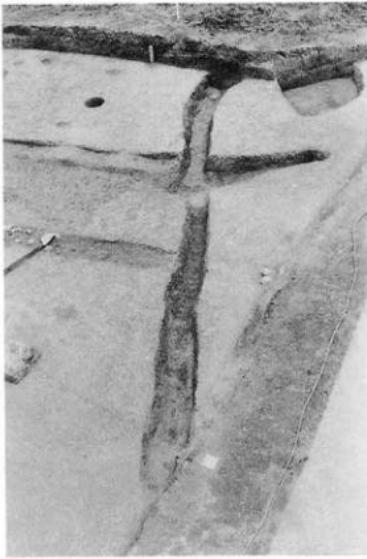
PI.13 道々芽木地区 第10号溝（東→）
西側が浅く細くなる溝、南側にある近現代の暗渠と平行する



PI.14 道々芽木地区 第11号溝（北→）
弧状を呈し調査区東側へ延びる溝、推定半径は約10m以上となる



PI.15 道々芽木地区 第12号溝（西→）
古墳時代後期を中心に遺物が出土



PI.16 道々芽木地区 第13号溝（西→）
第11号溝を切る深く細い溝

Pl.17

道々芽木地区

第41号土坑（南→）

底面に甕1点が設置されるように出土、柱礎板への転用が
考えられる

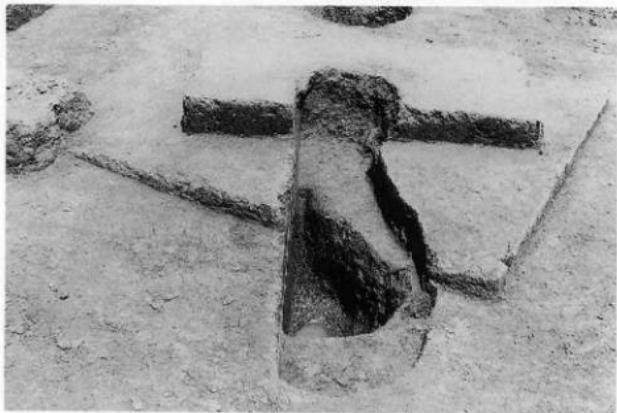


Pl.18

道々芽木地区

第83号土坑（西→）

奥の高まり周辺は面的に焼土化する

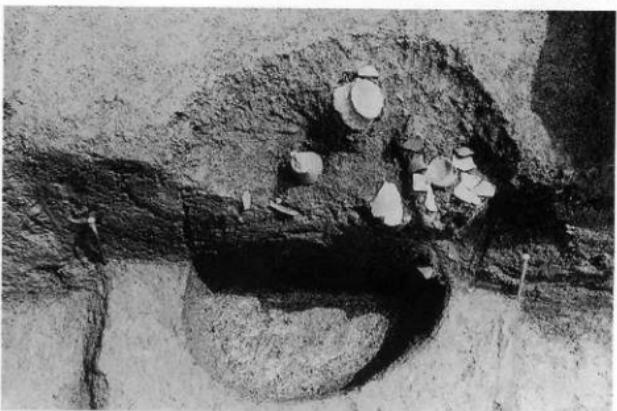


Pl.19

道々芽木地区

第110号土坑（南→）

古墳時代前期の遺物が集中的
に出土



Pl.20

道々芽木地区

第31～第36号土坑（北→）

規則性のある配列を見せる土坑群、左手前から右周りに第31～36号土坑



Pl.21

道々芽木地区

F-21グリッド遺物出土（東→）

F. G. H-20・21グリッド周辺からは古墳時代前期の遺物が集中的に出土



Pl.22

道々芽木地区

調査風景（南→）

調査区北端の調査風景

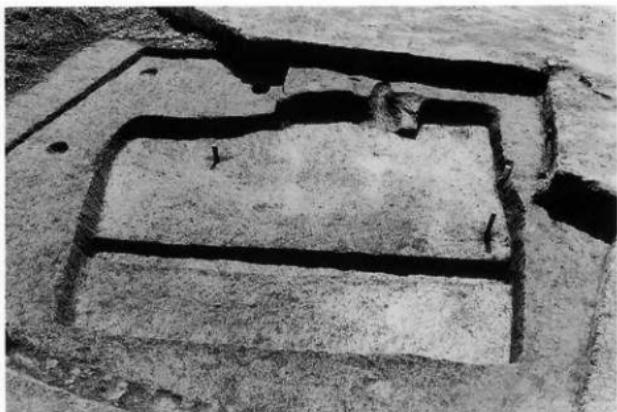


Pl.23

久保田地区

第1号竪穴建物（南西→）

床面には柱穴なし、竪周辺が
東へ突出



Pl.24

久保田地区

第1号竪穴建物竪周辺（西→）

竪右袖の脇に棚状施設あり、
その上に竪構築材と考えられる
複数の縄が置かれている状
況



Pl.25

久保田地区

第1号竪穴建物竪（西→）

壁面への煙道の掘り込みは短
い、竪内面の焼土化は弱い



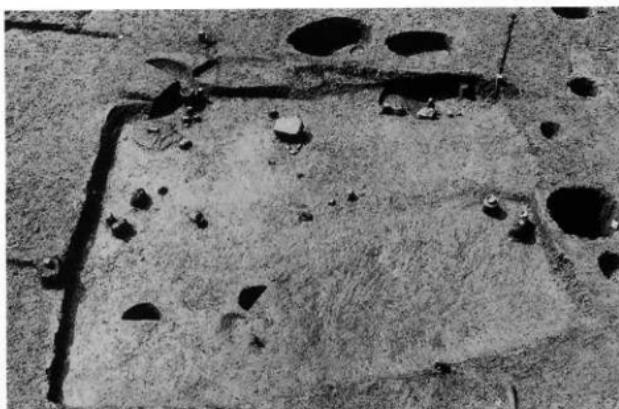
Pl.26
久保田地区
第2号竪穴建物（南→）
方形を呈し、調査区東側へ延
びる

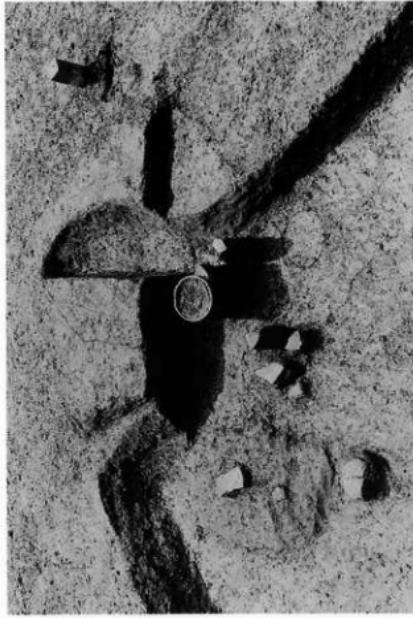


Pl.27
久保田地区
第3号竪穴建物（北→）
焼土ブロックが複数箇所ある



Pl.28
久保田地区
第5号竪穴建物（北→）
南東隅に竈、南西隅にピット
11、西壁中央奥にスロープ状
の施設あり





Pl.29
久保田地区
第5号堅穴建物
兼口部分に杯が正位で出土、
左袖脇に櫛状施設あり



Pl.30
久保田地区
第5号堅穴建物
ビット11(北→)
東側置土上層から金銅製海老
鉗が出土



Pl.31
久保田地区
第5号堅穴建物
「金銅製海老鉗」(東→)
海老鉗のある性金具が横位で出
土

PI.32

久保田地区

第7号竪穴建物（西→）

複数のピットが不規則配列で
存在し、第8号竪穴建物を切
る



PI.33

久保田地区

第8号竪穴建物（西→）

東壁の南寄りに竈あり、南壁
中央に建物内への突出部分あ
り



PI.34

久保田地区

第8号竪穴建物（北→）

左袖の竈内面から布目瓦が貼
り付けられるように出土



Pl.35

久保田地区

第9号竪穴建物（北西→）

壁の残りは非常に悪い、床面の北側に遺物が集中、東壁に竪的な焼土塊あり



Pl.36

久保田地区

第9号竪穴建物（北→）

床面の北側に遺物が集中、硬く締まった焼成の土器に脆弱な土器が混在して出土



Pl.37

久保田地区

第1号溝（南→）

底面付近に古墳時代後期の遺物が集中



Pl.38

久保田地区

第1号溝（北→）

南北方向へ調査区外へ延びる、
底面は南へ向けて緩く傾斜す
る



Pl.39

久保田地区

第2・3・6号溝（北→）

中央の第2号溝が東側の第3
号溝と西側の第6号溝を切る



Pl.40

久保田地区

第5号溝（北→）

中央が第5号溝、東側に第1
号溝、西側に第2号溝、南奥
に第6号溝の一部が見える



PI.41

久保田地区

第4号溝（東→）

覆土から中世青磁の小片が出土、北側の市道と平行する溝、市道の西奥に古刹光福寺あり、東方向に川田館跡あり



PI.42

久保田地区

第11・12号溝（南東→）

平行して存在する短い溝

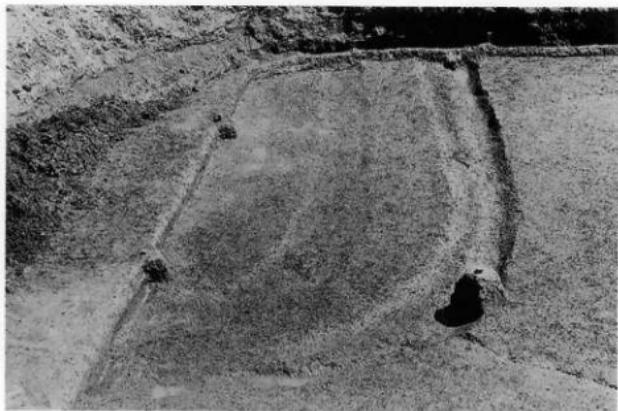


PI.43

久保田地区

第14・15号溝（西→）

平行する浅い溝、屈曲部分も同様に平行する





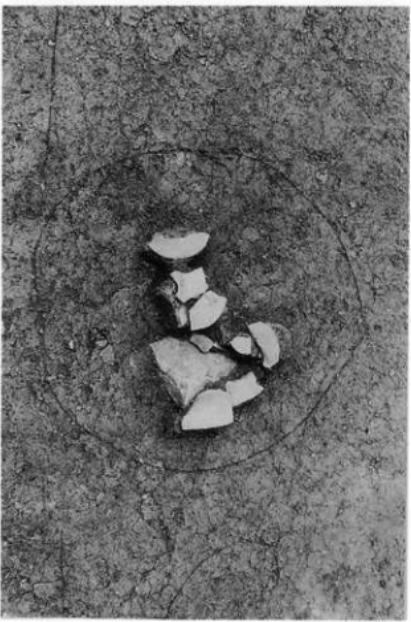
Pl.44
久保田地区
第10号溝（南→）
2H-32グリッド周辺の遺物出土
状況



Pl.45
久保田地区
第16号溝（北東→）
古墳時代後期の遺物を出土



Pl.46
久保田地区
第19号溝（北→）
S字形にうねりながら調査区
南へ延びる



Pl.49

久保田地区
第124号土坑 (東→)
覆土上層の遺物出土状況ヒブ
ラン

Pl.48

久保田地区
第103号土坑 (北東→)
覆土上層に遺物が集中して出
土

Pl.47

久保田地区
第21号溝 (西→)
東西方向に延びる幅広の溝、
8世紀前半代の遺物を出土

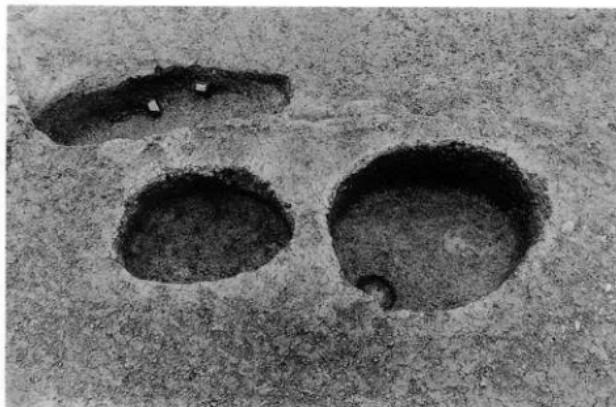
Pl.50

久保田地区

第125・126号土坑（南→）

西側が第126号、東側が125号

奥は第5号竪穴建物ピット11



Pl.51

久保田地区

第126号土坑（南→）

覆土中層に合わせ口状に重ね

られた杯が2組埋置された土



Pl.52

久保田地区

第158号土坑（南→）

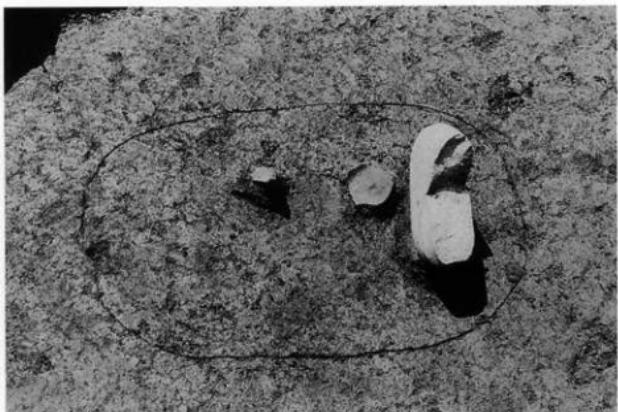
不整形の土坑、遺物の出土状

況



Pl.53

久保田地区
第208号土坑（東→）
北側端に人頭大の円礎が立て
置かれる



Pl.54

久保田地区
第208号土坑（北→）
立て置かれた円礎の北側脇に
置かれた合わせ口状に重ねら
れた杯



Pl.55

久保田地区
2H-30土器集中（北→）
南北方向に延びる溝状の溝地
に多量の古墳時代前期の遺物
が折り重なるように分布する



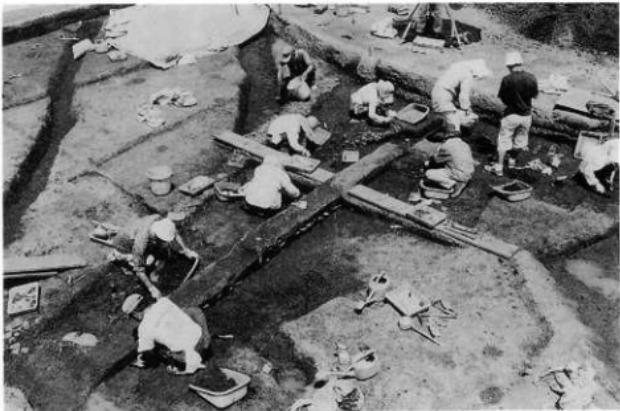
PI.56

久保田地区
2H-30土器集中（西→）
底面は緩やかに南側へ傾斜する



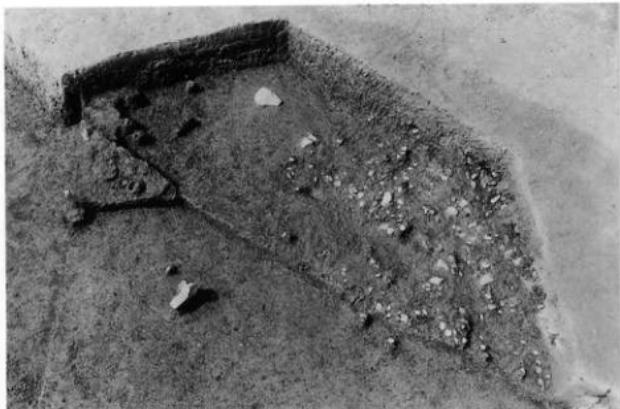
PI.57

久保田地区
2H-30土器集中（南東→）
覆土には砂層が互層に堆積する



PI.58

久保田地区
Z-32土器集中（北→）
横円形の窪地に多量の古墳時代前期の遺物が折り重なるよう分布する



Pl.59

久保田地区
調査風景（南東→）

2H-28グリッド周辺から北側を
望む、北側に複数の溝がほぼ
平行して集中しその両側に多
くの小土坑が集中する



Pl.60

久保田地区
調査風景（北→）

第1号溝の遺物出土状況の記
録風景



Pl.61

久保田地区
遺跡公開風景

春日居中学校生徒による体験
発掘実習の風景



P1.62 久保田地区 調査風景（南東→）





PI.63 道々芽木地区 第2号竪穴建物（1～14）



PI.64 道々芽木地区
第3.5.7.16.31.35.36.40.43.70.72.86.89.97.110号土坑



PI.65 道々芽木地区 第19.41.104号土坑



PI.66 道々芽木地区 第1.2.3.6.7号溝



PI.67 道々芽木地区 第5号溝



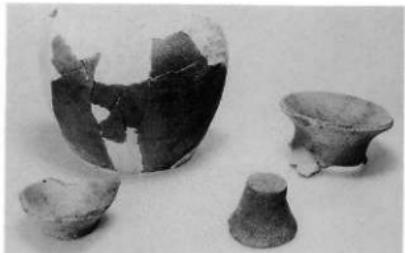
PI.68 道々芽木地区 第9号溝（1～16）



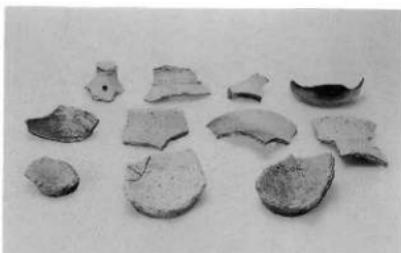
PI.69 道々芽木地区 第9号溝（17～22）



PI.70 道々芽木地区
第11号溝（1～6、8～10、13、14、16）



PI.71 道々芽木地区 第11号溝（7、11、12、15）



PI.72 道々芽木地区 第12号溝（1～11）



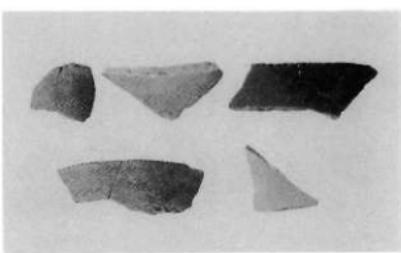
PI.73 道々芽木地区 遺構外（1～16）



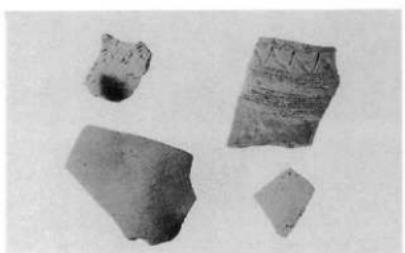
PI.74 道々芽木地区 遺構外（17～25）



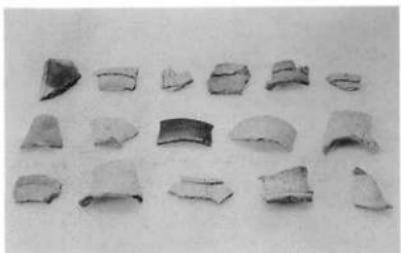
PI.75 道々芽木地区 遺構外（26～42）



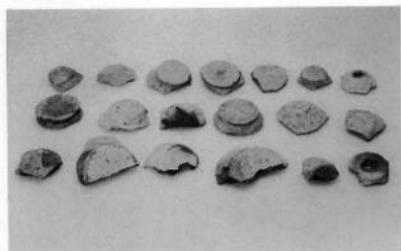
PI.76 道々芽木地区 遺構外（26、34、39～41）



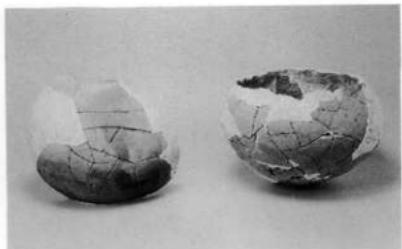
PI.77 道々芽木地区 遺構外（35～38）



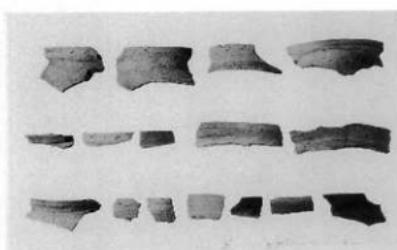
PI.78 道々芽木地区 遺構外（43～58）



PI.79 道々芽木地区 遺構外 (59~77)



PI.80 道々芽木地区 遺構外 (78、79)



PI.81 道々芽木地区 遺構外 (80~95)



PI.82 道々芽木地区 遺構外 (96~108)



PI.83 道々芽木地区 遺構外
(109~122、124、125)



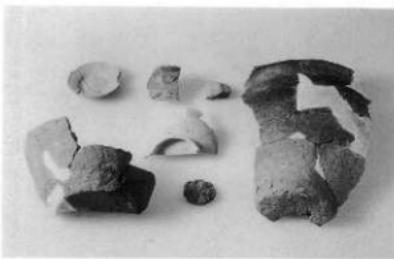
PI.84 道々芽木地区 遺構外 (123、126~135)



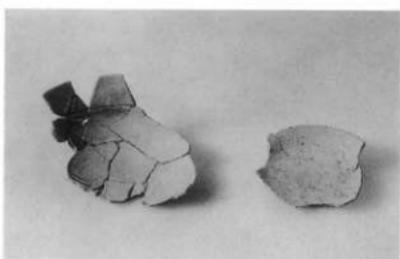
PI.85 道々芽木地区 遺構外 (136~156)



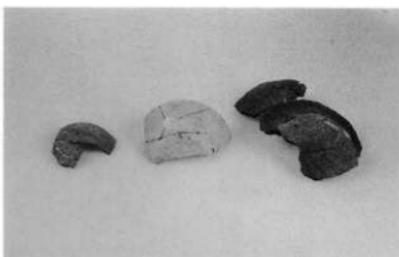
PI.86 道々芽木地区 遺構外 (157)



PI.87 久保田地区 第1号竪穴建物（1～7）



PI.88 久保田地区 第2号竪穴建物（1、2）



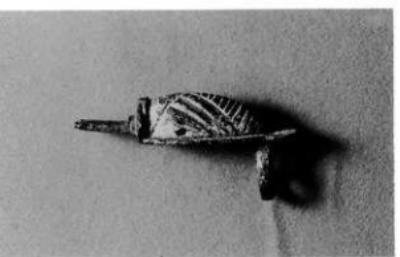
PI.89 久保田地区 第3号竪穴建物（1～3）



PI.90 久保田地区 第5号竪穴建物（1～7）



PI.91 久保田地区 第5号竪穴建物（8）正面



PI.92 久保田地区 第5号竪穴建物（8）侧面



PI.93 久保田地区 第7号竪穴建物（1～8）



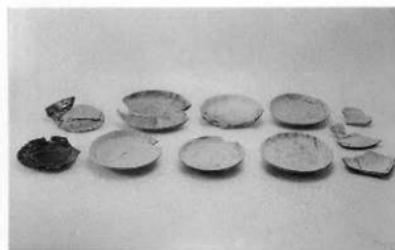
PI.94 久保田地区 第8号竪穴建物（1～13）



Pl.95 久保田地区 第8号竪穴建物（1～13）外面



Pl.96 久保田地区 第9号竪穴建物（1～12）



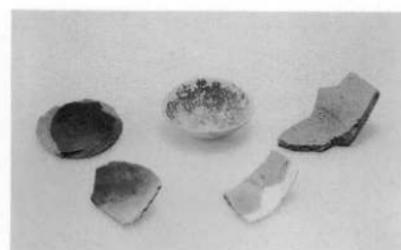
Pl.97 久保田地区 第9号竪穴建物（13～23）



Pl.98 久保田地区 第9号竪穴建物（24～27）



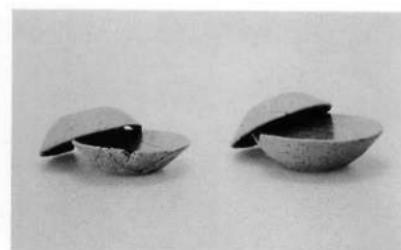
Pl.99 久保田地区
第39.54.67.124.125.141.158号土坑



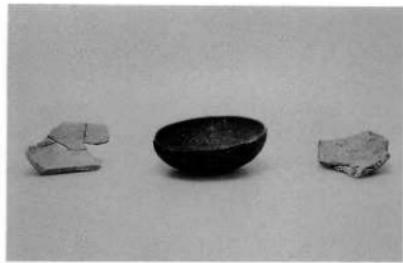
Pl.100 久保田地区 第103号土坑（1～5）



Pl.101 久保田地区 第126号土坑（1～4）



Pl.102 久保田地区 第126号土坑（1～4）セット関係



PI.103 久保田地区 第190.192.195号土坑



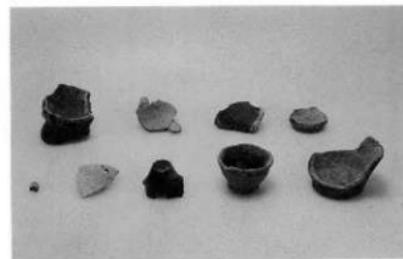
PI.104 久保田地区 第208号土坑 (1~4)



PI.105 久保田地区 第1号溝 (1~20)



PI.106 久保田地区 第1号溝 (21~34)



PI.107 久保田地区 第2.3.5.6.12号溝



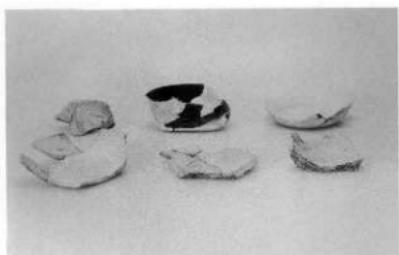
PI.108 久保田地区 第10号溝 (1~18)



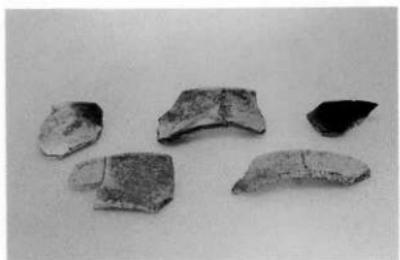
PI.109 久保田地区 第16号溝 (1~8)



PI.110 久保田地区 第16号溝 (9)



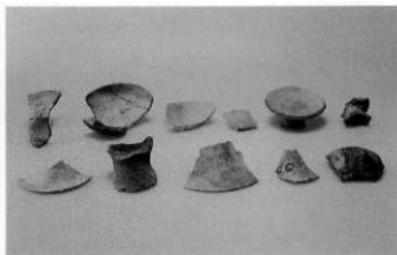
PI.111 久保田地区 第19号溝 (1)、
第21号溝 (1~5)



PI.112 久保田地区 第21号溝 (6~10)



PI.113 久保田地区 2H-30土器集中
(1~4、11、13、14、16)



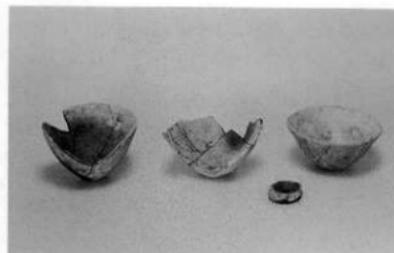
PI.114 久保田地区 2H-30土器集中
(5~10、12、15、17~19)



PI.115 久保田地区 2H-30土器集中 (20~23)



PI.116 久保田地区 2H-30土器集中 (24~34)



PI.117 久保田地区 2H-30土器集中 (35~38)



PI.118 久保田地区 2H-30土器集中 (39)



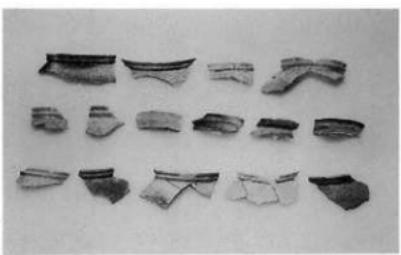
PI.119 久保田地区 2 H-30土器集中 (47~51)



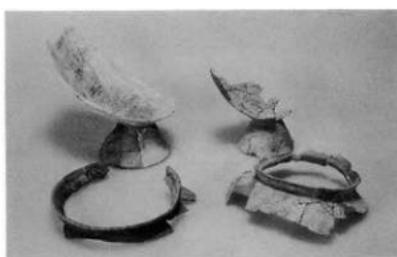
PI.120 久保田地区 2 H-30土器集中 (40~46、52~59)



PI.121 久保田地区 2 H-30土器集中 (58~71、74、75)



PI.122 久保田地区 2 H-30土器集中 (76~90)



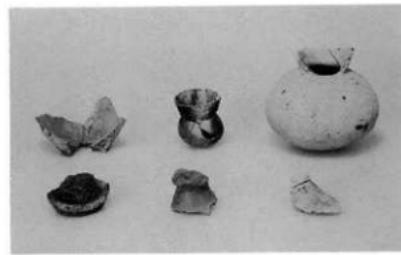
PI.123 久保田地区 2 H-30土器集中 (72、73、93、94)



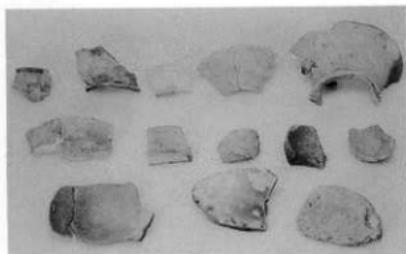
PI.124 久保田地区 2 H-30土器集中 (91、92、96~106)



PI.125 久保田地区 2 H-30土器集中 (95)



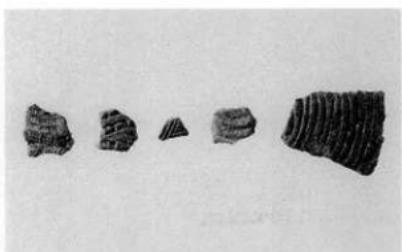
PI.126 久保田地区 Z-32土器集中 (1~6)



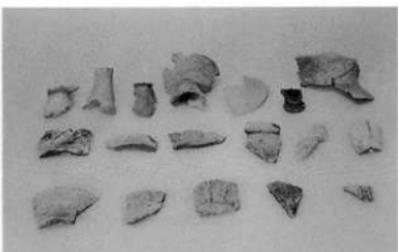
PI.127 久保田地区 Z-32土器集中 (7~19)



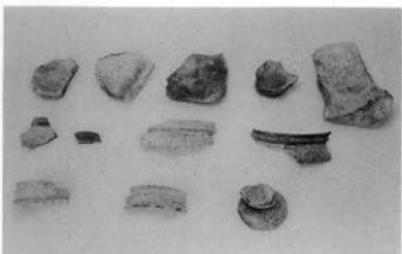
PI.128 久保田地区 Z-32土器集中 (20~29)



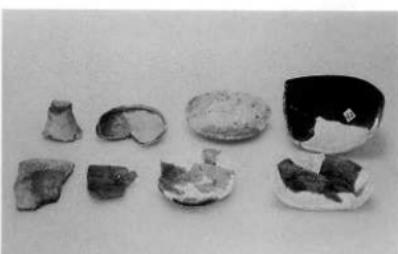
PI.129 久保田地区 遺構外 (1~5)



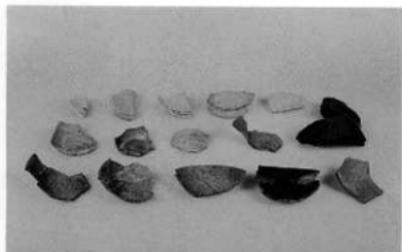
PI.130 久保田地区 遺構外 (6~23)



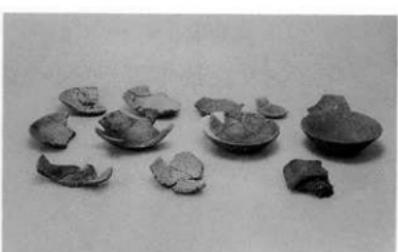
PI.131 久保田地区 遺構外 (24~34、36)



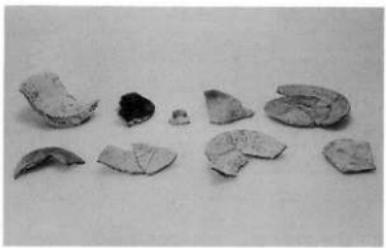
PI.132 久保田地区 遺構外 (35、37~43)



PI.133 久保田地区 遺構外 (44~58)



PI.134 久保田地区 遺構外 (59~70)



PI.135 久保田地区 遺構外 (71~79)



PI.136 久保田地区 遺構外 (80~96)



PI.137 久保田・道々芽木遺跡 全景 (北方から鳥瞰)

報告書抄録

ふりがな	くぼた・どめぎいせき
書名	久保田・道々芽木遺跡
副題	新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第197集
著者	森原明廣
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地／電話	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 電話.055-266-3016
印刷所	株式会社 少国民社
発行日	2002年3月29日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
くぼた・ どめぎいせき	やまなしけん こうふし よこねちょう							
久保田・ 道々芽木遺跡	山梨県 甲府市 横根町 875番地他	19201		35° 39' 10"	138° 37' 00"	平成12年 4月21日 ～ 平成12年 10月30日	3,000	新環状・ 西関東 道路建設
所収遺跡名	時代	種別	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久保田・ 道々芽木遺跡	縄文時代 弥生時代後期 古墳時代前期 古墳時代後期 白鳳～奈良時代 平安時代 中世	集落 および 散布地	竪穴建物 竪穴 土坑 溝 土器集中		土器（縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土器）、石器（石鎚、打製石斧、砥石）、金属器（紡錘車ほか）		金銅製海老鉢 (平安時代)	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第197集

久保田・道々芽木遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成14年3月22日 印刷

平成14年3月29日 発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター
 山梨県東八代郡中道町下曾根923
 TEL 055-266-3016
発行 山梨県教育委員会
 山梨県土木部
印刷 株式会社 少国民社

